愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 164 集

桑下東窯跡

本文篇

2011

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

調査前遠景　南より　05.9.14

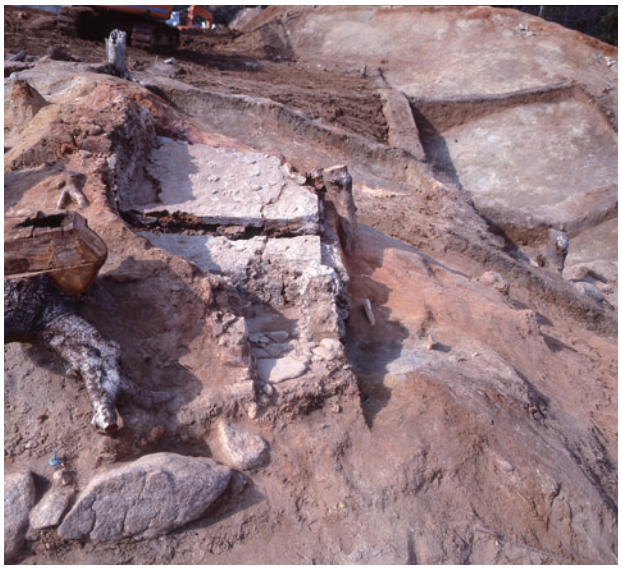
調査区遠景　南西より　05.12.9

巻頭図版 2

調査区全景　南より　06.3.27

調査区全景　南西より　06.3.27

E 区　SY01 全景　南より



E 区　SY01　断ち割り　南より

E 区　SY01　断ち割り　東より

巻頭図版 4

A 区　SX01　石敷　南部分　北より　05.10.21

A 区　SX01　石敷　全景　北西より　05.11.2

A 区　SX01　轆轤ピット群上面　粘土出土状況　北より　05.10.21

A 区　SX01　轆轤ピット群　北より　06.3.25

巻頭図版 6

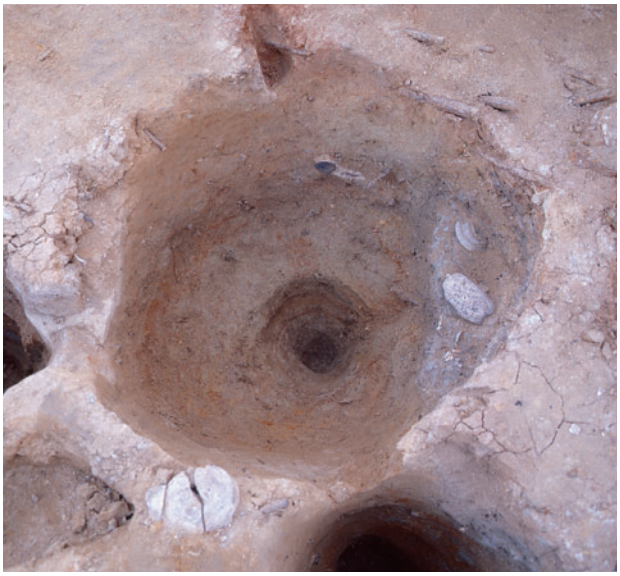
A 区　SK21　北より

A 区　SK21　北より

A 区　SK21　北より

A 区　SK21　軸部掘り方検出状況　北より

A 区　SK21　軸部掘り方検出状況　北より



A 区　SK21　完掘状況　北より

E 区　SX02・03　全景　南より

E 区　SX03　全景　南より

狛犬（阿） 298

魚形掛花生 464

序　　文

瀬戸市は愛知県の中央北部、岐阜県との県境に位置し、北は岐阜県多治見市、土岐市などに接し、西は春日井市、名古屋市、尾張旭市に隣接し、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約 20km に位置します。

瀬戸市上品野町地内に所在する桑下東窯跡は東海環状自動車道せと品野インターの北東側でかつて信濃とを結ぶ重要なルートであった中馬街道を眼下に見おろせる丘陵南端に立地しており、南側に品野城、西側に桑下城があり、中世にこの地が三河と尾張の要衝の地であったことが景観からも窺えます。

国道 363 号線改良工事のため、その事前調査として平成 17 度に発掘調査を実施しましたところ、窯とその周りに展開する大規模な作業場、工房跡が見られ、工人集団の窯大将組織が想起される貴重な遺跡となりました。

遺跡が丘陵頂部、急斜面、谷底等と足場が悪い状況での作業でしたが、熱心な支援業者の作業員と調査補助員のご協力と愛知県建設部道路建設課はじめ瀬戸市教育委員会などの関係諸機関の暖かいご理解と多大なるご協力で発掘調査を遂行することができました。

今回の調査により、大窯期の生産活動の解明と、工人集団の窯大将組織を想起する貴重な資料を新たに得ることができました。この成果が今後の地元での地域研究あるいは窯業史の研究の一助になることを願っています。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、ご理解、ご指導、ご協力をいただきました関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長　今井　秀明

例　　言

1、本書は愛知県瀬戸市上品野町地内に所在する桑下東窯跡（愛知県遺跡番号 0030709）の調査報告書である。

2、発掘調査は国道 363 号道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3、調査は平成 17 年 9 月から平成 18 年 3 月まで実施し調査面積は 4,726㎡である。

4、調査において次の関係機関のご協力を得た。

愛知県建設部道路建設課、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、
愛知県埋蔵文化財調査センター、瀬戸市教育委員会、
財団法人瀬戸市文化振興財団瀬戸市埋蔵文化財センター。

5、発掘調査、報告書の作成においては以下の方々のご協力を得た。

青木　修、井上喜久男、伊藤嘉章、今田明子、内田恭司、江崎　武、岡本直久、
金子健一、河合君近、桐山秀穂、坂本範基、佐野　元、柴垣勇夫、城ヶ谷和広、
城前喜英、千田利明、田中崇宏、東野穂澄、仲野泰裕、中山日出夫、楢崎彰一、
服部　郁、半浦聖智、松澤和人、松田秀貴、藤澤良祐、山下峰司。

6、発掘調査において、株式会社シン技術コンサルの支援を受けた。

7、遺物整理および報告書作成に際して作業の一部を委託した。

遺物の実測、データー整理　国際文化財株式会社。
遺物の実測、編集　ナカシャクリエイティブ株式会社。
デジタルトレース　株式会社アコード。
遺物の写真撮影　金子知久（写真工房遊）。
自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ。

8、本書の執筆は以下の通りである。なお編集は小澤一弘が担当した。

小澤一弘　第 1 章　第 1 節　1、2、第 2 節、第 2 章、第 3 章、第 5 章
武部真木　第 1 章　第 1 節　3
藤根　久・Lomtatidze Zauri（パレオ・ラボ）　第 4 章　第 1 節
黒沼保子（パレオ・ラボ）　第 4 章　第 2 節

9、遺構平面図の数字は出土遺物の登録番号である。

10、発掘調査および本書で使用した方位は、国土座標第Ⅶ系、基準高は東京湾平均海面（T.P.）に基づく。ただし表記は「日本測地系」とした。

11、出土遺物の登録番号は遺物実測図の通し番号をこれに当て、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターに保管している。

12、発掘調査の記録（遺構実測図、写真）は愛知県埋蔵文化財センターに保管している。

目　　次

巻頭図版
序文 ____ i
例言 ____ ii
目次 ____ iii

第１章　立地と調査経過 ____ 1
　第１節　環境と立地 ____ 1
　　1. 遺跡の位置　　2. 瀬戸市の地形と地質　　3. 周辺の遺跡
　第２節　調査の経緯と経過 ____ 7
　　1. 調査の経緯　　2. 調査の経過　　3. 整理の経過

第２章　遺構 ____ 20
　第１節　遺跡の概要 ____ 20
　第２節　A 区の遺構 ____ 22
　　1. 遺構の概要
　　2. 土層　A・C 区 SPB 20 ライン（東西）ベルト土層
　　3. SX01 の土層　南北（SU02、03）ベルト土層と東西（SPB、SPZ）ベルト土層
　　4. SX01 の石敷
　　5. 轆轤ピット
　　SK01　SK02　SK16　SK18　SK21　SK25　SK28　P02　P14　P37　P53
　　6. 粘土溜土坑　SK04　SK05　SK08　SK09　SK40
　　7. 杭列
　　8. 土壙墓　SK34
　　9. 溝
　第３節　E 区の遺構 ____ 52
　　1. 遺構の概要
　　2. 土層　南北（SPC n ライン SPD o ライン）ベルト土層と
　　西東（SPG 7 ライン）ベルト土層
　　3. SY01
　　（1）窯体　SY01
　　（2）土坑　SY01-SK01　SY01-SK02　SY01-SK03　SY01-SK04
　　4. 竪穴　SB02　SB03
　　5. 竪穴建物　SB01　SX06

6. 掘立柱建物　SX03
7. 作業場　SB05・SB04 の南　SX02
8. 轆轤ピット
P121　P117　SB03-P01
P119　P113　P123　P116　P122　P115-a
P09　P12　P03-c　P06　P08　P07
9. 粘土溜土坑　SX02-SK02
10. 杭列
11. 石敷　SX02-SK07
12. その他の土坑　SK03　SK04　SK06　SX04　SX05　SX07-SX12
13. 土壙墓　SK35
第 4 節　C 区の遺構 _____ *87*
1. 遺構の概要
2. 区画溝　SD05　SD06　SD07　SD08　SD10
3. 土壙墓　SK15　SK21
4. 土坑　SK28　SK29　SK44　SK48
5. 柱穴　P12　P16　P18　P19　P21　P57　P71　P74　P77　P83　P104　P105

第 3 章　出土遺物 _____ *97*
第 1 節　出土遺物の概要 _____ *97*
第 2 節　A 区出土遺物 _____ *101*
轆轤ピット　SK01　SK02　SK03　SK24　SK28　SK32　P03　P14　P32
粘土溜土坑　SK04　SK05　SK08　SK09　SK40
造成土 SU02　SU03
土坑 SK34
第 3 節　E 区出土遺物 _____ *102*
SY01-SK03　SX04　SX08　SX12　SX15　SX03　SX02
SB01　SB03　SK56　SK57　SB02　SB04　SX06
第 4 節　D 区出土遺物 _____ *105*
第 5 節　C 区出土遺物 _____ *108*
SK20　SK27　SK44　P24　P50　P57　SK48　SK49　SD05　SD06　SD10
第 6 節その他の出土遺物 _____ *108*
1. 石製品　2. 木製品　3. 金属製品

第 4 章　自然科学分析 _____ *113*
第 1 節　考古地磁気年代推定 _____ *113*
第 2 節　出土木製品の樹種同定 _____ *116*

第５章　総括 122
第１節　轆轤ピット 122
第２節　遺構の変遷 133
第３節　まとめ 142

参考・引用文献目録 147
遺構一覧表 149
遺物一覧表 156
報告書抄録 173

巻頭図版　目次

図版１　調査前遠景　南より、調査区遠景　南西より
図版２　調査区全景　　南より、南西より
図版３　E 区 SY01　　全景 南より、断ち割り 南より、断ち割り 東より
図版４　A 区 SX01 石敷　　南部分 北より、全景 北西より
図版５　A 区 SX01　　轆轤ピット群上面 粘土出土状況 北より、轆轤ピット群 北より
図版６　A 区 SK21　　北より、軸部掘り方検出状況 北より、完掘状況 北より
図版７　E 区　　SX02・03 全景 南より、SX03 全景 南より
図版８　出土遺物　　狛犬（阿）298、魚形掛花生 464

挿図　目次

第 1 図　瀬戸市位置図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 1
第 2 図　瀬戸市の地質概要図 ＿＿＿＿＿ 2
第 3 図　桑下城跡・桑下東窯の調査区位置図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 3
第 4 図　桑下東窯跡の周辺遺跡図 ＿＿＿＿ 5
第 5 図　桑下東窯跡周辺地形図と調査区地形図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 9
第 6 図　調査区グリット図 ＿＿＿＿＿＿ 10
第 7 図　調査区地形測量図 ＿＿＿＿＿＿ 11
第 8 図　調査後地形測量図 ＿＿＿＿＿＿ 12
第 9 図　全体図 1　D・E・A 区 ＿＿＿＿ 13
第 10 図　全体図 2　A・B・C 区 ＿＿＿＿ 14
第 11 図　D 区全体図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 15
第 12 図　E 区全体図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 16
第 13 図　A 区全体図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 17
第 14 図　C 区全体図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 18
第 15 図　B 区全体図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 19
第 16 図　主要遺構配置 ＿＿＿＿＿＿＿ 20
第 17 図　A・C 区全体図 ＿＿＿＿＿＿＿ 22
第 18 図　A・C 区 SPB ライン西東ベルト位置図 ＿＿＿ 24
第 19 図　A・C 区 SPB ライン西東ベルト土層図 ＿＿＿ 25
第 20 図　A 区　土層ベルト位置図 ＿＿＿ 26
第 21 図　A 区 SU02・03 SPA 南北ベルト 土層図 ＿＿＿＿＿ 27
第 22 図　A 区 SX01 SPB 東西ベルト土層図 ＿＿＿ 28
第 23 図　A 区 SX01 SPZ 東西ベルト土層図 ＿＿＿ 29
第 24 図　A 区 SX01 粘土・敷石出土状況図 ＿＿＿ 30
第 25 図　A 区　SX01 敷石・窯道具出土状況図と断面図 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 31
第 26 図　A 区　遺構位置図（敷石撤去後） ＿＿＿＿＿＿＿＿ 33
第 27 図　A 区 遺構位置図と A -A' ライン断面図 ＿＿ 34
第 28 図　A 区　轆轤ピット分布図 ＿＿＿ 36
第 29 図　A 区　轆轤ピット（SK01 ～ 03・06、P09）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 37
第 30 図　A 区　轆轤ピット（SK16・18・21・23・24）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 38
第 31 図　A 区　轆轤ピット（SK25 ～ 28・30）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 39
第 32 図　A 区　轆轤ピット（SK31・32・37 ～ 39、P52）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 40
第 33 図　A 区　轆轤ピット（P1 ～ 6・8・10・13、SK07）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 41
第 34 図　A 区　轆轤ピット（P14・15・23・28・32・36・37・59）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 42
第 35 図　A 区　轆轤ピット（P41・47・50・53・55・58・63・65）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 43
第 36 図　A 区　土坑（SX01:SK04・05・08・09、P33）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 45
第 37 図　A 区　土坑（SX01:SK10 ～ 13・15・17・19・20・22・29）平面図・土層断面図 ＿＿＿＿＿ 46

第 38 図　A 区　土坑他
（SX01:SK33 ～ 36・40、P51）
平面図・土層断面図 47
第 39 図　A 区　土坑他
（SX01:SK51 ～ 53、
P07・11・12・16 ～ 20）
平面図・土層断面図 48
第 40 図　A 区　ピット
（SX01:P21・22・24 ～ 27・
29-31・34・35・60）
平面図・土層断面図 49
第 41 図　A 区　ピット（SX01:P38 ～ 40・
42 ～ 46・48・49・54）
平面図・土層断面図 50
第 42 図　A 区　ピット、溝
（SX01:P56・57・61・64、
SD01 ～ 04）
平面図・土層断面図 51
第 43 図　D・E 区　全体図 52
第 44 図　E 区　遺構位置図 1（西部分）54
第 45 図　E 区　遺構位置図 2（東部分）55
第 46 図　E 区　土層ベルト位置図 56
第 47 図　E 区　SPC・SPD ライン
南北ベルト土層図 57
第 48 図　E 区　SPG　7 ライン
西東ベルト土層図 58
第 49 図　E 区　SY01
窯体と周辺遺構平面図 60
第 50 図　E 区　SY01　窯体断面図 61
第 51 図　E 区　SY01　窯体断面土層図 62
第 52 図　E 区　SY01
周辺遺構（SK01 ～ 04）
平面図・土層断面図 63
第 53 図　E 区　SB02 ～ 05　平面図 65
第 54 図　E 区　SB02 ～ 05
SPA 土層断面図 66
第 55 図　E 区　北側　全体図 67
第 56 図　E 区　SB01
遺物出土状況図・土層断面図 68
第 57 図　E 区　SB01　平面図・断面図 69
第 58 図　E 区　SX06
遺物出土状況図・土層断面図 70
第 59 図　E 区　SX06　平面図・断面図 71
第 60 図　E 区　SX03　遺物出土状況図 73
第 61 図　E 区　SX03
平面図・土層断面図 74
第 62 図　E 区　南側（SX02 ～ SX12）
全体図 75
第 63 図　E 区　SX02（西側）
遺物出土状況図 1 76
第 64 図　E 区　SX02（西側）
遺物出土状況図 2 77
第 65 図　E 区　SX02（西側）
遺構平面図 1 78
第 66 図　E 区　SX02（西側）
遺構平面図 2 79
第 67 図　E 区　SX02 土坑（SK01 ～ 03）、
轆轤ピット（P12）、
平面図・土層断面図 80
第 68 図　E 区　SX02 土坑（SK04 ～ 07）
平面図・土層断面図 81
第 69 図　E 区　SX02 土坑
（P01・02・04・05・10・11・13）
平面図・土層断面図 82
第 70 図　E 区　北側 SB02 ～ 05
轆轤ピット位置図 83
第 71 図　E 区　北側轆轤ピット
（P01・113・115 ～ 117・119・
121 ～ 123）
平面図・土層断面図 84
第 72 図　E 区　南側 SX02
轆轤ピット位置図 85
第 73 図　E 区　SX02
轆轤ピット（P03・06 ～ 09・12）

平面図・土層断面図 86
第 74 図　C 区全体図 87
第 75 図　C 区（西側）遺構位置図 1 89
第 76 図　C 区（東側）遺構位置図 2 90
第 77 図　C 区　溝
（SD05・06・14・17、P69）
平面図・土層断面図 91
第 78 図　C 区　溝他
（SD07・08、P37・40・58）
平面図・土層断面図 92
第 79 図　C 区　溝他
（SD10、SK18、P71・85・88）
平面図・土層断面図 93
第 80 図　C 区　土坑
（SK14・15・21・23・28、P73）
平面図・土層図 94
第 81 図　C 区　土坑、柱穴
（SK29・44・48、P12・16・18・19）
平面図・土層図 95
第 82 図　C 区　柱穴
（P21・57・71・74・77・83・91・105）
平面図・土層断面図 96
第 83 図　出土古銭拓影 109
第 84 図　印花文拓影 1 110
第 85 図　印花文拓影 2 111
第 86 図　窯道具窯印の拓影 112
第 87 図　床面焼土の残留磁化と標準曲線 113
第 88 図　出土材光学顕微鏡写真（1 ～ 3） 119
第 89 図　出土材光学顕微鏡写真（4 ～ 6） 120
第 90 図　出土材光学顕微鏡写真（7 ～ 9） 121
第 91 図　轆轤
陶磁器の轆轤『日本民具辞典』より
『窯業民俗資料調査報告 1
（瀬戸市）』より 122
第 92 図　轆轤ピット 1 類（柱穴）
SK01・02 127
第 93 図　轆轤ピット 1 類（柱穴）
SK16・25・28 128
第 94 図　轆轤ピット 1 類（柱穴）
P02・03・32・37・63、
SX02、P06 129
第 95 図　轆轤ピット 2 類（土坑）
SK18・21 130
第 96 図　轆轤ピット 2 類（土坑）
SK24・30、P14・53　1:30 131
第 97 図　轆轤　『陶器大辭典』より 132
第 98 図　桑下東窯跡轆轤ピット位置図 134
第 99 図　E・A 区轆轤ピット位置図 135
第 100 図　遺構変遷図
Ⅰ・Ⅱ期　A 区、E・A 区 138
第 101 図　遺構変遷図
Ⅲ・Ⅳ期　A 区、E・A 区 140
第 102 図　大窯跡位置図 143
第 103 図　土壙墓 1
A 区 SK34　C 区 SK44 144
第 104 図　土壙墓 2　B 区 SK12・30 145
第 105 図　土壙墓 3　E 区 SK35 146

付表　目次

第 1 表　桑下東窯跡の周辺遺跡一覧 6
第 2 表　E 区 SB01 出土遺物 68
第 3 表　E 区 SX06 出土遺物 71
第 4 表　桑下東窯跡出土遺物破片表 98
第 5 表　掲載遺物時期別表 99
第 6 表　調査区別時期別表 100
第 7 表　A 区遺構出土遺物一覧表 102
第 8 表　E 区遺構出土遺物一覧表 103
第 9 表　SX03・02 出土遺物破片表 106
第 10 表　SB01、SX06 出土遺物破片表 107
第 11 表　C 区遺構出土遺物一覧表 108
第 12 表　残留磁化測定結果（偏角補正前） 115
第 13 表　窯跡の焼成年代推定 115
第 14 表　桑下東遺跡出土木製品の樹種同定結果 118
第 15 表　桑下東窯跡轆轤ピット一覧 126
第 16 表　瀬戸市内轆轤ピット一覧表 133
第 17 表　各期別遺構一覧表 136

図版篇　目次

・遺物実測図　図 1 ～ 70 1
・第 1 表　遺物観察表（石製品、木製品、金属製品） 71
・第 1 図　桑下東窯跡出土破片数・個体数組成グラフ 1 73
・第 2 図　桑下東窯跡出土破片数・個体数組成グラフ 2 74
・第 3 図　器種別出土状況図 1 75
・第 4 図　器種別出土状況図 2 76
・第 5 図　器種別出土状況図 3 77
・第 6 図　器種別出土状況図 4 78
・写真図版　図版 1 ～ 106 79

第 1 章　立地と調査経過

第 1 節　環境と立地

1. 遺跡の位置

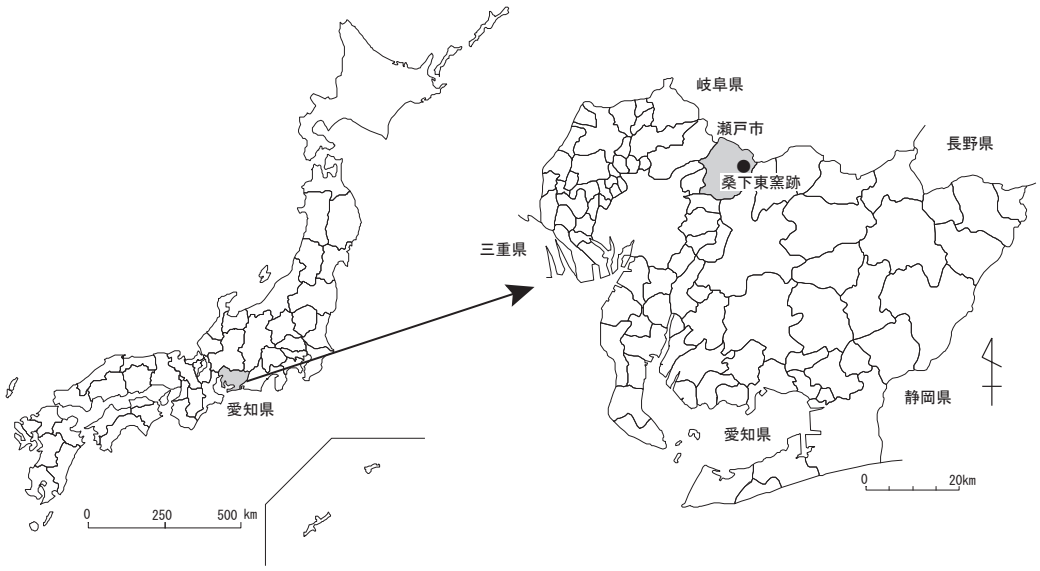
桑下東窯跡は、愛知県瀬戸市上品野町地内の、庄内川支流である水野川によって形成された品野盆地の北東岸の丘陵地に所在する。瀬戸市は愛知県の中央北部岐阜県との県境に位置し、濃尾平野の東、尾張丘陵の一角にあり旧尾張国の北東端にあたる。北は岐阜県多治見市、土岐市等に接し、西は春日井市、名古屋市、尾張旭市に隣接する。東及び南方は旧三河国に属する豊田市や愛知郡長久手町に接している。瀬戸市域は東西 12.8km、南北 13.6km で、周囲約 50km の楕円形を呈している。

2. 瀬戸市の地形と地質

瀬戸市は名古屋市の北東約 20km に展開する尾張丘陵地帯の一部に位置し、木曽山脈の最南端にあたる。その大部分の標高は 100m から 600m の丘陵地で占められている。中でも市域西側には 100m から 200m の低位丘陵が展開しており、市街地や耕作地を形成している。

各低位丘陵帯は市内を流れる河川によっていくつかに区分されている。市境北東に沿って庄内川が南流し、その支流である蛇ヶ洞川が市域北部、水野川が市域中部を東から西へと流れている。また市域中南部には矢田川（山口川）とその支流である瀬戸川が東から西へと流れている。

水野川の北側を穴田丘陵、水野川と瀬戸川に挟まれた地域を水野丘陵と呼んでいる。また瀬戸川と矢田川に挟まれた部分を菱野丘陵、矢田川以南を幡山丘陵と呼称している。さらに河川沿いには狭い沖積地が盆地状に広がっており、蛇ヶ洞川沿いには上半田川盆地、下半田川盆地、水野川沿いには上流に品野盆地、下流に水野盆地が形成され、矢田川上流（赤津川）には赤津盆地がある。



第 1 図　瀬戸市位置図

また、矢田川と瀬戸川沿いには西方にむかって平地が広がっており、名古屋市北東部の沖積地へとつながっている。北部及び東部山地は国有林と県有林が広がり、土砂採集場以外は自然の多く残る丘陵地帯となっている。（第２図）

瀬戸市における地質的特徴は、伝統的な窯業地であることからも分かるように、やきものの原料となる良質の陶土やガラスの原料となる珪砂を豊富に含んでいる陶土層（瀬戸陶土層）が市域中央部にみられることである。

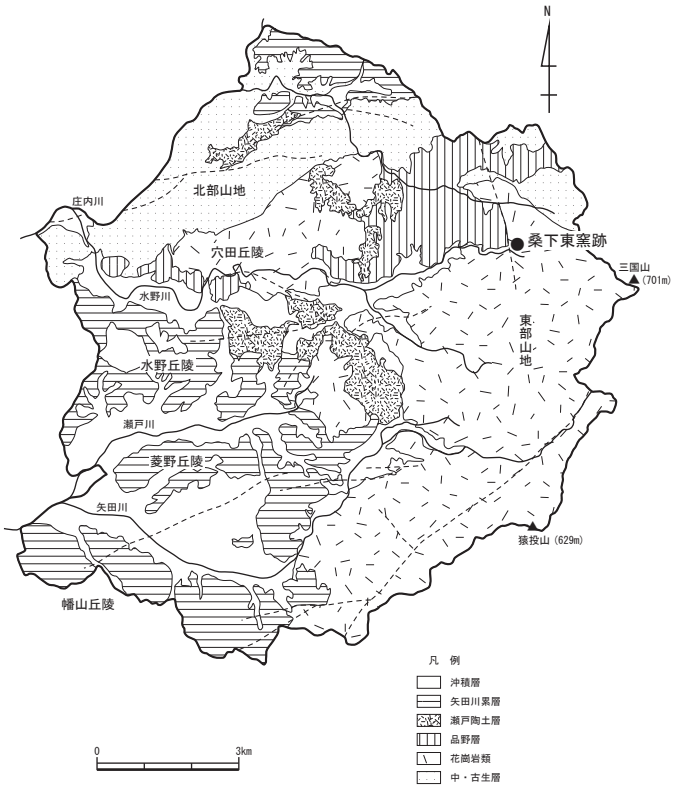
この陶土層は、その基盤である中・古生層及び花崗岩層の上に厚く堆積しており、その由来は第三紀鮮新世から第四紀更新世初めにかけて伊勢湾を中心に広がっていたとされる東海湖の堆積物である。また、市域中部に広がる水野砂礫層、蛇ヶ洞川北部に広がる土岐砂礫層（いずれも矢田川累層）中にも砂礫層に挟まれて粘土層がみられる。一方市域北部には中・古生層、東部には花崗岩類が広がっており、この部分では粘土層はみられない。

3. 周辺の遺跡

庄内川の支流である水野川によって形成された瀬戸市北東部にあたる品野盆地周辺の集落遺跡の分布と桑下東窯跡の西側、隣接した桑下城跡の調査成果を概観する。

品野盆地の集落遺跡

品野盆地南東の丘陵部にある上品野遺跡では、県内で最も古い時期に属する後期旧石器時代の石器群が



第２図　瀬戸市の地質概要図　『瀬戸市史』自然編をもとに作成

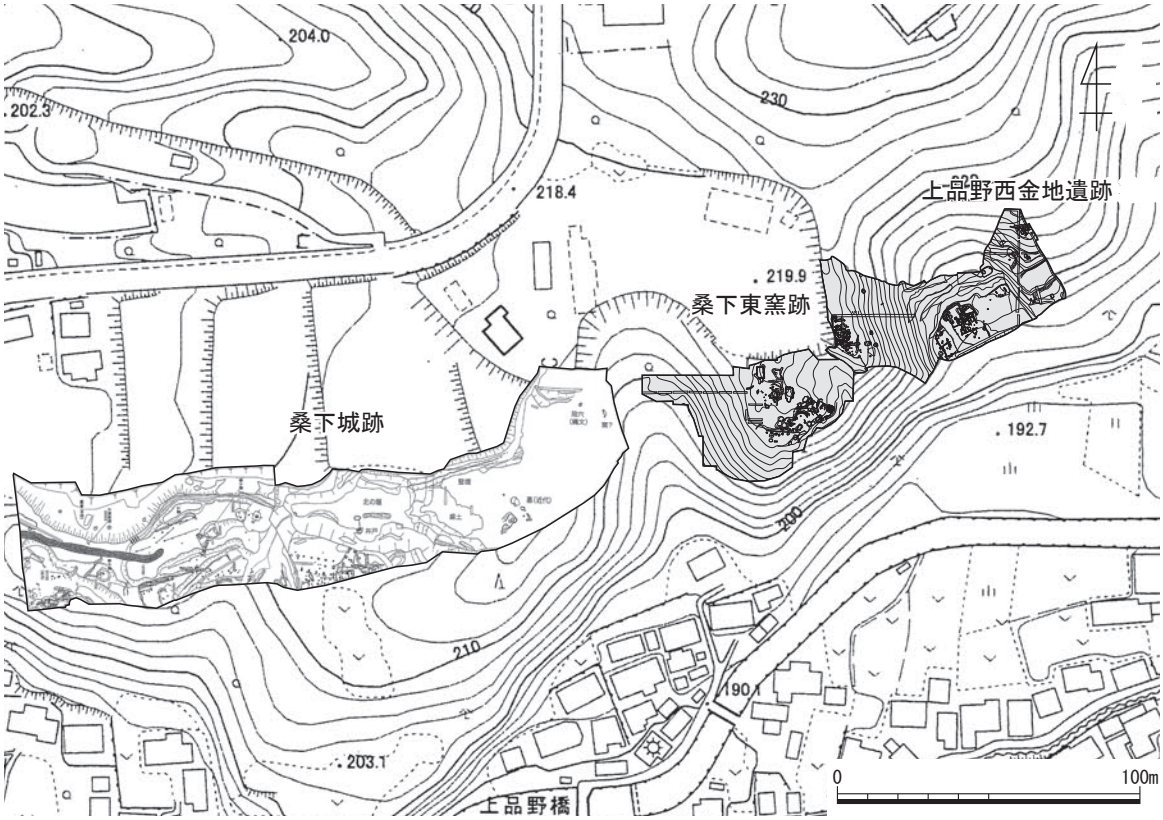
出土している。弥生時代も前期と中期の土器が散見され、古墳時代前期、古代には居住域が南斜面を中心に展開するのが確認できる。品野盆地では南西にある品野西遺跡も縄文草創期から利用が始まるが、こちらの古代の集落の成立は古く瓦葺き建物が存在した。上品野遺跡でも 8 世紀の馬形や斎串などの祭祀関連の木製品などがあり、すぐ北側低地部の上品野蟹川遺跡とともに墨書灰釉陶器など文字資料が比較的多い。古代官衙との関連がうかがわれるなど瀬戸市域でも中心的な地域であったと考えられる。

中世の集落遺跡としての調査例は少ないが、山茶碗窯の分布からは 13 世紀代に入り品野盆地南西部の丘陵を中心に山茶碗専焼窯が展開することが確認されている。14 世紀前半にかけては古瀬戸を併焼する窯などを含めこの地域の窯業生産は盛期を迎える。その後は窯数全体が減少し品野盆地より北西部の丘陵地帯に、盆地南東部丘陵にわずかに（中）後期の古瀬戸を併焼する窯が分布する。続く大窯の時代は盆地周縁の集落に近い場所に窯跡が散見されるが、16 世紀半ば以降は近世の連房式登窯までみられなくなる。

桑下城跡調査成果 の概要

桑下城跡は品野盆地の北東、標高 210m 前後の丘陵上に位置する。東西方向に長くのびる尾根を利用して築かれており、東西約 220m、南北約 100m の規模と推定されている。桑下城跡の南側の水野川に沿った谷筋を街道（中馬街道）が通っており、こうした交通の要衝をおさえるように対岸の標高 300m 前後の丘陵上には品野城跡（推定）が位置する。

平成 16,19,20,21 年度の 4 次に亘る発掘調査によって、堀と土塁、曲輪、櫓跡と番小屋、庭園遺構



第 3 図　桑下城跡・桑下東窯の調査区位置図 (1:2,500)

（池）、井戸、石垣、礎石建物跡などが次々と検出され、全体に各配置がよく遺存されている非常に良好な城館跡であることが明らかとなってきた。

西側は幅の狭い小曲輪群で構成されており、もともと馬蹄形の丘陵に囲まれた窪地を利用した館跡から、のち丘陵中腹を切り込んで屋敷地を造成した城館に発達した築城期に遡る古い様相を伝えるものではないかと想定された。一方、東側ではそれらとは全く規模の異なる造成が行われており、本丸の広い平坦面構築のため以前の数条の溝を埋め、新規に西側に幅７m、深さ３m の薬研掘を掘削している。ただし、堀や土塁で守られた内部では、一部で庭園と建物跡のセットが検出されている。平成 19 年度の本丸部分調査では、北東部土塁を築山に見立てた枯山水庭園とみられる遺構配置が確認され、平成 20 年度の調査では西側の標高の低い部分の曲輪で池と石組と導水施設をもつ小規模な庭園跡が見つかっている。

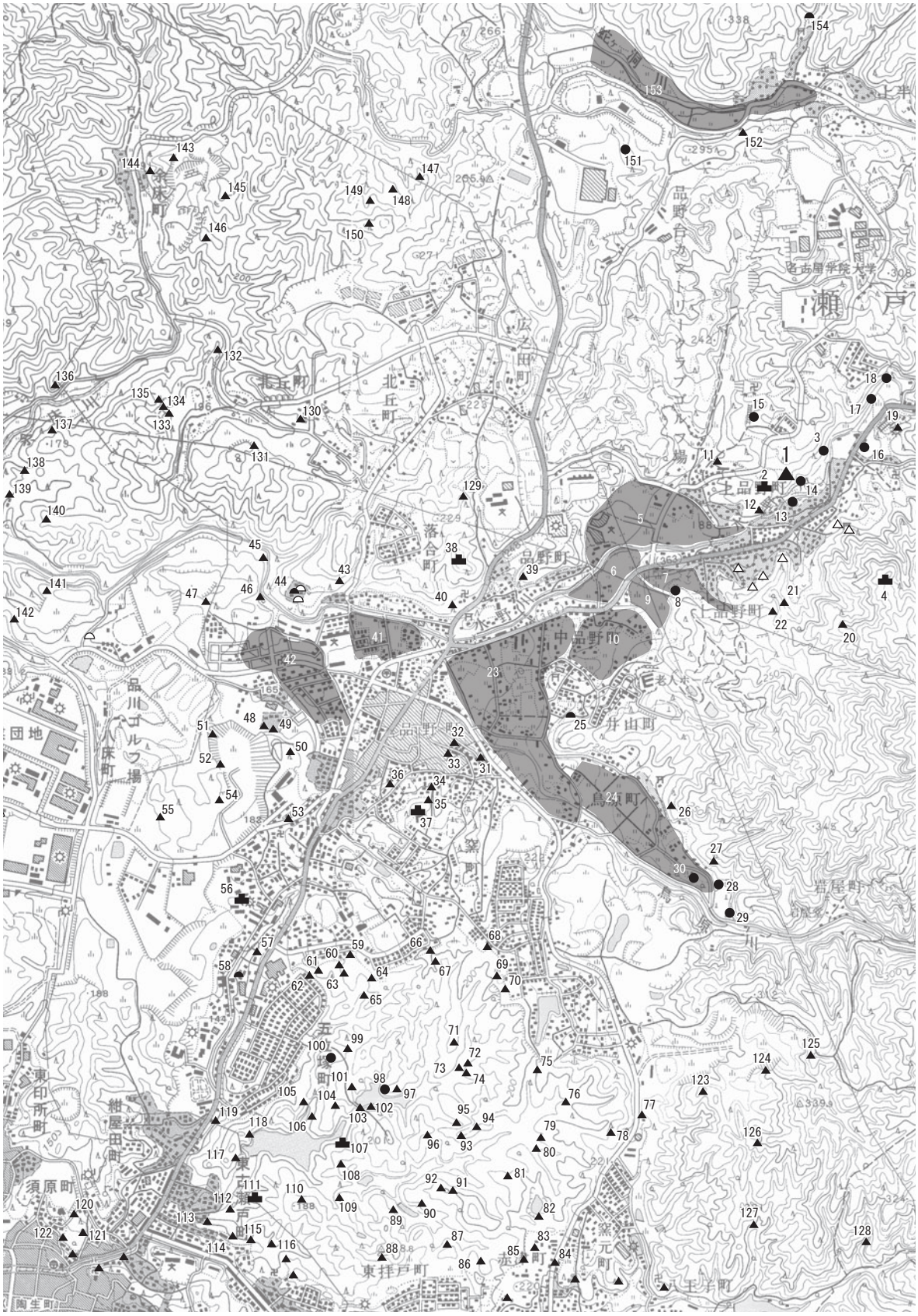
出土遺物は全体に少なく、特定の曲輪に偏った分布がみられる。西側では 21 年度調査地点において、焼土を含む３次の生活面が確認でき、水滴（鳥形、猪形）、合子、豆天目、茶入など大窯製品のほか、茶臼、刀子、ガラス製数珠玉、中国産染付碗があり、しかし土鍋など日常品は少ない。東側本丸部分では整地層の下でロクロ成形土師器皿を検出し、ピット、土坑等から天目茶碗を含む陶器類が出土している。周囲の堀からは瀬戸産陶器と窯道具、中国産青磁碗、白磁皿、常滑産甕、土師器皿、内耳鍋のほか漆器椀、下駄、柄杓、石臼片などが出土した。特異な出土品として、本丸東側の堀で検出された和鏡（「菊花双鶴鏡」白銅鏡）があるが、和歌山県熊野速玉大社に所蔵される神宝類の中に類例が存在し、これは明徳元（1390）年に熊野十二社に調進されたもので京都の工房で制作されたと考えられている。

戦国期にかけて一帯は尾張・三河の国境として緊張関係にあった。江戸時代の地誌類によると、品野城はこの地を攻略した松平清康（家康祖父）より松平内膳（信定）に与えられ、桑下城はその家老永井（または長江）民部の居城とされている。永禄年間の織田・今川の戦いについての確実な史料は実は明らかでなはい。しかし、今川氏から織田氏を撃退した科野（品野）城の武将に送られた永禄元（1558）年の感状が残っており、出土した和鏡の由来とあわせても今川氏との強い結びつきが想起される。

桑下城跡本丸付近の造成は、軍事的な機能を強化する必要に迫られた大改修であり、これが桑下城の最終形態となっている。時期を判断する材料に乏しいが、ここでの大改修は桶狭間の戦いの前後の時期の可能性が高いと考えられる。

なお品野城跡は発掘調査は行われていないが、土塁、虎口、横堀、堀切などの痕跡をよく留めていることが知られ、建保年間（1213 ～ 1219）の築造とされ、後には桑下城と同様の終焉をたどったとみられている。最近の研究では、桑下城を館城、品野城を詰めの城として、二つの城を関連して捉えるようになっている。

桑下城が機能していた戦国時代には桑下東窯跡、西窯跡（大窯１・２段階）が操業しており、桑下東窯跡では窯体とその周辺の尾根上にかけて、ロクロピット 55 基と多数の土坑、石敷、竪穴状作業場跡などからなる工房跡の広がりが確認されている。桑下東窯のさらに東側、丘陵裾部にかけて展開する上品野西金地遺跡では戦国時代から近世にかけての集落と墓域の一端が確認されている。いずれも桑下城跡との関連が注目される。



第 4 図　桑下東窯跡の周辺遺跡図 (1:25,000)

第１表　桑下東窯跡の周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時期
1	桑下東窯跡	16 世紀　大窯１後半～２前半
2	品野城跡	中世
3	上品野西金地遺跡	中世～近世
4	品野城跡	室町～戦国
5	上品野蟹川遺跡	縄文～近世
6	上品野向橋南遺跡	中世～近世
7	中洞遺跡	縄文～中世
8	大洞遺跡	弥生
9	上品野遺跡	旧石器～近世
10	中品野遺跡	縄文～近世
11	西窯跡	16 世紀
12	桑下窯跡	15 世紀
13	上品野桑下 B 遺跡	中世～近世
14	上品野桑下 A 遺跡	中世～近世
15	菩提寺遺跡	中世
16	上品野東山遺跡	中世～近世
17	上品野一ノ瀬南遺跡	中世～近世
18	上品野一ノ瀬遺跡	中世～近世
19	上品野丸山窯跡	15 世紀
20	上品野 A 窯跡	15 世紀、山茶碗、施釉陶器
21	宇トゲ窯跡	14 ～ 15 世紀
22	中洞窯跡	縄文～中世
23	品野中部遺跡	縄文～近世
24	鳥原遺跡	古代～近世
25	井山古墳	古墳
26	浄源寺西窯跡	近代、磁器
27	鶯窯跡	14 ～ 15 世紀
28	浄源寺遺跡	19 世紀
29	浄源寺境内遺跡	19 世紀
30	鳥原縄文遺跡	縄文
31	窯町 E 窯跡	18 ～ 19 世紀、陶器
32	窯町 C 窯跡	17 ～ 19 世紀、陶器
33	窯町 B 窯跡	17 ～ 19 世紀、陶器
34	窯町 A 窯跡	17 世紀
35	円六窯跡	15 ～ 16 世紀
36	品野馬場窯跡	19 世紀、陶器
37	山崎城跡	中世
38	落合城跡	中世
39	品野町八丁目 A 窯跡	19 世紀、磁器
40	勘介窯跡	16 世紀
41	落合橋南遺跡	縄文～近世
42	品野西遺跡	縄文～近世
43	落合窯跡	16 世紀
44	天白１号墳	古墳
45	品川北７・８号窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
46	品川北６号窯跡	13 世紀、山茶碗
47	品川北１・２号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
48	八床７・８号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
49	八床６号窯跡	山茶碗
50	八床５号窯跡	13 世紀、山茶碗
51	八床 11・12 号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
52	八床 13・14 号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
53	八床 18 号窯跡	15 世紀
54	八床２号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
55	八床 21 号窯跡	山茶碗
56	阿弥陀峰城跡	中世
57	五位塚北窯跡	13 世紀、山茶碗
58	五位塚古墳	古墳
59	五位塚 F 窯跡	施釉陶器
60	五位塚 E 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
61	五位塚 G 窯跡	14 世紀、山茶碗、施釉陶器
62	五位塚 H 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
63	五位塚 D 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
64	五位塚 B 窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
65	五位塚 C 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
66	境１・２号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
67	五位塚 A 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
68	境３号窯跡	不明
69	境４号窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
70	境５号窯跡	山茶碗
71	殿原窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
72	馬ヶ城 C 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
73	馬ヶ城 D 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
74	馬ヶ城 B 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
75	馬ヶ城 A 窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
76	馬ヶ城 F 窯跡	13・14 世紀、山茶碗、施釉陶器
77	針原窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
78	奥白根窯跡・サカイ窯跡	13・17 世紀、山茶碗、施釉陶器
79	馬ヶ城 E 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
80	馬ヶ城 D 窯跡	13 世紀、山茶碗
81	保手窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
82	帆立北窯跡	13 世紀、山茶碗
83	唐三郎窯跡	17 ～ 19 世紀、施釉陶器
84	窯元 B 窯跡	19 世紀、施釉陶器
85	仙左衛門窯跡	17 ～ 19 世紀、施釉陶器
86	馬ヶ城 P 窯跡	不明
87	馬ヶ城 N 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
88	井守沢 A 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
89	銭亀窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
90	銭東 C 窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
91	銭東 B 窯跡	13・14 世紀、山茶碗、施釉陶器
92	銭東 A 窯跡	13・14 世紀、山茶碗、施釉陶器
93	大栃 C 窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
94	大栃窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
95	大栃 B 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
96	椿窯跡	13 ～ 15 世紀、山茶碗、施釉陶器
97	萱原窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
98	馬ヶ城 M 遺跡	古代
99	五位塚 I 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
100	五位塚 J 遺跡	18 世紀
101	馬ヶ城 J 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
102	馬ヶ城 I 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
103	馬ヶ城 K 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
104	馬ヶ城 H 窯跡	13・15 世紀、山茶碗、施釉陶器
105	馬ヶ城 Q 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
106	馬ヶ城 I 窯跡	13 ～ 14、15 世紀、山茶碗、施釉陶器
107	馬ヶ城跡	中世
108	馬ヶ城窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
109	馬ヶ城 G 窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
110	留林窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
111	瀬戸城跡	中世
112	馬ヶ城 R 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
113	菊畑窯跡	15 世紀
114	東古瀬戸 A 窯跡	山茶碗
115	井守沢 C 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
116	井守沢 B 窯跡	15 世紀、山茶碗、施釉陶器
117	馬ヶ城 S 窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
118	水源池西窯跡	13 世紀、山茶碗、施釉陶器
119	五位塚 K 窯跡	13 世紀、山茶碗
120	夕日３号窯跡	19 世紀、施釉陶器
121	夕日４号窯跡	19 世紀、施釉陶器
122	日影窯	17 世紀、施釉陶器
123	針原 C 窯跡	14 世紀、山茶碗
124	五葉窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗、施釉陶器
125	祢宜窯跡	14 世紀、施釉陶器
126	赤津長根窯跡	14 世紀、山茶碗、施釉陶器
127	神事池窯跡	14 世紀、山茶碗、施釉陶器
128	木下川窯跡	14 世紀、山茶碗、施釉陶器
129	広之田 B 窯跡	13 世紀、山茶碗
130	北山南６号窯跡	山茶碗
131	北山南３～５号窯跡	13 ～ 15 世紀、山茶碗、施釉陶器
132	萱刈窯跡	14 世紀、山茶碗、施釉陶器
133	曽野 F 窯跡	13 世紀、山茶碗
134	曽野 G 窯跡	14 世紀、山茶碗
135	曽野 B 窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗
136	余床 E 窯跡	13 世紀、山茶碗
137	曽野 C 窯跡	14 世紀、山茶碗
138	曽野 E 窯跡	13 ～ 14 世紀、山茶碗
139	曽野 H 窯跡	13 世紀、山茶碗
140	曽野 D 窯跡	14 世紀、山茶碗
141	種成５号窯跡	14 世紀、山茶碗
142	種成３号窯跡	不明
143	余床 A 窯跡	13 世紀、山茶碗
144	余床 F 窯跡	19 世紀、陶器
145	余床 B 窯跡	14 世紀、山茶碗
146	余床 C 窯跡	14 世紀、山茶碗
147	七曲窯跡	14 ～ 15 世紀、山茶碗、施釉陶器
148	北丘 C 窯跡	14 ～ 15 世紀
149	北丘 A 窯跡	14 世紀、山茶碗
150	北丘 B 窯跡	14 世紀、山茶碗、施釉陶器
151	広之田 A 遺跡	中世
152	上半田川 A 窯跡	近代、磁器
153	上半田川遺跡	中世～近世

※施釉陶器＝古瀬戸

第 2 節　調査の経緯と経過

1. 調査の経緯

桑下東窯跡範囲確認調査

平成 9 年（1997）度の事業として平成 10 年 1 月から 3 月にかけて県土木部（道路建設課）国道 363 号線道路改良関連の 4 遺跡（上品野蟹川遺跡　桑下城跡　桑下東窯跡　上品野西金地遺跡）範囲確認調査の一つとして桑下東窯跡の範囲確認を目的とする調査が 100㎡実施された。

担当者（現職名）　主査　北村和宏　（豊田西高校教頭）
主任　小澤一弘
調査研究員　後藤英史（天白高校教諭）

調査方法 : 過去の盗掘等により窯体が 1 基露呈しており、この地点を中心に複数の窯跡の存在有無を事前に探る目的で磁気探査が平成 10 年 1 月 13・14 日に実施された。露呈していた窯体周辺を中心に実施し、地表面で確認できる窯体以外に明確な反応はなかった。磁気探査の結果と遺物の散布状況、地形等を考慮し、3 月 5 日から 11 日に適宜試掘坑（トレンチ）を 17 ヶ所設定し掘削、遺構･遺物の有無を調査し、遺跡の範囲を把握した。

試掘概要 : 地形的なまとまりから調査域を便宜的に西から A 区から D 区とし、A 区（T01 ～ T07）は桑下城跡に対峙する西谷斜面と窯本体が露呈する平坦面（南に緩く傾斜）。B 区（T08 ～ T13）は A 区東部の谷状の凹みの東側で、南北方向に長い幅狭な平坦面およびその東側急斜面で、平坦面の西北側は近年の造成により削平され崖となっている。C 区（T17）は B 区の東側、平坦な谷底。休耕田となり、かなりの部分が滞水し、トレンチの掘削が困難で 1 ヶ所の設定となった。D 区（T15 ～ T16）は C 区を西側に見おろす斜面。なお D 区はその後の発掘調査成果から、上品野西金地遺跡の範囲となったため、今後刊行予定の上品野西金地遺跡に報告されることになった。

範囲確認調査の成果 : 窯本体は盗掘などで露呈し 1 基、窯に付属する作業面と推定される平坦面が 2 ヶ所 T01・T03 ～ T06 と T08・T11 で、物原と推定される遺物包含層が T01 ～ T05・T07 および T08 ～ T14・T16・T17 にかけての広範囲で確認された。こうした調査所見と地表面の遺物散布状況等から桑下東窯跡の遺跡範囲を確定した。出土遺物は大窯期前半の陶器片ないし窯道具類であった。

2. 調査の経過

桑下東窯跡の発掘調査は平成 17 年（2005）度に国道 363 号道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成 17 年（2005）9 月から平成 18 年（2006）3 月にかけて実施した。

調査は本遺跡が東西に長く、傾斜地や谷等地形的な条件により、調査区を A 区から E 区の 5 区に分けた。東から B 区、C 区、A 区、E 区、D 区である。B 区は東側を上品野西金地遺跡に接した西斜面の地区、C 区は B 区 A 区に挟まれた谷底地区、A 区は切り立ったような急斜面を含む南北方向に長い幅狭な平坦面で丘陵の東端地区、E 区は露呈した窯体周辺の緩く傾斜した平坦な丘陵南端地区、D 区は桑下城に対峙す

る西に谷を望む斜面の地区である。調査区内に国土座標第Ⅶ系による 5m グリットを設定し実施した。

灰原一部は残っていても中心は調査区外ということで、露呈した窯体 1 基と平坦地での工房跡の調査を想定し、冬季の作業を考慮し、先に谷底の C 区からはじめ、B 区、A 区の東側を終了し、E 区、D 区へと作業工程を計画した。C 区については湧水と廃土の関係から北と南の二つの区に分け調査した。

谷の東側 C・B 区を 12 月までに終了の予定が、12 月 5 日の初雪から、降雪のために 12 月では 6 日間作業中止になるという数十年ぶりの大雪に見舞われ工程に遅れが生じた。特に C 区の谷底からは想定外の遺構を検出し、寒さと湧水に悩まされ、悪戦苦闘の日々の作業であった。

各調査区ともに、想定外の遺構密度で、A 区からは石敷遺構と轆轤ピット群、E 区では大規模な工房跡を調査することとなった。

各調査区とも想定外の遺構と雪による作業中止の影響で当初の予定通りには進まなかったが、どうにか年度内に作業を終了した。

調査期間中の 11 月 23 日の勤労感謝の日に地元説明会を実施し、窯跡と石敷の作業場の見学と出土品（碗、皿、狛犬）の一部を展示した。参加者は約 150 名であった。なお調査終盤の平成 18 年 3 月 13 日に楢崎彰一先生より現地指導を受け、3 月 24 日には窯体の熱残留磁気測定を実施した。

調査担当者（現職名）

平成 17 年度　主査　　小澤一弘

調査研究員　鵜飼雅弘（愛知県埋蔵文化財調査センター主査）

発掘調査支援

株式会社シン技術コンサル（敬称略）

半浦聖智　松田秀貴　中山日出夫　城前喜英　千田利明　田中崇宏　福田健二
小枝勝範　井上正昭　浦川百々子　大江裕美　加藤孝子　亀谷　浩　川井七子
斎場きみ子　正村千代子　鈴木　肇　田中秀夫　高木茂夫　土屋末松　長江典子
長江　巽　中尾容子　中根千恵子　野牧　励　野村　忍　日比野征二
深田美智子　藤井健司　堀美智子　宮石千津子　宮本勢津子　三宅織部
山田のぶよ　渡邊　実

3. 整理の経過

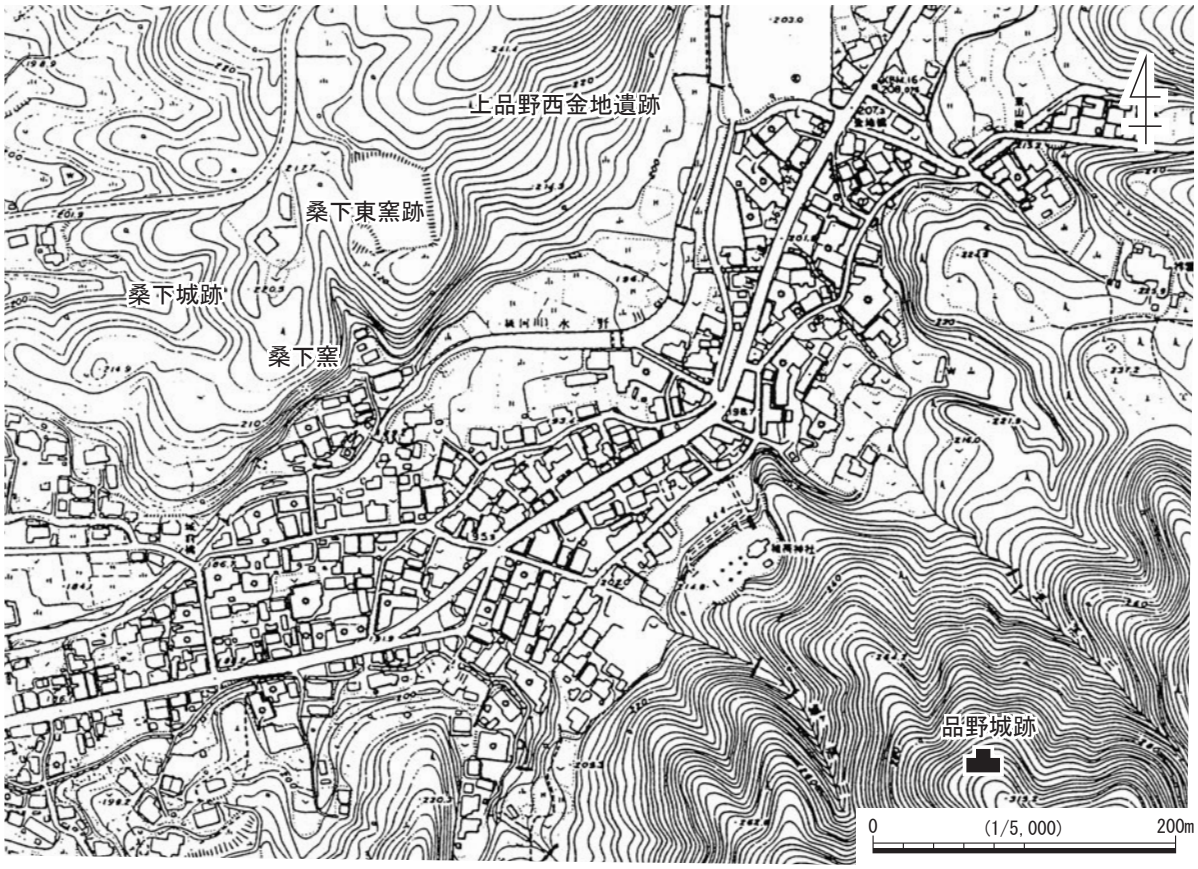
平成 20 年（2008）度より平成 21 年（2009）度までの 1 年 6 ヶ月にわたり二次整理と報告書作成作業を実施した。遺物は P27 のコンテナに 534 箱、整理作業は出土陶器片を 1 点毎に器種分類し、口縁、底部、胴部に分け、カウントし、出土遺物を復元、実測、遺構図面の整理、図版の作成等を行った。

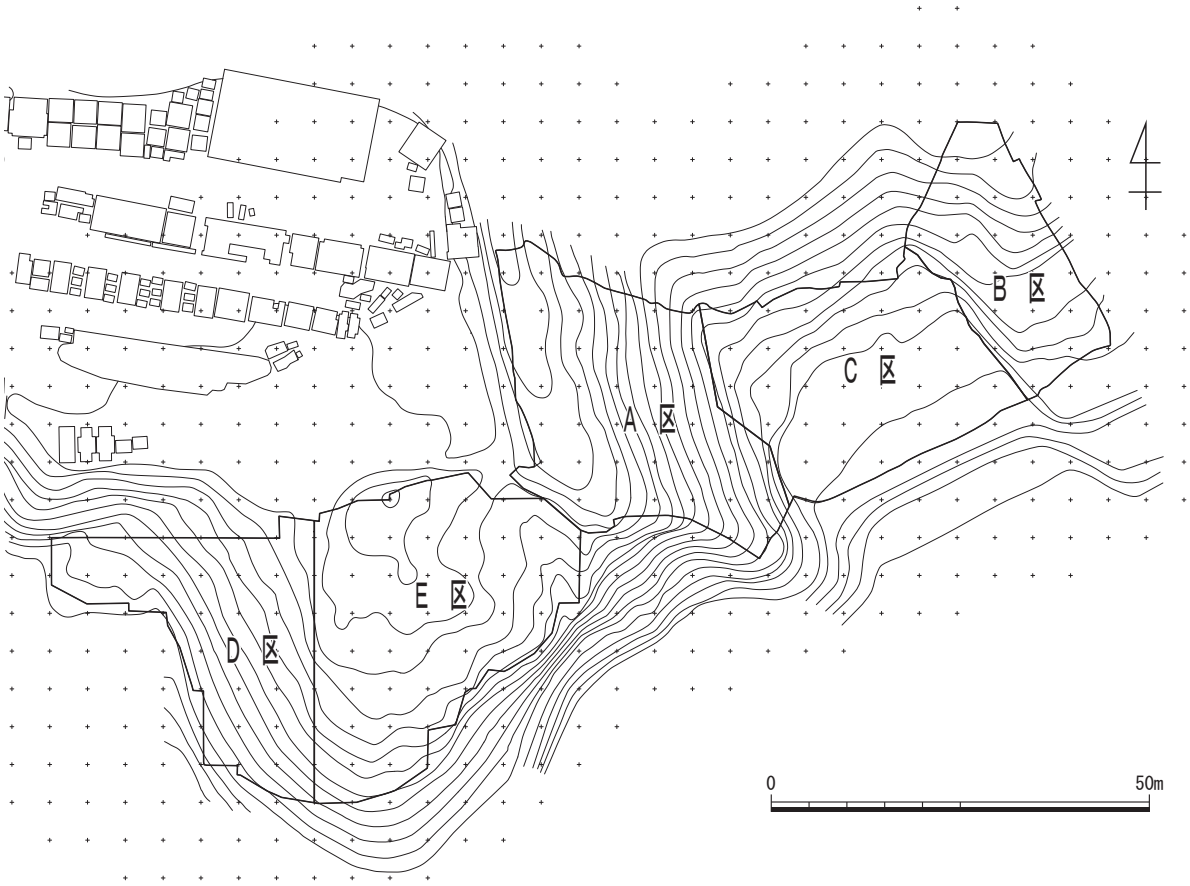
平成 20 年度　整理担当者　主任専門員　小澤一弘

整理作業員（敬称略）　伊藤ますみ　齋藤佳美　山田有美子

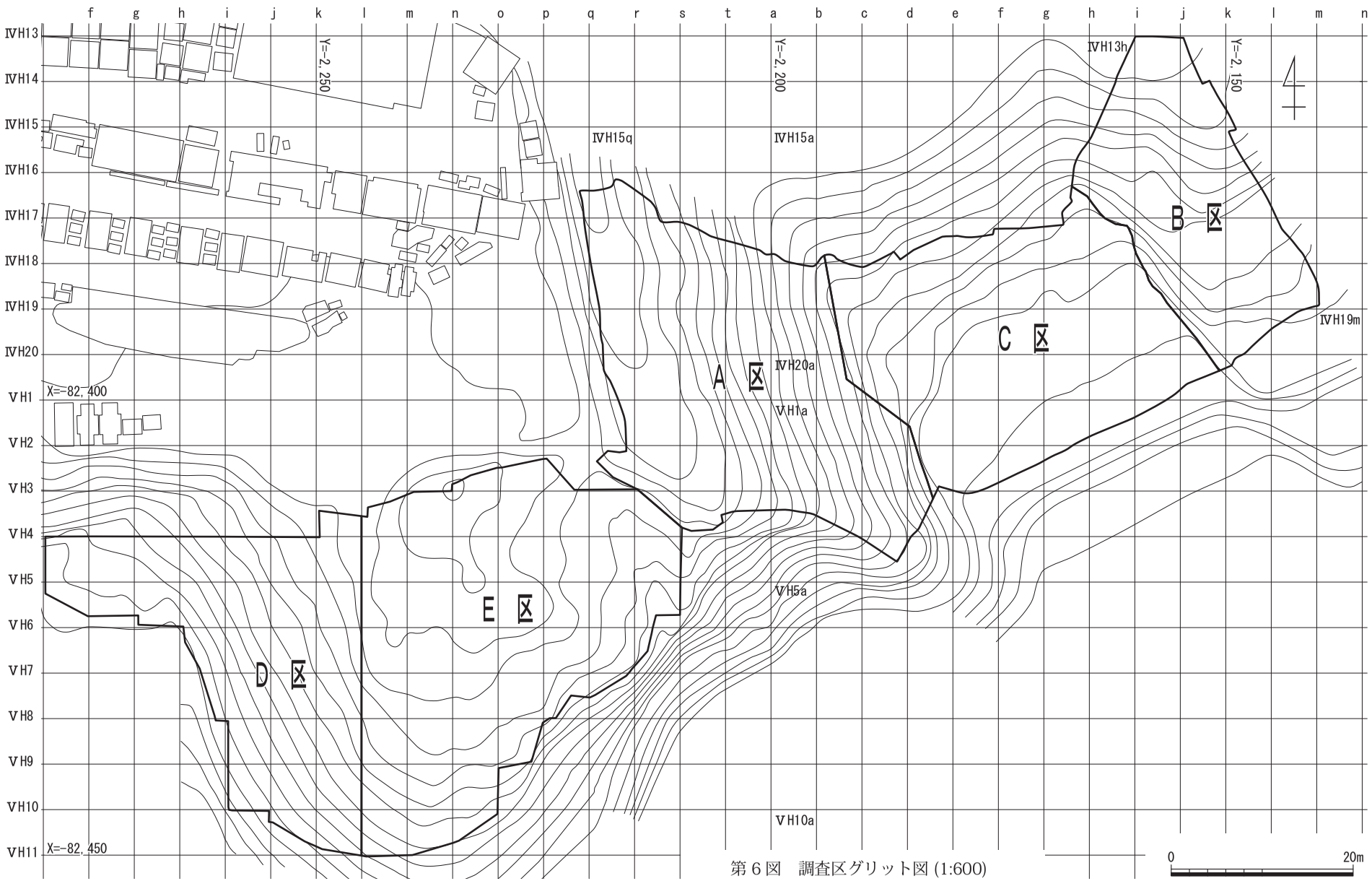
平成 21 年度　整理担当者　主任専門員　小澤一弘

整理作業員（敬称略）　伊藤あけみ　伊藤ますみ　木下由貴子　小島裕子
小嶋由美子　齋藤佳美　鈴木好美　瀧　智美
前田弘子　三浦里美　山田有美子

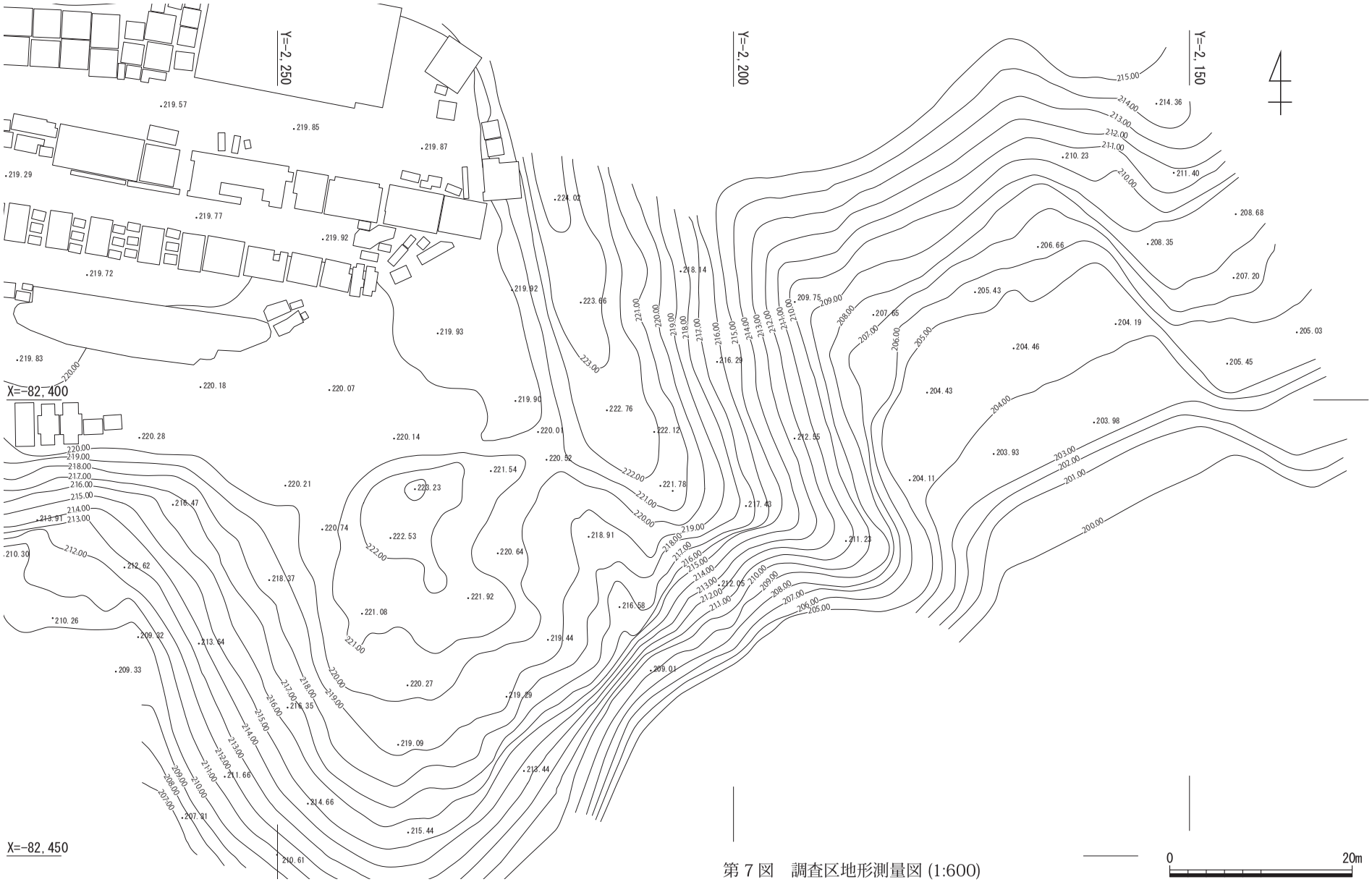




第 5 図　桑下東窯跡周辺地形図と調査区地形図 (1:1,000)

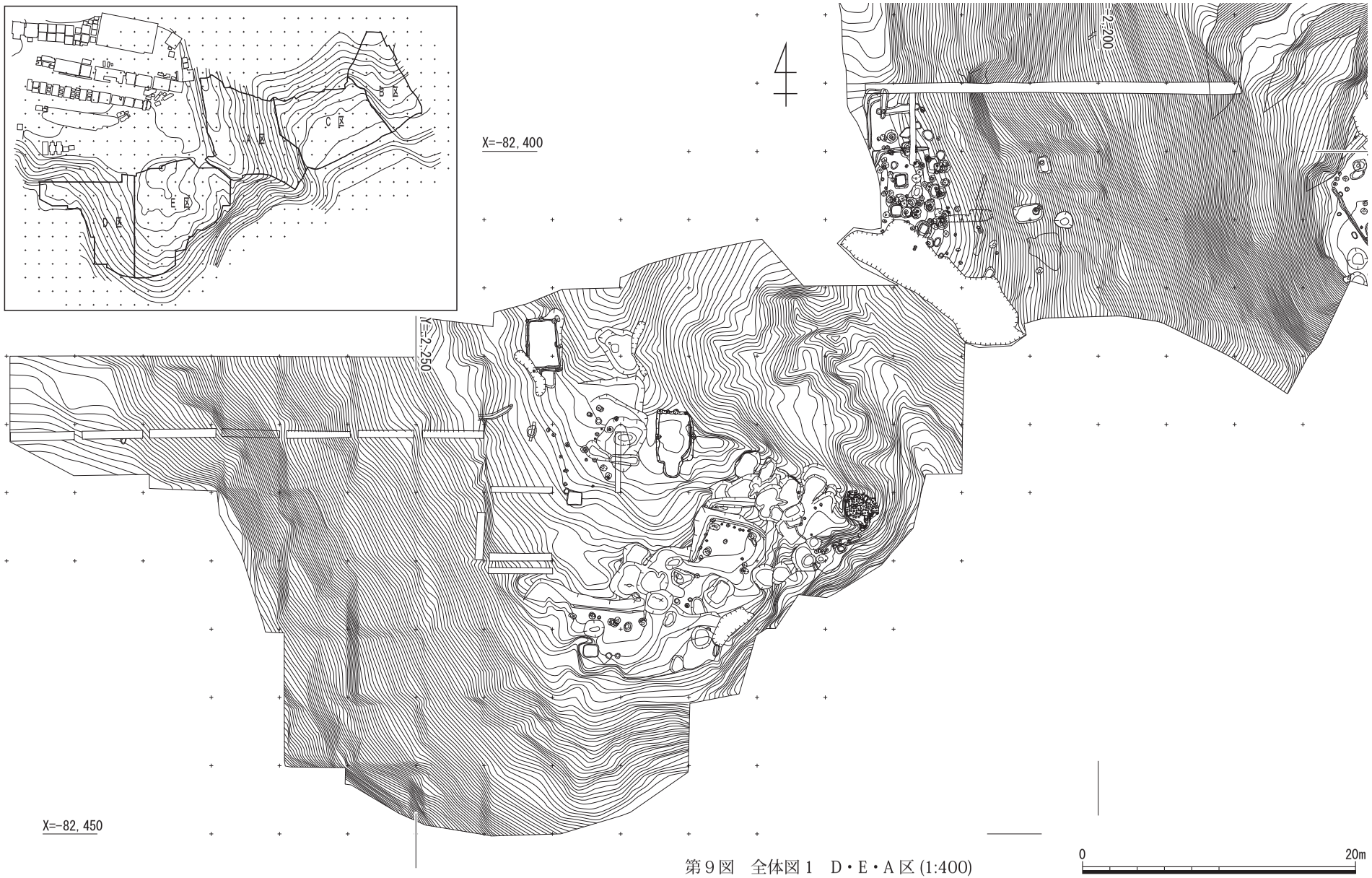


第６図　調査区グリット図 (1:600)



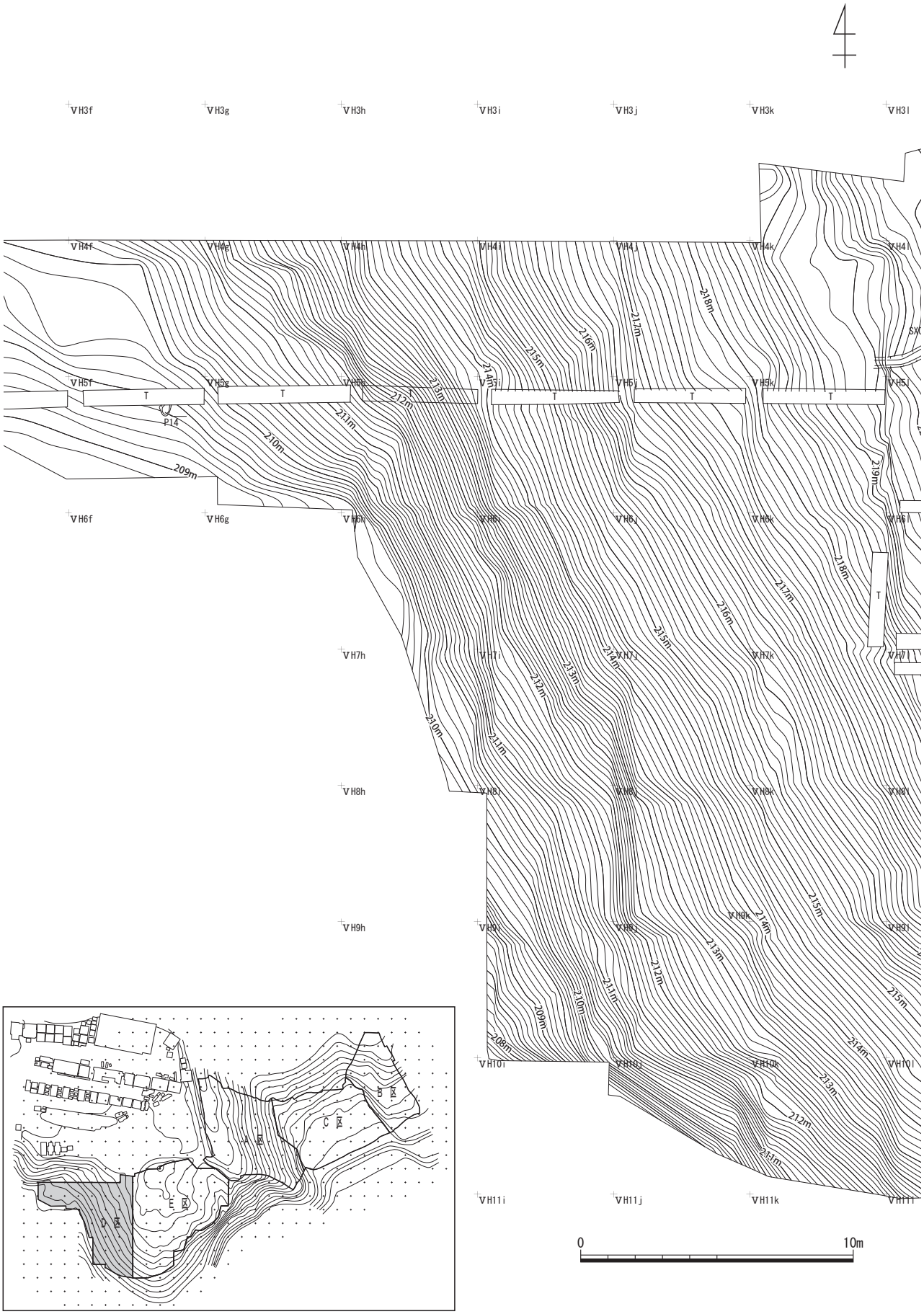
第７図　調査区地形測量図 (1:600)

第８図　調査後地形測量図 (1:600)

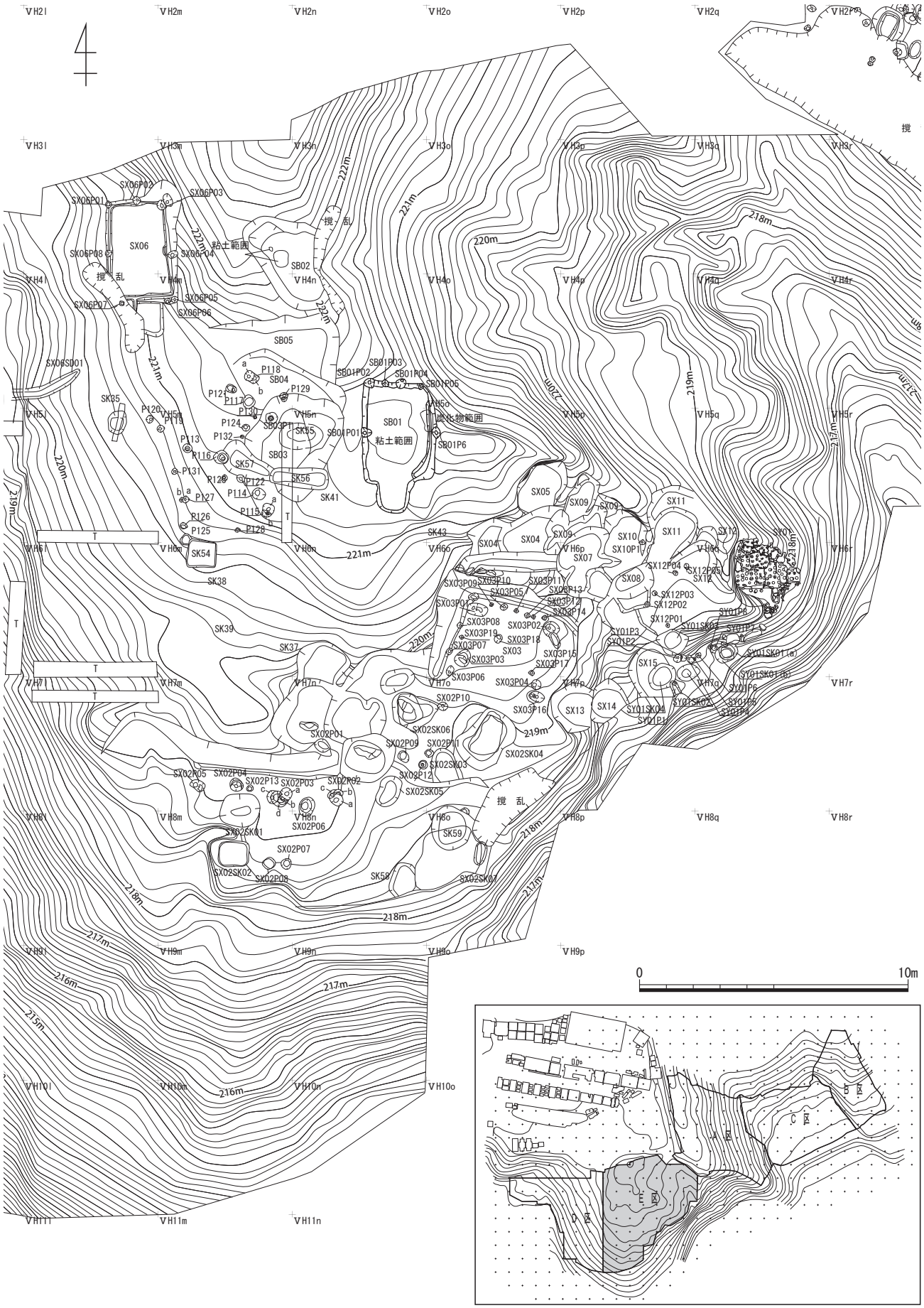


第９図　全体図１　D・E・A 区 (1:400)

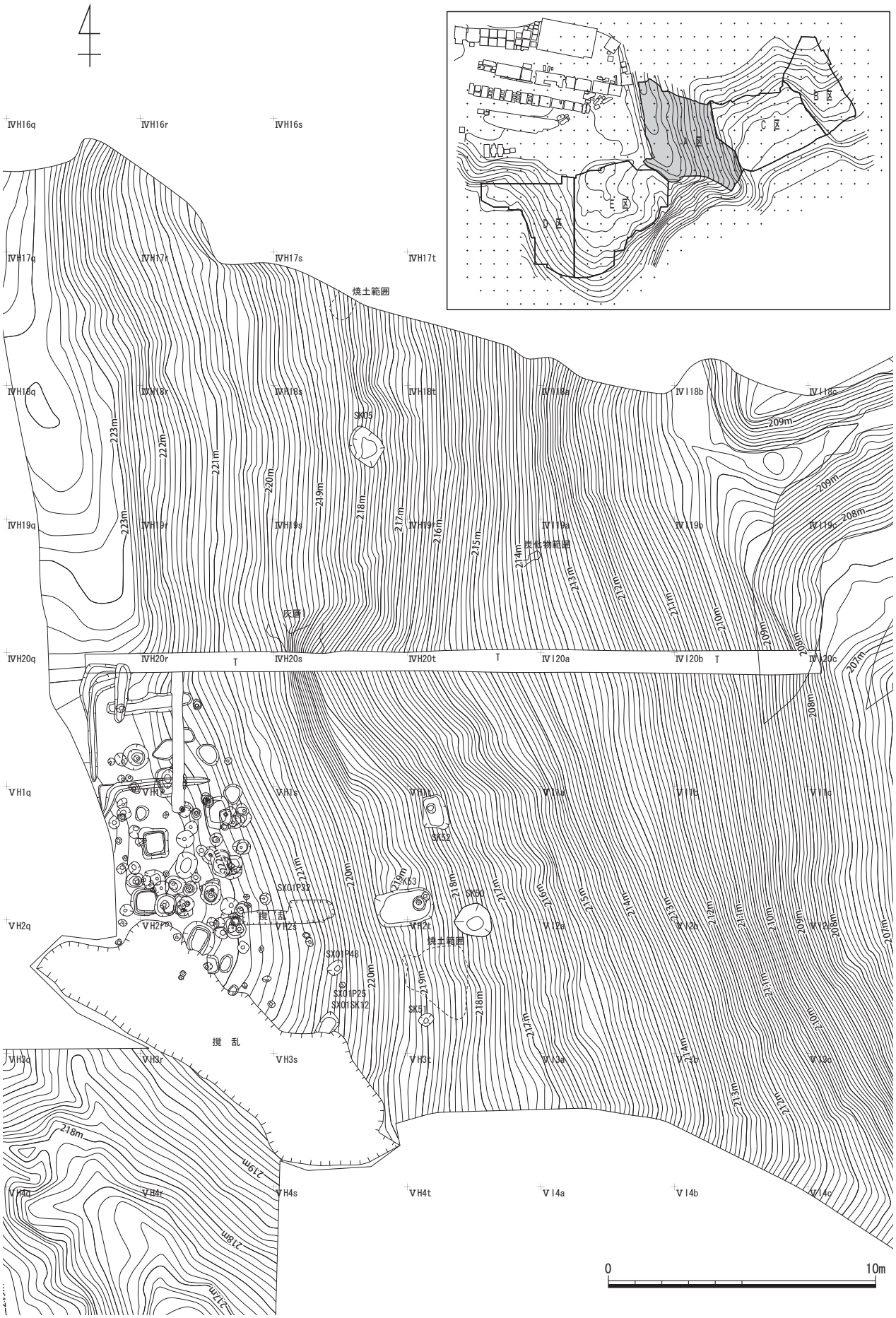
第 10 図　全体図 2　A・B・C 区 (1:400)



第 11 図　D 区全体図 (1:200)

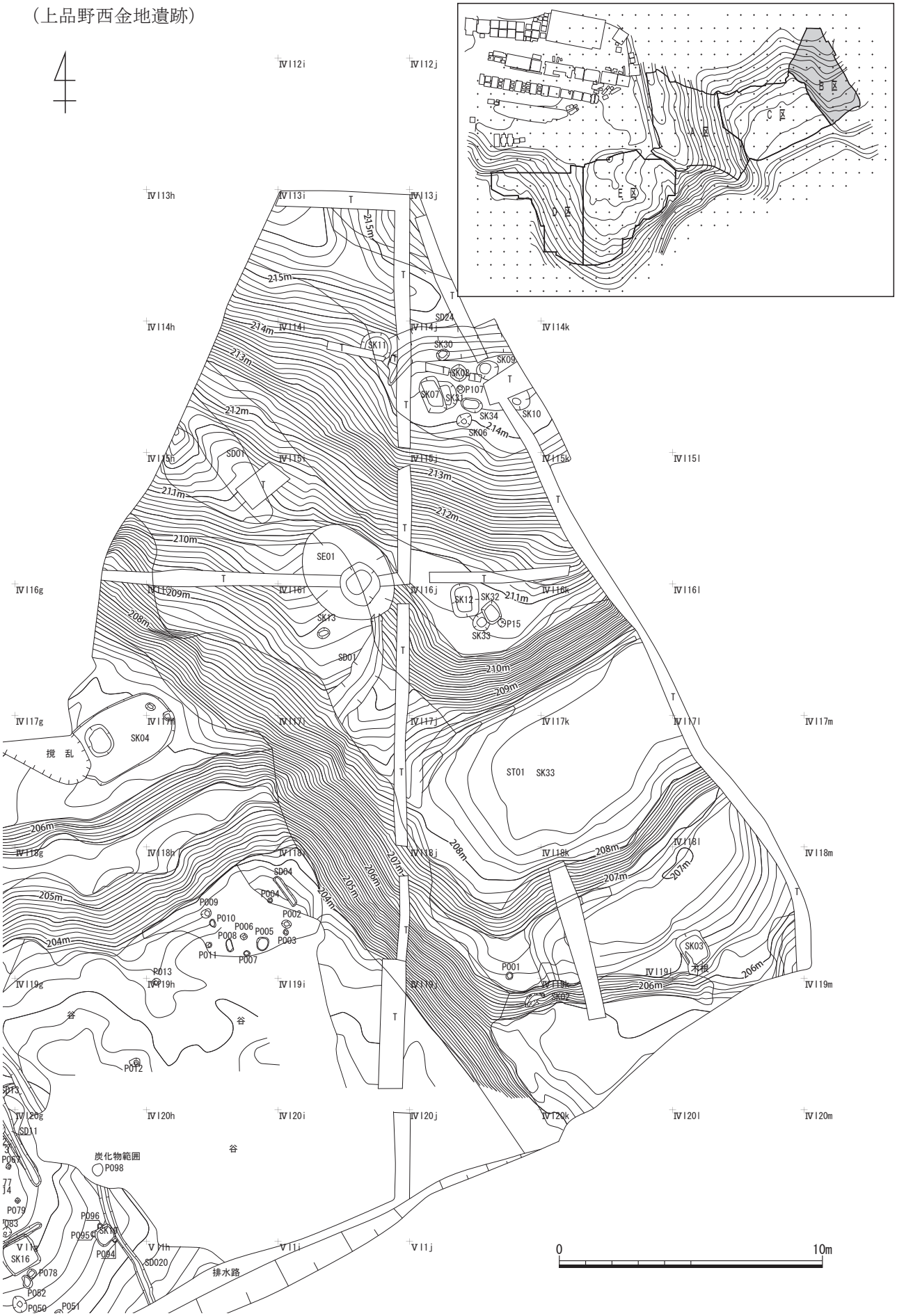


第 12 図　E 区全体図 (1:200)



第 13 図　A 区全体図 (1:200)

4
SE01
SK13
SD01
SK04
SD04
SD05
SD08
SK48
SK44
SK45
SK49
SK26
SK27
SK21
SK46
SK20
SK47
SK29
SK23
SK22
SK39
SK17
SK16
SK15
SK14
SK18
SD12
SD13
SD14
SD25
SD11
SD10
SD15
SD19
SD20
SD16
SD07
SD09
SD06
炭化物範囲
P098
P096
P095
P094
P097
P012
P013
P009
P010
P006
P005
P008
P011
P007
P004
P002
P003
P100
P101
P102
P106
P112
P111
P110
P109
P108
P107
P105
P104
P103
P090
P091
P093
P092
P089
P088
P087
P086
P085
P084
P083
P082
P081
P080
P079
P078
P077
P076
P075
P074
P073
P072
P071
P070
P069
P068
P067
P066
P065
P064
P063
P062
P061
P060
P059
P058
P057
P056
P055
P054
P053
P052
P051
P050
P049
P048
P047
P046
P045
P044
P043
P042
P041
P040
P039
P038
P037
P036
P035
P034
P033
P032
P031
P030
P029
P028
P027
P026
P025
P024
P023
P022
P021
P020
P019
P018
P017
P016
P015
P014
P013
P012
P011
P010
P009
P008
P007
P006
P005
P004
P003
P002
P001
SD020
SD021
SD022
SD023
SD024
SD025
SD026
SD027
SD028
SD029
SD030
SD031
SD032
SD033
SD034
SD035
SD036
SD037
SD038
SD039
SD040
SD041
SD042
SD043
SD044
SD045
SD046
SD047
SD048
SD049
SD050
SD051
SD052
SD053
SD054
SD055
SD056
SD057
SD058
SD059



第 15 図　B 区全体図 (1:200)

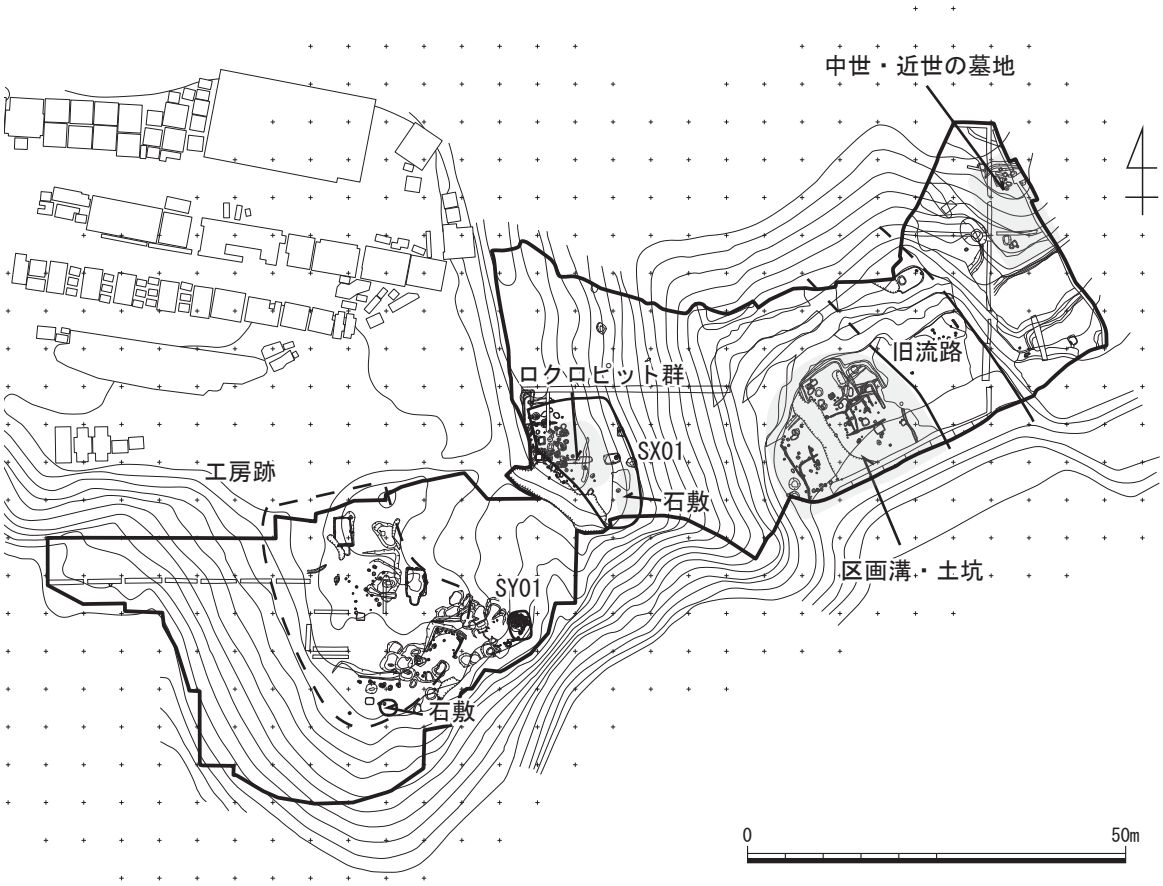
第２章　遺構

第１節　遺跡の概要

桑下東窯跡は水野川北側の丘陵部に立地し、調査区は丘陵に沿った形で西からＤ区、Ｅ区、Ａ区、Ｃ区、Ｂ区となり、Ｄ区、Ｅ区、Ａ区が丘陵部分、Ｃ区が東側の谷部分、Ｂ区が東谷の東斜面で上品野西金地遺跡の西端と接した調査区であった。またＤ区の隣は戦国時代の城跡、桑下城である。

調査前の状況は、Ａ区、Ｄ区は窯道具と碗、皿等の破片が見られ、Ｅ区は平坦部に窯道具のピン、ヨリ、匣鉢、挟み皿の破片が一面に散乱し、ピン、ヨリが目立った。Ｅ区とＡ区の間に谷状を呈した地滑り痕が見られ、旧地形が失われ、窯体も半分が失われ露出していた。Ａ区の西側と南側一部、Ｅ区の北側が造成工事か土採りによりすでに滅失していた。Ｃ区は谷底で湧き水に水田の耕作放棄で雑草が覆い茂っていた。

なおＢ区については、丘陵と遺構を考慮し隣接する上品野西金地遺跡の範囲とし、今後刊行予定の上品野西金地遺跡報告書に掲載予定である。



第 16 図　主要遺構配置図 (1:1,000)

水野川北側丘陵部の南北に広がった丘陵（南北約 80m 東西約 60m）に築かれた大規模な施設（窯、工房、乾燥施設、倉庫、選別施設）が見られた。A 区では非常に狭い範囲から、切り合い関係が認められるロクロピットを含めて 40 基、遺跡全体では 55 基のロクロピットが見られた。E 区の標高 223m23㎝が遺跡で最も高い標高地点で SB02 の北側である。

丘陵の南北 43m 東西 37m の範囲内で、山側の斜面を削り平坦面を拡張し、窯に伴う各施設を整備している。遺構が見られる部分と遺構立地可能な滅失部分を含め丘陵部全体の面積を復元すると約 1,425㎡でこの面積の約 60% の 875㎡が滅失していた。遺構立地可能面積の 40% が検出した遺構である。

南東端に窯体 1 基 SY01 が、その西側に選別施設 SX02・SX03、工房（ロクロピット）、乾燥施設 SB01、倉庫 SX06 がある。地滑りにより滅失した窪地北側、丘陵の南東端に石敷を施した大規模造成地と大規模造成地の西側約 50㎡の平坦面に 40 基の密集した轆轤ピットが、土坑群の様相で見られた。大規模な轆轤工房である。

丘陵頂部付近の平坦部を利用し、作業場を造成し、竪穴建物、粘土溜、轆轤工房、掘立柱建物を設け、丘陵で轆轤から製品選別までの一連作業が行われた。さながら焼き物工場のような状況が見られ、「窯大将組織」が想起される。丘陵の東谷 C 区に区画溝に区画された建物があり、出土遺物が丘陵の工房址と比べ器種が豊富で生焼け製品が少なく、また焼き上がり良好な製品が多いことから C 区は製品を集荷し出荷する建物があった屋敷の可能性があるのではないだろうか。

そして土壙墓が A 区の轆轤ピット群の下層、SK34 と E 区の西縁辺部、SK35 と C 区の SK44、B 区（上品野西金地遺跡）の西側斜面の上段 SK30 では大窯 1 期の伏せた擂鉢が、下段 SK12 では江戸期の墓が見られることから、時代を問わず丘陵縁辺の見晴らしのよい場所に墓が設けられていたようである。

上品野西金地遺跡は縄文時代から江戸時代の複合遺跡で戦国期の遺構からは大窯期前半の遺物が多く出土し、窯道具も見られ、丘陵東斜面から南東斜面に大窯前半の遺物包含層が確認されていることから、調査区の北側に桑下東窯に従事した集団の居住域があった可能性も想起される。

出土遺物は 36 器種で総破片数は 24,725 点である。口縁部個体数 1,294 個体、底部個体数 1,553 個を数えた。千点以上出土した器種は、擂鉢 8,115 点、端反皿 7,598 点、天目茶碗 1,903 点、釜 1,269 点縁釉皿 1,141 点である。特徴的な遺物として削り出し輪高台の天目茶碗、鎬蓮弁文丸碗、付高台の端反皿、稜花皿、削ぎのある丸皿、稜皿、銅緑釉皿等、また特殊な器種として魚形掛花生と狛犬の阿形が見られた。

出土遺物は藤澤編年の後期Ⅳ新段階から大窯 3 段階（15 世紀末から 16 世紀後葉）まで見られたが、図示した製品 854 点の時期構成より、第 1 段階が操業の最盛期であったようである。藤澤編年の後期Ⅳ期新段階が 1460 年から 1470 年代に、大窯 1 段階が文明 8 年（1476）から永正 2 年（1505）、大窯 2 段階が 1530 年前後、大窯 3 段階が 1560 年代に成立し、1570 年代後半には第 3 段階後半にはいっていた可能性があると考えられている。

第 2 節　A 区の遺構

1. 遺構の概要　［図版 3、図版 17］

A 区は丘陵の東側、C 区の谷に面した斜面を含む調査区である。A 区の北西側と南東側が造成工事あるいは土取りによりすでに滅失していた。切り立ったような急斜面を含む南北方向に長い幅狭い平坦面で丘陵東端の調査区である。遺構は丘陵東端に集中している。C 区の谷底から見上げると切り立った急斜面であったため大きな壁に遮られたかのような景観であった。A 区は南東部の石敷を施した大規模造成地と轆轤ピット群から構成された工房址である。

標高 223m50㎝の頂部より下った標高 222m の平坦面の表土剥ぎ直後の状況（第 24 図）は北側では精製された粘土が全体に、南東側には石敷が二ヶ所見られ、このような状況から石敷を含め平坦面全体を SX01 とした。SX01 は南北 13m、東西 10m の範囲で石敷部分は南東側に南北 8m、東西 3m70㎝の範囲に見られ、平坦面は西側と南側にも広がっていた。石敷の北側に挟み皿が重なり集中し出土しており匣鉢も含め窯道具が多く出土した。最終段階では窯出し後の選別場所であった。また二ヶ所に見られた石敷の空白部分は範囲確認調査のトレンチ箇所で石列を検出していたことから、空白部分はなく花崗岩の河床円礫が谷に面した南東側に敷き詰められていたのである。

第 17 図　A・C 区全体図 (1:200)

石敷部分は地山から 2m の盛り土（SU02、SU03）によって縁辺部を造成していた。大規模な地業であるのに、平坦ではなく石敷全体が谷側に下がった傾斜をしていたため、何の為に傾斜させたのか不可解であったが、土盛り造成後、縁辺部の流失崩壊を防ぐ為に石を敷く、谷側への傾斜は、石敷当時から現代に到るまでの間に石の重さで全体が谷側に沈んだと理解した。盛土の下より、斜面に掘り込まれた土坑 SK50、SK51、SK52、SK53 が、SK51 の北側には、下部が幅広くなった東西 2m30㎝南北 2m80㎝の三角形状の範囲に焼土が見られた。造成以前の遺構が標高 217m50㎝から 222m の間に見られる。

また盛土の中からは窯道具類を含み多くの遺物が出土した。

石敷の西側から地山を掘り込み密集した状況でロクロピット 40 基と粘土溜土坑 3 ヶ所が、その他の遺構として溝、柵、下層から墓壙が見られた。A 区は石敷の見られた大規模な造成と轆轤ピット群の工房域であるが、北西側と南東側が滅失しており、不明な点が多い。なお石敷を含む東側の傾斜部には轆轤ピットは見られない。

そして、谷に面した縁辺部中央で墓壙 SK34 が見られ、墓壙内より皇宋通宝と開元通宝を含む六枚の古銭と鉄滓 1 点が出土した。

2. 土層　A・C 区 SPB20 ライン（西東）ベルト土層

A 区遺構群の北側の丘陵頂部平坦面から東側谷にかけての平坦面、急斜面、谷底の C 区を通した全長 65m のライン土層であったが、C 区 25m 部分が図化の最中に崩落したため図化できなかった。丘陵頂部平坦面は頂部では 1m、縁辺部付近では 2m の造成で赤色系土、褐色シルト、橙色シルト、炭化物などが混在し、版築様に互層となっていたが、丘陵頂部の造成地の土層は積み重ねただけでたたき締めた痕跡は見られなかった。東側の急斜面は上部から土が流れて堆積しており基本的に 2 層であった。C 区は崩壊し図示出来なかったが、水田の青灰色土と地山が混じった土で、地山に掘り込まれた遺構下部が残っていた。

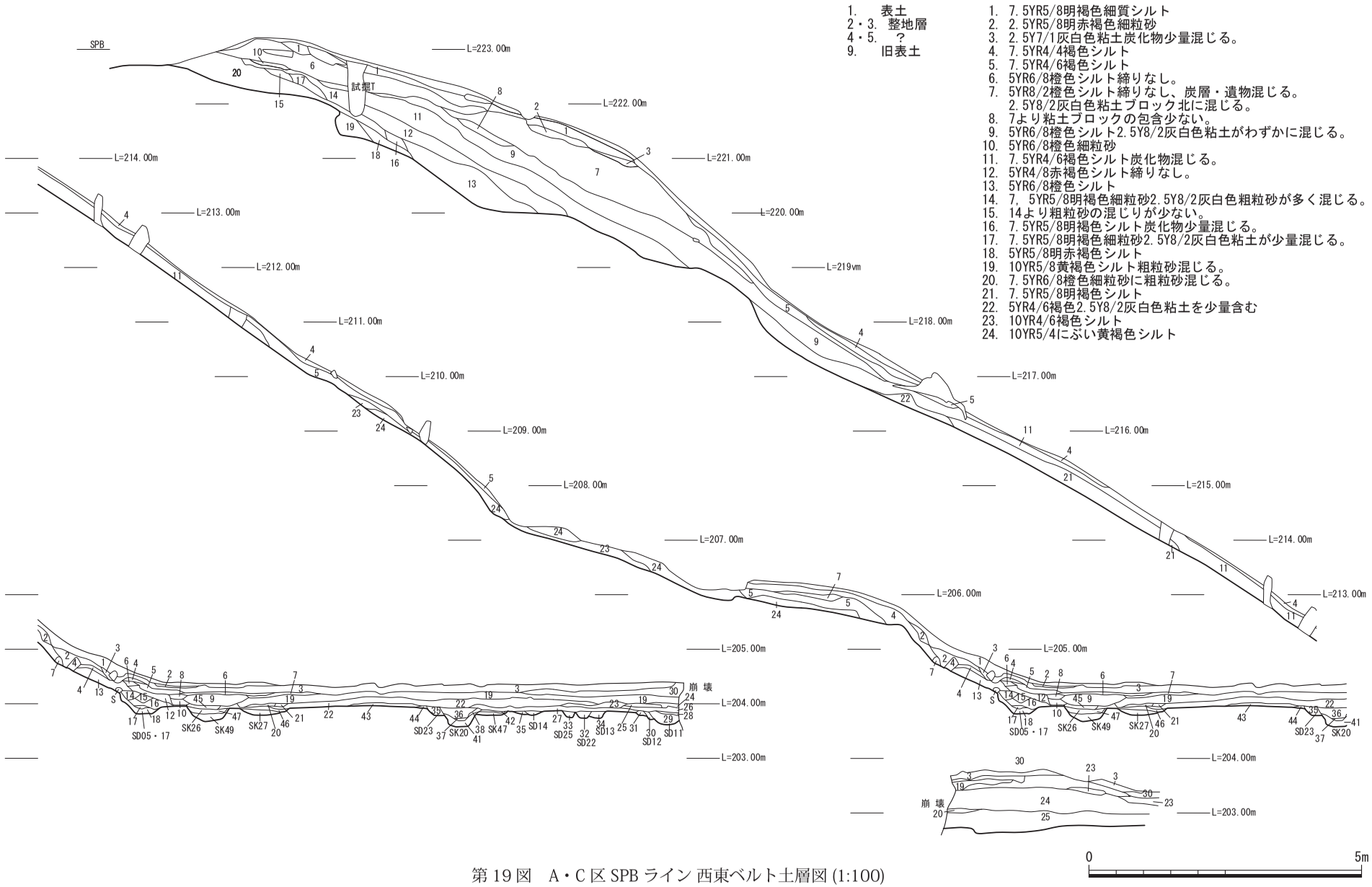
3.SX01 の土層　南北（SU02、SU03）ベルト土層と東西（SPB、SPZ）ベルト土層　［図版 15］

石敷の見られた造成部分の南側が SU02 北側が SU03 とした南北ベルトの土層と石敷部分と石敷北端部分の土層である。丘陵東端の縁辺のライン土層で木の根に阻まれ、直線のライン設定と図化できない箇所が生じた。大規模造成の痕跡を幾層にも堆積した土層から見る事ができ分層が 79 層にもなった。縁辺を粘土混じりの褐色シルトで造成し、部分的に灰層状の堆積も見られ、炭化物、製品の破片、窯道具の破片等が混入していた。縁辺から埋め、積み上げていった様子が見られ、版築様に互層に積み上げられた土は叩き締めた痕跡もなく、土を盛った状況であった。

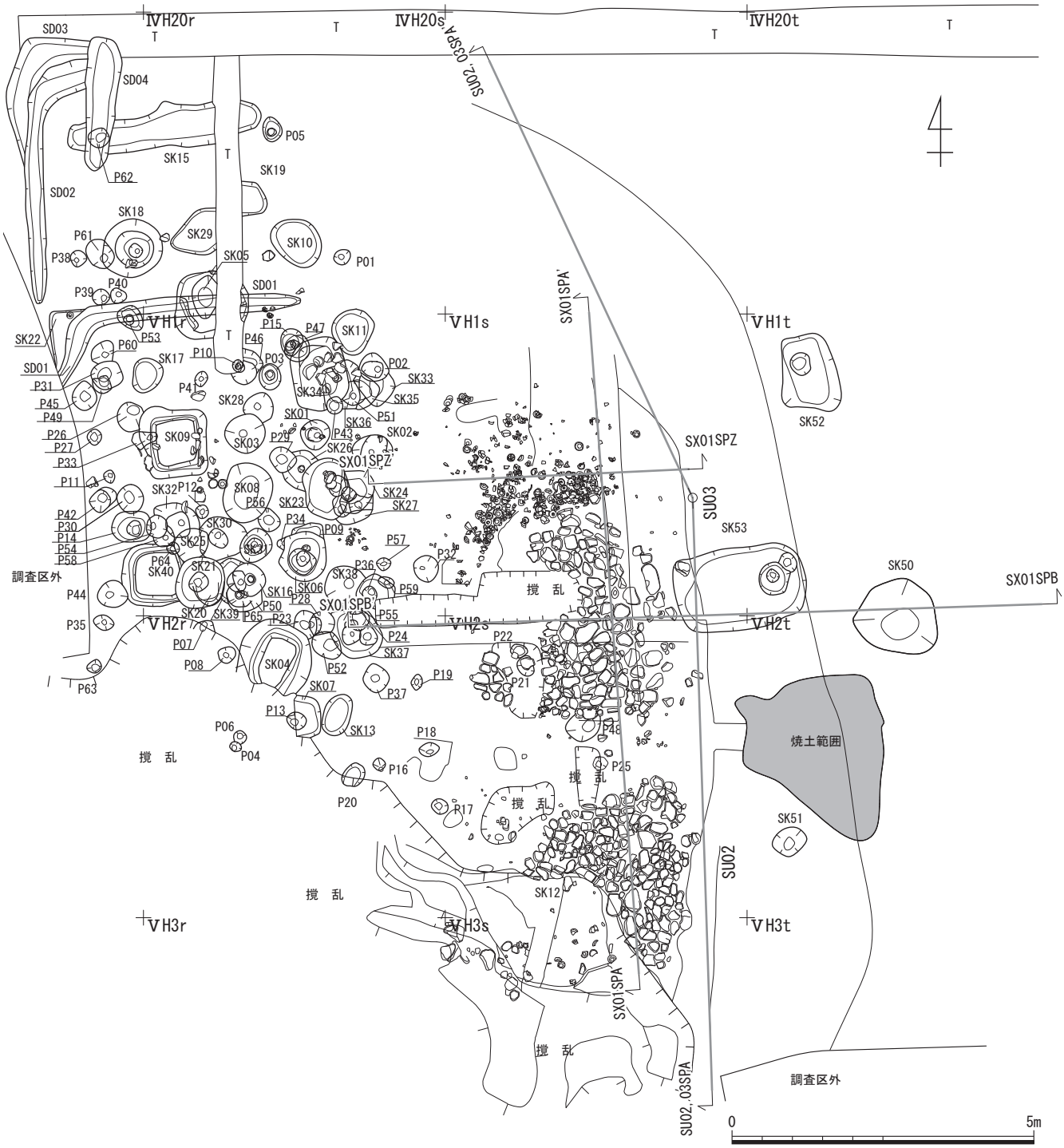
4.SX01 の石敷　［巻頭図版 4、図版 13、図版 14］

丘陵東端の平坦部が SX01 で SX01 は南北 13m、東西 10m の範囲で、旧地形に造成を加え、平坦面が拡張され、広くなった平坦部分である。石敷部分は南東側に南北 8m、東西 3m70㎝の範囲に見られ、石敷は南側にも広がっていたと考えられる。石敷の上と石と石の間に精製された粘土が被ったり、詰まったりしていた。

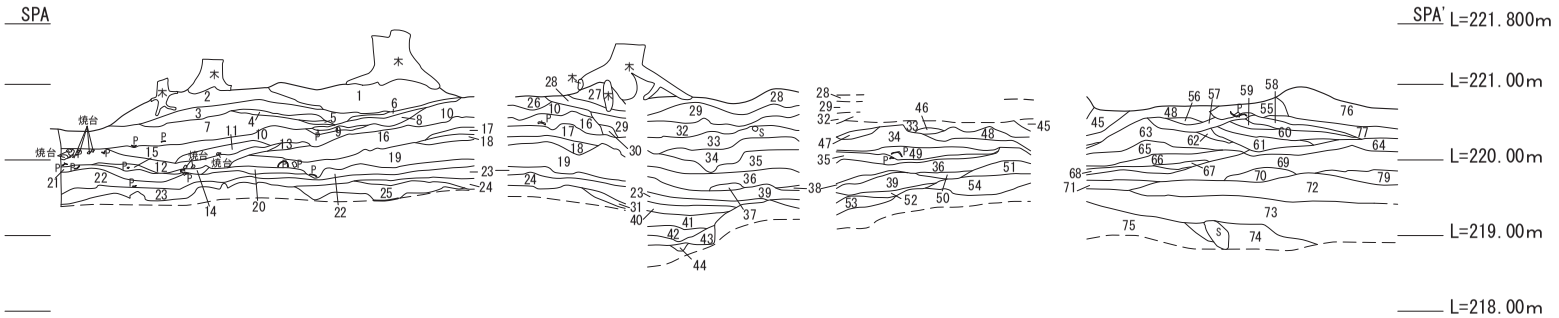
第18図　A・C区SPBライン西東ベルト位置図（1:400）



第19図　A・C区SPBライン 西東ベルト土層図(1:100)



第 20 図　A 区 土層ベルト位置図 (1:100)

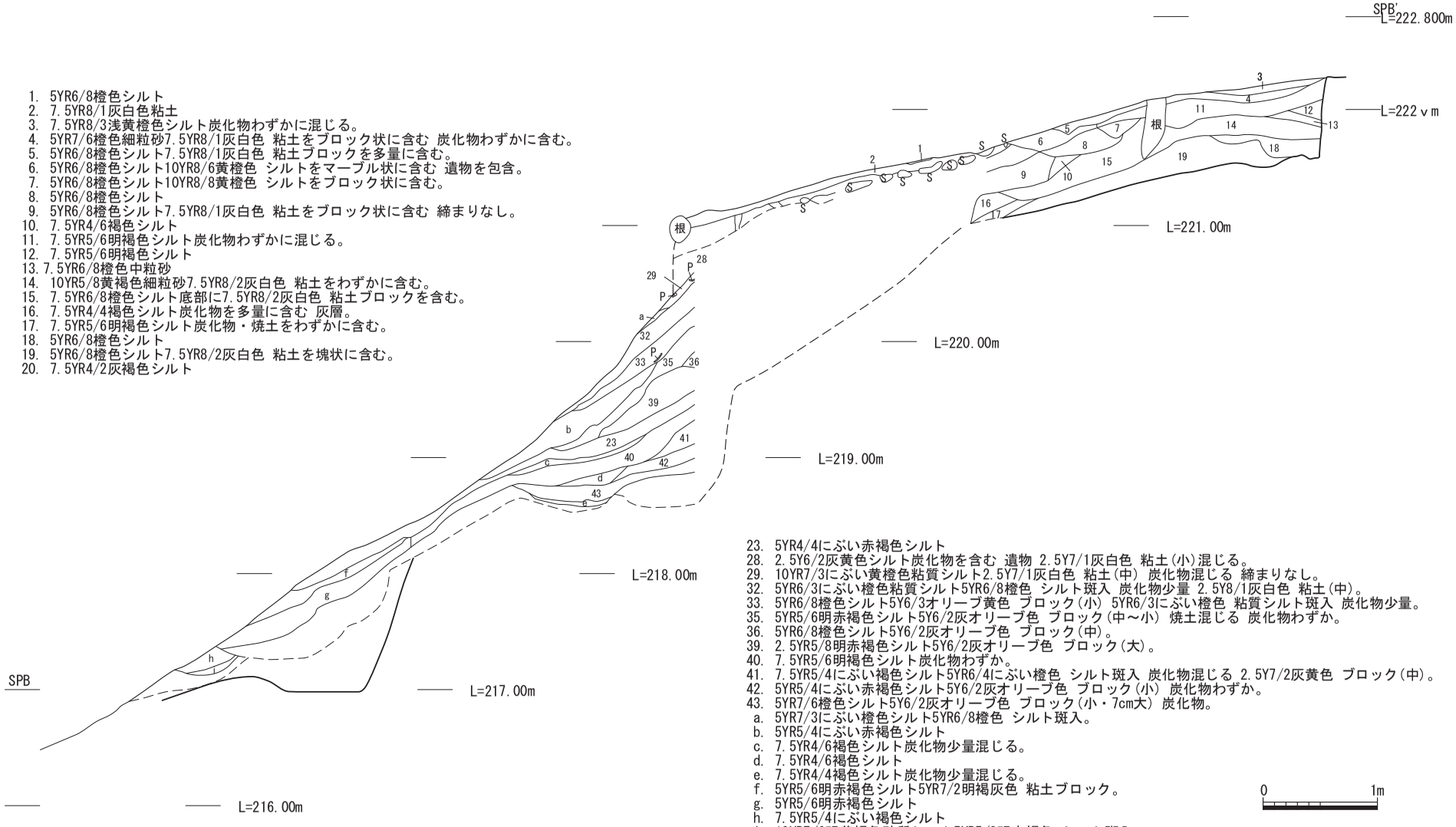


1. 2.5YR5/8明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック混じる(大は10cm大・小は3cm大)。
2. 2.5YR5/6明赤褐色シルト
3. 5YR8/4淡橙色中粒砂5Y6/2灰オリーブ色 ブロック混じる 2.5YR5/8明赤褐色 ブロック4cm大。
4. 2.5YR5/8明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック混じる 2.5Y7/2灰黄色 ブロック混。
5. 5YR8/4淡橙色中粒砂遺物包含。
6. 7.5YR4/4褐色シルト2.5YR5/8明赤褐色 シルト斑入 炭化物多量に混じる。
7. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト2.5Y7/2灰黄色 斑入 2.5Y7/2灰黄色 ブロック7cm大 無遺物か。
8. 2.5YR6/8橙色シルト2.5Y7/1灰白色 ブロック 風化花崗岩粒わずか 炭化物少量。
9. 2.5Y8/1灰白色粘土2.5YR5/8明赤褐色 シルトとの斑土 炭化物少量。
10. 5YR6/6橙色シルト2.5Y7/2灰黄色 ブロック 焼土わずか 炭化物わずか 締まりなし。
11. 5YR5/6明赤褐色シルト焼土混じる。
12. 5YR6/6橙色砂質シルト2.5Y8/2灰白色 ブロック(中～小) 焼土少量 締まりなし。
13. 2.5YR6/8橙色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(大～中) 焼土混じる。
14. 2.5YR5/6明赤褐色シルト炭化物わずか 2.5Y8/1灰白色 ブロック(小)。
15. 5YR5/6明赤褐色シルト焼土混じる。
16. 2.5YR6/6橙色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(小) 焼土混じる。
17. 5YR5/8明赤褐色シルト焼土粒大(1cm大)。
18. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト風化花崗岩細粒を含む。
19. 2.5YR5/6明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(小)12cm大 炭化物わずか。
20. 5YR7/4淡赤橙色シルト2.5Y8/1灰白色 粘土ブロック(小) 炭化物わずか 焼土少量 締まりなし。
21. 5YR5/6明赤褐色シルト
22. 5YR4/8赤褐色シルト
23. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト
24. 5YR6/8橙色シルト5YR6/2灰褐色 細粒。
25. 5YR5/6明赤褐色シルト風化花崗岩細粒を含む。
26.
27. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト炭化物少量。
28. 2.5Y6/2灰黄色シルト炭化物を含む 遺物 2.5Y7/1灰白色 粘土(小)混じる。
29. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト2.5Y7/1灰白色 粘土(中) 炭化物混じる 締まりなし。
30. 2.5YR7/8橙色シルト5YR6/8橙色 シルト斑入 2.5Y7/1灰白色 粘土(中)。
31. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト5YR6/8橙色 風化花崗岩粒を含む(3cm大)。
32. 5YR6/3にぶい橙色粘質シルト5YR6/8橙色 シルト斑入 炭化物少量 2.5Y8/1灰白色 粘土(中)。
33. 5YR6/8橙色シルト5Y6/3オリーブ黄色 ブロック(小) 5YR6/3にぶい橙色 粘質シルト斑入 炭化物少量。
34. 5YR6/3にぶい橙色粘質シルト5YR6/8橙色 シルト斑入 炭化物ブロック(中)。
35. 5YR5/6明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(中～小) 焼土混じる 炭化物わずか。
36. 5YR6/8橙色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(中)。
37. 5YR5/6明赤褐色砂質シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(中～小) 2.5YR5/8明赤褐色シルトが斑入。
38. 5YR4/6赤褐色シルト
39. 2.5YR5/8明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(大)。
40. 7.5YR5/6明褐色シルト炭化物わずか。
41. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト5YR6/4にぶい橙色 シルト斑入 炭化物混じる 2.5Y7/2灰黄色 ブロック(中)。
42. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(小) 炭化物わずか。
43. 5YR7/6橙色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(小・7cm大) 炭化物。
44. 7.5YR4/6褐色シルト
55. 5YR6/8橙色シルト炭化物を含む。
56. 5YR6/8橙色シルト炭化物を少量含む。
57. 5YR6/8橙色シルト炭化物を大量に含む 底部に2.5Y8/1灰白色 粘土ブロック(小)を含む。
58. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト炭化物を含む 焼土わずかに混じる。
59. 5YR6/8橙色シルト炭化物わずかに含む 2.5Y8/1灰白色 粘土ブロック(小)を含む。
60. 5YR6/8橙色シルト2.5Y8/1灰白色 粘土ブロック(小)を多く含む。
61. 5YR6/8橙色シルト5Y7/2灰白色 ブロック(大・中)を含む。
62. 5YR6/8橙色シルト炭化物を含む。
63. 5YR6/8橙色シルト5Y7/2灰白色 ブロック(大・小)を含む。
64. 5YR6/8橙色粘質シルト
65. 5YR5/8明赤褐色シルト5Y7/2灰白色 ブロック(大・小)を含む。
66. 5YR5/6明赤褐色シルト締まりなし。
67. 7.5YR4/6褐色シルト
68. 7.5YR4/6褐色シルト炭化物を含む。
69. 7.5YR5/8明褐色シルト締まりなし 5Y7/2灰白色 ブロック(中)わずかに混じる。
70. 7.5YR5/8明褐色シルト
71. 7.5YR6/8橙色シルト5Y7/2灰白色 ブロック(中)わずかに混じる。
72. 7.5YR5/8明褐色シルト
73. 5YR5/6明赤褐色粘質シルト5Y7/2灰白色 ブロック(小)わずかに混じる。
74. 5YR5/6明赤褐色粘質シルト5Y7/2灰白色 ブロック(中)少量混じる。
75. 5YR5/8明赤褐色シルト5Y7/2灰白色 ブロック(小)わずかに混じる。
76. 5YR6/8橙色シルト5Y7/2灰白色 ブロック含む。
77. 5YR6/8橙色シルト2.5Y8/1灰白色 粘土細粒が斑入。
78. 5YR6/8橙色シルト炭化物 2.5Y8/1灰白色 粘土が斑入。
79. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト粘土ブロックわずかに混じる。

26・45～54不明

0 5m

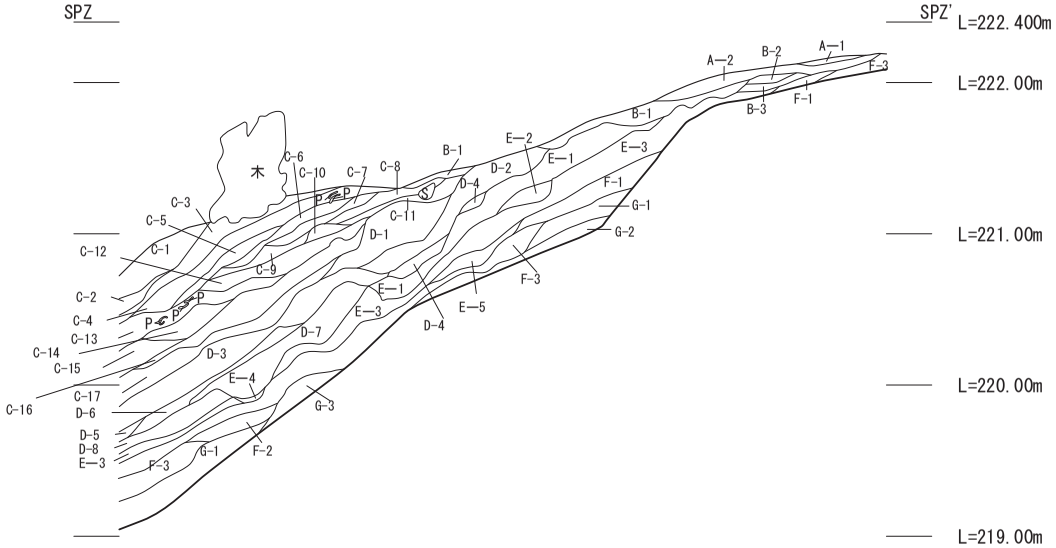
第21図 A区SU02・03 SPA南北ベルト土層図(1:100)



1. 5YR6/8橙色シルト
2. 7.5YR8/1灰白色粘土
3. 7.5YR8/3浅黄橙色シルト炭化物わずかに混じる。
4. 5YR7/6橙色細粒砂7.5YR8/1灰白色 粘土をブロック状に含む 炭化物わずかに含む。
5. 5YR6/8橙色シルト7.5YR8/1灰白色 粘土ブロックを多量に含む。
6. 5YR6/8橙色シルト10YR8/6黄橙色 シルトをマーブル状に含む 遺物を包含。
7. 5YR6/8橙色シルト10YR8/8黄橙色 シルトをブロック状に含む。
8. 5YR6/8橙色シルト
9. 5YR6/8橙色シルト7.5YR8/1灰白色 粘土をブロック状に含む 締まりなし。
10. 7.5YR4/6褐色シルト
11. 7.5YR5/6明褐色シルト炭化物わずかに混じる。
12. 7.5YR5/6明褐色シルト
13. 7.5YR6/8橙色中粒砂
14. 10YR5/8黄褐色細粒砂7.5YR8/2灰白色 粘土をわずかに含む。
15. 7.5YR6/8橙色シルト底部に7.5YR8/2灰白色 粘土ブロックを含む。
16. 7.5YR4/4褐色シルト炭化物を多量に含む 灰層。
17. 7.5YR5/6明褐色シルト炭化物・焼土をわずかに含む。
18. 5YR6/8橙色シルト
19. 5YR6/8橙色シルト7.5YR8/2灰白色 粘土を塊状に含む。
20. 7.5YR4/2灰褐色シルト

23. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト
28. 2.5Y6/2灰黄色シルト炭化物を含む 遺物 2.5Y7/1灰白色 粘土(小)混じる。
29. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト2.5Y7/1灰白色 粘土(中) 炭化物混じる 締まりなし。
32. 5YR6/3にぶい橙色粘質シルト5YR6/8橙色 シルト斑入 炭化物少量 2.5Y8/1灰白色 粘土(中)。
33. 5YR6/8橙色シルト5Y6/3オリーブ黄色 ブロック(小) 5YR6/3にぶい橙色 粘質シルト斑入 炭化物少量。
35. 5YR5/6明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(中～小) 焼土混じる 炭化物わずか。
36. 5YR6/8橙色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(中)。
39. 2.5YR5/8明赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(大)。
40. 7.5YR5/6明褐色シルト炭化物わずか。
41. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト5YR6/4にぶい橙色 シルト斑入 炭化物混じる 2.5Y7/2灰黄色 ブロック(中)。
42. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(小) 炭化物わずか。
43. 5YR7/6橙色シルト5Y6/2灰オリーブ色 ブロック(小・7cm大) 炭化物。
a. 5YR7/3にぶい橙色シルト5YR6/8橙色 シルト斑入。
b. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト
c. 7.5YR4/6褐色シルト炭化物少量混じる。
d. 7.5YR4/6褐色シルト
e. 7.5YR4/4褐色シルト炭化物少量混じる。
f. 5YR5/6明赤褐色シルト5YR7/2明褐灰色 粘土ブロック。
g. 5YR5/6明赤褐色シルト
h. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト
i. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト5YR5/8明赤褐色 シルト斑入。

第22図　A区 SX01 SPB　東西ベルト土層図(1:50)



A
1. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質
2. 10BG7/1明青灰色硬質青灰色粘土を層状に敷いた部分 石敷に関連すると考えられる。

B
1. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト質灰質土を基質に粘土が混在。
2. 2.5YR5/6明赤褐色砂硬質。
3. 7.5YR5/4にぶい褐色硬質粘土を版築様に層状に挟む。

C
1. 7.5Y6/2灰オリーブ色腐蝕土層灰・シルト・粘土の混在土 炭化物小片まばらに含む。
2. 7.5Y6/2灰オリーブ色砂質軟質 C-1層を基質に砂を多く含む。
3. 7.5YR5/6明褐色砂質硬質 炭化物細片少し含む。
4. 7.5YR5/4にぶい褐色灰質シルト質土を基質に粘土を含む。
5. 2.5Y5/4黄褐色硬質黄色系の砂質土を基質にシルト・灰・粘土が混在。
6. 7.5YR5/6明褐色砂質強く斑状の混在土は少ない。
7. 2.5Y5/2暗灰黄色灰質粘土を多く含む 炭化物小片まばらに含む。
8. 7.5YR5/6明褐色軟質灰色砂・シルト・粘土・炭化物まばらに含む。
9. 7.5YR5/6明褐色砂質硬質。
10. 10YR5/2灰黄褐色灰質軟質。
11. 10YR4/4褐色細粒軟質 灰色砂含む。
12. 5YR5/6明赤褐色砂質やや軟質 シルト・粘土まばらに含む。
13. 7.5YR6/3にぶい褐色シルト質灰質 青灰色粘土斑状に含む。
14. 5YR5/6明赤褐色砂質粘土・シルト・砂を含む。
15. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質硬質。
16. 2.5Y3/2黒褐色基質は微粒の炭化物を多く含む 黒褐色土
青灰色粘土と赤橙色砂質土と炭化物との互層状堆積土。
17. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質硬質 粘土少し含む。

D
1. 2.5YR5/8明赤褐色砂質灰色砂塊含む。
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂軟質。
3. 2.5YR5/8明赤褐色砂質砂互層状に含む。
4. 10R4/8赤色塊状土の堆積土。
5. 5Y5/2灰オリーブ色硬質炭化物少量混じる 締まりなし。
6. 5Y5/2灰オリーブ色砂質硬質。
7. 2.5YR4/6赤褐色塊状土の堆積土 砂・シルト多く含む。
8. 2.5YR4/6赤褐色やや硬質砂・シルト多く含む 塊状土。

E
1. 10YR5/4にぶい黄褐色軟質
2. 10YR5/3にぶい黄褐色極めて軟質
3. 5YR5/6明赤褐色均質軟質。
4. 5YR4/4にぶい赤褐色炭質微細な炭化物粒を多く含む。
5. 10YR3/2黒褐色炭質微細な炭化物粒を多く含む 塊状土を斑状に含む。

F
1. 7.5YR4/3褐色炭化物まばらに含む 旧表土と考えられる。
2. 2.5YR4/3にぶい赤褐色青灰色砂含む。
3. 7.5YR4/2灰褐色炭化物少し含む。

G
1. 7.5YR4/3褐色風化花崗岩・砂少し含む。
2. 2.5YR5/8明赤褐色シルト・砂含む 全体に塊状を呈する。
3. 2.5YR5/8明赤褐色シルト・砂多く含む 塊状土。

0 1m

第 23 図　A 区 SX01 SPZ 東西ベルト土層図 (1:50)

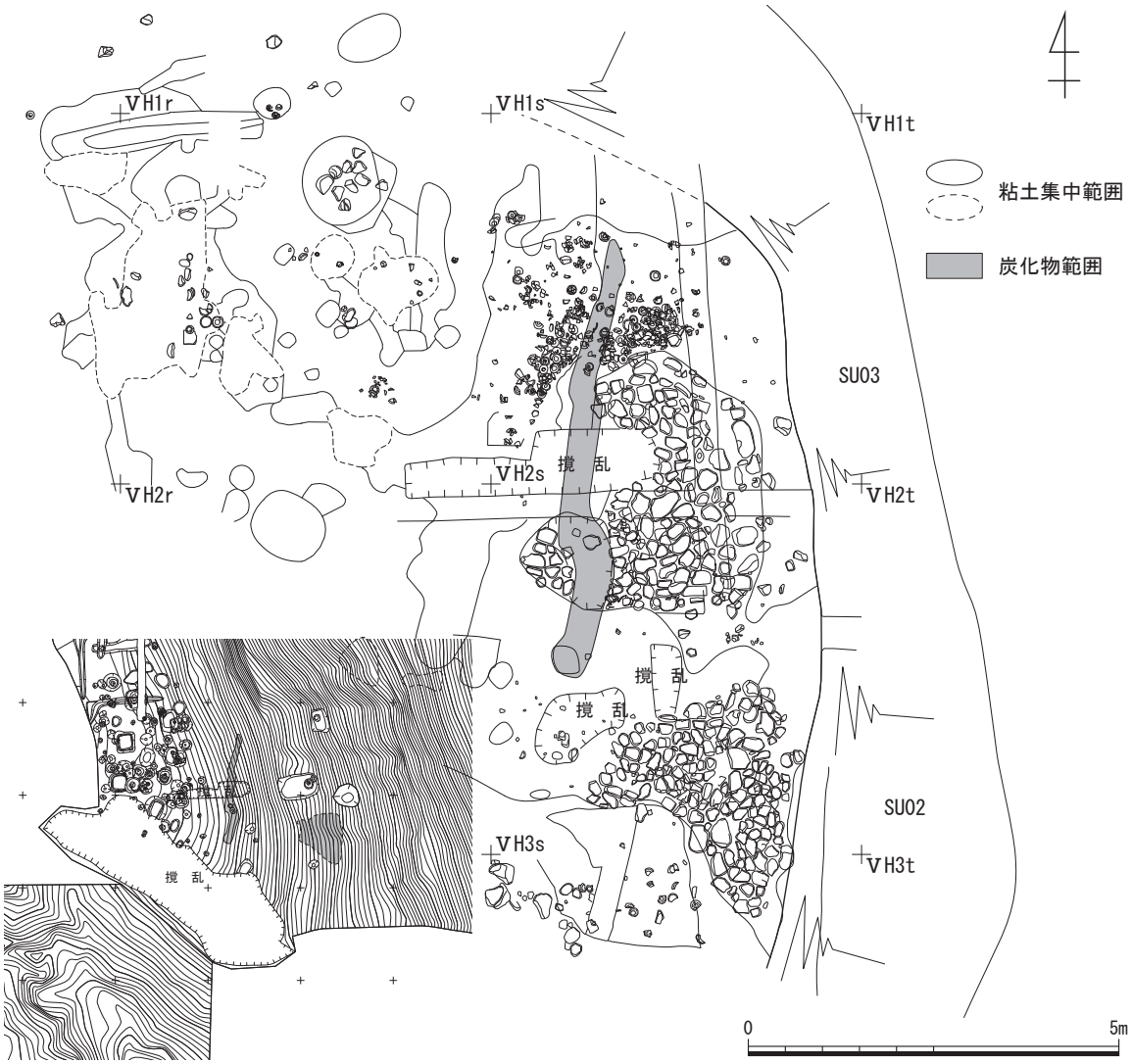
石敷の北側に挟み皿が重なり集中して見られ、匣鉢も含め窯道具が多く最終段階では窯出し直後の選別場所であったようである。また二ヶ所の石敷と見られた石敷は、石敷の空白部分が範囲確認調査のトレンチ箇所であったことから、空白部分はなく谷に面した南東側全面に敷き詰められていたと考えられる。

敷かれていた河床円礫は花崗岩がほとんどを占め、一部にホルンフェルスや濃飛流紋岩が見られた。拳大 10㎝から最大 50㎝× 14㎝まで大小様々で 20㎝から 30㎝の角の丸いものが多く 360 個を数えた。

石敷部分の標高は 221m である。石敷の高い地点の標高（中央西側）は 221m97㎝、低い地点の標高（北東谷側）は 221m10㎝を測る。石敷部分は地山から 2m の盛土（SU02、SU03）により縁辺部を造成し、その上を円礫で覆っていたのである。

石敷以前の遺構として盛り土の下より、斜面に掘り込まれた土坑 SK50、SK51、SK52、SK53 があり、SK51 の北側には下部が幅広くなった東西 2m30㎝南北 2m80㎝の三角形状の範囲に焼土が見られた。造成以前の遺構で標高 217m50㎝から 222m の間に遺構が見られる。

造成が大規模な地業で平坦部を造り出すためであるはずが、平坦ではなく石敷全体が谷側に下がった傾



第 24 図　A 区 SX01 粘土・敷石出土状況図（1:100）

第 25 図　A 区 SX01 敷石・窯道具出土状況図と断面図 (1:50)

斜をしていたため、何の為に傾斜させたのか不可解であったが、土盛り造成後、縁辺部の流失崩壊を防ぐ為に石を敷き、谷側への傾斜は、石敷当時から現代に到るまでの間に石の重さで全体が谷側に沈んだと理解している。

5. 轆轤ピット　［巻頭図版 5、図版 16］

石敷の西側（造成地の西側）では、精製された粘土の分布が見られた為、更に掘削して遺構を確認したところ、ロクロピットが 40 基切り合い密集した状況で、見られた。さながら土坑群の様な状況であった。ロクロピットは南側にも広がっていた可能性がある。ロクロピットは石敷の西側 2m から 4m に展開している。轆轤ピットの北限は P05、南限は P04、東限は P32、西限は P14 である。東側の傾斜部には轆轤ピットは見られない。

轆轤ピットは SK01 ～ SK03、SK06、SK07-P13、SK16、SK18、SK21、SK23 ～ SK28、SK30 ～ K32、SK37 ～ SK39、P01 ～ P06、P08、P10、P14、P15、P32、P37、P41、P47、P52、P53、P55、P58、P63、P65 の合計 40 基である。

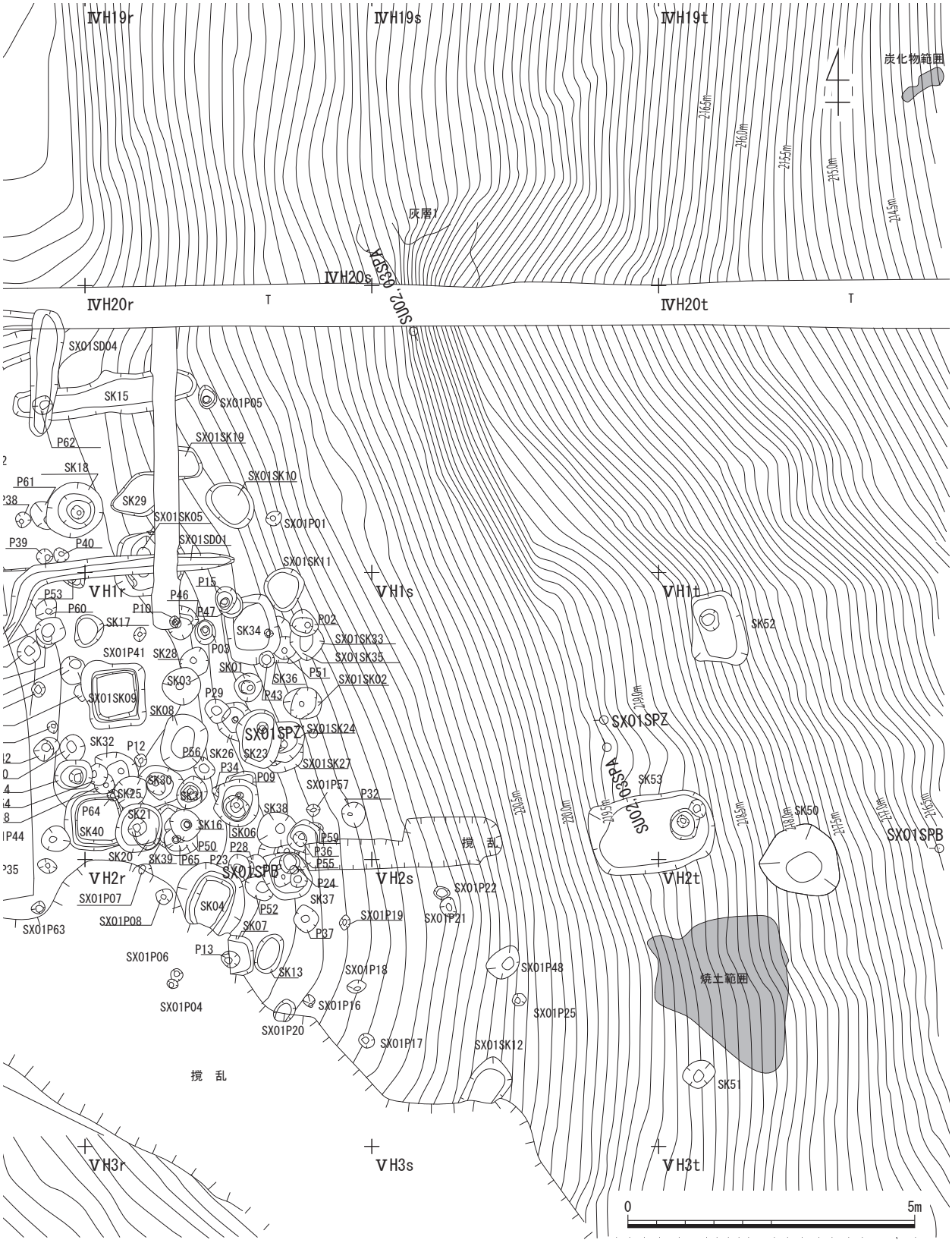
轆轤ピットがこれほど確認できたのは、当初は平面プラン確認後そのまま掘削していたが、プランが不整形で切り合いもあり、ピットも並ばず不規則、全面に精製粘土が見られる状況で、精製粘土の分布を考慮すれば工房址（第 23 図）であることから、ロクロピットか柱穴かの判断が必要となった。ロクロピットとするには穴の径が一回り大きく、軸穴を塞ぐ物が見られないことから疑問もあったが、ロクロピットか柱穴かを判別する必要から、その後 A 区はすべて遺構を半裁した。その結果がロクロピット 40 基である。

ロクロピットをその形状から従来の“柱穴タイプ”と“土坑タイプ”の二型に分類した。柱穴型が 20 基、土坑型が 20 基（第 15 表の轆轤ピット一覧参照）である。主な轆轤ピットを調査当時の所見そのままで紹介する。

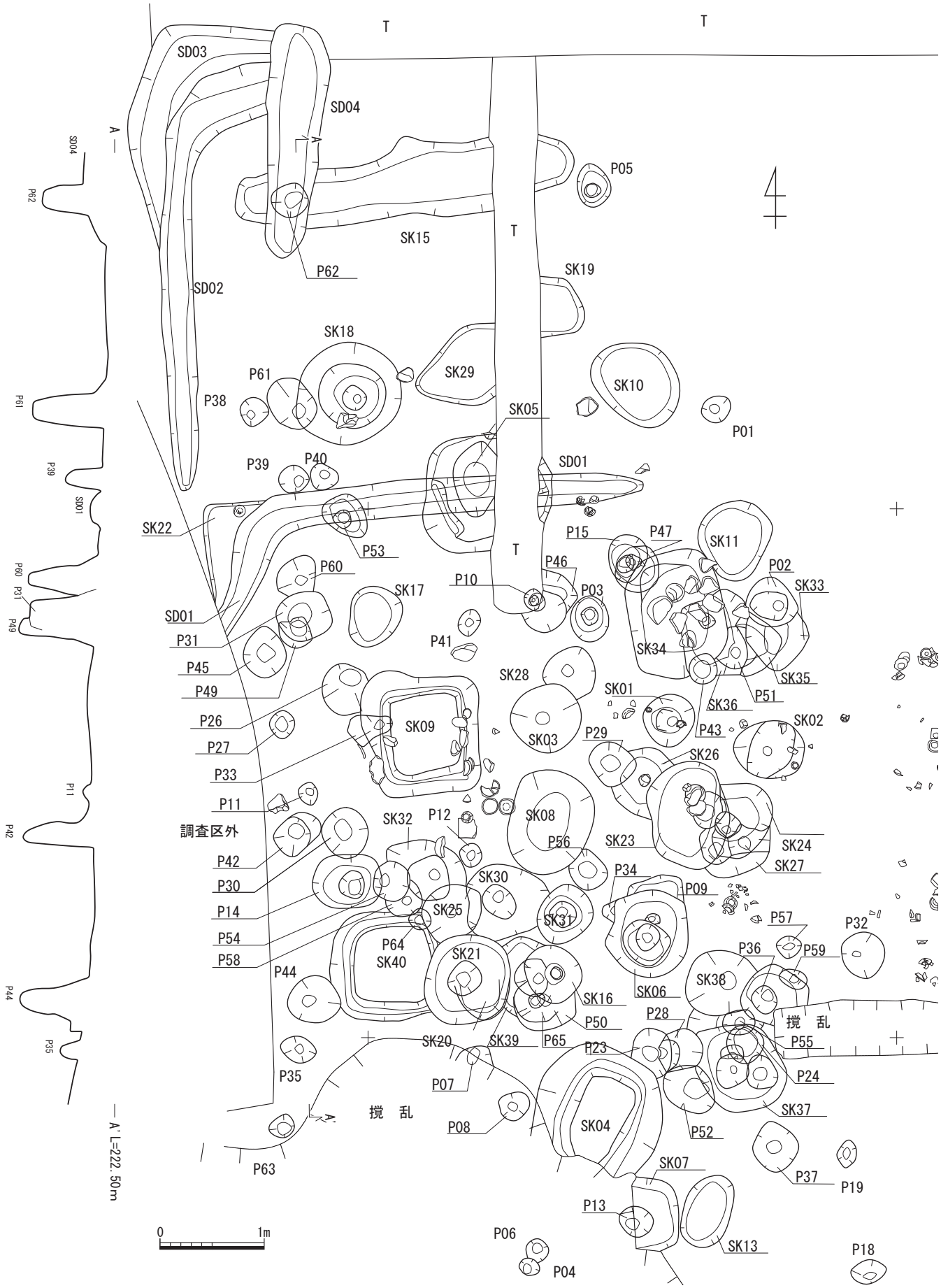
SK01　SX01 のほぼ中央に位置し、西側に SK03、東側に SK02 がそれぞれ約 1m の間隔で隣接しており、3 遺構が直線的に並列する。表土除去の時点で円形状に粘土範囲として検出され、最も新しい段階の遺構と考えられる。遺存状態は良好である。平面形はやや角のある円形状を呈し、断面形は深鉢状、“柱穴タイプ”である。軸穴部は遺構掘り込みの中央付近、軸穴周は拳大の礫で固定され、掘り込み上部は粘土により充填されている。軸穴は中心ではなく東側に偏って作られ、上面は匣鉢を正位で覆っている。匣鉢・小皿が出土した。

SK02［図版 19］　SK01 の東南東側に隣接し、丘陵頂部平坦面の東端に立地する。表土除去時点で粘土範囲が検出された、新しい段階の轆轤ピットである。遺存状態は良好である。平面形はやや歪な円形、断面形は深鉢形、“柱穴タイプ”である。軸穴部は掘り込みのほぼ中心、上部 1/3 付近に作られ、軸穴の周り礫で固定している。軸穴上部から軸木の可能性のある炭化物片が出土した。また軸穴底面に版築様の硬質な砂混じり粘土が見られ、軸受けと考えられる。

SK16［図版 21］　SK39・P50・P65 を切って構築される。“柱穴タイプ”轆轤ピットで、軸穴底面は段状に掘り込まれ、軸受けとみられる粘土を伴い、下底は硬化している。軸穴は掘り込み中位で一度突き固めてあり、“柱穴タイプ”の特徴のひとつといえる。軸穴上端は上から 1/5 位にある。軸穴に蓋をす



第 26 図　A 区 遺構位置図（敷石撤去後）(1:100)



第 27 図　A 区 遺構位置図と A-A' ライン断面図 (1:50)

るように粘土塊が認められた。平坦面西側の粘土敷きの下位から検出された。古い段階の遺構を埋め戻した可能性がある。

SK18［図版 22］　轆轤ピット群の北西側に所在し、内側の区画溝と推察される SD01 の外側に位置する。掘立柱建物あるいは柵ないし囲いと推察される柱穴列（P61）を切って構築されている。表土除去時点で落ち込みプランが見られ、最も新しい段階の掘り込みと考えられる。“土坑タイプ”の轆轤ピットで、上部掘り込みと軸部掘り込みから成る。平面形はほぼ円形で、上部掘り込みの下部に大礫を伴う。埋設した可能性が考えられる。軸穴底面に版築様の粘土があり、軸受けとみられる。

SK21［巻頭図版 6］　平坦面西側の粘土敷きの下位から検出された。井戸状の角礫による石組みを伴う“土坑タイプ”の轆轤ピットで、他に SK06(礫を一部周回状に伴う)・SK07(礫を周回状に伴うと考えられるが、攪乱のため全容は不明) が類似する。礫は軸穴周ではなく、上部土坑様掘り込みの壁沿いに積まれている。軸穴は上部土坑様掘り込みの中位付近からで、底部には層厚 1 ～ 2 cm の薄いシルト敷きが認められた。

SK25［図版 23］　平坦面西側粘土敷きの下位から検出され、これを切って構築されている。粘土敷きに覆われる SK30・32・40 などを切り、SK21 に切られる。“柱穴タイプ”の轆轤ピットで、軸穴下部は焼台を円形に刳り貫いた材で固定されている。他に類例は認められなかった。

SK28［図版 25］　SK03 に一部切られる。SK01・SK02 と約 1 m の間隔で東西に直線的に並列する。“柱穴タイプ”の轆轤ピットで、掘り込み下半は軸固定部分となり、底面に版築様の粘土を挾む。上半は粘土と炭化物を主体とし (最上層は粘土敷きの時期に埋め戻しされた可能性が考えられる)、軸穴の上方から匣鉢が出土した。

P02［図版 28］　平坦面やや北東寄りの縁辺部に立地し、西側には土坑墓が隣接する。“柱穴タイプ”の轆轤ピットで、表土除去時点で径約３０cm の粘土分布範囲として確認された。新しい段階の遺構と考えられる。軸穴が垂直ではなく、西北西 - 東南東に傾いて作られている (大部分の轆轤ピットは垂直であり、本例が最も傾きが著しい)。覆土上部は粘土質の強い塊状シルトで覆われており、これを除去した際にほとんど空洞状態の軸穴を検出した。状況的に、轆轤軸を抜き取ってシルト塊で埋め戻した可能性が想像される。

P14［図版 29］　平坦面西側に位置し、貼床状の最上部粘土敷きに覆われていた。西側には堀立柱建物あるいは柵ないし囲と推察される柱穴列 (P42) が近接する。“土坑タイプ”の轆轤ピットで、上半の土坑様掘り込みと下半の柱穴様部分から成る。柱穴様掘り込み部分は明確な堀り方を伴わず、やや大きく掘り込まれており、周壁は凹凸が強い。覆土は軟質の明赤橙色系砂質土で、軸を抜き取った可能性が高い。上部土坑様掘り込み部分の覆土中 (軸穴上) から狛犬脚部片が出土した。

P37［図版 31］　平坦面の南東寄りに位置し、石敷 (南側区画) に隣接している。平面形が隅円方形を呈する“柱穴タイプ”の轆轤ピットで、他に同様な例は P24・50 など少数ある。下部軸穴上を自然層と酷似する赤・色系土で覆い、その上に径 2 cm 位の粘土塊を主体とする層が挾まれる。多くの場合、粘土質土を取り除いた時点で遺構の底面と誤認し、下位の軸穴を見落としやすく、意図的なものかどうかは不明であるが、このような「隠匿的」な覆土・層堆積をもつ轆轤ピットは他にも見られた。本例はその典型的なものである。

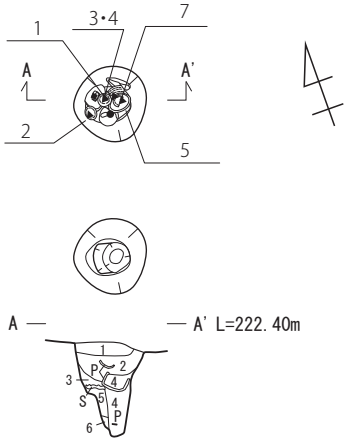
P53　平坦面の北西寄りに位置し、区画溝と推察される SD01 に切られている。“土坑タイプ”の轆轤ピットで、上部のやや浅い土坑様掘り込みと下部の深い柱穴様部分から成り、底面に軸受けと考えられる粘土 (うすい扁平状の「せんべい」とやや厚い「丸餅」の様) を挟む。

6. 粘土溜土坑

粘土溜土坑として SK04、SK05、SK08、SK09、SK40 の 5 例が見られ、北限は SK05、南限は SK04 である。いずれも底に粘土が見られた。粘土はブロック状に固まったものもあった。SK08 を除けば 4 例とも隅丸方形状で底部壁際に周溝が見られ、土坑内の粘土と壁の土とが混ざらないように板囲いした痕跡かもしれない。

第 28 図　A 区 轆轤ピット分布図 (1:100)

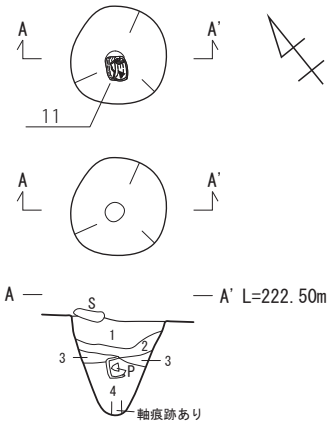
SK01出土状況図（VH1r）



1. 2.5Y8/2灰白色粘土5YR7/8橙色 中粒砂が斑入。
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト10YR8/3浅黄橙色 粘土をブロック状に含む。
3. 5YR5/4にぶい赤褐色砂質シルト
4. 7.5YR5/6明褐色砂質シルト
5. 5YR5/6明赤褐色シルト砂含む。
6. 10Y6/2オリーブ灰色シルト

※4層はロクロ軸穴

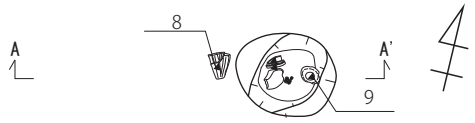
SK03出土状況図（VH1r）



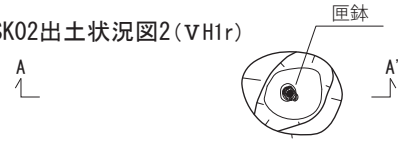
1. 7.5YR6/6橙色シルト
2. 5YR5/6明赤褐色シルト粗粒砂混じる。
3. 7.5YR6/2灰褐色シルト
4. 2.5Y8/1灰白色粘土5YR7/8橙色 シルトがブロック状に混じる 10YR8/3浅黄橙色 粘土ブロックが混じる。

※底面に明赤橙色砂（層厚5mm程度）があり 中央に浅い凹み（深さ約1cm）が認められた。

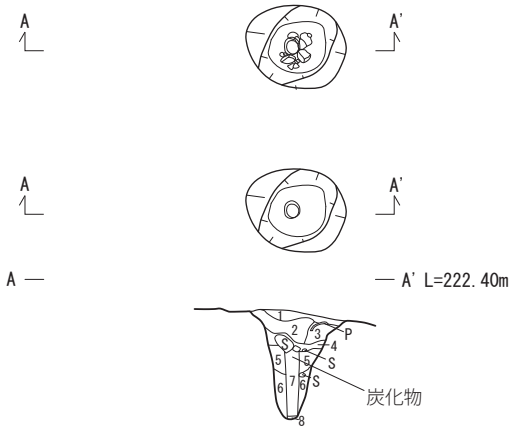
SK02出土状況図1（VH1r）



SK02出土状況図2（VH1r）

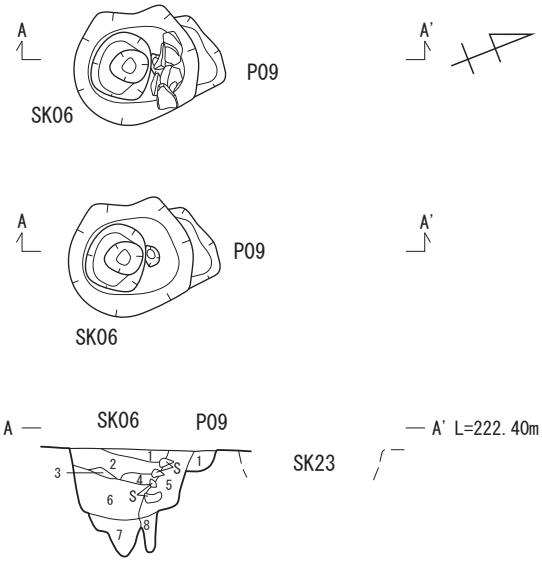


SK02出土状況図3（VH1r）



1. 2.5Y8/2灰白色粘土炭化物を濃密に含む。
2. 2.5Y8/2灰白色粘土
3. 7.5YR4/4褐色シルト5Y5/4 オリーブ色中粒砂をブロック状に含む。
4. N-4灰色シルト
5. 7.5YR6/2灰褐色シルト2.5Y8/2灰白色 粘土を塊状に含む。
6. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土・砂・シルト含む。
7. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂極めて軟質。
8. 10GY6/1緑灰色粘土橙色砂少し含む。極めて硬質。

SK06出土状況図（VH1r）



SK06

1. 5YR7/8橙色中粒砂に2.5Y8/2灰白色シルトが斑入10YR8/1灰白色 粘土をブロック状に含む焼土混じる。
2. 5YR7/8橙色中粒砂と2.5Y8/2灰白色シルトの斑土炭化物・焼土わずかに混じる 10YR8/3浅黄橙色 粘土ブロック状に混じる。
3. 5YR7/8橙色シルト
4. 5YR5/8明赤褐色シルト2.5Y8/2灰白色粘土をブロック状に含む 炭化物わずかに混じる。
5. 2.5Y8/2灰白色粘土炭化物わずかに混じる 5YR7/8橙色砂質 シルトが混じる。
6. 7.5YR5/8明褐色シルト
7. 7.5YR6/8橙色シルト底面に層厚1cm程度の硬質シルト敷く。
8. 10YR5/6黄褐色砂質

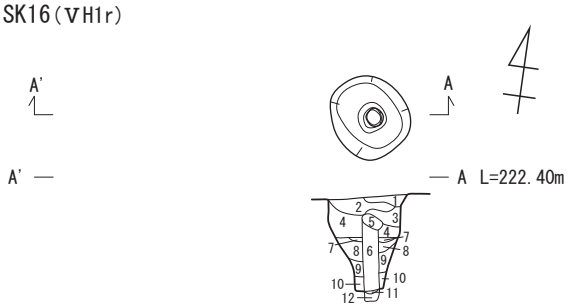
P09

1. 7.5YR6/6橙色砂質シルト炭化物わずかに混じる。

0 1m

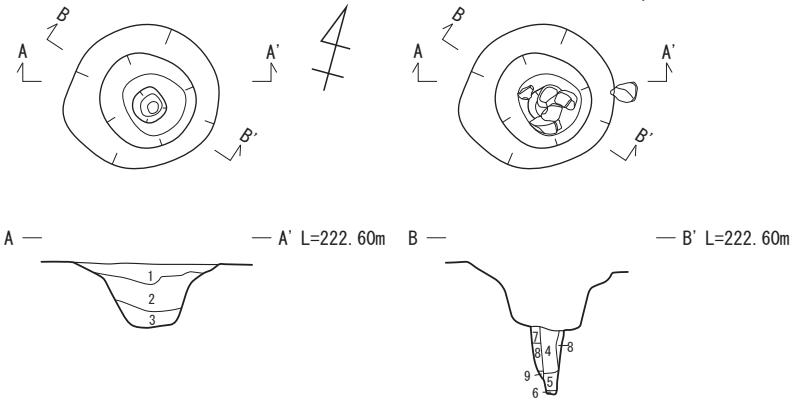
第29図　A区轆轤ピット（SK01～03・06、P09）平面図・土層断面図（1:50）

SK16（ⅤH1r）



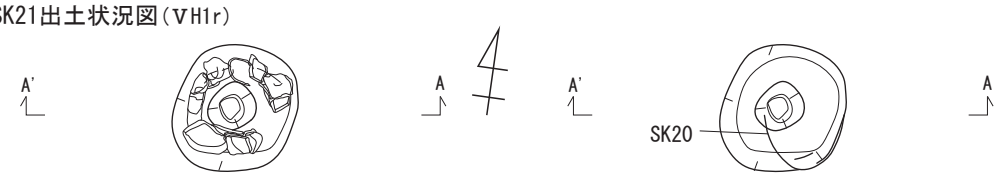
1. 5Y6/1灰色粘質シルト2.5Y8/1灰白色 粘土ブロックを含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト5YR5/8明赤褐色 シルトは斑入 炭化物を少量含む。
3. 5Y6/1灰色シルト5YR5/8明赤褐色 シルトがわずかに混じる。
4. 2.5Y6/1黄灰色シルト
5. 2.5Y8/1灰白色粘土
6. 5Y5/1灰色シルト
7. 2.5Y7/1灰白色粘土
8. 5BG6/1青灰色硬質青灰色粘土と明橙色土の混在土 炭少し含む。
9. 2.5YR5/8明赤褐色砂やや硬質。
10. 7.5YR5/4にぶい褐色細粒砂軟質。
11. 5BG6/1青灰色硬質外郭リング状に9層回る 軸下粘土。
12. 2.5YR5/8明赤褐色硬質砂・粘土少し含む 下底硬化。

SK18（ⅣH20q）

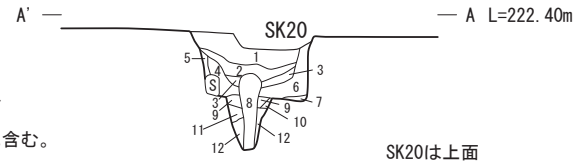


1. 2.5YR5/8明赤褐色シルト粘土多く含む 炭やや多く含む 赤橙色砂質土の斑強い。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト粘土含む。
3. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質 淡灰色砂塊やや多く含む。
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質軟質。
5. 5Y5/3灰オリーブ色細砂質硬質 10G6/1緑灰色粘土互層状に挟む。
6. 10BG7/1明青灰色粘土極めて硬質。
7. 5BG6/1青灰色シルト極めて硬質 外郭に層厚0.5cmの橙色砂挟む。
8. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土6層少し含む。
9. 10Y6/2オリーブ灰色細砂質 シルト硬質。

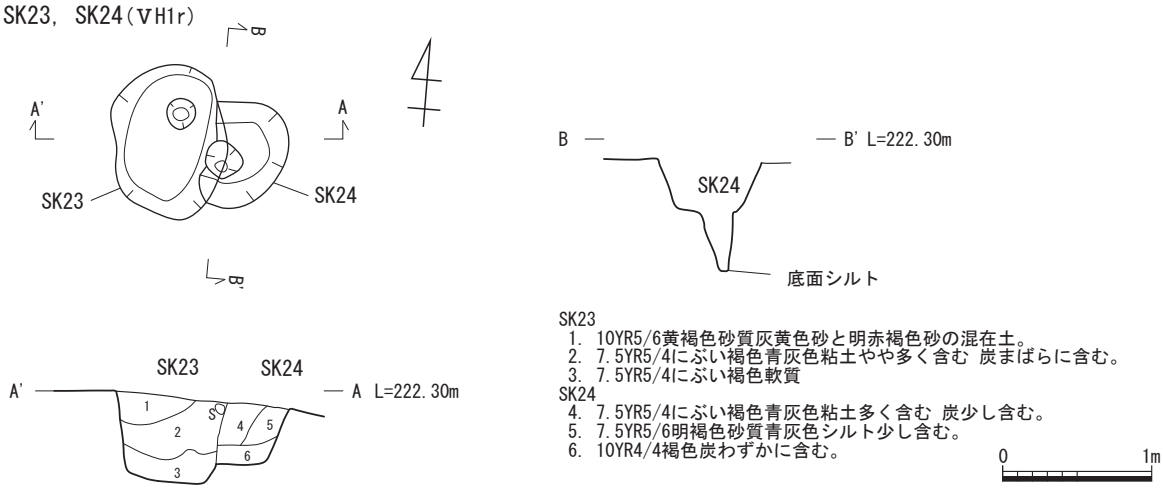
SK21出土状況図（ⅤH1r）



1. 2.5YR6/8橙色シルト2.5Y8/1灰白色 粘土が斑入 炭化物少量混じる。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色軟質青灰色粘土まばらに含む 炭わずかに含む。
3. 10YR4/4褐色砂質炭わずかに含む。
4. 5YR6/8橙色やや硬質灰色シルト含む。
5. 5YR5/8明赤褐色砂質灰色シルト・青灰色粘土やや多く含む 炭やや多く含む。
6. 5YR5/8明赤褐色やや硬質灰色シルト・青灰色粘土まばらに含む。
7. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質軟質。
8. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質底面にシルト敷き 樹根貫入。軟質。
9. 7.5YR5/4にぶい褐色Φ1cm前後の粘土・Φ0.3～0.5cmの炭多く含む。
10. 2.5YR5/6明赤褐色やや硬質
11. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質Φ2cm前後の青灰色粘土を含む。
12. 2.5YR5/8明赤褐色砂質やや硬質。



SK23, SK24（ⅤH1r）



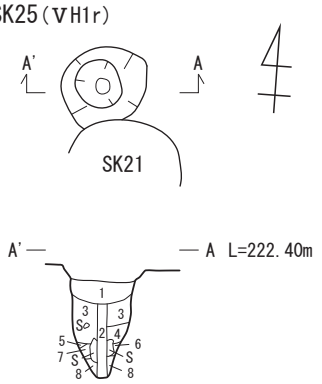
SK23
1. 10YR5/6黄褐色砂質灰黄色砂と明赤褐色砂の混在土。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色青灰色粘土やや多く含む 炭まばらに含む。
3. 7.5YR5/4にぶい褐色軟質

SK24
4. 7.5YR5/4にぶい褐色青灰色粘土多く含む 炭少し含む。
5. 7.5YR5/6明褐色砂質青灰色シルト少し含む。
6. 10YR4/4褐色炭わずかに含む。

0 1m

第30図　A区 轆轤ピット (SK16・18・21・23・24) 平面図・土層断面図（1:50）

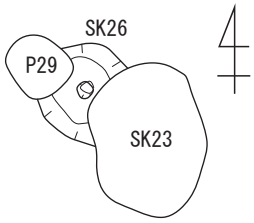
SK25（ⅤH1r）



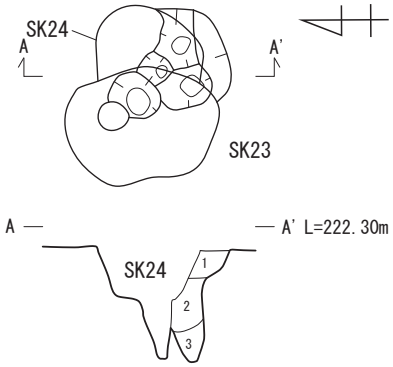
Sは、くりぬき焼台

1. 2.5YR5/6明赤褐色細粒シルト質土斑文状に含む
   炭わずかに含む。軟質。
2. 7.5YR6/3にぶい褐色粘土5YR6/8橙色 シルトが斑入。
3. 10YR6/2灰黄褐色粘土
4. 2.5Y7/1灰白色粘土に7.5YR6/8橙色 シルトが斑入
5. 7.5Y6/2灰オリーブ色灰質軟質。
6. 10GY6/1緑灰色硬質粘土斑状に含む。
7. 5YR5/6明赤褐色やや硬質

SK26（ⅤH1r）

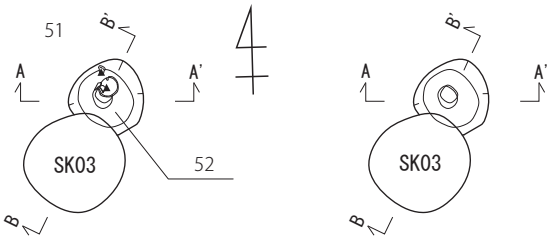


SK27（ⅤH1r）

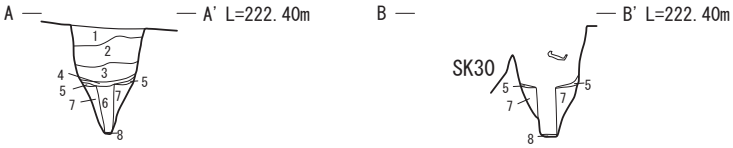


1. 10YR5/6黄褐色細粒状青灰色砂まばらに含む
   やや軟質。
2. 7.5YR5/6明褐色軟質青灰色砂含む
   炭・青灰色粘土まばらに含む。
3. 5YR5/6明赤褐色青灰色砂まばらに含む。

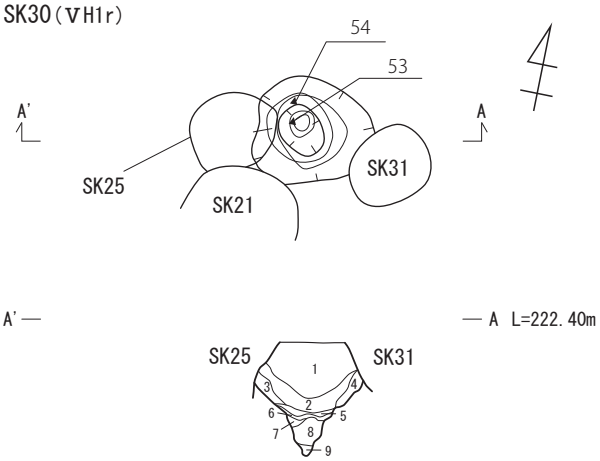
SK28出土状況図（ⅤH1r）



1. 2.5YR6/6橙色砂質青灰色粘土少し含む
   炭少し含む。硬質。
2. 10Y5/1灰色硬質青灰色粘土と3層の互層
   炭層状に挟む。
3. 2.5YR6/6橙色砂質青灰色粘土・炭まばらに含む。
4. 10YR5/8黄褐色砂質軟質。
5. 10GY6/1緑灰色粘土外郭に橙色砂リング状に挟む。
6. 10YR4/3にぶい黄褐色軟質炭少し含む。
7. 7.5YR5/4にぶい褐色細砂質
   灰色砂やや多く斑状に含む。硬質。
8. 10BG6/1青灰色粘土版築様。



SK30（ⅤH1r）

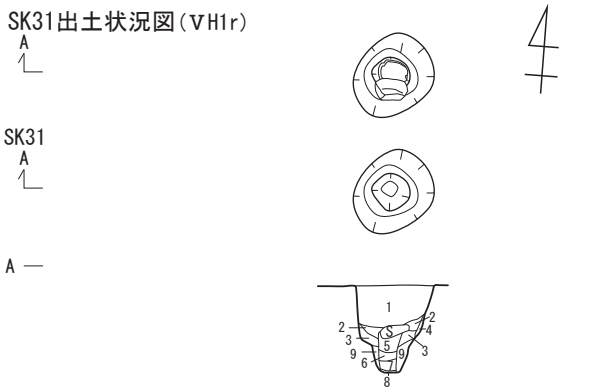


1. 10YR6/4にぶい黄橙色砂質青灰色粘土やや多く含む
   炭わずかに含む。
2. 5Y5/2灰オリーブ色砂質粘土含む 炭まばらに含む
   灰黄色砂強い斑状に含む。
3. 5YR5/8明赤褐色砂質黄色橙色砂の混在土
   粘土・炭少し含む。
4. 2.5YR5/6明赤褐色細粒砂軟質。
5. 2.5Y7/4浅黄色細砂やや硬質。
6. 5GY6/1オリーブ灰色粘土炭含む(層状 特に下底)。
7. 7.5YR5/6明褐色砂質粘土斑状に含む 炭まばらに含む。
8. 10YR5/4にぶい黄褐色砂やや軟質。
9. 5Y5/4オリーブ色細砂軟質。

0 1m

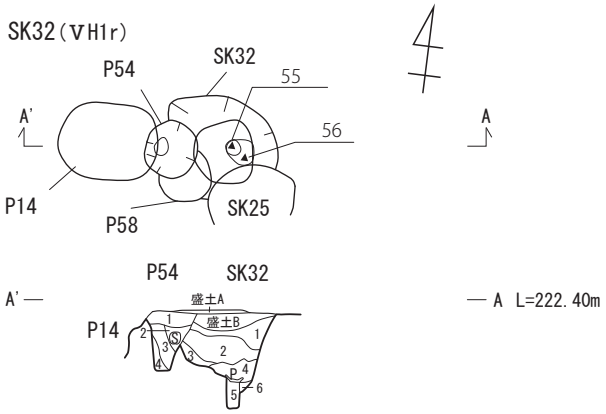
第 31 図　A 区 轆轤ピット (SK25 ～ 28・30) 平面図・土層断面図（1:50）

SK31出土状況図(ⅤH1r)



1. 5Y7/6黄色粗砂赤褐色砂斑状に含む
青灰色粘土わずかに含む 炭わすかに含む。
2. 炭化物層
3. 5BG6/1青灰色粘土
4. 5YR5/6明赤褐色砂軟質。
5. 2.5Y5/3黄褐色シルト質
灰色シルト質土と橙色砂の混在土。極めて軟質。
6. 2.5Y4/4オリーブ褐色やや硬質。
7. 炭化物層
8. 2.5YR4/6赤褐色砂質やや粗粒の砂。硬質。
9. 2.5YR5/8明赤褐色砂質
赤橙色砂を基質に灰色シルト・砂混在。極めて硬質。

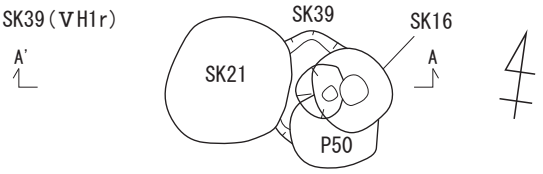
SK32(ⅤH1r)



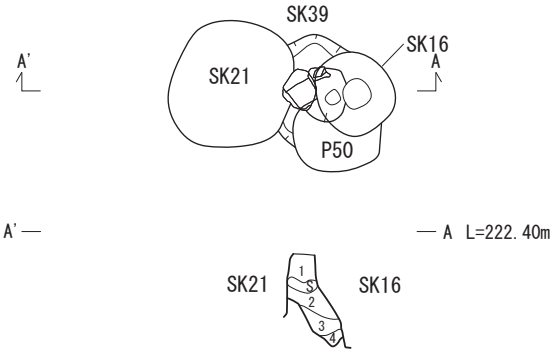
盛土
A. 10GY7/1明緑灰色互層・版築様炭・
灰質土と粘土・灰橙色土との互層。
B. 10GY6/1緑灰色互層・版築様炭・
淡灰橙色粘土混土・粘土との互層。

SK32
1. 7.5YR6/3にぶい褐色灰質粘土含む 炭少し含む。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質粘土・シルト多く含む。
3. 10YR5/4にぶい黄褐色硬質シルト含む。
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質灰質 粘土まばらに含む 炭含む。
5. 10YR5/4にぶい黄褐色細砂質軟質。
6. 2.5Y5/3黄褐色細砂～シルト質外郭橙色サビ色砂。硬質。

SK39(ⅤH1r)

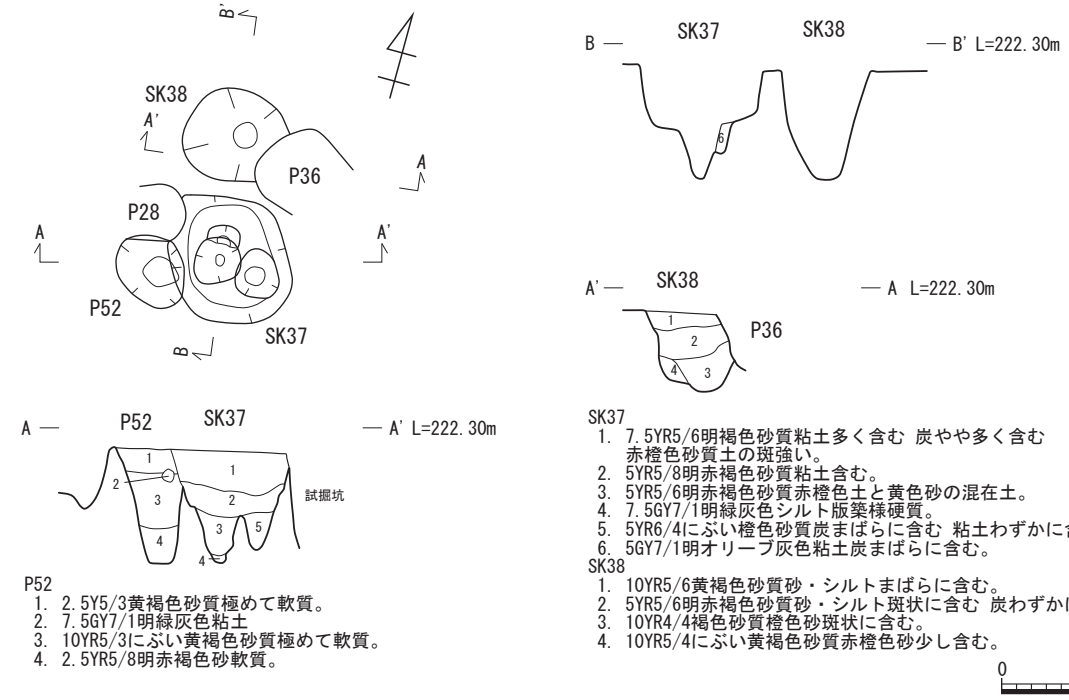


SK39出土状況図(ⅤH1r)



1. 10Y6/2オリーブ灰色灰質・シルト質炭質土斑状に含む。
2. 2.5YR5/8明赤褐色砂質硬質。
3. 10BG6/1青灰色粘土極めて硬質。
4. 5Y5/3灰オリーブ色細砂質軟質。

SK37(ⅤH2r), SK38(ⅤH1r), P52



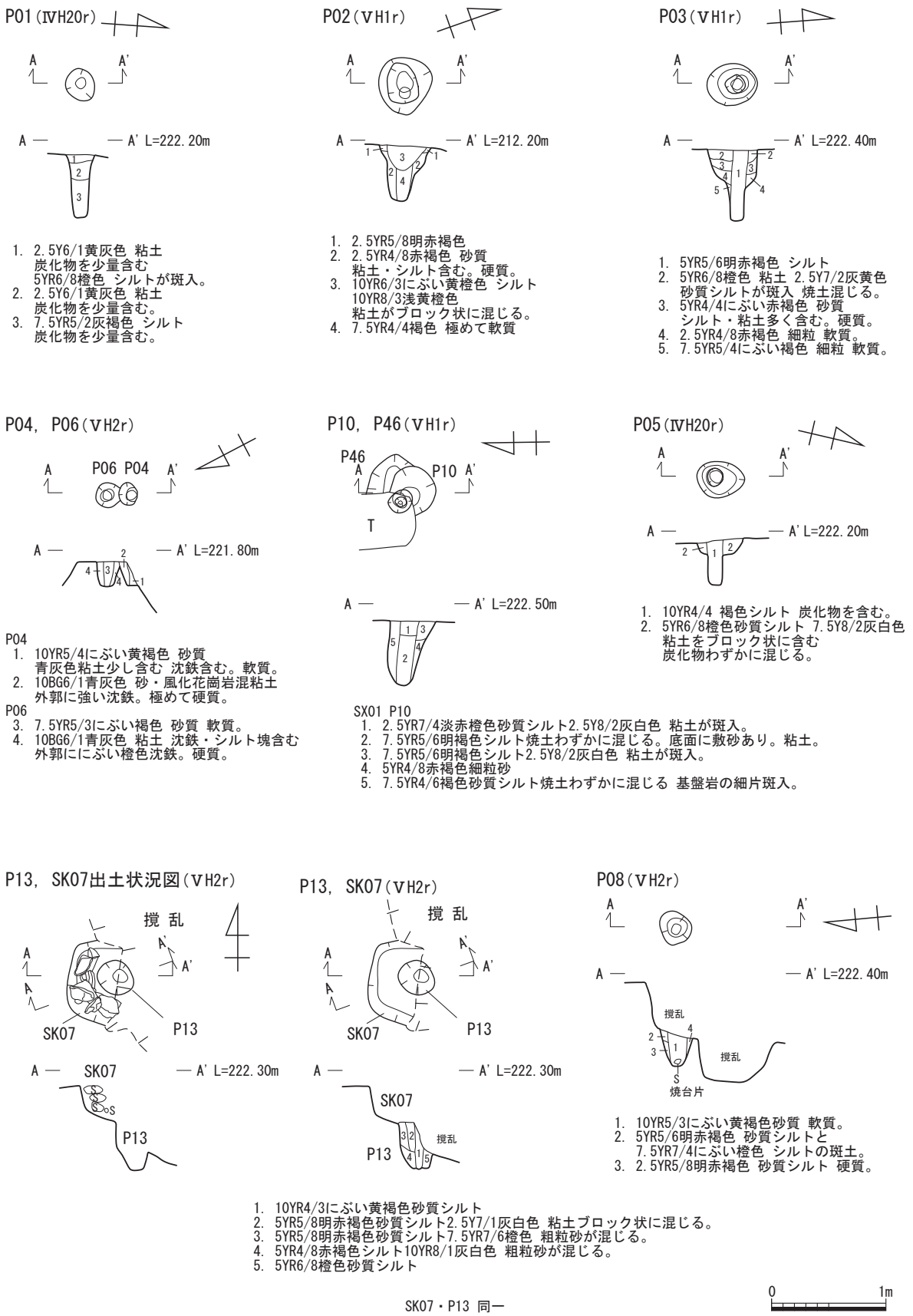
P52
1. 2.5Y5/3黄褐色砂質極めて軟質。
2. 7.5GY7/1明緑灰色粘土
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質極めて軟質。
4. 2.5YR5/8明赤褐色砂軟質。

SK37
1. 7.5YR5/6明褐色砂質粘土多く含む 炭やや多く含む
赤橙色砂質土の斑強い。
2. 5YR5/8明赤褐色砂質粘土含む。
3. 5YR5/6明赤褐色砂質赤橙色土と黄色砂の混在土。
4. 7.5GY7/1明緑灰色シルト版築様硬質。
5. 5YR6/4にぶい橙色砂質炭まばらに含む 粘土わずかに含む。
6. 5GY7/1明オリーブ灰色粘土炭まばらに含む。

SK38
1. 10YR5/6黄褐色砂質砂・シルトまばらに含む。
2. 5YR5/6明赤褐色砂質砂・シルト斑状に含む 炭わずかに含む。
3. 10YR4/4褐色砂質橙色砂斑状に含む。
4. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質赤橙色砂少し含む。

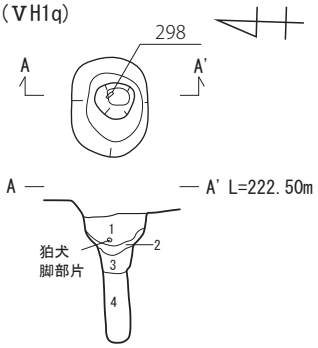
0 1m

第32図　A区 轆轤ピット (SK31・32・37～39、P52) 平面図・土層断面図 (1:50)



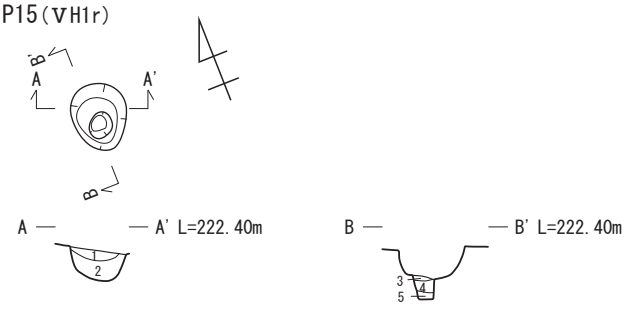
第33図　A区 轆轤ピット (P1～6・8・10・13、SK07) 平面図・土層断面図（1:50）

P14（ⅤH1q）



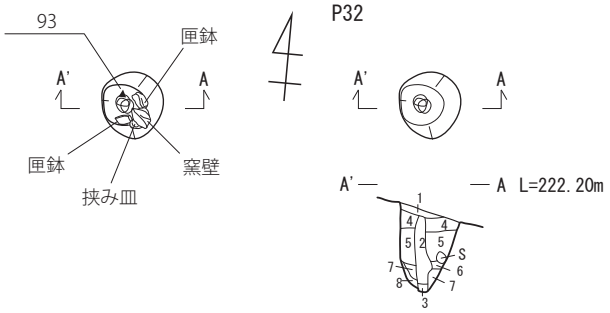
1. 2.5YR6/8橙色シルト
   2.5Y8/2灰白色粘土がブロック状に混じる。
2. 7.5YR7/2明褐灰色細粒砂
   10YR8/2灰白色 粗粒砂を含む。
3. 7.5YR5/2灰褐色細粒砂・シルト
   10YR8/2灰白色 粗粒砂を含む。
4. 10YR4/2灰黄褐色砂質
   粘土・シルト・赤橙色土塊を含む。
   極めて軟質。

P15（ⅤH1r）



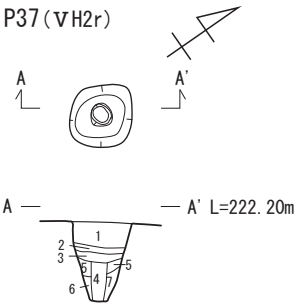
1. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト炭化物少量混じる。
2. 7.5YR5/3にぶい褐色シルト
3. 2.5Y8/1灰白色粘土
4. 5YR6/8橙色シルトと2.5Y8/1灰白色 粘土の斑土。
5. 5YR6/8橙色シルト

P32出土状況図（ⅤH1r）



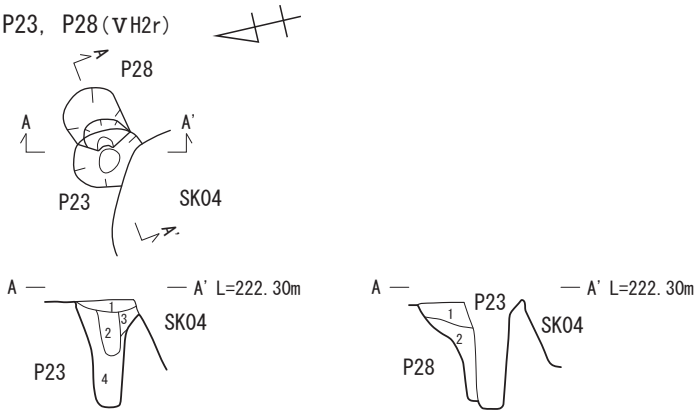
1. 7.5YR8/3浅黄橙色粘土7.5YR8/8黄橙色 粘土が斑入。
2. 5YR7/8橙色砂質シルト軟質。
3. 7.5GY7/1明緑灰色シルト質粘土 極めて硬質。
4. 5YR7/4にぶい橙色粘土2.5Y8/1灰白色 粘土を含む
   2.5YR7/8橙色 シルトが混じる。
5. 2.5Y8/1灰白色粘土5YR6/8橙色 シルトが混じる。
6. 5YR5/8明赤褐色
7. 5YR5/3にぶい赤褐色硬質硬質 青灰色粘土多く含む。
8. 2.5YR4/8赤褐色

P37（ⅤH2r）

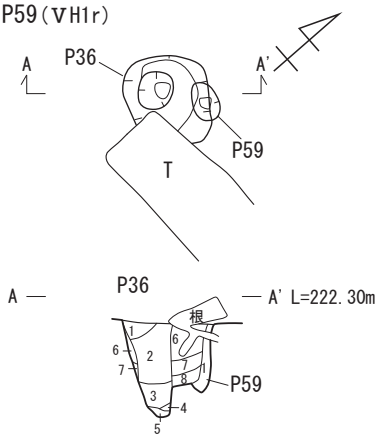


1. 2.5YR5/6明赤褐色砂質青灰色粘土少し含む。
2. 10G5/1緑灰色砂質炭少し含む。
   粘土と1層の混土。
3. 5YR4/8赤褐色軟質
4. 7.5YR4/6褐色極めて軟質
5. 7.5YR4/6褐色砂質硬質。
6. 2.5YR5/6明赤褐色軟質
7. 10YR4/3にぶい黄褐色硬質

P23，P28（ⅤH2r）



P36，P59（ⅤH1r）



P23
1. 5YR7/6橙色シルト5Y7/1灰白色 粘土をブロック状に含む
   7.5YR5/2灰褐色 シルトとの斑土 炭化物わずかに含む。
2. 7.5YR5/2灰褐色シルト
3. 5YR6/8橙色シルト7.5YR8/6浅黄橙色
   細粒砂を含む 5Y7/1灰白色 粘土わずかに混じる。
4. 7.5YR5/2灰褐色シルトと5YR6/8橙色 シルトの斑土

P28
1. 10YR6/6明黄褐色砂質やや硬質。
2. 10YR5/6黄褐色砂質軟質。

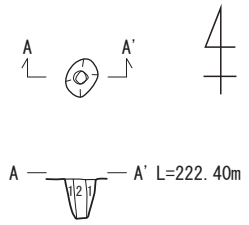
0　1m

P36
1. 7.5YR6/6橙色硬質青灰色粘土多く含む 炭含む。
2. 7.5YR6/6橙色砂質軟質。
3. 10YR6/6明黄褐色細粒状極めて軟質 炭含む。
4. 10GY7/1明緑灰色粘土極めて硬質 炭含む。
5. 10GY7/1明緑灰色シルト極めて硬質（板状層）。
   下低に沈鉄あり。
6. 7.5YR6/6橙色硬質青灰色粘土含む。
7. 7.5YR6/6橙色砂質
8. 2.5Y5/3黄褐色砂質軟質。

P59
1. 10YR4/3にぶい黄褐色軟質粘土・炭含む。

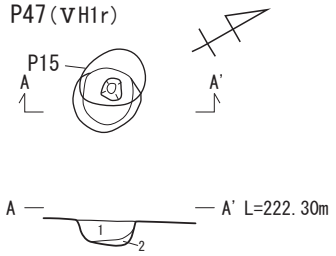
第34図　A区 轆轤ピット (P14・15・23・28・32・37・36・59) 平面図・土層断面図（1:50）

P41（ⅤH1r）



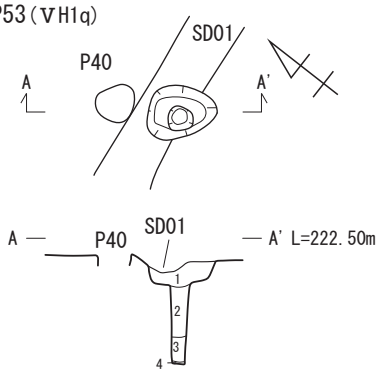
1. 7.5YR4/6褐色砂質
2. 10YR5/4にぶい黄褐色
極めて軟質底面に弱いシルト敷き痕あり。

P47（ⅤH1r）



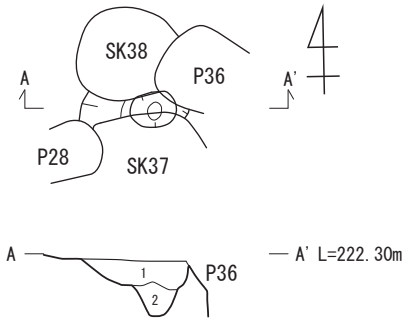
1. 2.5YR5/8明赤褐色
2. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト

P53（ⅤH1q）



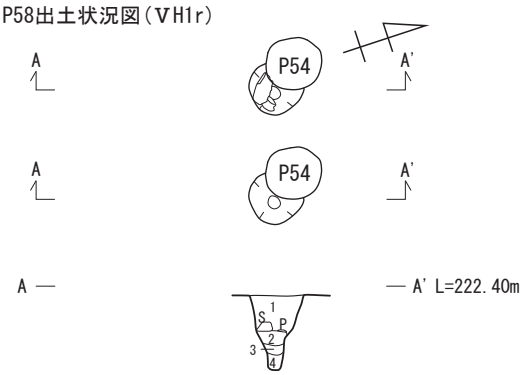
1. 2.5YR4/6赤褐色青灰色砂・シルト多く含む。
2. 5YR5/4にぶい赤褐色極めて軟質炭少し含む。
3. 2.5Y5/4黄褐色細砂質軟質。
4. 2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土円板状の粘土。
硬質。

P55（ⅤH1r）



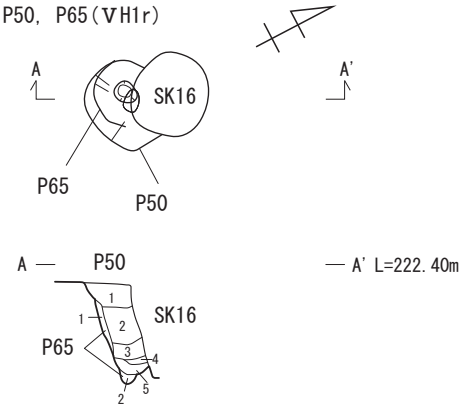
1. 2.5YR5/8明赤褐色砂質軟質 炭やや多く含む
青灰色粘土まばらに含む。
2. 7.5YR5/6明褐色軟質灰色シルト・粘土まばらに含む
橙色砂強い斑状に含む。

P58出土状況図（ⅤH1r）



1. 2.5YR5/3にぶい赤褐色粘土やや多く含む。
2. 5Y4/2灰オリーブ色軟質灰・赤橙色砂・粘土・炭やや多く含む。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質やや硬質。
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質軟質。

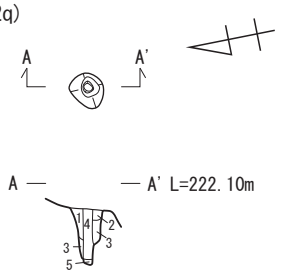
P50, P65（ⅤH1r）



SX01 P50
1. 5YR5/8明赤褐色砂質青灰色粘土多く含む 炭少し含む
赤橙色砂質土と粘土の混在土。硬質。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質粘土やや多く含む。
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト質炭混粘土状土含む。
4. 5YR6/6橙色軟質粘土多く含む。
5. 5Y6/4オリーブ黄色砂質下底に強い橙色の砂挟む。

SX01 P65
1. 10BG7/1明青灰色シルト質極めて硬質。
2. 7.5YR6/6橙色集塊状。

P63（ⅤH2q）



1. 7.5GY6/1緑灰色シルト明橙色細砂斑状に少し含む
外郭に明橙色沈鉄砂あり。
2. 2.5Y6/4にぶい黄色1層基質に沈鉄及び
自然層由来の赤橙色砂を含む。
3. 7.5Y5/2灰オリーブ色シルト1層のシルト含む。
軟質。
4. 7.5YR5/4にぶい褐色細砂質下方の1/3位は
やや淡黄色の細砂質強い。極めて軟質。
5. 10BG7/1明青灰色シルト硬質。
風化花崗岩粒少し含む。

0 1m

第35図　A区 轆轤ピット (P41・47・50・53・55・58・63・65) 平面図・土層断面図（1:50）

SK04［図版 34］

上面が円形状、底面が長方形状で、断面形状は角張った箱状で、周囲に周溝が見られる。長軸 1m12㎝、短軸 1m25㎝、深さ 38㎝～ 51㎝を測る。挟み皿が出土している。

SK05［図版 34］

範囲確認調査の時に確認されていた遺構である。SD01 に切られていた。上面が隅円形状で隅丸方形状を呈していたと見られる。断面形状は角張った箱状で、周囲に周溝が見られる。長軸 1m12㎝、短軸 1m25㎝、深さ 38㎝～ 51㎝を測る。挟み皿と匣鉢が廃棄されていた。

SK08［図版 35］

他の粘土溜土坑の形状と違い楕円形を呈した浅い土坑で、埋土は二層で粘土ブロックが見られた。長軸 83㎝、短軸 76㎝、深さ 71㎝を測る。擂鉢の底部片が出土している。

SK09［図版 35］

炭化物を含んだ粘土の盛り土に上面が覆われていた。隅丸方形状で断面形状は角張った箱状で周囲に溝が見られる。埋土は粘土と赤橙色土との互層で、長軸 1m19㎝、短軸 1m12㎝を測る。天目茶碗、端反皿、釜の破片と挟み皿、匣鉢が廃棄されていた。

遺物が多く出土し擂鉢、端反皿、縁釉挟み皿、挟み皿、匣鉢、匣鉢蓋が廃棄されていた。

SK40［図版 36］

SK09 に類似しており、P44 に切られている。隅丸方形状で断面形状は角張った箱状で周囲に溝が見られる。埋土は粘土と赤橙色土との互層で、長軸 1m7㎝、短軸 1m3㎝を測る。遺物が多く出土し擂鉢、端反皿、縁釉挟み皿、挟み皿、匣鉢、匣鉢蓋が廃棄されていた。

7. 杭列

西側には杭列が見られ柵と考えた。杭列は北より P62、P61、P38、P39、P40、P60、P31、P49、P45、P42、P30、P44 で構成され南北 8m を測る。P38、P40、P45、P30 は柵を補助する補助杭と考えた。杭列の杭はそれぞれ掘方が深い。P61 は長軸 51㎝短軸 41㎝の楕円形を呈し、深さ 68㎝で杭列の中では一番深い。北西風を遮る柵と考えたが、西側が現代の造成工事により滅失し不明のため、この柵列が建物の柱列の一部、あるいは差掛けによる覆い屋根の一部の可能性もある。

8. 土壙墓　［図版 35］

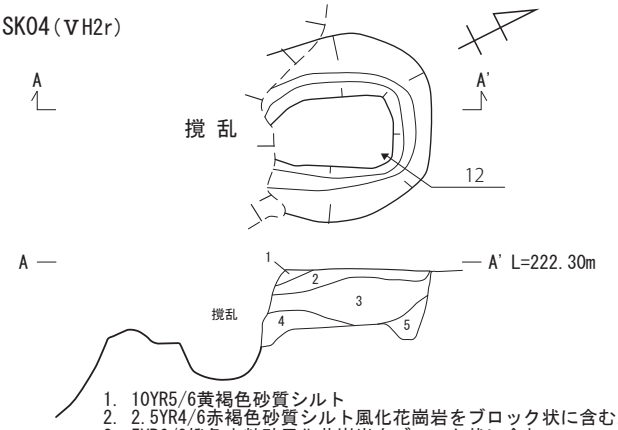
A 区では SK34 が 1 例見られた。東谷に面した見晴らしの良い縁辺部にあり、上面では角礫の集積と凹みが見られた。長軸 1m20㎝、短軸 92㎝を測り、平面形はやや楕円形状、断面形状は箱状である。埋土は赤褐色系砂質土で、墓壙内より古銭と鉄滓が出土した。古銭は皇宋通宝（32）と開元通宝（27）が各 1 点、不明の古銭が 4 点（28 ～ 30、31）の、計六枚の六文銭である。

9. 溝

丘陵の東端部を区画すると考えられる L 字状に曲がった溝 SD01、SD02、SD03 と SD04 がある。

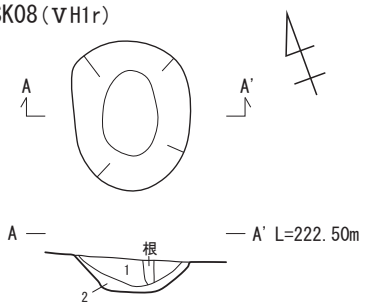
区画溝は北の SD03、SD04 と南の SD01 が見られ、それぞれの北と南の区画溝は轆轤ピットが密集した部分と区別するための溝と考えられる。SD02 の溝肩部より皇宋通宝と聖宋通宝が各 1 枚出土した。

SK04（ⅤH2r）



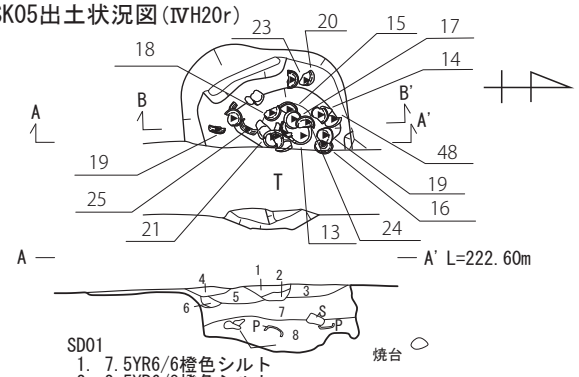
1. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
2. 2.5YR4/6赤褐色砂質シルト風化花崗岩をブロック状に含む。
3. 5YR6/8橙色中粒砂風化花崗岩をブロック状に含む。
4. 10R5/8赤色シルト2.5Y8/2灰白色 粘土をブロック状に含む。
5. 5YR5/8明赤褐色砂質シルト2.5Y6/1黄灰色 粘土
風化花崗岩をブロック状に含む。

SK08（ⅤH1r）



1. 2.5YR5/8明赤褐色シルト10YR8/3浅黄橙色
粘土がブロック状に混じる。
2. 2.5YR5/8明赤褐色シルト10YR8/3浅黄橙色
粘土がわずかに斑入。

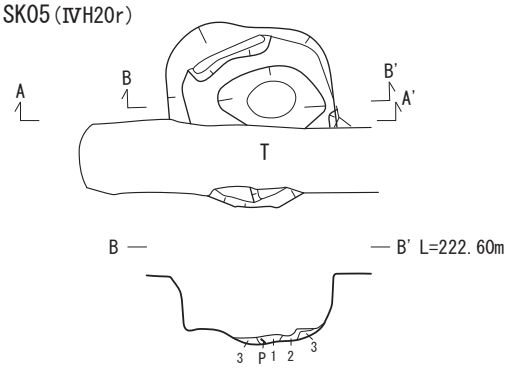
SK05出土状況図（ⅣH20r）



SD01
1. 7.5YR6/6橙色シルト
2. 2.5YR6/8橙色シルト

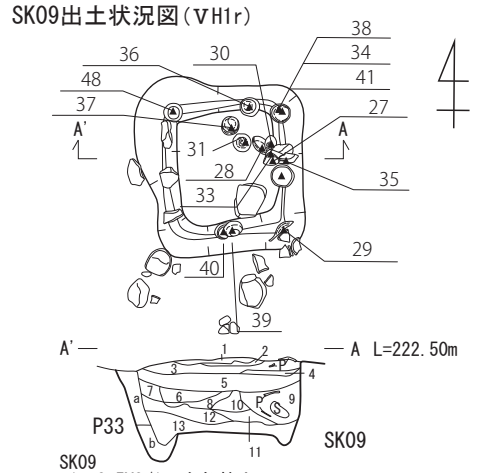
SK05
盛土
3. 2.5Y6/1黄灰色シルト2.5Y8/2灰白色 粘土を含む。
4. 5YR7/8橙色シルト
2.5Y8/2灰白色粘土を含む 炭化物少量混じる。
5. 10YR4/4褐色シルト10YR8/2灰白色 粘土をブロック状に含む
10Y6/2オリーブ灰色 風化岩ブロックを含む。
6. 5YR5/8明赤褐色シルト
7. 7.5YR4/4褐色シルト10Y6/2オリーブ灰色風化岩をブロック状に含む。
8. 7.5YR5/1褐灰色砂質シルト2.5Y8/2灰白色
粘土をブロック状に含む 風化岩ブロック炭化物を含む。

SK05（ⅣH20r）

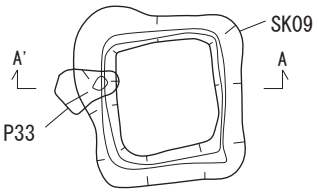


1. 2.5Y8/1灰白色粘土2.5Y8/2灰白色 粘土をブロック状に含む
炭化物わずかに混じる。
2. 7.5YR7/1明褐灰色シルトと5YR7/8橙色 砂質シルトの斑土
2.5Y8/1灰白色 粘土がブロック状に混じる。
3. 7.5YR5/3にぶい褐色

SK09出土状況図（ⅤH1r）



SK09, P33（ⅤH1r）

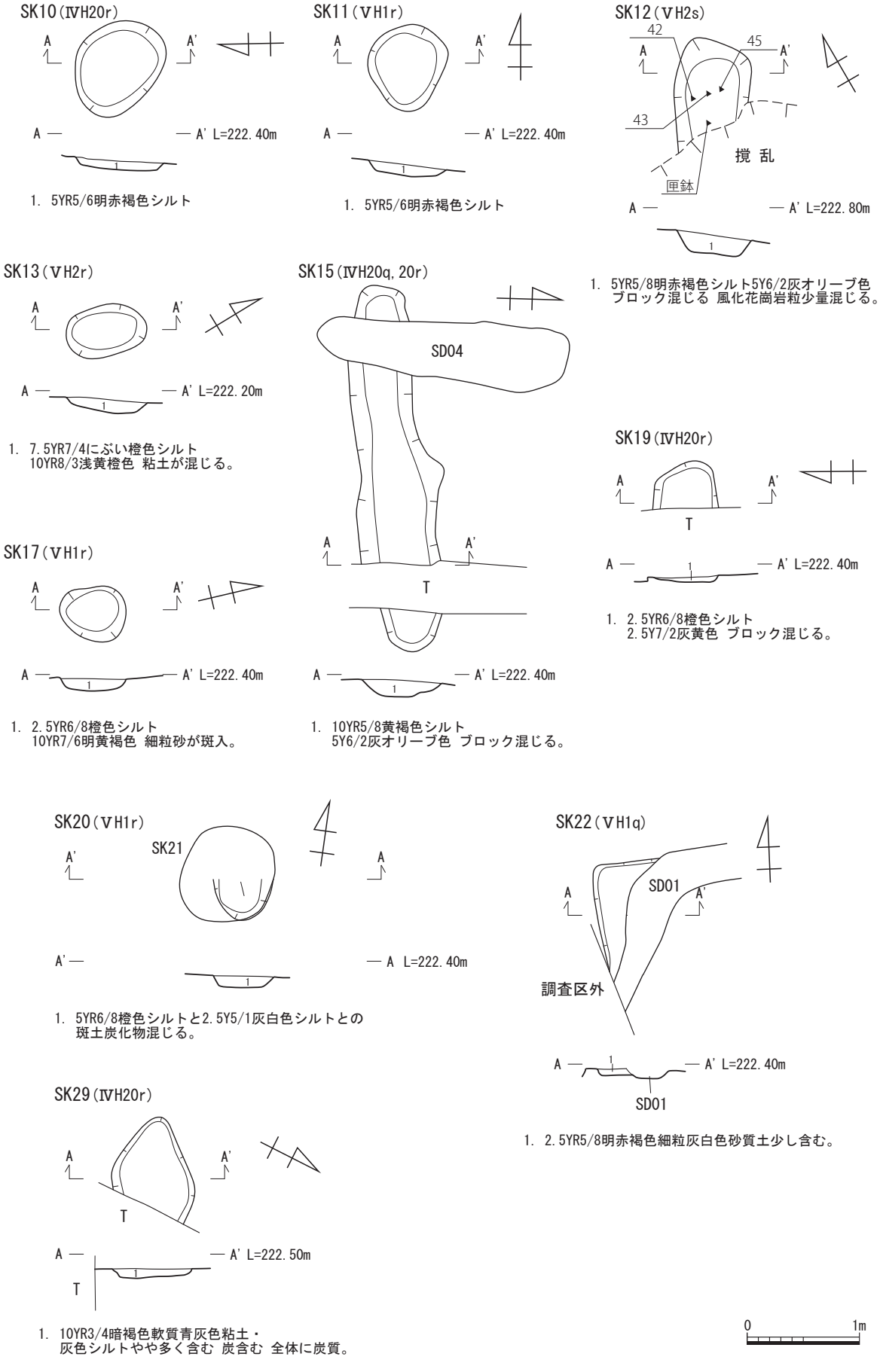


SK09
盛土
1. 2.5Y8/1灰白色粘土
2. 5YR6/8橙色シルト
3. 7.5YR7/2明褐灰色シルト2.5Y8/1灰白色粘土が混じる
炭化物をわずかに含む。
4. 10YR6/2灰黄褐色シルト炭化物を多量に含む
2.5Y8/1灰白色 粘土が斑入。
5. 5YR6/8橙色砂質シルト 7.5YR8/6浅黄橙色シルトが斑入
10YR8/2灰白色 中粒砂を少量含む。
6. 10YR7/1灰白色粘土炭化物を少量含む。
7. 7.5YR5/8明褐色細粒砂
10YR8/3浅黄橙色中粒砂が混じる 炭化物を少量含む。
8. 5YR6/8橙色砂質シルト
10YR8/2灰白色 中粒砂が斑入。
9. 10YR6/2灰黄褐色中粒砂
5YR6/8橙色砂質シルトの斑土 遺物を包含。
10. 10YR8/3浅黄橙色粘土
2.5Y8/2灰白色粘土を塊状に含む。
11. 2.5Y8/1灰白色粘土炭化物わずかに含む。
12. 10YR6/4にぶい黄橙色細粒砂
2.5Y8/1灰白色粘土がブロック状に混じる。
13. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質シルト層状に含む。

P33
a. 5Y6/4オリーブ黄色砂質
b. 10YR6/4にぶい黄橙色極めて軟質

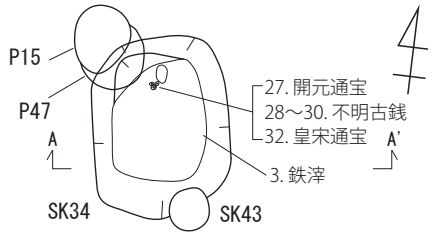
0 1m

第36図　A区 土坑(SX01：SK04・05・08・09、P33) 平面図・土層断面図（1:50）

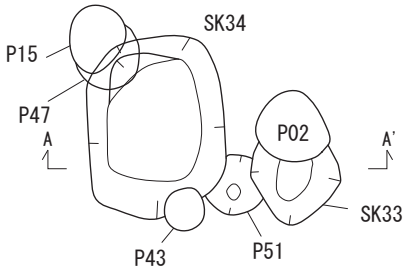


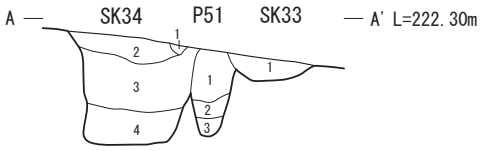
第 37 図　A 区 土坑 (SX01：SK10 ～ 13・15・17・19・20・22・29) 平面図・土層断面図（1:50）

SK34出土状況図（VH1r）



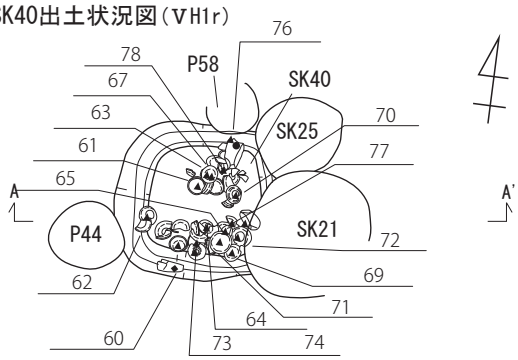
SK33, SK34, P51（VH1r）



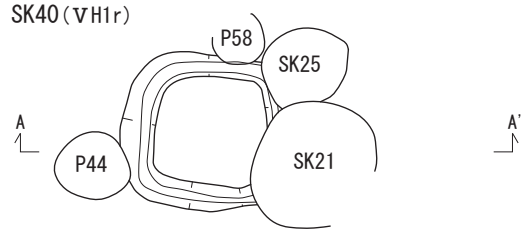


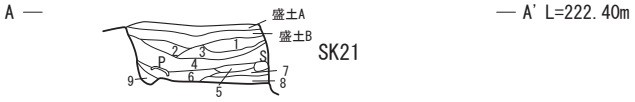
SK33
1. 2.5YR5/6明赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む 炭少し含む。
SK34
1. 7.5GY7/1明緑灰色長石混シルト
2. 5YR5/4にぶい赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む。軟質。
3. 2.5YR4/6赤褐色砂質砂・シルト含む。軟質。
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。
P51
1. 5YR5/6明赤褐色砂質橙色土の斑が強い 砂・シルト多く含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色極めて軟質混入物少ない。

SK40出土状況図（VH1r）

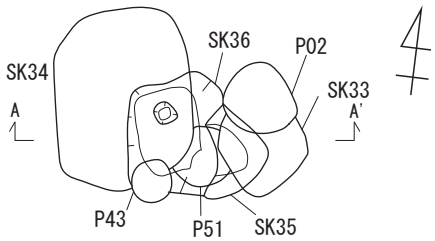


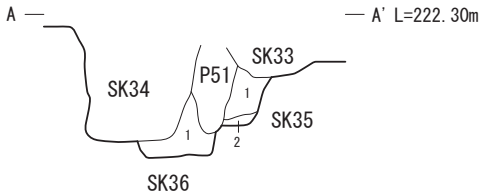
SK40（VH1r）





SK35, SK36（VH1r）





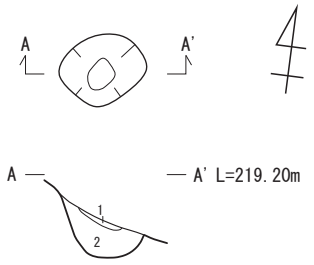
SK35
1. 5YR5/8明赤褐色やや軟質砂・シルト少し含む。
2. 5YR5/6明赤褐色軟質
SK36
1. 2.5Y5/3黄褐色砂質砂・シルト多く含む 炭わずかに含む。

SK40
1. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト・粘土橙色砂まばらに含む 炭やや多く含む。
2. 7.5Y5/2灰オリーブ色シルト粘土多く含む 灰黄色砂少し含む。
3. 10GY6/1緑灰色粘土粘土塊で、その隙間を灰質土・シルトが充てん。
4. 2.5Y5/3黄褐色砂淡黄色・灰色砂とシルトが斑入。
5. 10Y6/1灰色粘土橙色砂弱い互層状に挟む。
6. 10GY6/1緑灰色粘土粘土塊すきまは橙色砂。
7. 炭化物層
8. 10Y4/2オリーブ灰色シルト・灰質土
9. 5Y4/3暗オリーブ色細砂質土周溝

盛土
A. 2.5YR5/3にぶい赤褐色硬質粘土含む シルト・灰質土多く含む 炭多く含む。
B. 10YR6/4にぶい黄橙色砂橙色砂と 灰黄色シルトを互層状に挟む 炭まばらに含む。

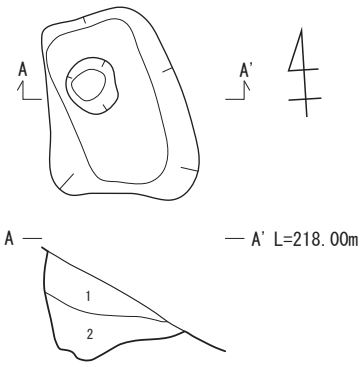
第 38 図　A 区 土坑他 (SX01：SK33 ～ 36・40、P51) 平面図・土層断面図（1:50）

SK51（ⅤH2t）



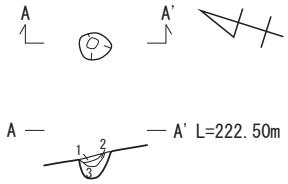
1. 7.5YR4/3褐色シルト炭化物わずかに含む
盛り土の下部を考えられる。
2. 1に5YR7/8橙色シルト斑入同色の
ブロックが混じる 2.5Y8/2灰白色 ブロック。

SK52（ⅤH1t）



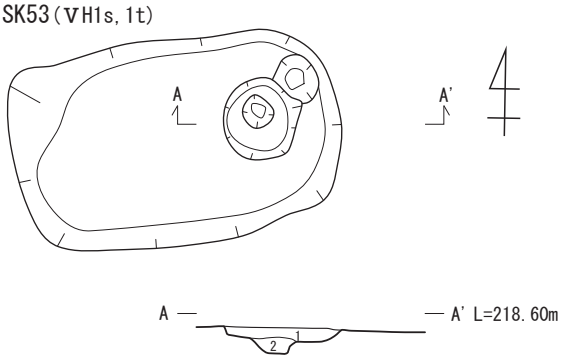
1. 7.5YR4/3褐色シルト7.5YR7/3にぶい橙色
細粒砂が斑入 風化花崗岩粒が少量混じる。
2. 7.5YR7/3にぶい橙色細粒砂 7.5YR4/3褐色との斑土
風化花崗岩ブロック細粒が混じる。

P11（ⅤH1q）



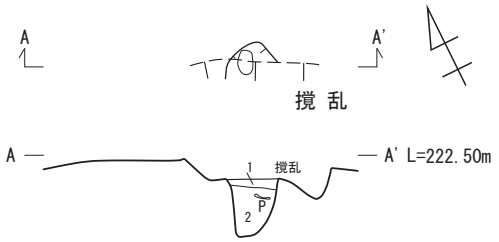
1. 2.5Y8/2灰白色粘土
2. 5YR7/8橙色砂質シルト
焼土わずかに混じる。
3. 7.5YR7/4にぶい橙色細粒砂

SK53（ⅤH1s,1t）



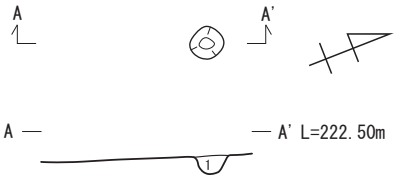
1. 5YR5/4にぶい赤褐色砂質風化花崗岩の粒子を多く含む。
2. 2.5YR5/8明赤褐色砂含む 炭少し含む。

P07（ⅤH2r）



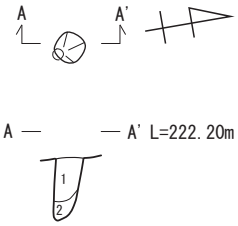
1. 10YR7/3にぶい黄橙色細砂砂
2.5Y7/1灰白色・粘土をブロック状に含む。
炭化物・焼土を少量含む。
2. 5YR6/8橙色シルト
2.5Y8/2灰白色・粘土・炭化物を少量含む。
焼土混じる。

P12（ⅤH1r）



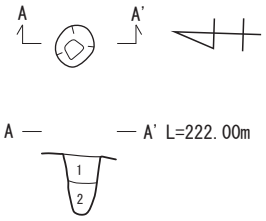
1. N-4灰色砂質シルトに5YR6/8橙色・中粒砂の斑土。
2.5Y8/2灰白色 粘土が斑入 炭化物が混じる。

P16（ⅤH2r）



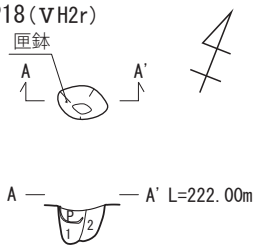
1. 5YR6/6橙色シルト
2.5Y6/2灰黄色粗粒砂少量混じる。
2. 5YR5/8明赤褐色シルト

P17（ⅤH2r）



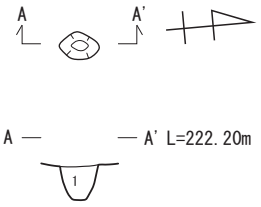
1. 7.5YR5/6明褐色シルト
2. 5YR5/6明赤褐色シルト

P18（ⅤH2r）



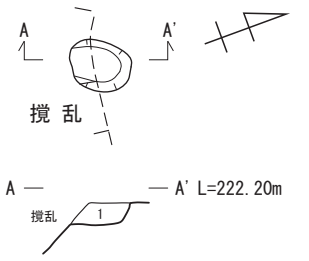
1. 5YR6/8橙色シルト
5Y7/2灰白色ブロック混じる
炭化物わずかに混じる。
2. 5YR5/6明赤褐色シルト

P19（ⅤH2r）



1. 5YR6/8橙色シルト
2.5Y8/1灰白色粘土わずかに混じる
炭化物わずかに混じる。

P20（ⅤH2r）

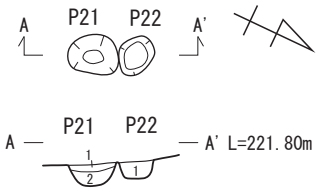


1. 5YR5/6明赤褐色シルト
炭化物わずかに混じる。

0 1m

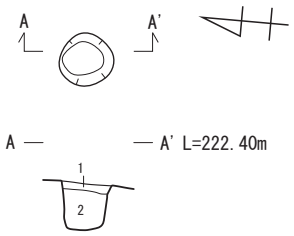
第39図　A区 土坑他 (SX01：SK51 ～ 53、P7・11・12・16 ～ 20) 平面図・土層断面図（1:50）

P21，P22（ⅤH2s）



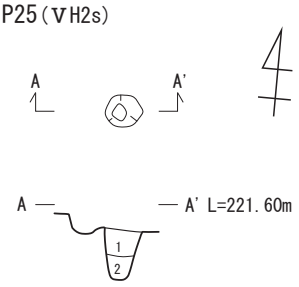
P21
1. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト
2. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト
P22
1. 7.5YR4/4褐色シルト

P24（ⅤH1r,2r）



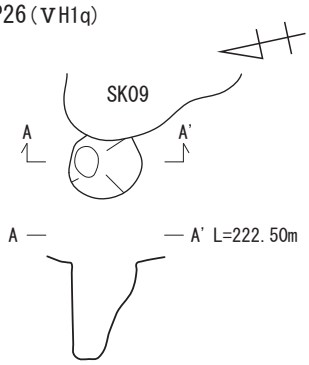
1. 5YR6/8橙色シルト5Y7/1灰白色
粘土をブロック状に含む
炭化物わずかに含む。
2. 5YR5/6明赤褐色シルト5Y7/2灰白色
ブロックを含む。

P25（ⅤH2s）

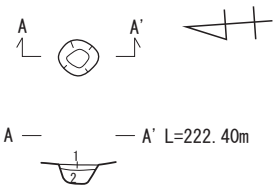


1. 10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト
2. 5YR5/6明赤褐色砂質シルト

P26（ⅤH1q）

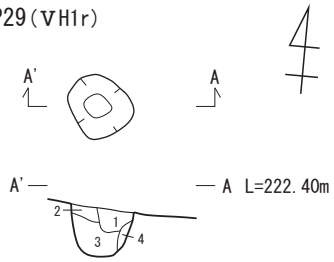


P27（ⅤH1q）



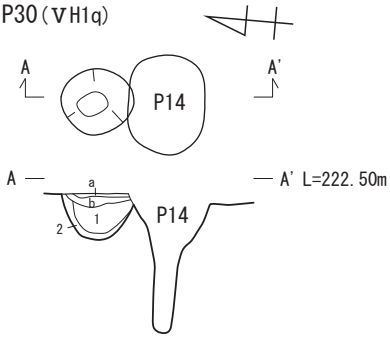
1. 5YR4/2灰褐色シルト
2.5YR5/8明赤褐色 ブロック砂
炭化物少量混じる
2.5Y7/2灰黄色ブロック少量混じる。
2. 2.5YR6/8橙色シルト
2.5Y7/2灰黄色ブロック
わずかに混じる。

P29（ⅤH1r）



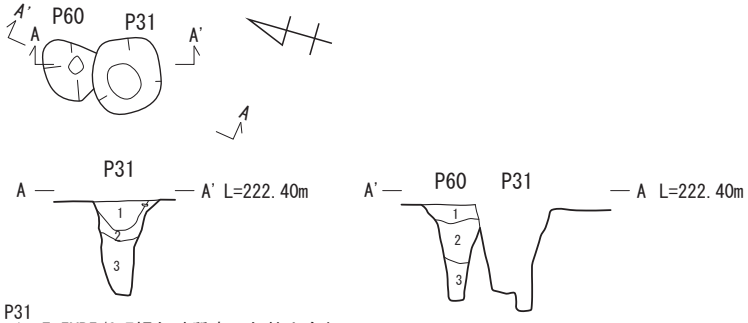
1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質白灰色粘土含む
炭わずかに含む。
2. 7.5YR5/6明褐色砂質炭わずかに含む。
3. 7.5YR4/6褐色砂質やや軟質 炭わずかに含む。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色軟質炭まばらに含む。

P30（ⅤH1q）



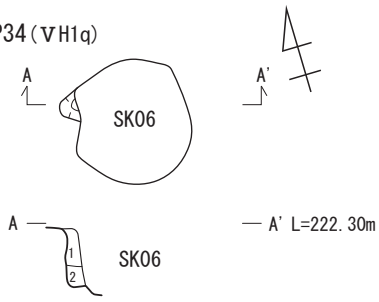
盛土
a. 7.5YR6/6橙色砂質青灰色粘土層状に含む
炭まばらに含む。硬質。
b. 2.5YR5/8明赤褐色砂質青灰色粘土少し含む。
P30
1. 7.5GY6/1緑灰色シルト質粘土集塊状。
2. 5Y5/4オリーブ色砂質粘土少し含む。

P31，P60（ⅤH1r）



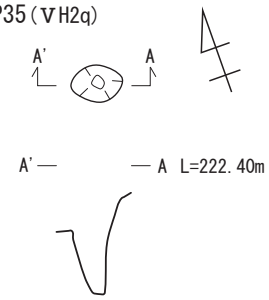
P31
1. 7.5YR5/6明褐色砂質青灰色粘土含む。
2. 2.5YR5/8明赤褐色細粒やや軟質 青灰色粘土少し含む。
3. 2.5YR5/8明赤褐色細粒軟質 青灰色シルト少し含む。
P60
1. 10GY6/1緑灰色粘土質軟質 黄橙色砂互層状に挟む。盛土の一部。
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質赤色砂質土強い斑状に含む。
3. 5Y5/4オリーブ色細砂質赤橙色砂斑状に含む。極めて軟質。

P34（ⅤH1q）



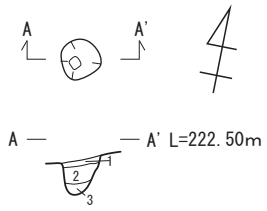
1. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト
2. 1に焼土わずかに混じる
極めて軟質 未固結状。

P35（ⅤH2q）



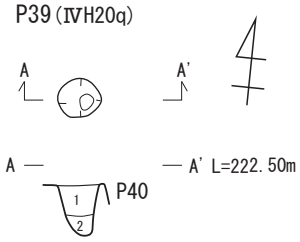
第 40 図　A 区 ピット (SX01：P21・22・24 ～ 27・29 ～ 31・34・35・60) 平面図・土層断面図（1:50）

P38（ⅣH20q）



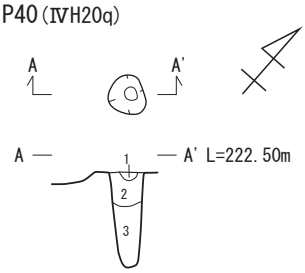
1. 7.5YR5/6明褐色砂質炭少し含む
   灰色砂まばらに含む。
2. 5YR5/6明赤褐色砂質軟質。
3. 10YR5/6黄褐色細粒極めて軟質。

P39（ⅣH20q）



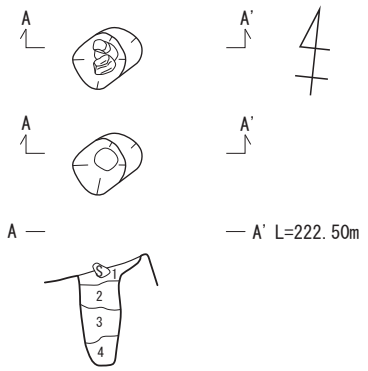
1. 10YR5/6黄褐色砂質灰色砂斑状に含む
   灰色砂と橙色砂の混 炭少し含む。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質軟質。

P40（ⅣH20q）



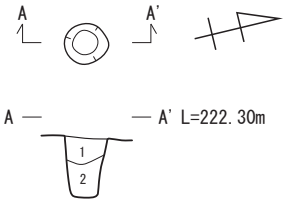
1. 10YR5/6黄褐色軟質炭少し含む。
2. 5YR5/6明赤褐色砂質
3. 7.5YR5/6明褐色軟質

P42出土状況図（ⅤH1q）



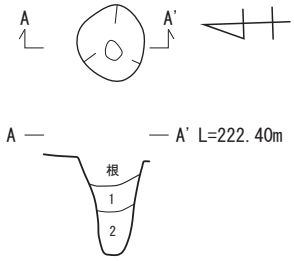
1. 5YR5/6明赤褐色砂質灰色シルト・青灰色粘土・
   黄灰色砂ブロック斑状に含む。
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質軟質。
3. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質赤橙色砂ブロック斑状に含む。
4. 5YR5/6明赤褐色砂質極めて軟質。

P43（ⅤH1r）



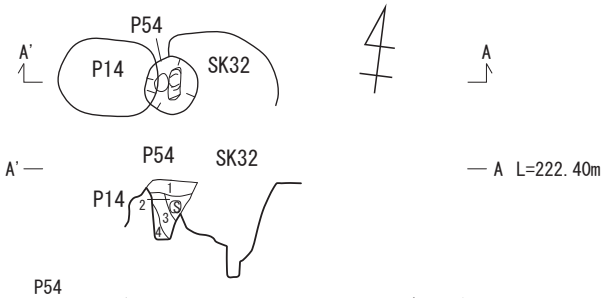
1. 2.5YR5/6明赤褐色青灰色シルト含む
   炭わずかに含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色軟質

P44（ⅤH1q）



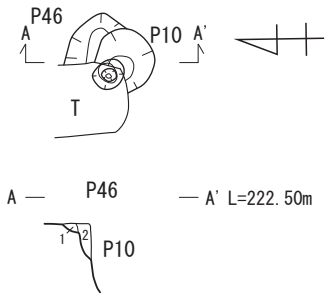
1. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質
2. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質軟質。

P54出土状況図（ⅤH1r）



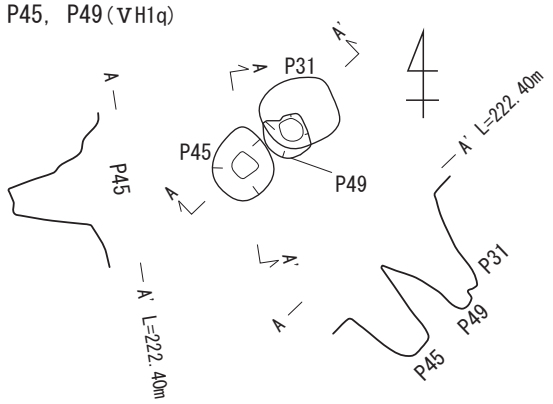
P54
1. 2.5Y6/4にぶい黄色灰質・シルト質炭まばらに含む
   粘土層状に含む。
2. 10YR6/3にぶい黄橙色灰質炭やや多く含む。
3. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質軟質。
4. 2.5Y5/4黄褐色硬質炭多く含む。

P46（ⅤH1r）

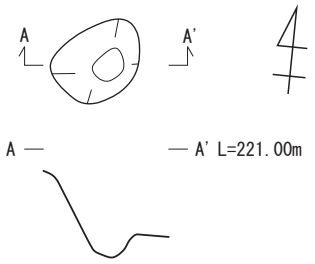


SX01 P46
1. 7.5YR5/4にぶい褐色軟質
2. 2.5YR4/6赤褐色砂質硬質 灰色砂多く含む。

P45，P49（ⅤH1q）

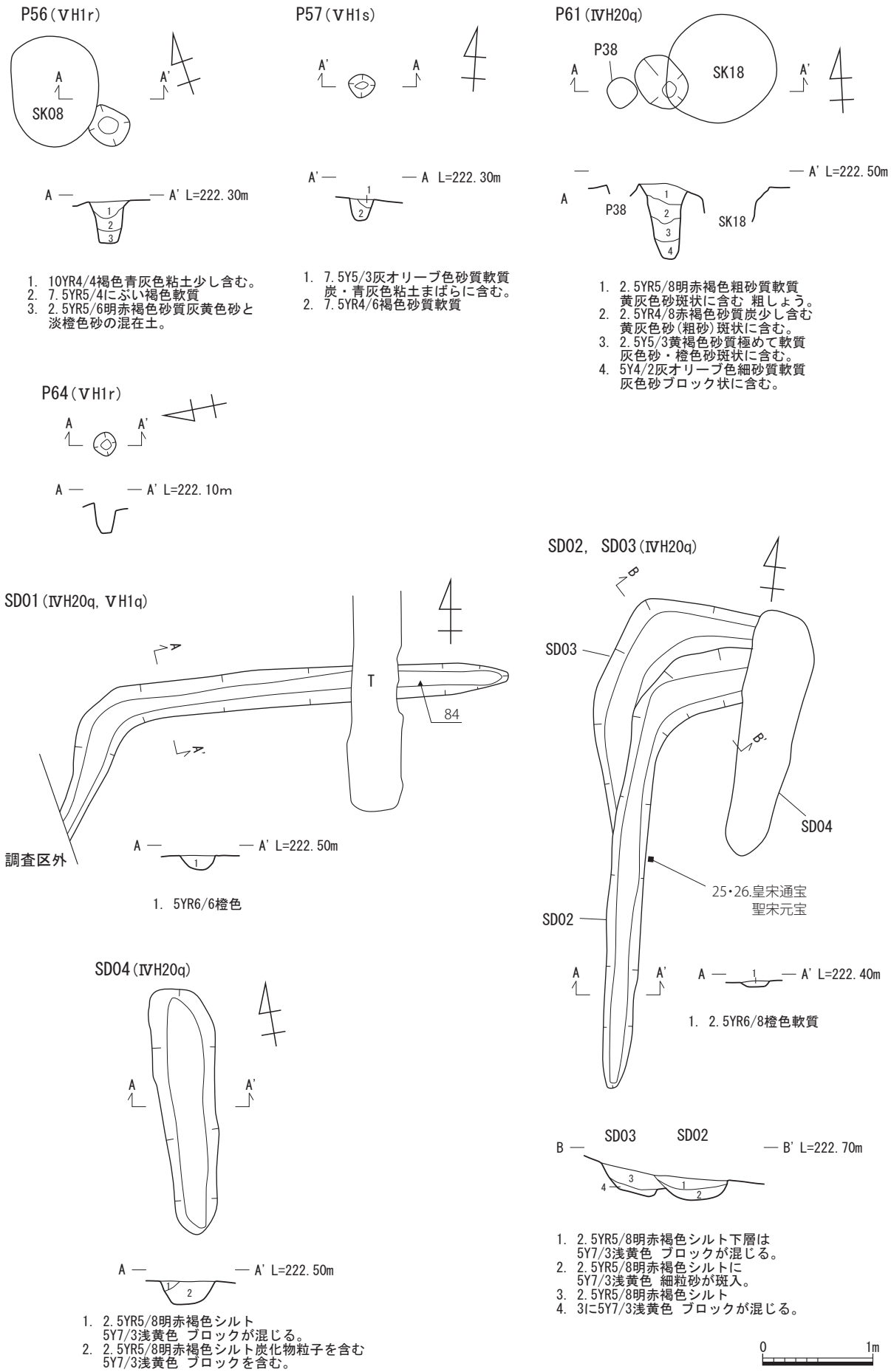


P48（ⅤH2s）



0　1m

第41図　A区ピット(SX01：P38～40・42～46・48・49・54)平面図・土層断面図（1:50）



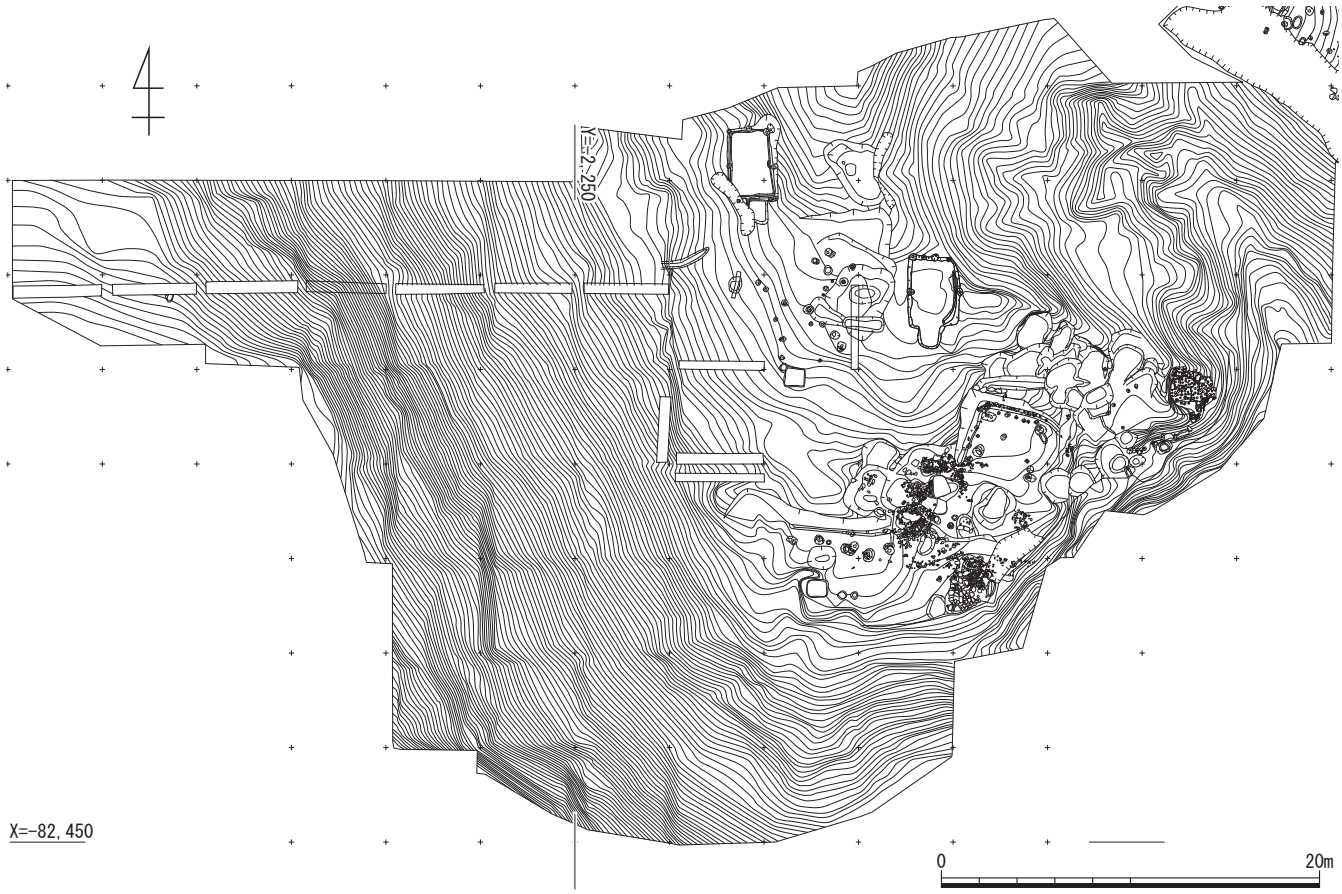
第 42 図　A 区 ピット、溝 (SX01：P56・57・61・64、SD01 ～ 04) 平面図・土層断面図（1:50）

第 3 節　E 区の遺構

1. 遺構の概要

E 区は丘陵南端西側の緩く傾斜した平坦部である。最上部の標高は 222m90㎝であるが、丘陵の最高頂部はおそらく北側の造成工事により失われた部分にあったと思われる。調査前、窯道具の匣鉢やピンが散乱し、緩く傾斜した平坦な面が多く見られ、丘陵南東端には窯体の一部が露出していた。窯体の東側が谷状を呈し、E 区の北側は造成工事により、東側は地滑りにより、それぞれ滅失し旧地形が失われていたため、平坦面は最近のものと考えて調査を開始したところ想定外の規模の遺構であった。

窯体 1 基 SY01 とその西側全面に工房址が広がっていた。丘陵頂部から斜面上部に平坦な作業場を造成し、竪穴 2 ヶ所 SB02・03、竪穴建物 2 棟 SB01、SX06、掘立建物 1 棟 SX03、粘土溜 1 ヶ所 SX02-SK02、轆轤作業場 2 ヶ所 SB05・04 と SX02 を設けている。E 区は丘陵全域で、轆轤から製品選別までの一連作業が行われ、焼き物工場のような状況が窺える。



第 43 図　D・E 区全体図（1:50）

SY01 は床面及び壁面の一部が残存するのみで窯体東側は地滑りで既に流失していた。中軸線はほぼ南北方向、現存長さは 2m40㎝、燃焼室の幅 2m、焼成室床面傾斜 26 度を測る。燃焼室に分焔柱と小分焔柱 3 本、焼成室床面では焼台の痕跡が見られた。出入口は西側の壁面から、東側にあったようである。焚き口の床に石が敷かれ、焚き口の西側には丘陵縁辺に添って石垣の様に石が据えられていた。大きいものでは 80㎝× 30㎝を測る。大石と大石の間に小石を詰め斜面の土留めも兼ねていたようで 1m80㎝間の部分が残っていた。石はすべて花崗岩の円礫であった。焚き口の状況から窯前部分が南側に 1m 前後あったと思われる。また窯に伴う土坑として SY01-SK01、SY01-SK02、SY01-SK03、SY01-SK04 がある。

竪穴として、丘陵最高位の標高 222m にある不整形な竪穴 SB02 とやや下った南側に歪んだ形状の竪穴 SB03 が見られる。SB02、SB03 ともに柱の痕跡はない。

竪穴建物は SB01、SX06 でいずれも主軸が南北で、入り口が南側にある長方形状竪穴建物で、奥の柱が両隅だけでなく、三本目が入り口に対峙した位置に、つまり二本の間に見られる。
SB01 は SB03 の東側にあり、竪穴の手前半分には柱が見られず奥半分に一間×一間の柱穴が見られる。
SX06 は西北端にあり一間×二間の柱穴が見られる。25 個の匣鉢が伏せた状態で出土した。

掘立柱建物 SX03 は窯 SY01 の西南側にある大形の掘立柱建物で、一間（4m）×一間（6m）の南側に立て替えの柱が見られた。周りには匣鉢と挟み皿が積み上げられ、窯出し製品の選別作業の建物であった。

轆轤ピットを擁した作業場として、北側斜面を削り平坦部を設けた SB04 と SB05 の南側、SX02 に見られた。SB04 と SB05 は北側の斜面を削り長軸 4m 幅の平坦となっている。SX02 は丘陵南端部に位置する二段の平坦部である。上段の平坦には大形の土坑も見られた。下段は上段との比高差 30㎝あり、西側に轆轤ピットが、東側縁辺では小規模であるが土盛造成の石敷（SK07）が見られた。

轆轤ピットは SB04 と SB05 の南西側には P121、P117、SB03-P01 が、P121、P117、SB03-P01 の南西側、丘陵西側縁辺には P119、P113、P123 と P116、P122、P115 が見られた。SX02 の上段には P09 と P12 が、下段には P03c、P06 が北側に、P08、P07 は遺跡の中では最南端の遺構である。

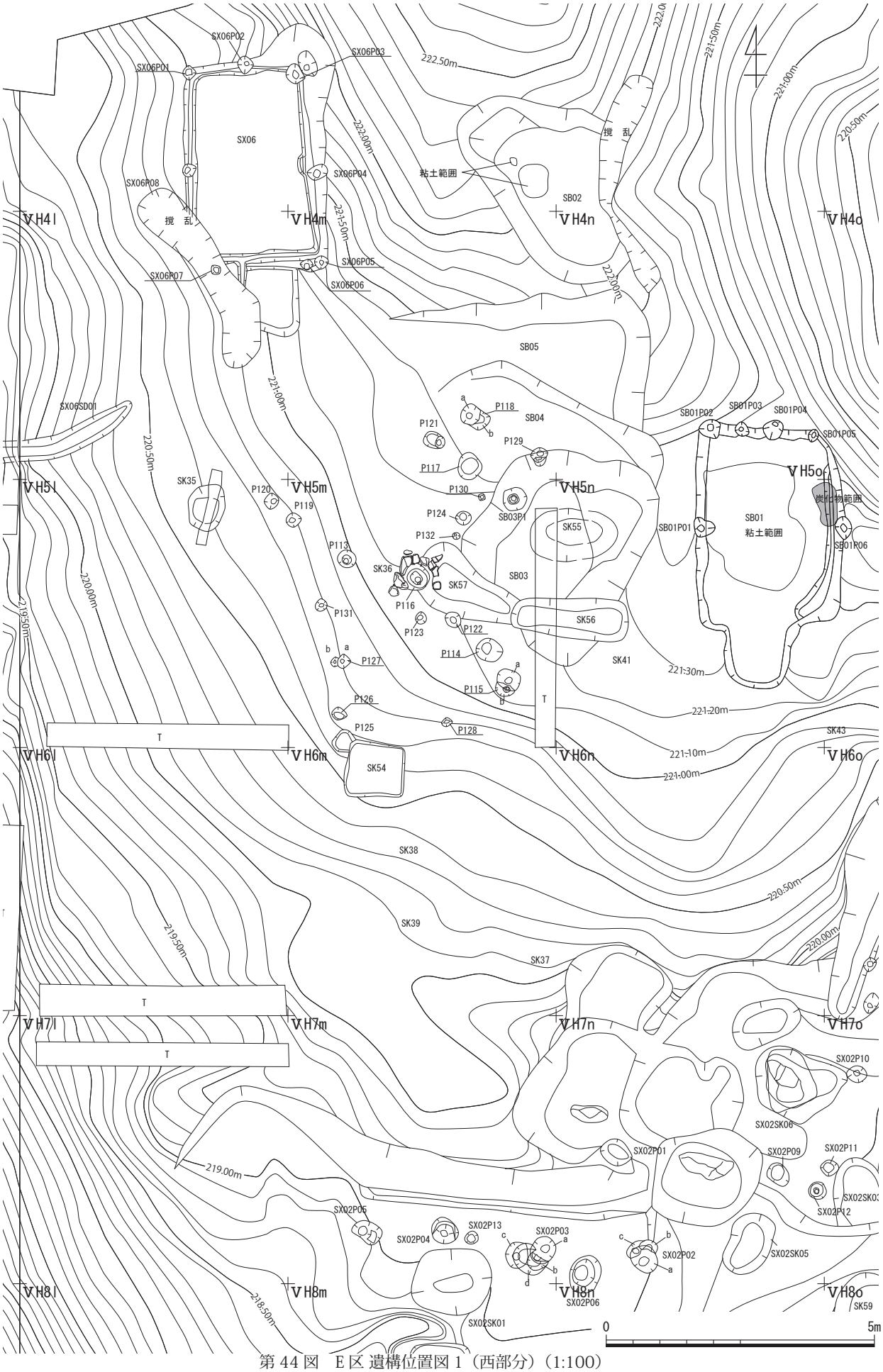
粘土溜　SX02 の下段に SX02-SK02 で断面が箱形である。

柵　SX02 の下段北側沿い、壁際溝の南に柱列が西より SX02-P06、SX02-P04、SX02-P13、SX02-P03a、SX02-P02 が見られた。SX02 上段際を利用した差掛けの覆い屋根の柱の可能性もある。

石敷　丘陵南東端で SX02 の下段に見られた SK07 で、小規模の石敷があり A 区の石敷同様に土盛し造成後、花崗岩の円礫を 69 個敷いていた。

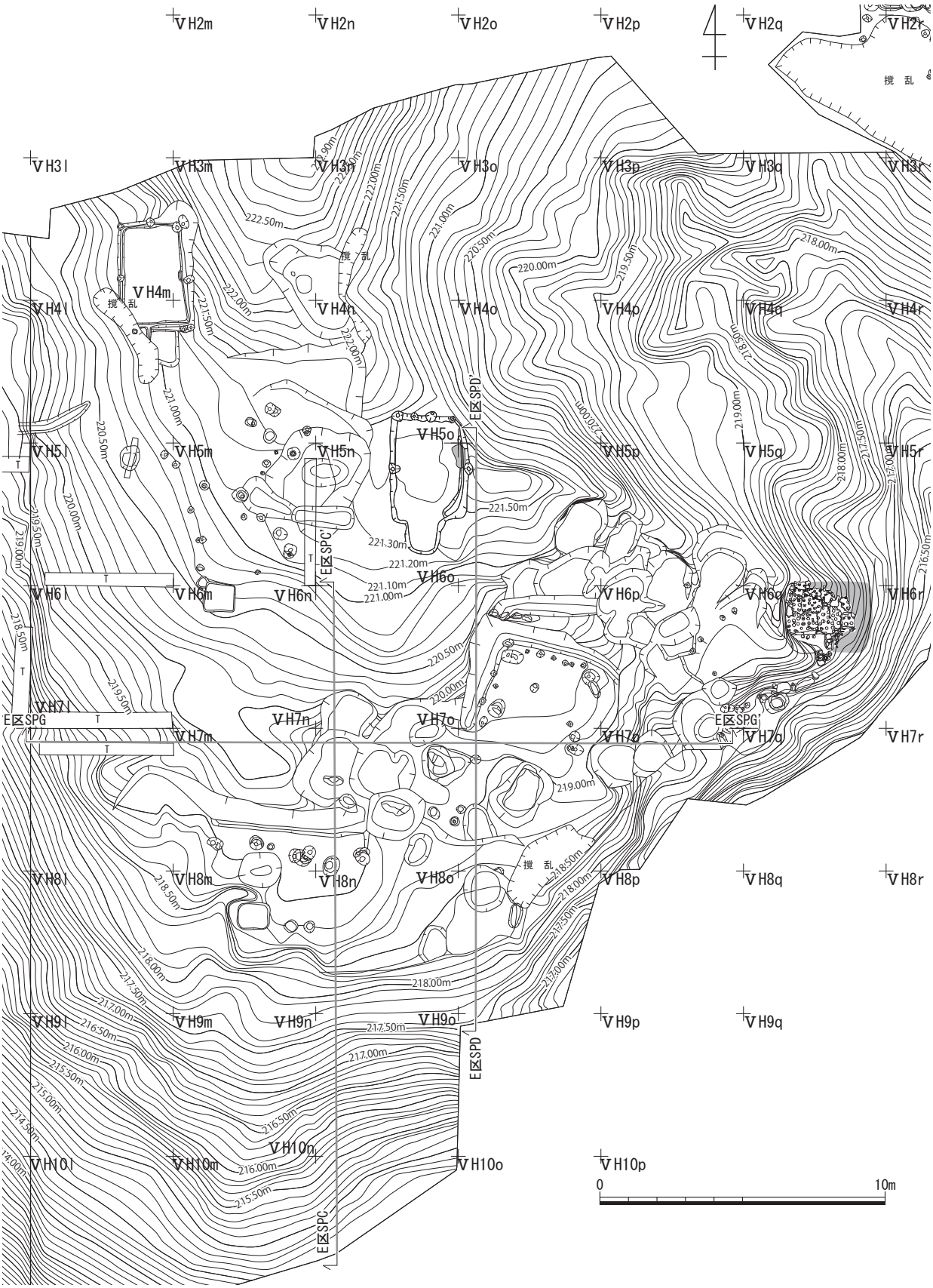
その他の土坑　SX02 の上段の南東端、轆轤ピット P12 の東側に SK03 が見られる。浅い土坑で焼台付き床面ブロックが逆さに二個東西に並べられていた。

土壙墓　丘陵西端で西側を見おろす場所に SK35 はある。花崗岩の角礫により土坑が埋められ、志野の小碗と擂鉢底部片が出土した。



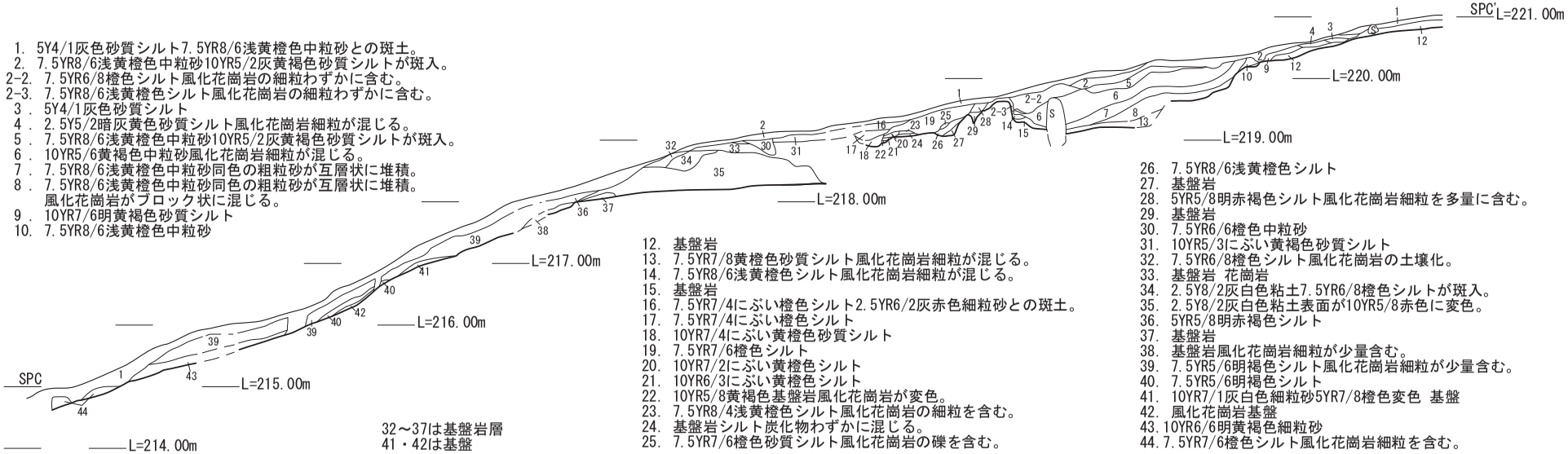
第 44 図　E 区 遺構位置図 1（西部分）（1:100）

第 45 図　E 区 遺構位置図 2（東部分）（1:100）



第 46 図　E 区 土層ベルト位置図（1:200）

SPC nライン南北ベルト



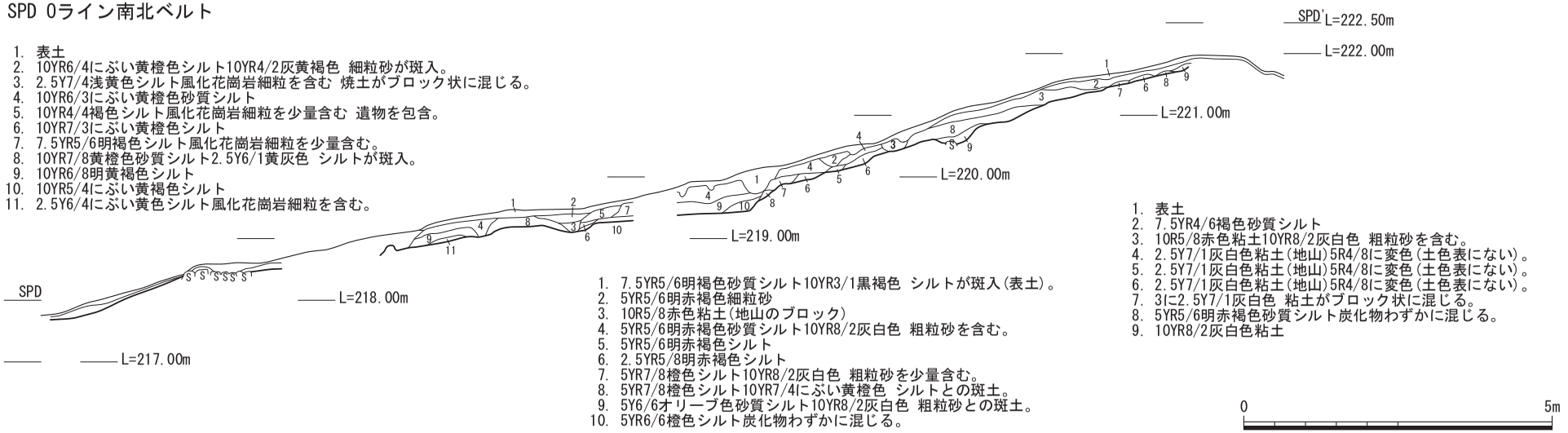
1. 5Y4/1灰色砂質シルト7.5YR8/6浅黄橙色中粒砂との斑土。
2. 7.5YR8/6浅黄橙色中粒砂10YR5/2灰黄褐色砂質シルトが斑入。
2-2. 7.5YR6/8橙色シルト風化花崗岩の細粒わずかに含む。
2-3. 7.5YR8/6浅黄橙色シルト風化花崗岩の細粒わずかに含む。
3. 5Y4/1灰色砂質シルト
4. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト風化花崗岩細粒が混じる。
5. 7.5YR8/6浅黄橙色中粒砂10YR5/2灰黄褐色砂質シルトが斑入。
6. 10YR5/6黄褐色中粒砂風化花崗岩細粒が混じる。
7. 7.5YR8/6浅黄橙色中粒砂同色の粗粒砂が互層状に堆積。
8. 7.5YR8/6浅黄橙色中粒砂同色の粗粒砂が互層状に堆積。
風化花崗岩がブロック状に混じる。
9. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト
10. 7.5YR8/6浅黄橙色中粒砂

32～37は基盤岩層
41・42は基盤

12. 基盤岩
13. 7.5YR7/8黄橙色砂質シルト風化花崗岩細粒が混じる。
14. 7.5YR8/6浅黄橙色シルト風化花崗岩細粒が混じる。
15. 基盤岩
16. 7.5YR7/4にぶい橙色シルト2.5YR6/2灰赤色細粒砂との斑土。
17. 7.5YR7/4にぶい橙色シルト
18. 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト
19. 7.5YR7/6橙色シルト
20. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト
21. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト
22. 10YR5/8黄褐色基盤岩風化花崗岩が変色。
23. 7.5YR8/4浅黄橙色シルト風化花崗岩の細粒を含む。
24. 基盤岩シルト炭化物わずかに混じる。
25. 7.5YR7/6橙色砂質シルト風化花崗岩の礫を含む。

26. 7.5YR8/6浅黄橙色シルト
27. 基盤岩
28. 5YR5/8明赤褐色シルト風化花崗岩細粒を多量に含む。
29. 基盤岩
30. 7.5YR6/6橙色中粒砂
31. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト
32. 7.5YR6/8橙色シルト風化花崗岩の土壌化。
33. 基盤岩 花崗岩
34. 2.5Y8/2灰白色粘土7.5YR6/8橙色シルトが斑入。
35. 2.5Y8/2灰白色粘土表面が10YR5/8赤色に変色。
36. 5YR5/8明赤褐色シルト
37. 基盤岩
38. 基盤岩風化花崗岩細粒が少量含む。
39. 7.5YR5/6明褐色シルト風化花崗岩細粒が少量含む。
40. 7.5YR5/6明褐色シルト
41. 10YR7/1灰白色細粒砂5YR7/8橙色変色 基盤
42. 風化花崗岩基盤
43. 10YR6/6明黄褐色細粒砂
44. 7.5YR7/6橙色シルト風化花崗岩細粒を含む。

SPD 0ライン南北ベルト

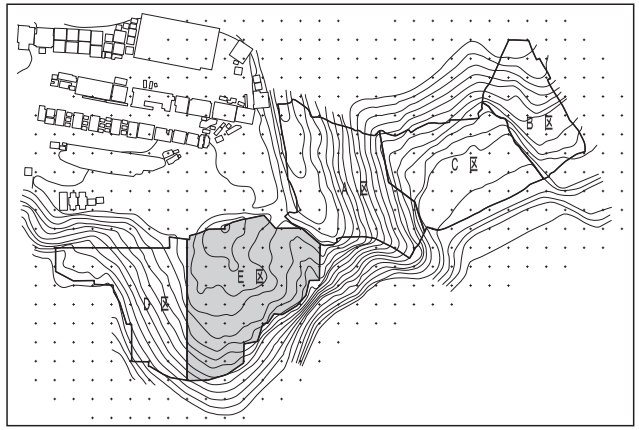


1. 表土
2. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト10YR4/2灰黄褐色 細粒砂が斑入。
3. 2.5Y7/4浅黄色シルト風化花崗岩細粒を含む 焼土がブロック状に混じる。
4. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト
5. 10YR4/4褐色シルト風化花崗岩細粒を少量含む 遺物を包含。
6. 10YR7/3にぶい黄橙色シルト
7. 7.5YR5/6明褐色シルト風化花崗岩細粒を少量含む。
8. 10YR7/8黄橙色砂質シルト2.5Y6/1黄灰色 シルトが斑入。
9. 10YR6/8明黄褐色シルト
10. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
11. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト風化花崗岩細粒を含む。

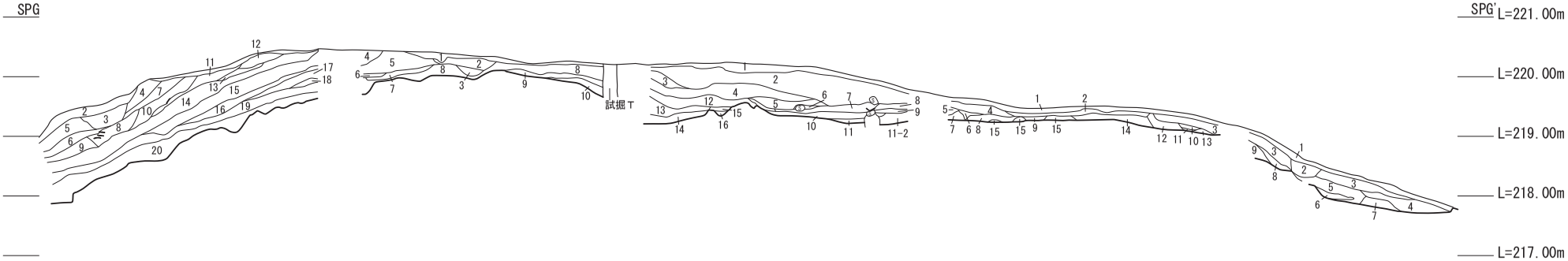
1. 7.5YR5/6明褐色砂質シルト10YR3/1黒褐色 シルトが斑入(表土)。
2. 5YR5/6明赤褐色細粒砂
3. 10R5/8赤色粘土(地山のブロック)
4. 5YR5/6明赤褐色砂質シルト10YR8/2灰白色 粗粒砂を含む。
5. 5YR5/6明赤褐色シルト
6. 2.5YR5/8明赤褐色シルト
7. 5YR7/8橙色シルト10YR8/2灰白色 粗粒砂を少量含む。
8. 5YR7/8橙色シルト10YR7/4にぶい黄橙色 シルトとの斑土。
9. 5Y6/6オリーブ色砂質シルト10YR8/2灰白色 粗粒砂との斑土。
10. 5YR6/6橙色シルト炭化物わずかに混じる。

1. 表土
2. 7.5YR4/6褐色砂質シルト
3. 10R5/8赤色粘土10YR8/2灰白色 粗粒砂を含む。
4. 2.5Y7/1灰白色粘土(地山)5R4/8に変色(土色表にない)。
5. 2.5Y7/1灰白色粘土(地山)5R4/8に変色(土色表にない)。
6. 2.5Y7/1灰白色粘土(地山)5R4/8に変色(土色表にない)。
7. 3に2.5Y7/1灰白色 粘土がブロック状に混じる。
8. 5YR5/6明赤褐色砂質シルト炭化物わずかに混じる。
9. 10YR8/2灰白色粘土

第 47 図　E 区 SPC・SPD ライン南北ベルト土層図（1:100）



SPG 7ライン西東ベルト



1. 7.5YR7/6橙色シルト10YR4/1褐灰色 細粒砂が斑入。
2. 5YR6/8橙色シルト10YR8/2灰白色 粗粒砂わずかに混じる。
3. 7.5YR5/6明褐色シルト5YR5/8明赤褐色
シルトがブロック状に混じる
10YR8/2灰白色 粗粒砂がわずかに混じる。
4. 7.5YR6/8橙色シルト締まりなし。
5. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
5YR5/8明赤褐色 粘土がブロック状に混じる 締まりなし。
6. 10YR5/6黄褐色砂質シルト粗粒砂を少量含む 締まりなし。
7. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
8. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
9. 10YR6/6明黄褐色シルト
10. 10YR8/4浅黄橙色砂質シルト

1. 表土
2. 10YR3/4暗褐色シルト2.5Y8/1灰白色 粘土粒が斑入。
3. 7.5YR5/6明褐色シルト風化花崗岩細粒を含む
焼土・炭化物混じる。
4. 5YR7/8橙色シルト2.5Y7/1灰白色 粘土をブロック状に含む
焼土わずかに混じる。
5. 7.5YR6/6橙色砂質シルト
6. 7層と同じ
7. 7.5YR7/6橙色シルト2.5Y7/1灰白色 粘土をブロック状に含む
焼土わずかに混じる。
8. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト2.5Y7/1灰白色 粘土ブロック(小)を含む
遺物を包含。
9. 5YR5/6明赤褐色シルト
10. 5YR6/8橙色シルト2.5Y7/1灰白色 粘土ブロック(小)を含む。

11. 7.5YR4/4褐色シルト2.5Y8/2灰白色 粘土を含む。
12. 5YR4/6赤褐色シルト風化花崗岩細粒を含む 焼土わずかに混じる。
13. 5YR6/8橙色シルト焼土が混じる。
14. 2.5YR5/8明赤褐色シルト5Y7/2灰白色 粘土ブロックを包含。
15. 7.5YR5/6明褐色シルト風化花崗岩粒を含む 焼土混じる。
16. 2.5Y6/8明黄褐色砂質シルト10YR7/3にぶい黄橙色
中粒砂の斑土 風化花崗岩粒を含む。
17. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト風化花崗岩細粒を含む。
18. 7.5YR5/8明褐色シルト粘性強い 風化花崗岩粒を含む。
19. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト風化花崗岩細粒を含む。
20. 10YR5/6黄褐色シルト風化花崗岩細粒を含む。

1. 7.5YR7/6橙色シルト10YR4/1褐灰色 細粒砂が斑入。
2. 5YR6/8橙色シルト10YR8/2灰白色 粗粒砂わずかに混じる。
3. 7.5YR5/6明褐色シルト5YR5/8明赤褐色 シルトがブロック状に混じる
10YR8/2灰白色 粗粒砂がわずかに混じる。
4. 7.5YR6/8橙色シルト締まりなし。
5. 10YR5/6黄褐色砂質シルト5YR5/8明赤褐色
粘土がブロック状に混じる 締まりなし。
6. 10YR5/6黄褐色砂質シルト粗粒砂を少量含む 締まりなし。
7. 10YR5/6黄褐色砂質シルト
8. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
9. 10YR6/6明黄褐色シルト
10. 10YR8/4浅黄橙色砂質シルト

2. 7.5YR5/4にぶい褐色シルトトチン等遺物を多量に含む。
3. ⅤH7oの3層と同じ
4. 2.5YR5/8明赤褐色シルト遺物を包含。
5. 10R6/8赤橙色シルト
6. 10YR5/2灰黄褐色細粒砂
7. 2.5YR5/8明赤褐色シルト10YR8/8黄橙色 細粒砂との斑土 遺物を包含。
8. 7.5YR6/4にぶい橙色シルト
9. 10YR7/1灰白色基盤岩を2.5YR7/8橙色 細粒砂の斑土。

0 5m

第48図 E区SPG7ライン西東ベルト土層図（1:100）

E 区は北側が造成工事、東側が地滑りにより旧地形が失われている。遺構が見られた部分と遺構立地可能な滅失部分を含め丘陵部全体の立地可能面積を復元すると約 1,425㎡である。1,425㎡の面積の約 61%、875㎡が滅失し、残った部分 39% の約 550㎡が遺構である。E 区は遺構立地可能な面積の約 25% を占める 350㎡に見られた遺構である。

E 区は丘陵の中心地区であり、造成工事と地滑りにより滅失した箇所に、窯が少なくとももう 1 基と数カ所の工房が展開していてもおかしくないのである。地形上の制約から窯体の西側、もしくは山側の斜面を削り平な部分を造り出し、工房を設けていたと考えられる。

窯体構造が窖窯と大窯では単純に比較するのは難しいが、窯体、工房、平場を含め施設全体の面積が、施設の整備に伴い広くなってきている。古瀬戸後期の瀬戸市鶯窯跡では、窖窯一基の西側と山側に削り込んだ施設が見られ、大雑把であるが約 500㎡の範囲に窯体と工房あるいは乾燥施設等が見られる。また古瀬戸系施釉陶器窯の土岐市下石西山窯跡では、一基の窖窯周辺に工房跡と思われる平坦面五面とセットとなる乾燥施設が見られ、窯と周辺施設の範囲は大雑把であるが約 650㎡の範囲で見られる。瀬戸市暁窯跡では窯体 3 基と工房跡の範囲が大雑把であるが約 425㎡の範囲である。

2. 土層　南北 SPC n ライン、SPD o ライン土層、西東 SPG 7 ラインのベルト土層

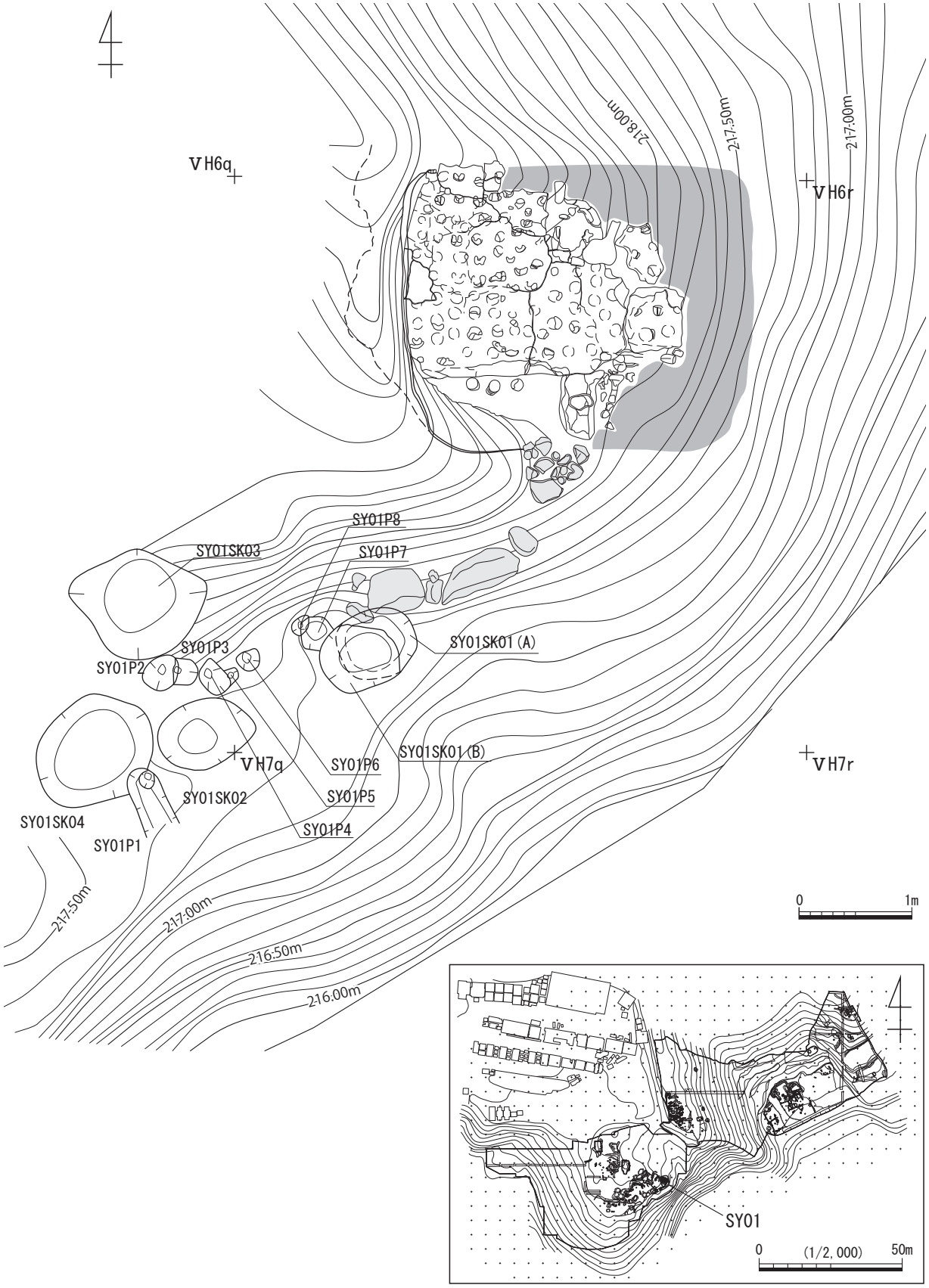
E 区の丘陵頂部平坦面から南側縁辺にかけての平坦面と斜面の土層である。E 区の南北を通した n ライン全長 12m60㎝と o ライン全長 10m40㎝の土層及び西東を通した 7 ライン全長 12m30㎝の土層である。丘陵東側（A 区東側）に比べ南側に緩い傾斜の丘陵で、花崗岩の基盤を削り遺構が形成されており、堆積土も南端になるほど薄くなり、厚い堆積でも 50㎝である。基本土層は表土、褐色砂質シルト、赤褐色粘質土、橙色シルト、基盤となる。平坦面では各層に炭化物などが混在していた。南端では堆積土が薄く基盤がそのまま露呈する部分も見られた。南北側は地山を削った造成である。西側に 1m50㎝の厚い土盛造成が見られ 12 層の土層は積み重ねただけでたたき締めた痕跡は見られなかった。南北に広い丘陵であったにもかかわらず、東側と西側それぞれの縁辺部を造成していたのである。

3.SY01　［巻頭図版 3、図版 7、図版 8、図版 9、図版 10、図版 11、図版 104］

（1）SY01　床面及び壁面の一部が残存するのみで窯体右側は地滑りで既に流失していた。

露出していた窯体はすでに『瀬戸市史　陶磁史篇四』平成 5 年発行に「窯体部は焼成室上方から煙道部にかけて既に削平されており、現在露出している左側火炎室は、横幅 1m、奥行 30㎝前後で、小分焔柱は四から五本立てられていたものと思われる。なお昇炎壁の高さは 30㎝前後で、焼成室の床面幅は昇炎壁の所で約 2.7㎝、最大幅は、そこからやや上方で 2.9m 程度となろう。」と記載されている。

窯体の左側で全体の 1/4 ほどが残っている状況で、現存長さは南北 2m40㎝、燃焼室の幅は東西 2m、焼成室床面傾斜 26 度を測る。窯体の燃焼室には分焔柱と小分焔柱 3 本、床面は二枚、焼成室床面に焼台の痕跡が 101 個見られた。床面に残された支柱が、初期は支柱が粘土のみを固めたブロック状から、次に竹と見られる棒状のもの二本を芯として粘土をかためていた痕跡が見られた。出入口は東側である。

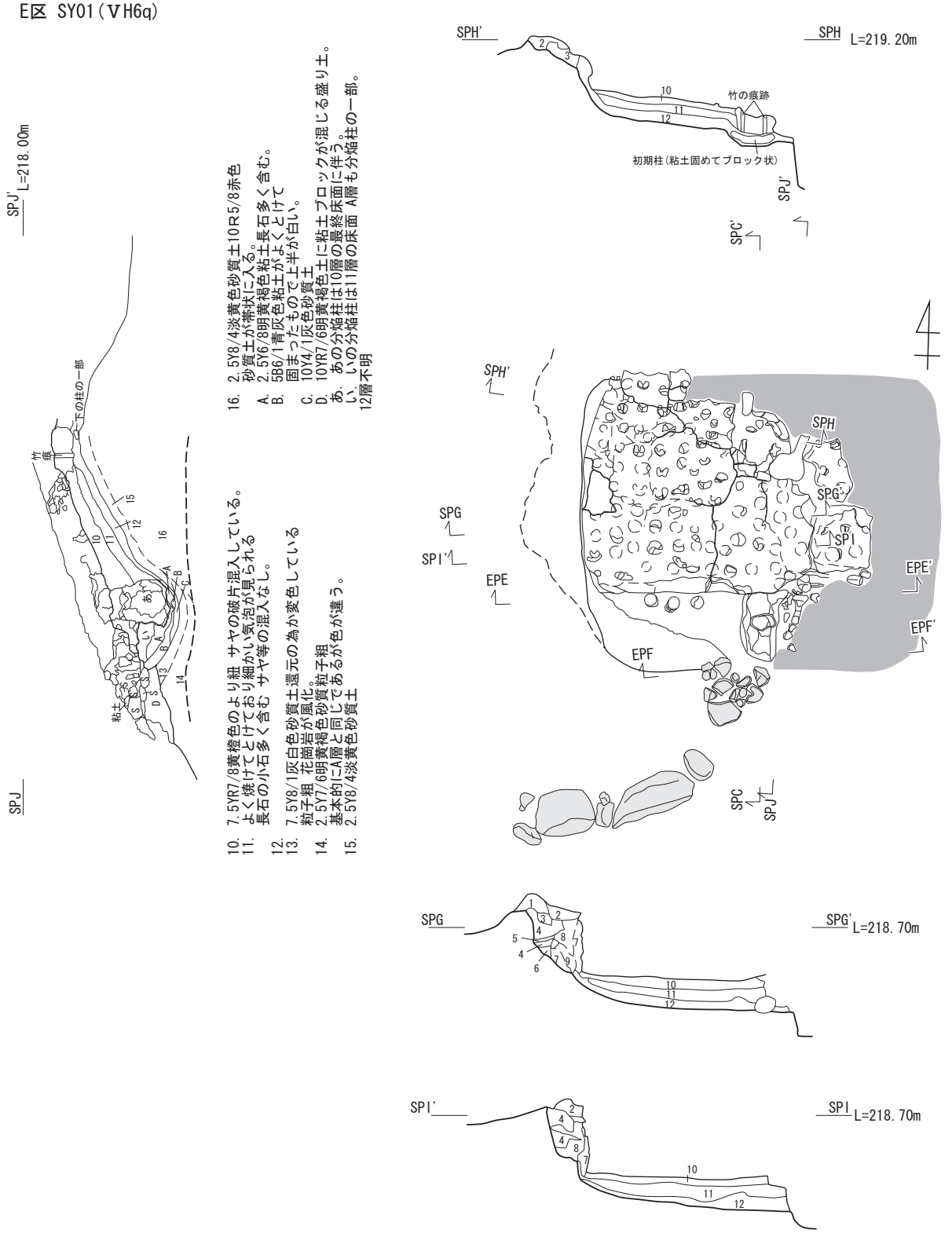


第 49 図　E 区 SY01 窯体と周辺遺構平面図（1:50）

E区 SY01（ⅤH6q）

第 50 図　E 区 SY01 窯体断面図（1:50）

E区 SY01(ⅤH6q)

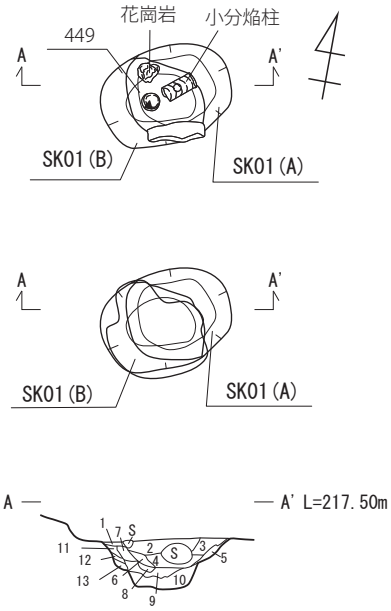


1. 5YR3/3暗赤褐色土細かい砂粒含む。
2. 2.5YR7/4淡赤橙色粘土ブロック
3. 2.5YR4/3にぶい赤褐色粘土ブロック
4. 10R4/4赤褐色土細かい砂粒含む。
5. 2.5YR5/8明赤褐色
6. 4に5Y7/1灰白色 粘土ブロック含む。
7. 2.5Y8/3淡黄色壁被熱による硬化。
8. 10R6/4にぶい赤橙色壁被熱による硬化
7層より軟らかい。
9. 8層と4層が混ざる。
10. 10G4/1暗緑灰色被熱による硬化 床
表面近くの2cm程の間に匣鉢片が見られる
よく焼しまる(よくとけている)。
11. 10BG4/1暗青灰色被熱による硬化 床。
12. 10R5/2灰赤色被熱により黄色味をおびる
上層部5cmは硬いブロック片が多く見られ、
下部はブロック片は少ない 全体に砂質状の層位である。

0 1m

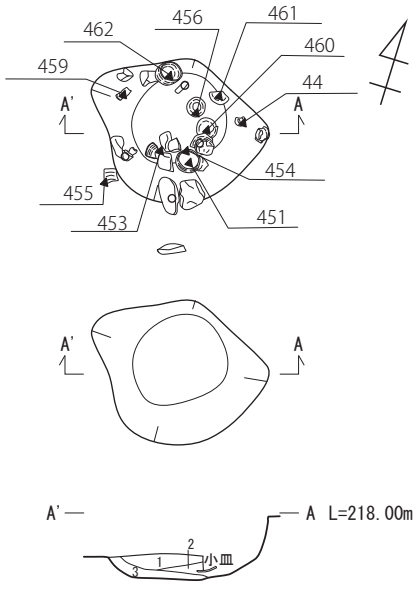
第51図 E区SY01窯体断面土層図(1:50)

SK01出土状態図（ⅤH6q）



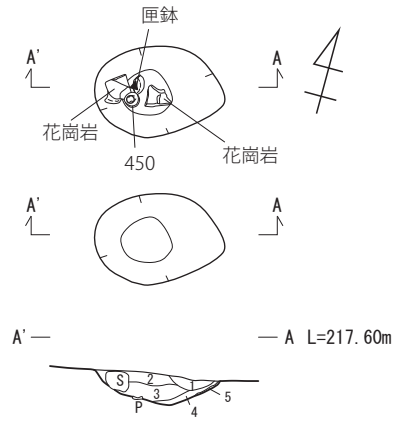
1. 2.5YR4/8赤褐色細粒炭質 赤褐色(焼土様)と炭質土の互層。
2. トチン層灰質焼土質 砂質土(7.5YR4/6褐色) 極めて崩れやすい。
3. 2.5YR5/8明赤褐色砂質硬質 被焼砂質ブロック？
4. 7.5Y4/2灰オリーブ色灰質炭質 軟質。
5. 炭灰質枝状炭の集結。
6. 2.5Y5/4黄褐色シルト質細砂質 粘土と淡黄色細砂の混土 3層少し含む。
7. 10GY6/1緑灰色粘土部分的に炭・灰質斑含む。
8. 5Y7/4浅黄色粘土極めて硬質 炭斑含む。
9. 5PB7/1明青灰色シルト灰質 炭質土斑含む。
10. 10GY6/1緑灰色粘土均質 硬質。
11. 2.5Y6/4にぶい黄色砂軟質。
12. 5Y5/2灰オリーブ色炭・灰質軟質 褐色焼礫片含む。
13. 10GY6/1緑灰色粘土炭少し含む。

SK03出土状態図（ⅤH6p）



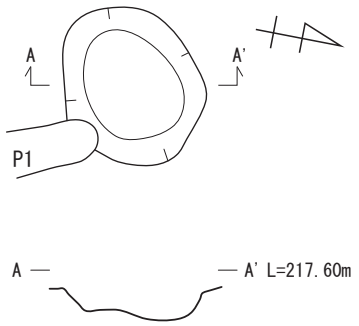
1. 7.5YR4/3褐色灰質灰色砂塊斑状に含む。
2. 10YR3/3暗褐色砂質灰質 上面に炭化物を多く含む ラミナあり 橙色砂塊斑状に含む 炭少し含む。
3. 10YR4/4褐色砂質上面に2層より明瞭な炭化物 ラミナあり 軟質。

SK02出土状態図（ⅤH6p）



1. 2.5YR4/8赤褐色細砂質硬質 被焼砂壁？
2. 2.5YR4/4にぶい赤褐色砂質硬質 シルト・極細礫含む 炭わずかに含む。
3. 7.5YR5/3にぶい褐色細砂質砂斑状に含む。
4. 2.5Y5/4黄褐色灰質細砂質 極めて軟質。
5. 炭化物層

SK04（ⅤH6p）



第52図　E区SY01周辺遺構（SK01～04）平面図・土層断面図（1:50）

窯壁の一部に、既に焼かれた棒状のものを窯壁の壁土と一緒に塗り込めていた痕跡（図版 104）が見られた。焚き口の床には石が敷かれ、焚き口西側には丘陵縁辺に添って石垣の様に石が据えられていた。大きな石は 80㎝× 30㎝を測り大石と大石の間に小石を詰め斜面の土留めも兼ねて、1m80㎝の間に見られた。石はすべて花崗岩の円礫であった。焚き口の状況から窯前部分が南側に 1m 前後あったと思われる。

（2）土坑　SY01-SK01、SY01-SK02、SY01-SK03、SY01-SK04　［図版 12］

丘陵南端の窯前、南西端部の石垣状の石が途切れた位置から、土坑 SY01-SK01、SY01-SK02、SY01-SK03、SY01-SK04 が見られた。

SY01-SK01　長軸 90cm、短軸 60cm、深さ 36cm を測る。平面形は楕円。浅い土坑が掘り直され深い土坑になっていた。小分焔柱が 1 個と匣鉢が出土。上層には窯道具のトチン類が詰まり小分焔柱が 1 個と匣鉢が出土。底部には粘土を貼付けたような堆積が見られた。

SY01-SK02　長軸 86cm、短軸 60cm、深さ 20cm を測る。平面形は楕円、上層が被熱した砂で充填され、丸碗と窯道具の匣鉢やツク、長脚ピン、ヨリが出土した。

SY01-SK03　長軸 1m20cm、短軸 1m、深さ 20cm を測る。平面形は歪んだ楕円。端反皿、丸碗、擂鉢と挟み皿、匣鉢、ツクが出土した。

SY01-SK04　長軸 1m10cm、短軸 98cm、深さ 18cm、平面形はやや歪む円形である。

4. 竪穴　SB02、SB03　［図版 37］

竪穴として、丘陵最高位の標高 222m にある不整形な竪穴 SB02 とやや下った南側に歪んだ形状の竪穴 SB03 が見られる。SB02、SB03 ともに柱の痕跡はない。

SB02　長軸 4m10cm、短軸 2m78cm、深さ 38cm、平面形は西北が底辺となるような不整形な三角形状で西側に粘土が見られた。端反皿、稜皿、釜、直縁大皿、擂鉢が出土した。

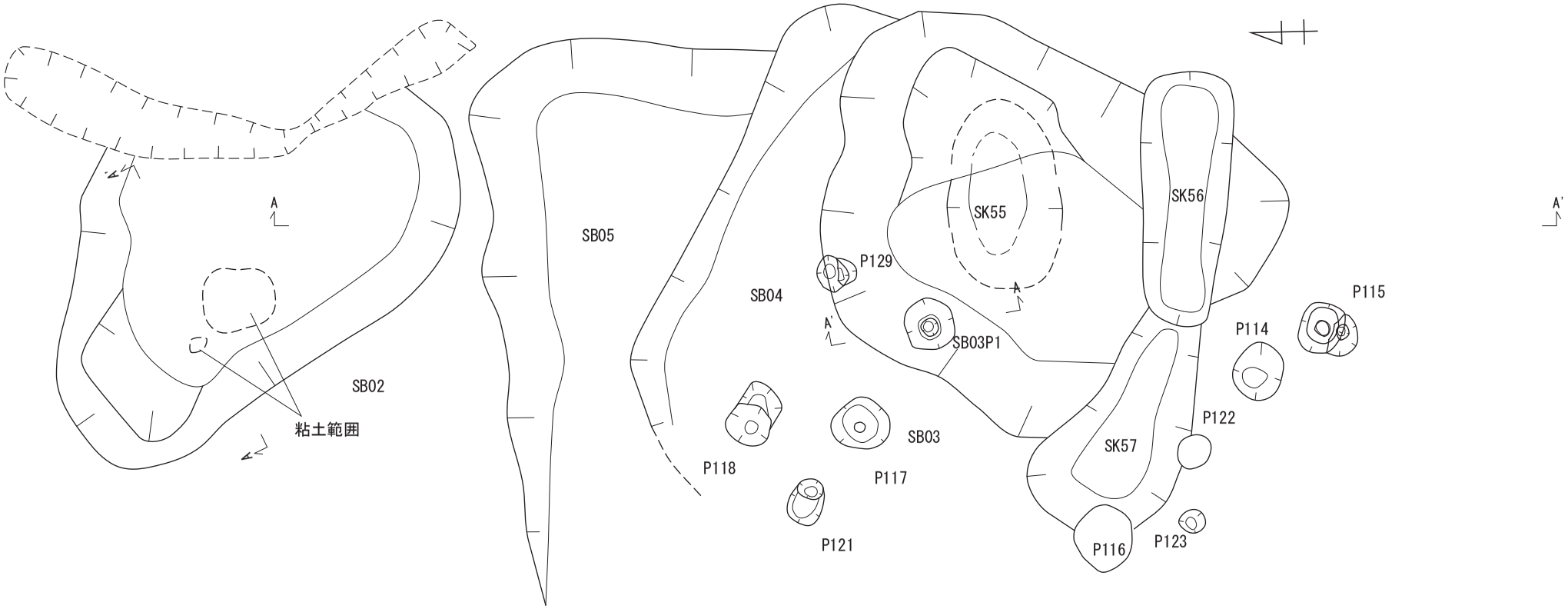
SB03　長軸 3m97㎝、短軸 3m 平面形は歪んだ方形で SK55・56・57 に切られる。天目茶碗、丸碗、端反皿、釜、直縁大皿、擂鉢、挟み皿、匣蓋、焼台が出土した。

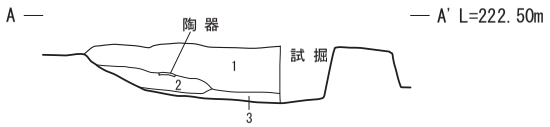
5. 竪穴建物　SB01、SX06　［図版 37、図版 38］

竪穴建物は SB01、SX06 の二棟見られた。いずれも主軸が南北で、入り口が南側にある長方形状竪穴建物で、奥の柱が両隅だけでなく、三本目が入り口に対峙した位置に見られ、奥二本の間の柱は、梁を支える桁と考えた。SB01 は炭化物の集中が見られ、壁際の溝が東側のみであった。SX06 の壁際溝は壁際を巡り、また出土遺物の種類も豊富であった。

SB01［図版 37］

SB03 の東側にあり、南に張り出し入り口が付く長方形竪穴建物跡で南側が弓なりになっている。入り口から奥まで 4m90㎝、長方形の西側 3m90㎝、東側 3m60㎝、最大幅 2m76㎝を測る。手前半分には柱が見られず奥半分に一間一間の柱穴が見られる。柱穴は 6 ヶ所。北妻は三間で総長 2m20㎝、柱間は西から約 60㎝、約 60㎝、約 80㎝を測る。西側柱列は 2m20㎝、東側柱列は斜めに 2m10㎝の間隔である。方向は北妻で N- 94-E、西側柱列で N-5-E である。床面に粘土が広がり北東の壁際に炭化物の集中が見ら

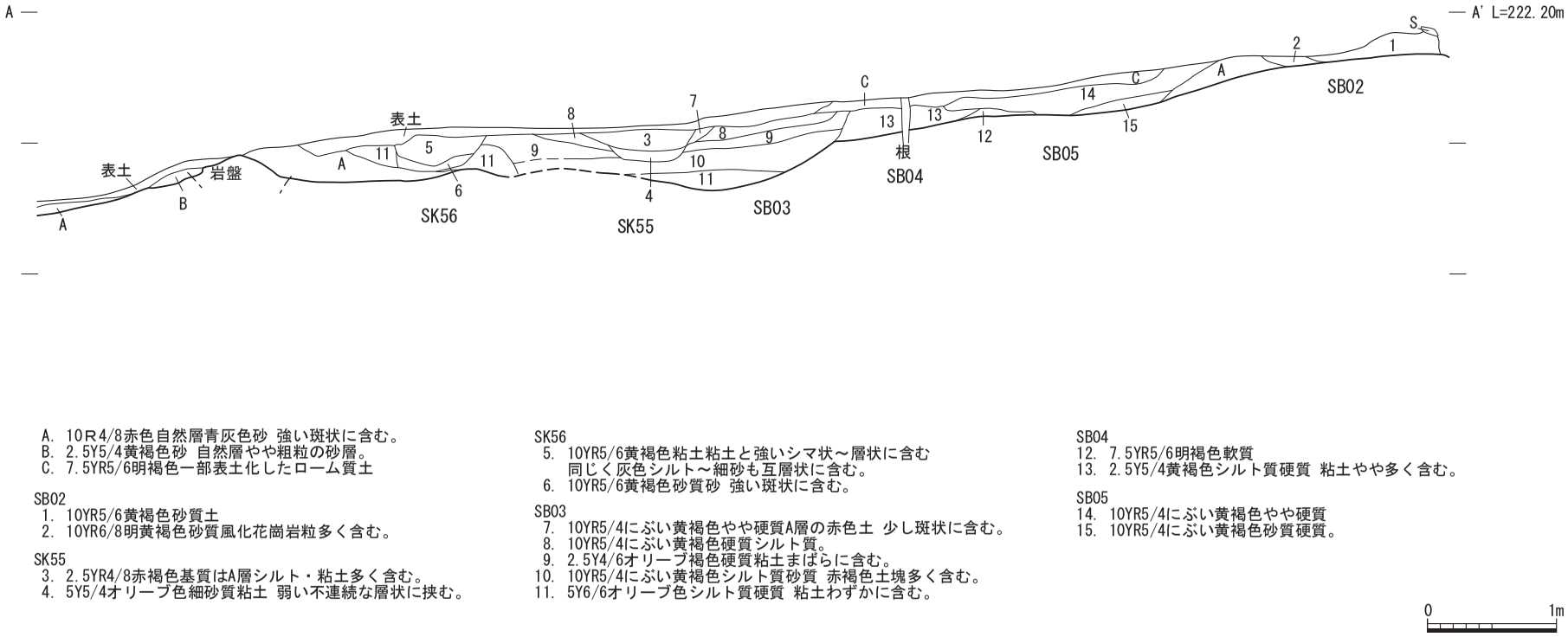




1. 10YR5/6黄褐色細粒砂風化花崗岩粒を少量含む。
2. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト
3. 10YR5/6黄褐色シルト

0 1m

第 53 図　E 区 SB02 ～ 05 平面図（1:50）



A. 10R4/8赤色自然層青灰色砂 強い斑状に含む。
B. 2.5Y5/4黄褐色砂 自然層やや粗粒の砂層。
C. 7.5YR5/6明褐色一部表土化したローム質土

SB02
1. 10YR5/6黄褐色砂質土
2. 10YR6/8明黄褐色砂質風化花崗岩粒多く含む。

SK55
3. 2.5YR4/8赤褐色基質はA層シルト・粘土多く含む。
4. 5Y5/4オリーブ色細砂質粘土 弱い不連続な層状に挟む。

SK56
5. 10YR5/6黄褐色粘土粘土と強いシマ状～層状に含む
同じく灰色シルト～細砂も互層状に含む。
6. 10YR5/6黄褐色砂質砂 強い斑状に含む。

SB03
7. 10YR5/4にぶい黄褐色やや硬質A層の赤色土 少し斑状に含む。
8. 10YR5/4にぶい黄褐色硬質シルト質。
9. 2.5Y4/6オリーブ褐色硬質粘土まばらに含む。
10. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト質砂質 赤褐色土塊多く含む。
11. 5Y6/6オリーブ色シルト質硬質 粘土わずかに含む。

SB04
12. 7.5YR5/6明褐色軟質
13. 2.5Y5/4黄褐色シルト質硬質 粘土やや多く含む。

SB05
14. 10YR5/4にぶい黄褐色やや硬質
15. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質硬質。

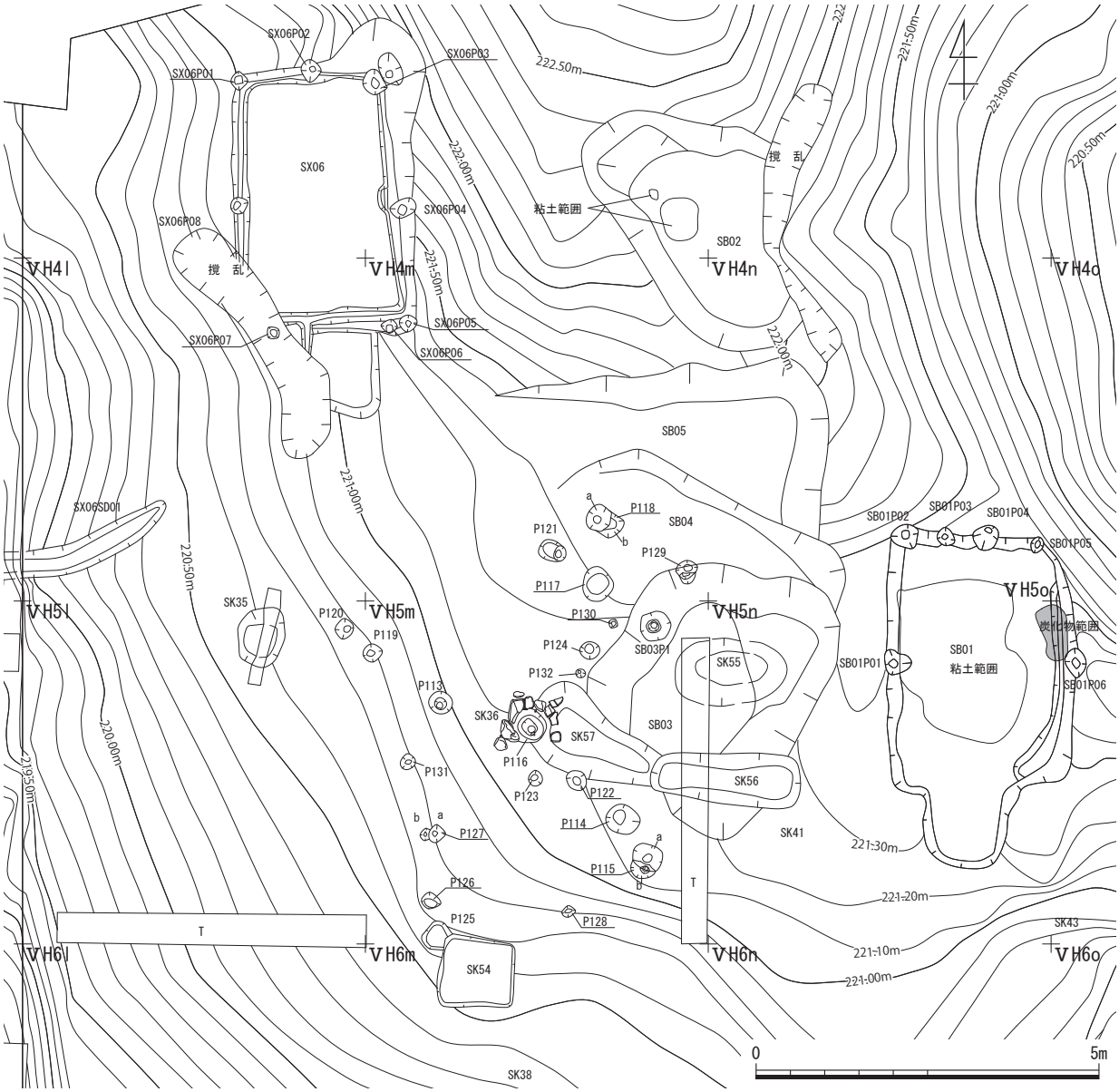
0 1m

第54図　E区SB03～05 SPA土層断面図（1:50）

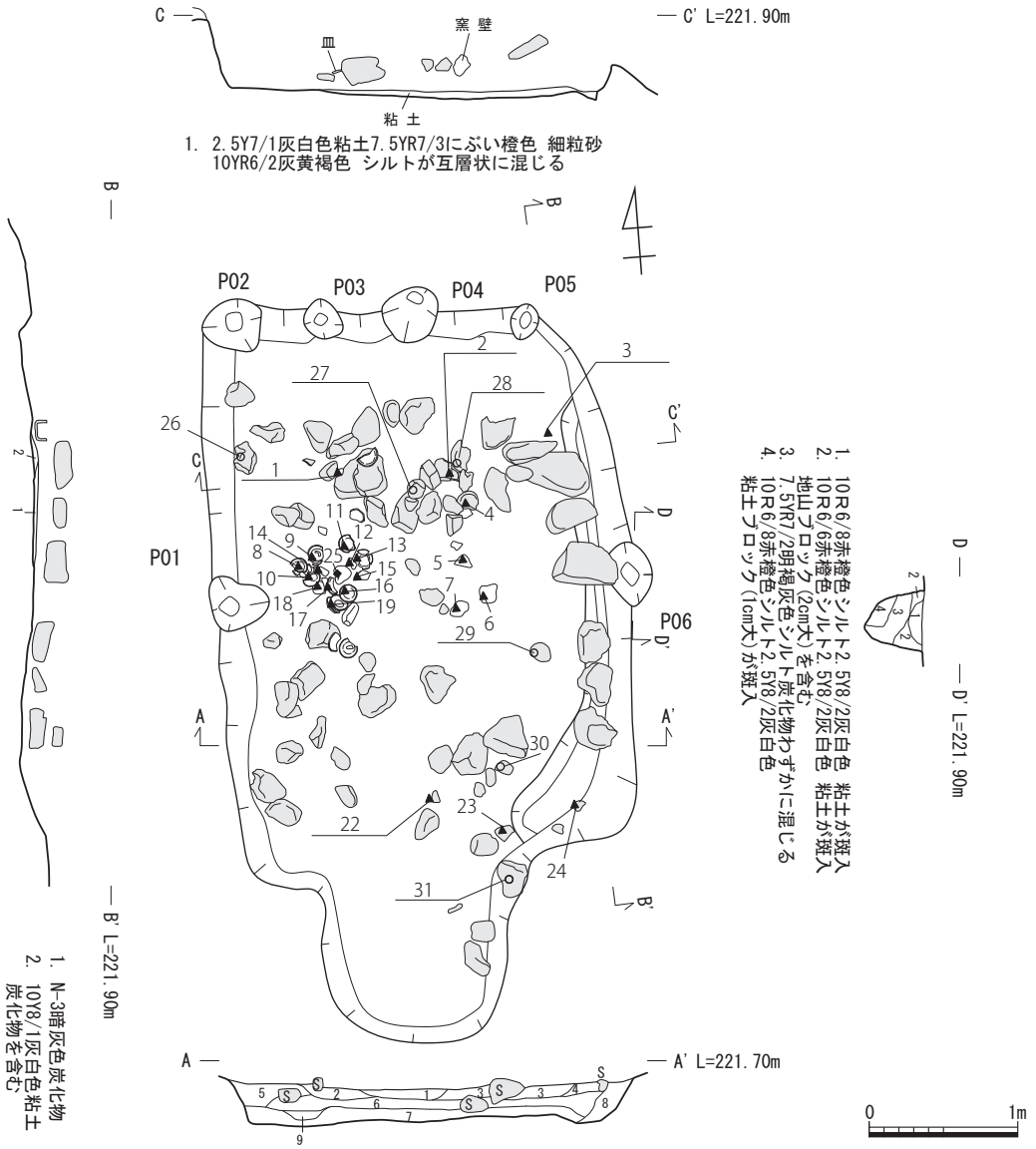
れた。建物廃絶後に石、窯壁、匣鉢、挟み皿、縁釉挟み皿、端反皿などが廃棄されていた。

SX06［図版 38］

E 区の西北端にあり、南に張り出しの入り口が付く長方形竪穴建物跡で南西隅が削平で壊されていた。一間二間の建物、入り口から奥まで 5m20㎝、長方形の西側 3m74㎝、東側 4m12㎝、最大幅 2m70㎝を測る。桁行 2 間、梁行 2 間、梁行北妻は総長約 2m20㎝、柱間は西より約 1m10㎝、約 1m10㎝、南妻は総長約 2m、東側柱は桁行総長 3m90㎝、柱間は北から 1m90㎝、1m65㎝、西側柱は桁行総長約 3m70㎝、柱間は北から 1m85㎝、約 1m75㎝を測る。壁際に溝が巡り南側の張り出しに接続する。周溝の深さは 3㎝から 5cm を測る。遺物が多く出土した遺構で完形品の匣鉢が 32 個見られ、そのうち 24 個の匣鉢が伏せた状態で出土した。伏せられた匣鉢の上に板でも敷けば床にもなる状況である。匣鉢、挟み皿の窯道具の他に丸碗、天目茶碗、腰折皿、端反皿、丸皿、擂鉢、釜、鍋、縁釉皿、と出土器種が豊富である。竪穴建物の柱 8 ヶ所で SX06-P01 は長軸 21cm、短軸 21cm、深さ 5cm、平面形は方形。SX06-P02　は長軸



第 55 図　E 区 北側全体図（1:100）

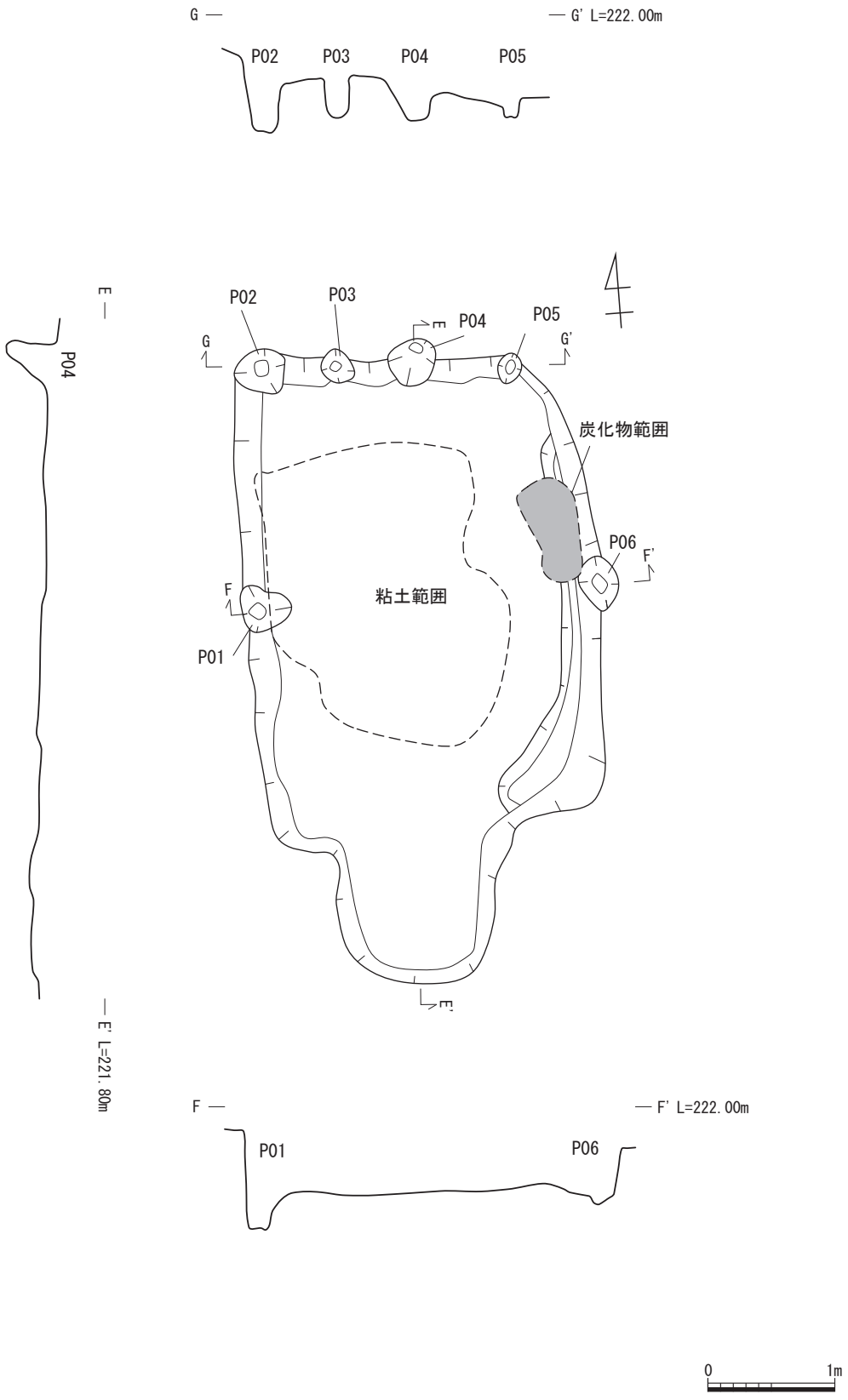


第 56 図　E 区 SB01 遺物出土状況図・土層断面図（1:50）

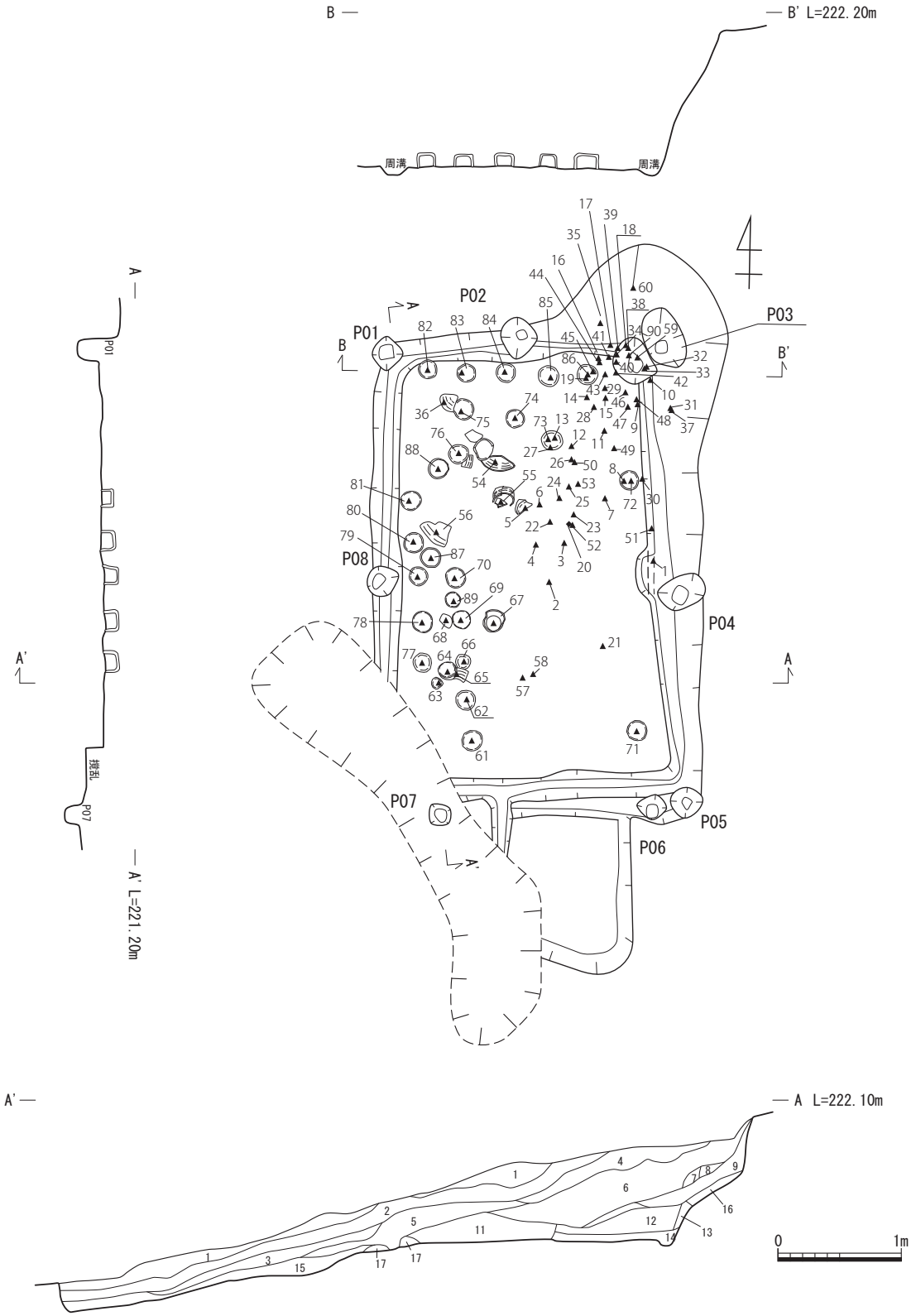
第 2 表　E 区 SB01 出土遺物

番号	遺物番号	器種	標高
1	584	端反皿	221.541
2		匣鉢	221.551
3		匣鉢	221.411
4	592	擂鉢	221.579
5	594	匣鉢	221.442
6	595	匣鉢	221.562
7		匣鉢	221.55
8	590	挟み皿	221.647
9		挟み皿	221.556
10		挟み皿	221.611
11	591	挟み皿	221.515
12	593	擂鉢	221.629
13	589	縁釉挟み皿	221.521
14		挟み皿	221.537
15		匣鉢	221.414
16	583	端反皿	221.509

番号	遺物番号	器種	標高
17	588	縁釉挟み皿	221.521
18	585.586	端反皿	221.564
19	587	端反皿	221.497
20		挟み皿	221.511
21		挟み皿	221.537
22		匣鉢	221.439
23		匣鉢	221.325
24		匣鉢	221.348
25		擦り石	221.491
26		窯床片	221.534
27		窯床片	221.531
28		窯床（焼台付き）片	221.524
29		窯床片	221.542
30		窯床片	221.457
31		窯床片	221.405



第 57 図　E 区 SB01 平面図・断面図（1:50）

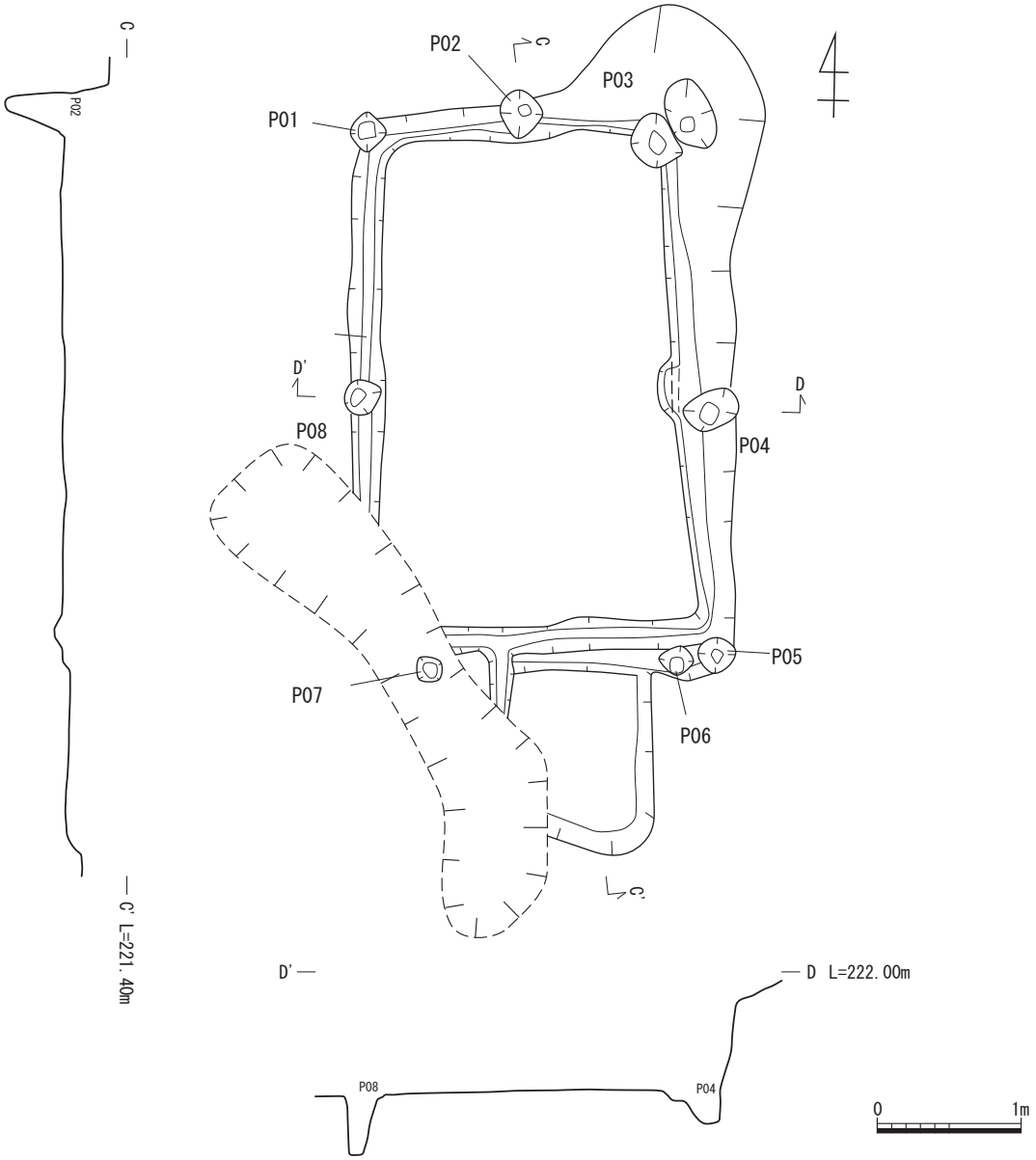


1. 10YR3/2黒褐色シルト(表土)
2. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト
3. 7.5YR4/6褐色シルト
4. 5YR7/8橙色シルト
5. 7.5YR7/4にぶい橙色シルト
6. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト締まりなし。
7. 7.5YR5/2灰褐色砂質シルト
8. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
9. 2.5YR6/8橙色シルト10YR8/3浅黄橙色 シルトが斑入 10YR5/8黄褐色 地山ブロックを含む。
10. 5YR6/8橙色シルト
11. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト
12. 7.5YR5/6明褐色シルト10YR8/4浅黄橙色 中粒砂 N-7灰白色 粘土がブロック状に混じる。
13. 7.5YR6/3にぶい褐色シルト
14. 7.5YR5/6明褐色シルト
15. 2.5YR6/8橙色シルト
16. N-7灰白色粘土
17. 10YR5/8黄褐色地山

第 58 図　E 区 SX06 遺物出土状況図・土層断面図（1:50）

第 3 表　E 区 SX06 出土遺物

番号	遺物番号	器種	標高
1	686	擂鉢	221.245
2		端反皿	221.179
3	651	丸碗	221.177
4		擂鉢	221.163
5		擂鉢	221.161
6	673.705	端反皿．皿鉢	221.194
7	652	天目茶碗	221.267
8	705	皿鉢	221.329
9	698	皿鉢	221.554
10	693	挟み皿	221.641
11	667	端反皿	221.317
12	687	擂鉢	221.229
13	661	端反皿	221.219
14	687	擂鉢	221.337
15	677	端反皿	221.326
16	662.665.666.668	端反皿	221.392
17	674.675.676.682	端反皿	221.452
18	694	挟み皿	221.55
19		挟み皿	221.324
20	S－5	玉石	221.173
21		擂鉢	221.193
22		擂鉢	221.180
23	673	端反皿	221.182
24	673	端反皿	221.186
25	690	鍋	221.205
26	687	擂鉢	221.212
27		挟み皿	221.191
28	658.691.703	端反皿．鍋．皿鉢	221.299
29	670	端反皿	221.309
30	692	縁釉皿	221.316
31	688	擂鉢	221.612
32	656	端反皿	221.565
33	664	端反皿	221.573
34		挟み皿	221.453
35		挟み皿	221.563
36	684	丸皿	221.052
37	663	端反皿	221.600
38	659	端反皿	221.497
39	689	釜	221.458
40	681	端反皿	221.401
41	672	端反皿	221.371
42	678	端反皿	221.356
43	669	端反皿	221.314
44	683	端反皿	221.328
45	679	端反皿	221.293
46	689	釜	221.313
47	655	端反皿	221.334
48	689	釜	221.362
49	660	端反皿	221.257
50	683	端反皿	221.153
51	654	端反皿	221.041
52	653	腰折皿	221.133
53	685	擂鉢	221.010
54	685	擂鉢	221.020
55	685	擂鉢	221.008
56	685	擂鉢	221.060
57	685	擂鉢	221.079
58	657	端反皿	221.085
59	685	擂鉢	221.294
60	685	擂鉢	221.418
61		皿鉢	220.971
62		皿鉢	220.959
63	695	皿鉢	221.133
64	717	皿鉢	221.052
65	696	皿鉢	220.966
66	697	皿鉢	220.968
67		皿鉢	220.972
68	707	皿鉢	221.046
69		皿鉢	220.976
70		皿鉢	220.971
71	700	皿鉢	220.989
72	702	皿鉢	220.972
73		皿鉢	220.999
74		皿鉢	220.962
75		皿鉢	220.965
76		皿鉢	220.963
77		皿鉢	220.970
78		皿鉢	220.965
79		皿鉢	220.947
80		皿鉢	220.940
81		皿鉢	220.934
82	714	皿鉢	220.978
83		皿鉢	220.963
84		皿鉢	220.972
85		皿鉢	220.954
86		皿鉢	220.956
87		皿鉢	220.966
88		皿鉢	220.970
89		挟み皿	221.018
90		擂鉢	220.891



第 59 図　E 区 SX06 平面図・断面図（1:50）

30cm、短軸 28cm、深さ 65cm、平面形は方形。SX06-P03 は長軸 49cm、短軸 33cm、深さ 1m48cm、平面形は長楕円。SX06-P04 は長軸 37cm、短軸 24cm、深さ 85cm、平面形は長楕円。SX06-P05 は長軸 25cm、短軸 24cm、深さ 19cm、平面形は楕円。SX06-P06 は長軸 19cm、短軸 18cm、深さ 23cm、平面形は歪む方形。SX06-P07 は長軸 17cm、短軸 17cm、深さ 30cm、平面形は方形。SX06-P08 は長軸 27cm、短軸 23cm、深さ 41cm、平面形は歪む方形を測る。

6. 掘立柱建物　SX03　［巻頭図版 7、図版 39、図版 42］

掘立柱建物手は SX03 一棟である。窯 SY01 の西南側、北側斜面を削り平坦部に SX03 を設けている。標高 219m に見られる東西に長い大形掘立柱建物で、長軸 3m50cm、短軸 2m40cm、西側の斜面との比高差 69cm を測る。平面形は西側と北側が壁となり南東側に広がる長方形を呈する。東西一間半、南北一間の建物跡で、柱間は西側柱列は約 2m 以上、北側柱列は約 2m80㎝以上と推定している。方向は北側柱列で N-104-E、西側柱列で N-24-E。北側、西側ともに掘り方底面に小ピットが見られ、北側で 7 ヶ所、西側で 4 ヶ所、それぞれ並んで見られ、南側には立て替えの柱が見られた。北側と西側の壁際では匣鉢と挟み皿、粘土ヨリ等の窯道具類の山積みが見られた。窯出し製品の選別作業の建物である。ほとんどの出土遺物が匣鉢と挟み皿であったが天目茶碗、丸皿、端反皿、稜皿、灯明皿なども見られた。

7. 作業場　SB05・04 の南、SX02

轆轤ピットを擁した作業場として、二ヶ所見られた。北側斜面を削り平坦部を設けている。

SB05・SB04［図版 37］

北側斜面を削り平坦部を設けこの南側縁辺部の平坦な部分。SB05 は北側斜面を削り西南側に平坦を造成している。北壁側 4m57cm、東壁側 2m40cm、深さ 47cm を測る。平面形は歪む方形で北側の一部が、SB04 に切られている。SB04 は北側の一辺が見られるのみで 4m10㎝を測る。広場の縁辺に轆轤ピットが、北から P121、P117、SB03-P01、P119、P113、P116、P123、P122、P115 が見られた。

SX02［巻頭図版 7、図版 39、図版 40、図版 41］

丘陵最南端部にあり、SX03 の北側（上段部）部分とその南西側（下段部）部分とに分かれ比高差約 60㎝ある。上段部では西側に粘土採掘土坑が、東側に巨石を伴った土坑 SK04、SK06 が、下段との境の縁辺部には轆轤ピット P09、P12 が、轆轤ピットの東には床面のブロックが並べられた土坑 SK03 が見られた。下段部では西側に轆轤ピット P03c、P06、P07、P08、と粘土溜土坑 SK02、東側の南東端に石敷の SK07 が見られた。遺構の最終段階には SX03 と一体化して、窯出し直後の製品選別の作業場になっていた様で、西側（平坦面ではない斜面側）に、匣鉢、挟み皿、粘土ヨリ等の窯道具類の山積みが見られた。

8. 轆轤ピット

轆轤ピットは 15 基（第 15 表轆轤ピット一覧参照）見られる。SB04 と SB05 の南西側には P121、P117、SB03-P01 が、丘陵西側縁辺には P119、P113、P123 と P116、P122、P115-a が見られた。SX02 の上段には P09 と P12 が、下段には P03c、P06 が、この北側に P08、P07 が見られる。P08、P07 は最南端の遺構である。なお轆轤ピットの一覧表では SX02 の轆轤ピットは SX02-P07 と表記している。

P121　長軸 39cm、短軸 29cm、深さ 22cm、平面形は隅円長方形。軸穴内から焼台片が出土。“土坑タイプ”と考えられる。

P117［図版 45］　長軸 45cm、短軸 45cm、深さ 54㎝、平面形はやや歪な隅方円形。“土坑タイプ”と考えられる。

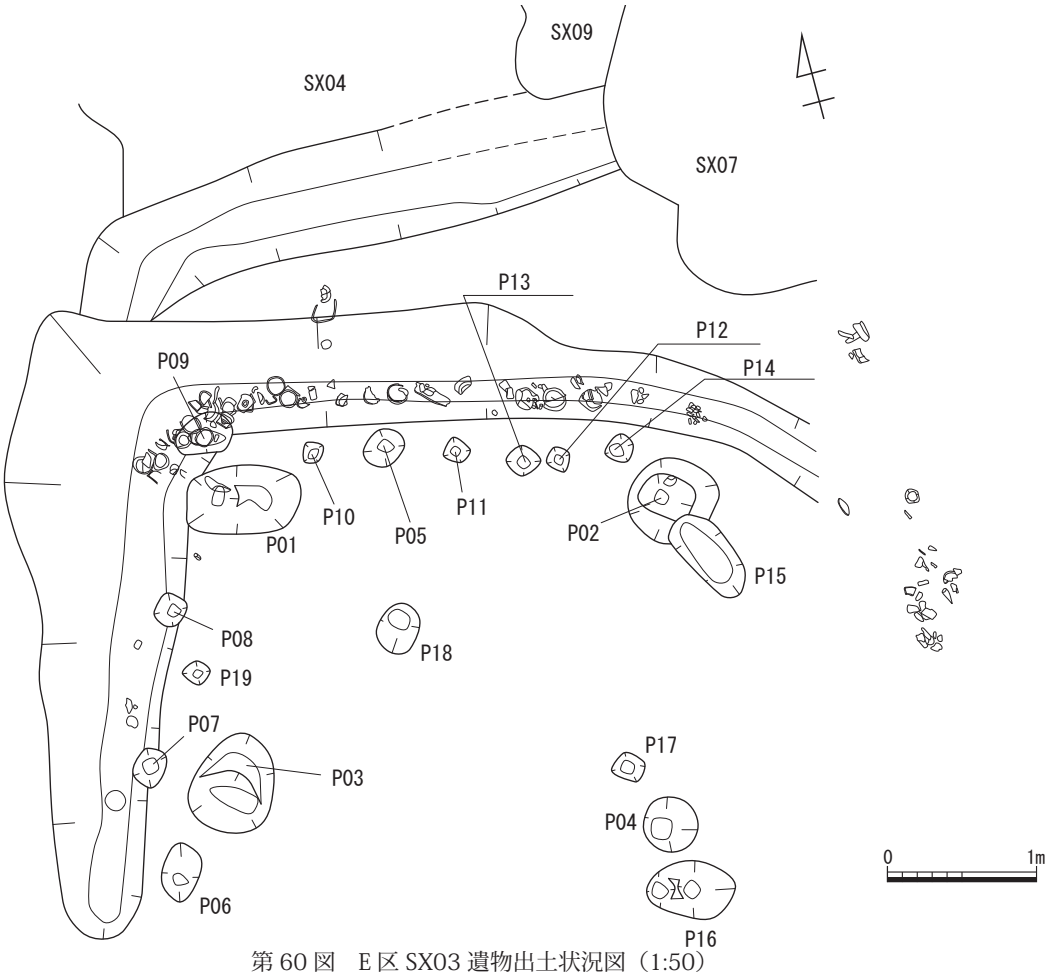
SB03-P01［図版 44］　長軸 45cm、短軸 41cm、深さ 31cm、平面形はほぼ円。SB を付したが上から掘り込まれおり SB より新しい。土坑部分は礫を含む粘土で埋められ、軸穴上には陶器片で蓋をしている。掘り込み外郭に沿って薄く粘質土を貼ったように見受けられた。“土坑タイプ”と考えられる。

P119　長軸 26cm、短軸 24cm、深さ 31cm、平面形は隅方円形。軸穴を有する。

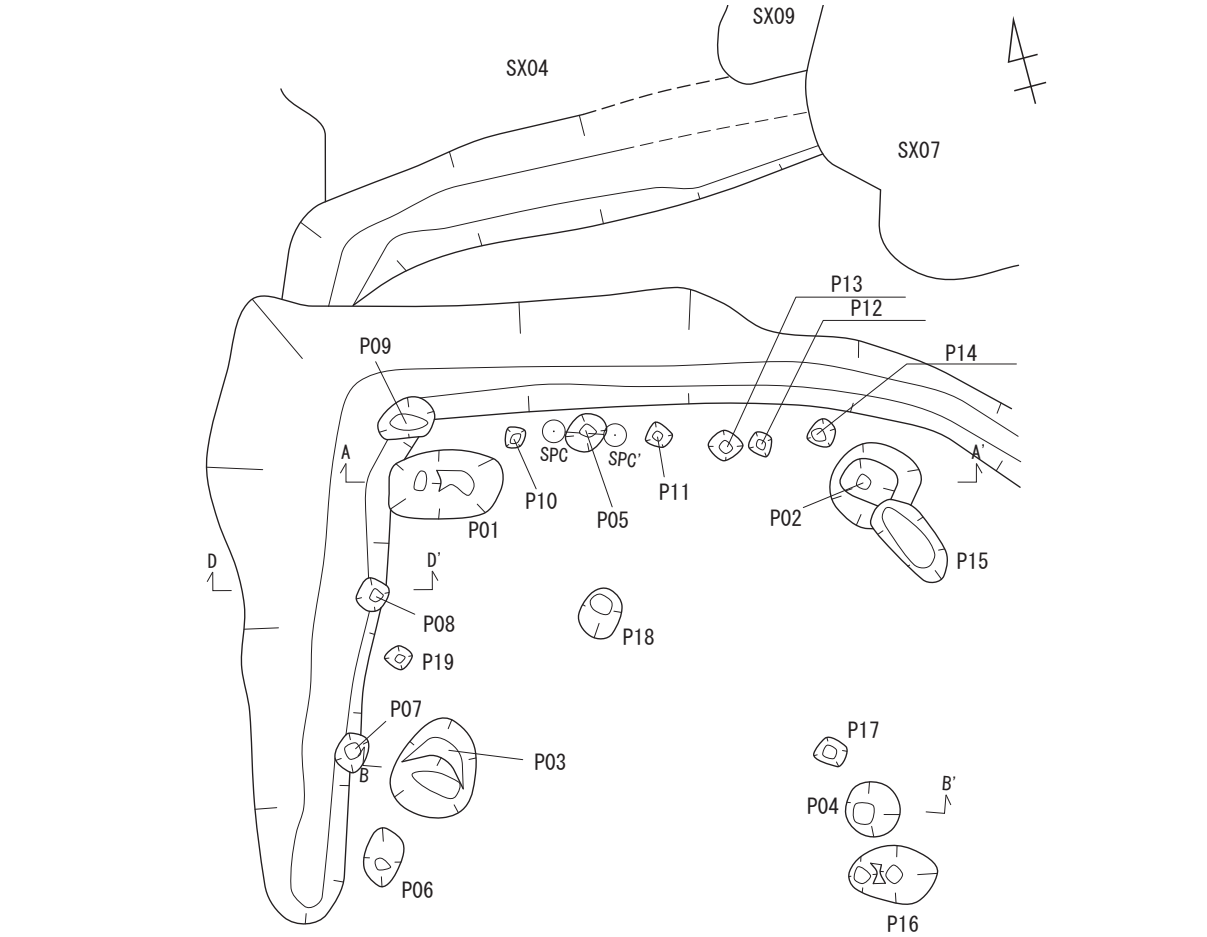
P113　長軸 34cm、短軸 32cm、深さ 56cm、平面形は円形。崩落のため精査できなかったが、轆轤ピットの可能性が高い。

P123　長軸 22cm、短軸 21cm、深さ 36cm、平面形は隅方円形。覆土上部の外周に青色の強い粘土質シルトを貼ったように見受けられ、軸穴の可能性がある。上面では確認できなかった。

P116［図版 45］　長軸 51cm、短軸 51cm、深さ 24cm、平面形は隅方円形。軸穴下に焼台片を置く。軸は抜き取られたと推察され、強い互層状の粘土で埋め戻しされている。上面では確認できなかったが周りに石積みが見られ、A 区で見られた石積みの轆轤ピットの底の可能性があり“土坑タイプ”と考えられる。



第 60 図　E 区 SX03 遺物出土状況図（1:50）



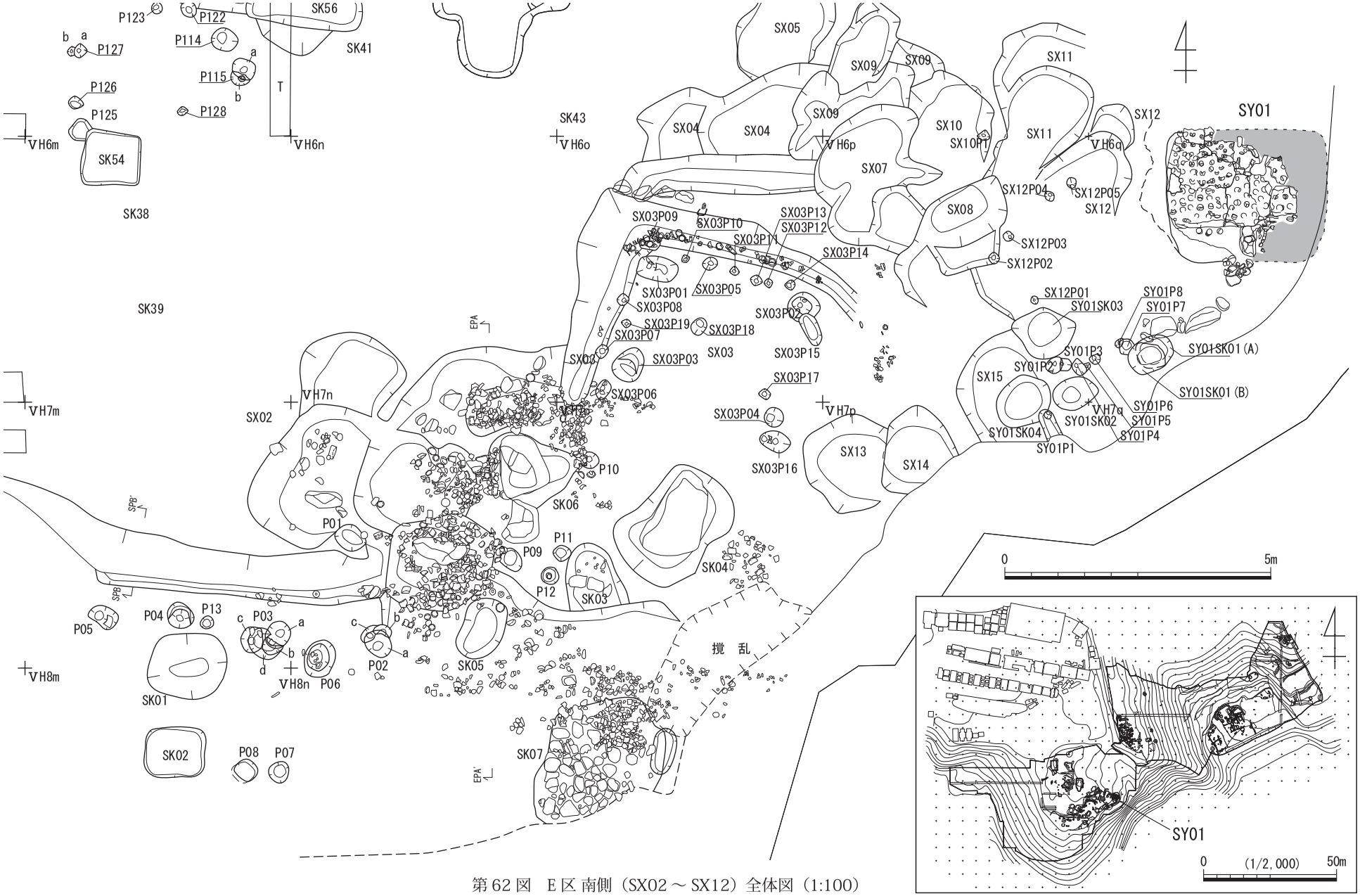
P01
1. 2.5YR7/8橙色シルト2.5Y7/2灰黄色細粒砂が斑入。
2. 7.5YR5/6明褐色砂質シルト2.5Y7/2灰黄色 細粒砂が斑入。
3. 7.5YR4/6褐色シルト
4. 5YR6/8橙色シルト10Y7/1灰白色粘土をブロック状に含む。
5. 5YR6/8橙色シルト10Y7/1灰白色粘土との斑土遺物を包含。

P02
1. 2.5Y7/8黄色シルト
2. 5Y6/4にぶい橙色砂質シルト締まりなし。

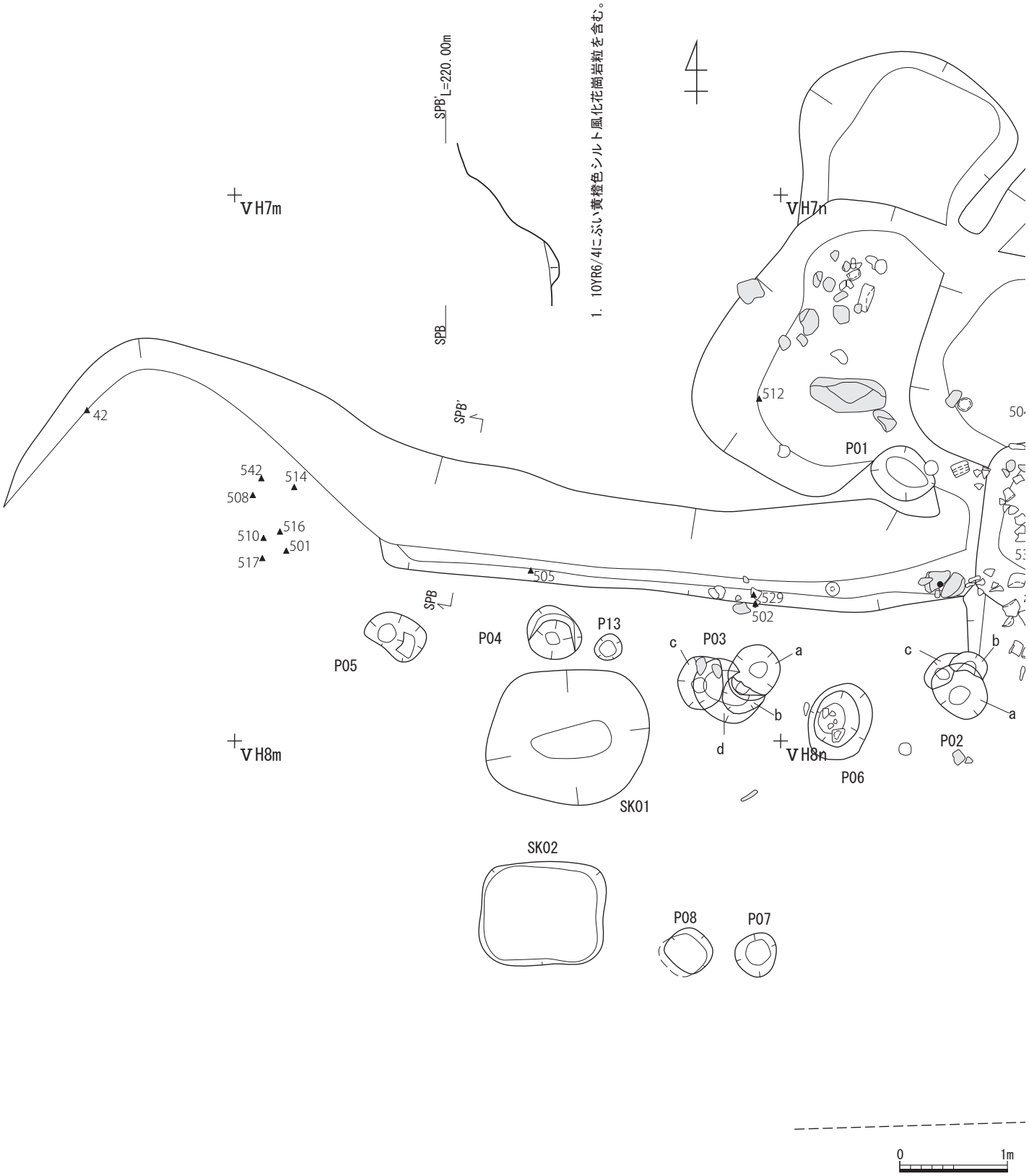
P03
1. 2.5YR7/8橙色シルト風化花崗岩細粒を含む。
2. 1に10Y7/1灰白色 粘土が斑入。
3. 5YR7/4にぶい橙色シルト風化花崗岩細粒を含む。
4. 5YR7/4にぶい橙色シルト10Y7/1灰白色 粘土がブロック状に混じる。
5. 5YR6/6橙色シルト2.5Y8/2灰白色 粘土が斑入。

P04
1. 7.5YR7/3にぶい橙色シルト10Y7/1灰白色 粘土が斑入。
2. 5Y7/2灰白色細粒砂10YR8/6黄橙色 細粒砂との斑土 焼土わずかに含む。
3. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂締まりなし 5Y7/3浅黄色 細粒砂が斑入。
4. 2.5Y7/2灰黄色細粒砂2.5YR7/8橙色 シルト N-6灰色 粘土が斑入。

第 61 図　E 区 SX03 平面図・土層断面図（1:50）

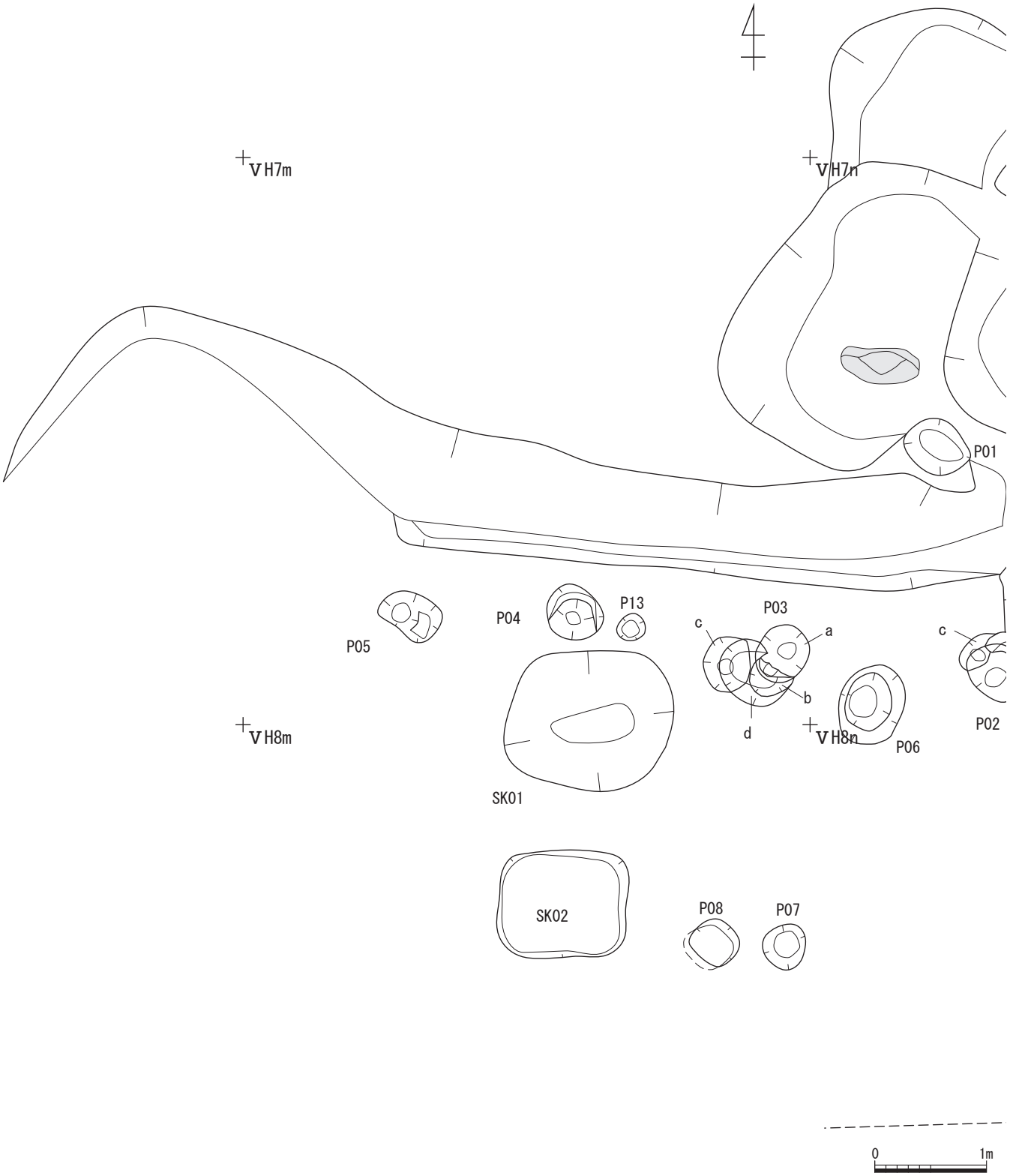


第 62 図　E 区 南側（SX02 ～ SX12）全体図（1:100）

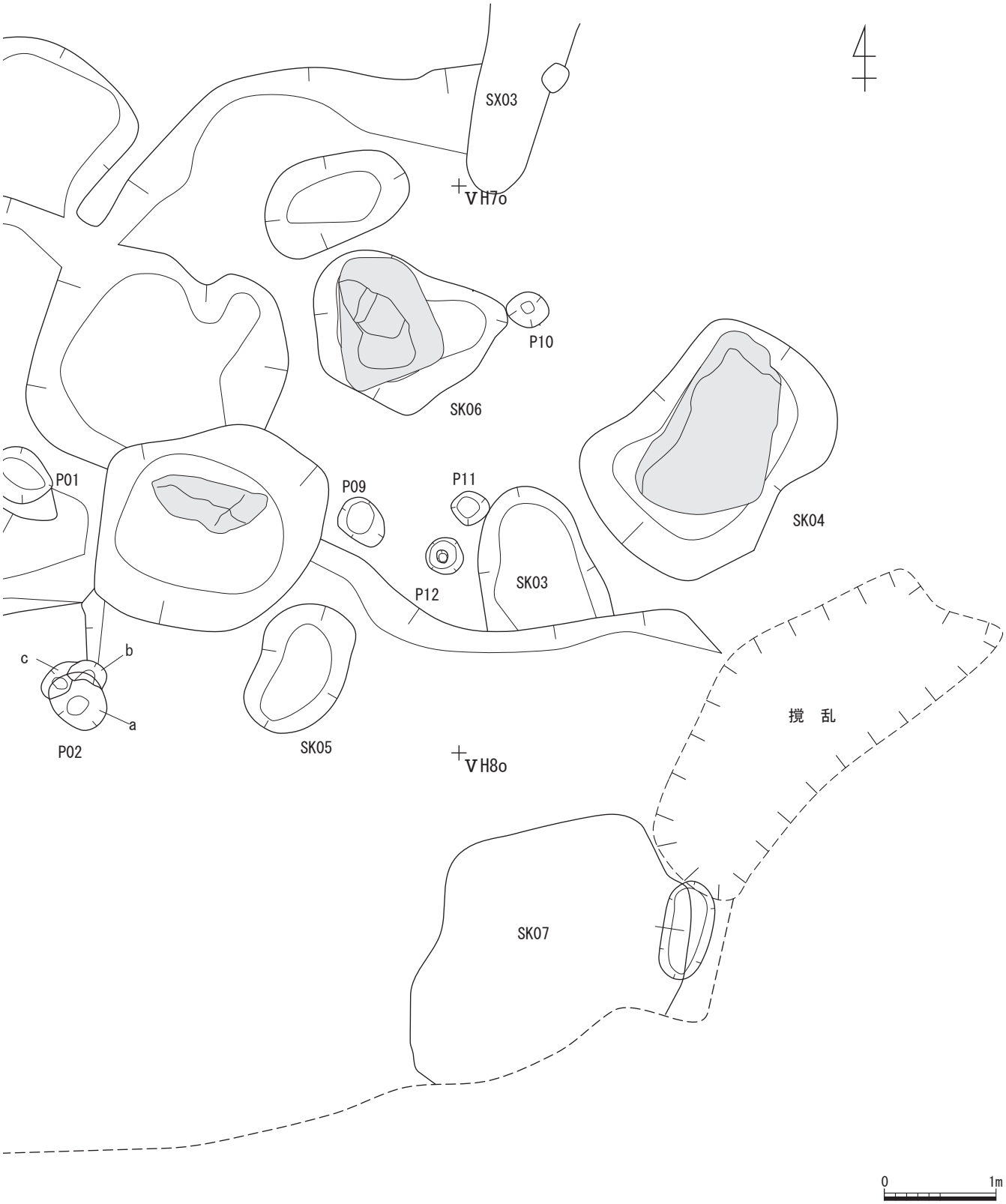


第 63 図　E 区 SX02（西側）遺物出土状況図 1（1:50）

第 64 図　E 区 SX02（西側）遺物出土状況図 2（1:50）

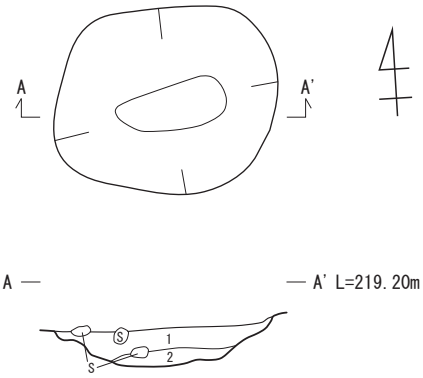


第 65 図　E 区 SX02（西側）遺構平面図 1（1:50）



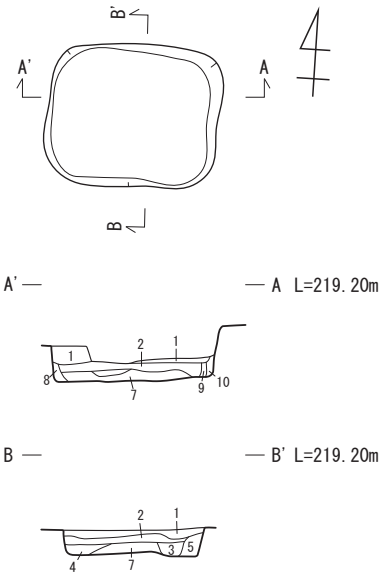
第 66 図　E 区 SX02（西側）遺構平面図 2（1:50）

SK01（ⅤH7m）



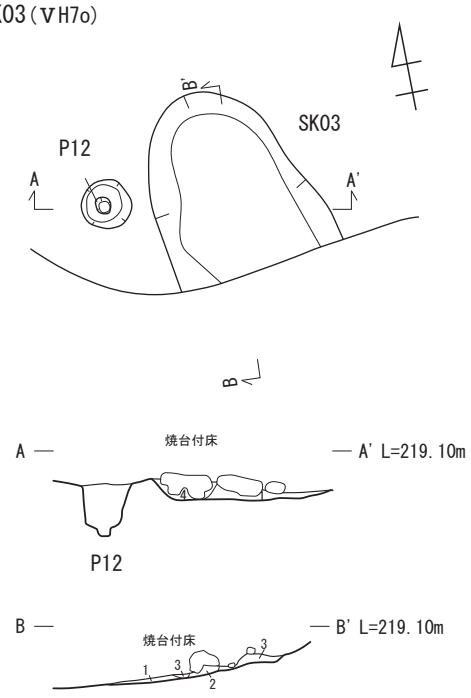
1. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトを7.5YR7/8黄橙色
   細粒砂の斑土 風化崗岩ブロックを含む。
2. 風化崗岩に2.5Y5/2暗灰黄色 砂質シルトが混じる。
3. 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト

SK02（ⅤH8m）

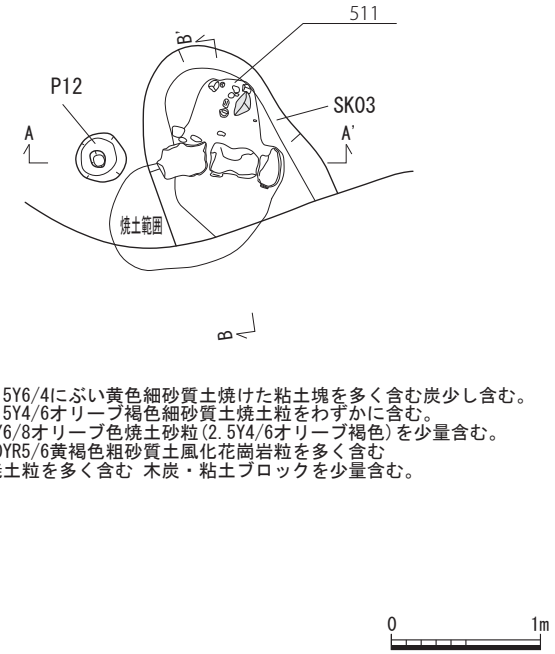


1. 10Y8/1灰白色粘土と10YR7/2にぶい黄橙色 砂質シルトの斑土
2. 7.5YR7/3にぶい橙色砂質シルトに7.5YR6/8橙色
   シルトが斑入 風化花崗岩細粒を含む。
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト風化花崗岩細粒をわずかに含む。
4. 3に10Y8/1灰白色粘土ブロックがわずかに混じる。
5. 7.5YR7/3にぶい橙色砂質シルトに10Y8/1灰白色
   粘土がブロック状に混じる。
6. 10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト
7. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト風化花崗岩細粒を含む
   炭化物わずかに混じる。
8. 10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト 10Y8/1灰白色粘土が斑入。
9. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
10. 2.5Y5/2暗灰黄色シルトに10Y8/1灰白色
    粘土が斑入 風化花崗岩細粒を含む。

SK03（ⅤH7o）

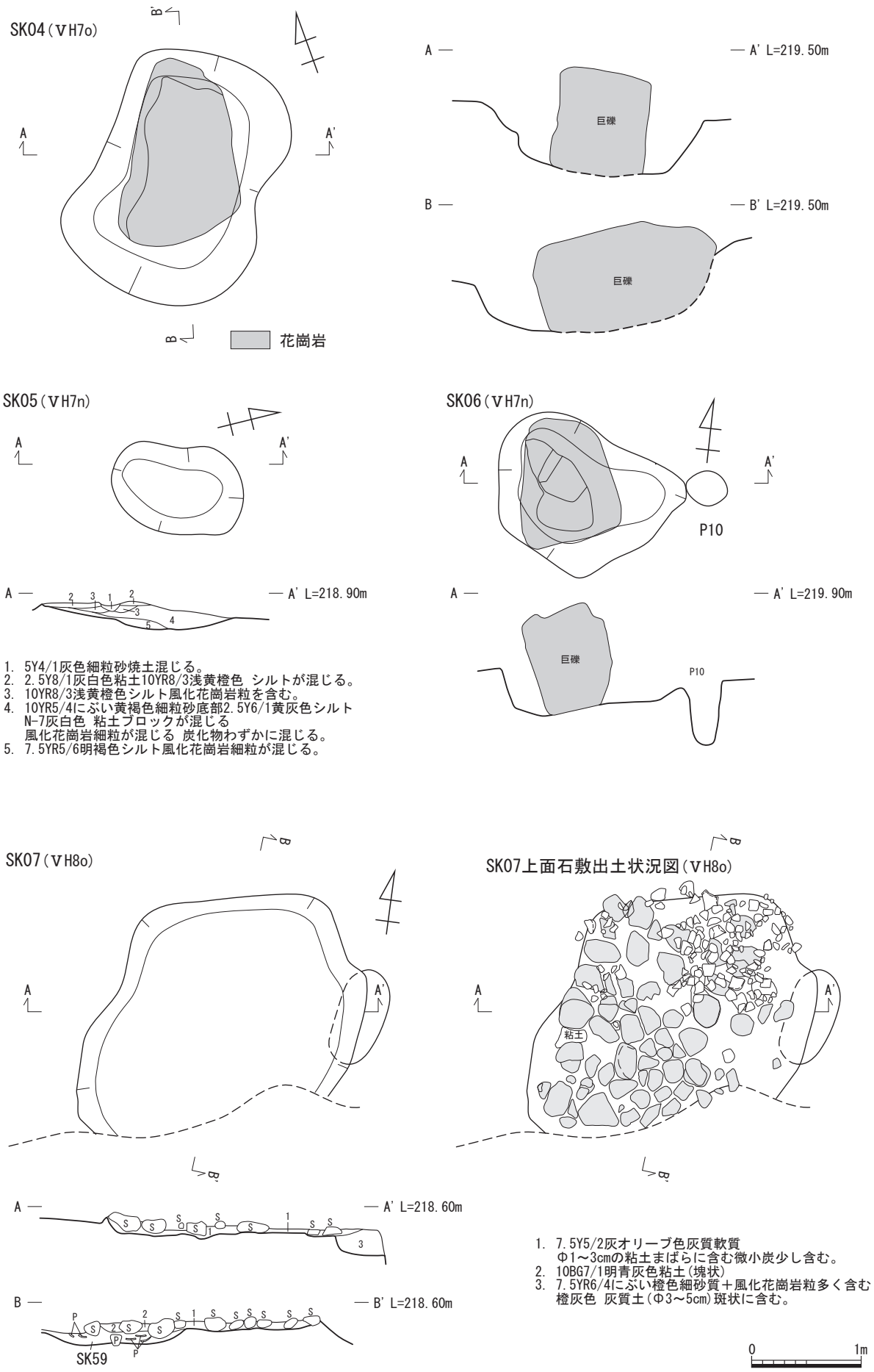


SK03出土状況図（ⅤH7o）

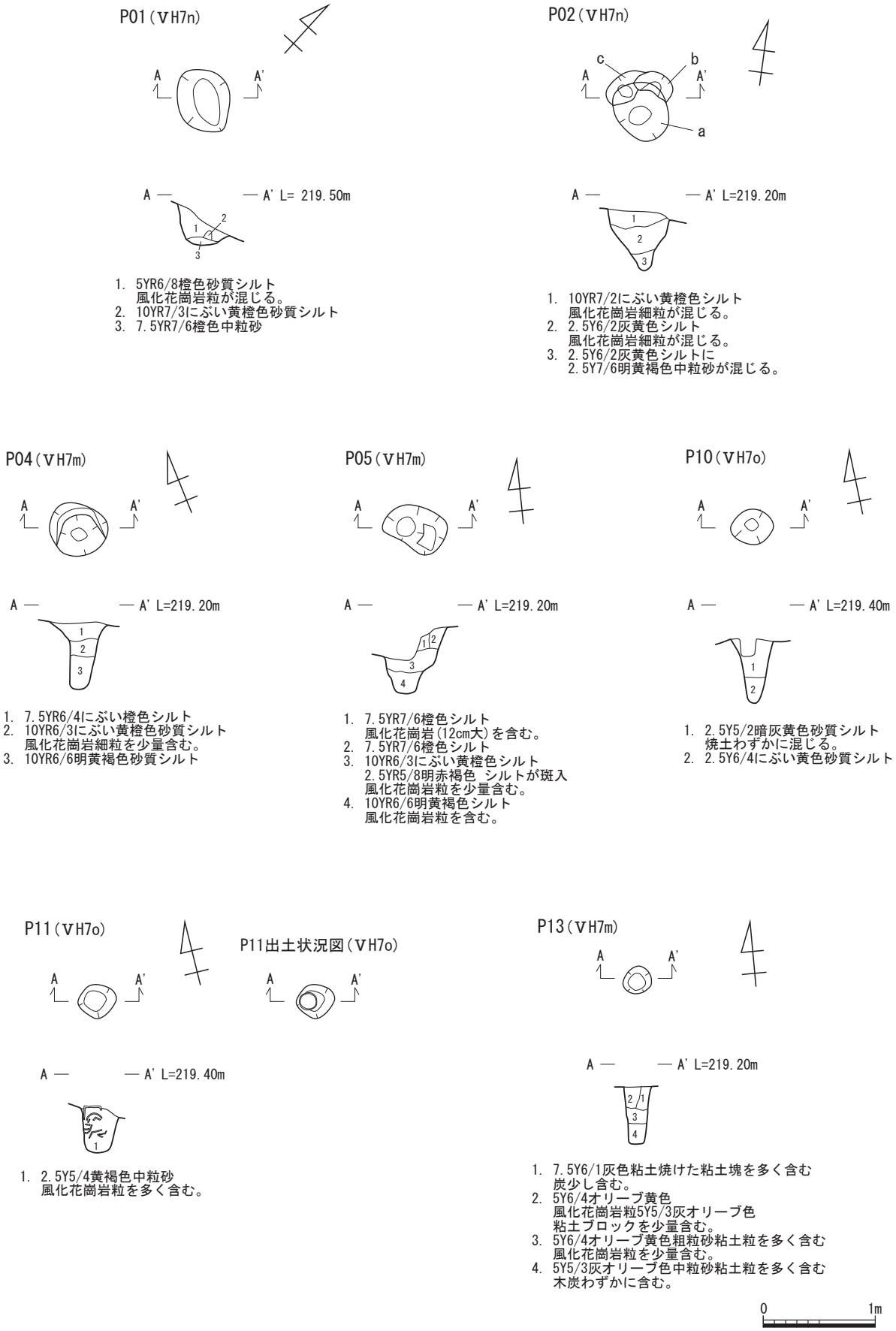


1. 2.5Y6/4にぶい黄色細砂質土焼けた粘土塊を多く含む炭少し含む。
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂質土焼土粒をわずかに含む。
3. 5Y6/8オリーブ色焼土砂粒(2.5Y4/6オリーブ褐色)を少量含む。
4. 10YR5/6黄褐色粗砂質土風化花崗岩粒を多く含む
   焼土粒を多く含む 木炭・粘土ブロックを少量含む。

第 67 図　E 区 SX02 土坑（SK01 ～ 03）、轆轤ピット（P12）平面図・土層断面図（1:50）



第 68 図　E 区 SX02 土坑（SK04 ～ 07）平面図・土層断面図（1:50）



第69図　E区SX02土坑（P01・02・04・05・10・11・13）平面図・土層断面図（1:50）

P122［図版 45］　長軸 32cm、短軸 28cm、深さ 43cm、平面形は円形。底部に粘土を詰め軸固定したと考えられる。P115 と類似する。

P115-a　長軸 44cm、短軸 37cm、深さ 55cm、平面形は隅方円形。軸穴が底面まで届かず粘土の上で固定している。P122 と類似する。

P09　長軸 47cm、短軸 36cm、深さ 42cm、平面形は隅円方形。“ 柱穴タイプ ”

P12　長軸 48cm、短軸 35cm、深さ 42cm、平面形は隅円方形。“ 柱穴タイプ ”

P03c　長軸 80cm、短軸 54cm、深さ 67cm、平面形は切り合いがあり不整形。“ 柱穴タイプ ”

P06　長軸 72cm、短軸 55cm、深さ 67cm、平面形は楕円形。“ 柱穴タイプ ”

P08［図版 44、図版 45］　長軸 41cm、短軸 38m、深さ 53cm、平面形は隅円方形。“ 柱穴タイプ ”

P07　長軸 38cm、短軸 38cm、深さ 47cm、平面形は楕円形。“ 柱穴タイプ ”

9. 粘土溜　［図版 41］

SX02 の下段に SX02-SK02 が見られ、長軸 1m14cm、短軸 96cm、深さ 36cm を測る。上層は粘土が充填され、断面の形状は箱形である。

10. 杭列

SX02 の下段北側沿い、壁際溝の南に杭列が西より SX02-P06、SX02-P04、SX02-P13、SX02-P03a、SX02-P02 が見られた。SX02 上段際を利用し、差掛けの覆い屋根の柱の可能性もある。

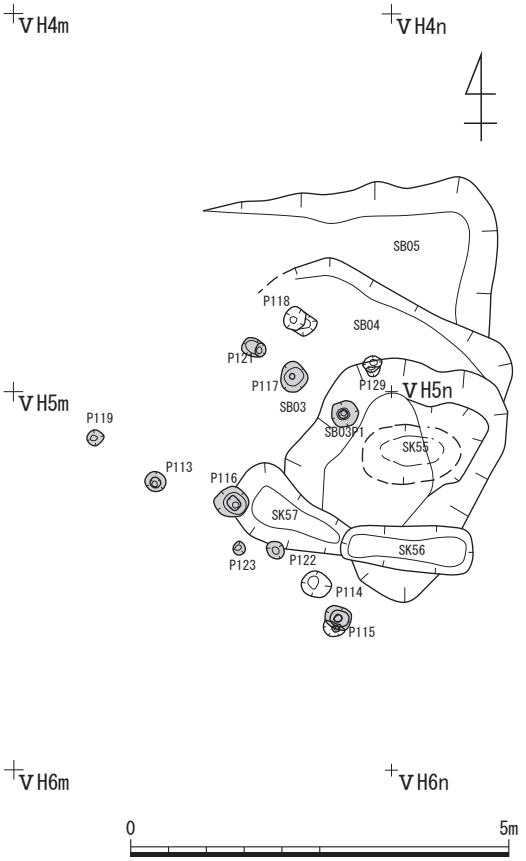
11. 石敷　［図版 40］

丘陵南東端で SX02 の下段縁辺に見られた SK07 で、不整形な凹みに小規模の石敷が見られた。石を設置するために凹みを設けており、石敷には粘土と細かい破片になった挟み皿、匣鉢、粘土ヨリが見られた。花崗岩の円礫は 71 個敷かれていた。

12. その他の土坑

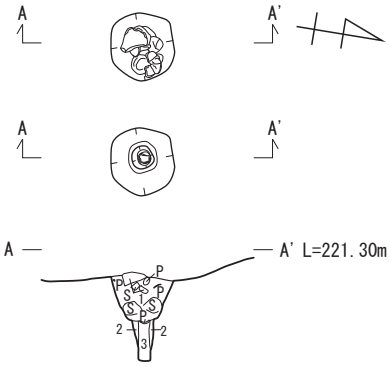
SK03、SK04、SK06　SX04、SX05、SX07、SX08、SX09、SX10、SX11、SX12。

SK03　SX02 の上段の南東端、轆轤ピット P12 の東側に SK03 が見られる。浅い土坑で焼台付き床面ブロックが逆さに二個東西に並べられていた。長軸 1m26cm、短軸 1m10cm、深さ 23cm、平面形は長楕円。西側に焼土が見られ竈の可能性もあるが不明。



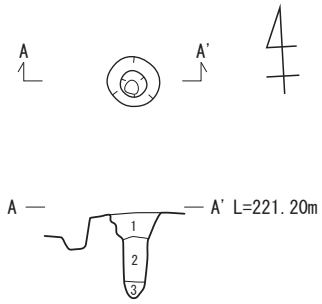
第 70 図　E 区 北側 SB02 ～ 05 轆轤ピット位置図（1:100）

P01出土状況図



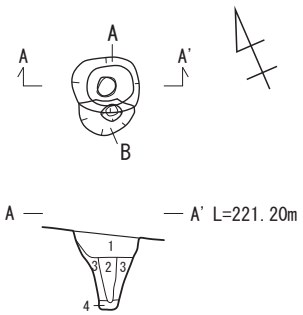
1. 7.5GY7/1明緑灰色粘土炭まばらに含む
   橙色砂質土斑状に含む。
2. 7.5Y5/3灰オリーブ色粘土質黄色砂質土・
   粘土・シルトやや多く含む。
3. 5Y5/3灰オリーブ色細砂質下底に
   青灰色シルトあり
   軸穴上に陶器片の蓋あり。

P113



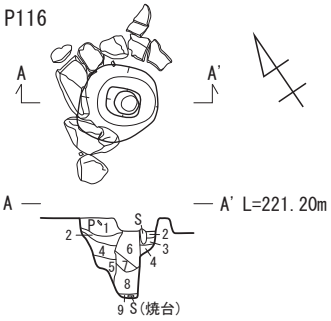
1. 10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト
2. 空洞 埋土なし
3. N-7灰白色粘土

P115



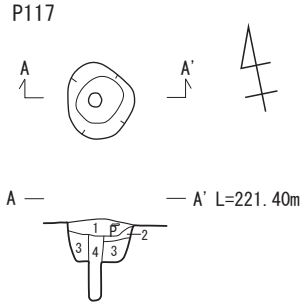
1. 7.5YR6/8橙色シルト 5Y7/1灰白色
   粘土ブロックが混じる 炭化物少量混じる。
2. 5Y7/1灰白色粘土と 7.5YR6/8橙色
   細粒砂との斑土 焼土ブロックが混じる。
3. 5Y7/1灰白色粘土に 7.5YR6/8橙色
   砂質シルトが斑入 焼土ブロックが混じる。
4. 5Y7/1灰白色粘土

P116



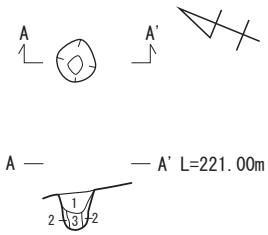
1. 5YR5/8明赤褐色硬質土炭少し含む。
2. 10GY7/1明緑灰色粘土
3. 7.5Y6/2灰オリーブ色粘土赤橙色の砂を含む。
4. 2.5Y5/3黄褐色シルト炭少し含む。
5. 10BG7/1明青灰色粘土赤橙色の砂を含む。
6. 1層と類似
   強い互層赤橙色砂・粘土・黄灰色シルト。
7. 2.5Y5/3黄褐色砂質のブロック
8. 7.5GY6/1緑灰色砂混シルト
9. 5YR5/6明赤褐色硬質土

P117



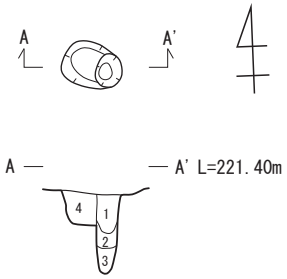
1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質粘土・
   炭まばらに含む。
2. 5GY5/1オリーブ灰色シルト淡青灰色
   粘土塊含む 弱い互層状土。
3. 7.5YR5/4にぶい褐色粘土明赤橙色
   砂質土・炭の混在。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘土炭まばらに含む。

P119



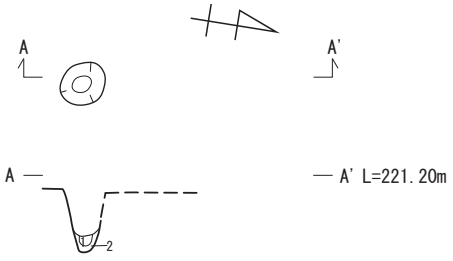
1. 10YR5/4にぶい黄褐色黄褐色土・
   粘土・赤褐色土の混在。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト
3. 2.5Y5/4黄褐色軟質粘土含む。

P121



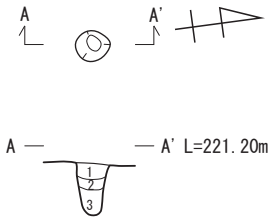
1. 7.5YR5/4にぶい褐色軟質粘土を少し含む
   赤褐色土を多く含む。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色軟質粗塊状。
3. 10YR5/6黄褐色軟質粘土を多く含む。
4. 5YR5/6明赤褐色粗塊状の粘土シルト含む。

P122



1. 2.5YR4/8赤褐色シルト質
   外郭は層厚3～5ミリのサビ色。
2. 10GY7/1明緑灰色粘土

P123



1. 10Y5/2オリーブ灰色シルト
   外郭は青味の強い粘土質シルト。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色軟質
3. 5Y5/3灰オリーブ色シルト質
   シルト多く含む。

0 1m

第71図　E区北側轆轤ピット（P01・113・115～117・119・121～123）平面図・土層断面図（1:50）

SK04［図版 41］ 巨石を伴った土坑である。長軸 2m28cm、短軸 1m71cm、深さ 73cm、花崗岩の巨石は長軸 1m70cm、短軸 1m10cm、最大厚さ 95cm を測る。平で滑らかな面が露呈していた。

SK06［図版 41］花崗岩の巨石を伴った土坑である。長軸 1m70cm、短軸 1m32cm、深さが 50cm。

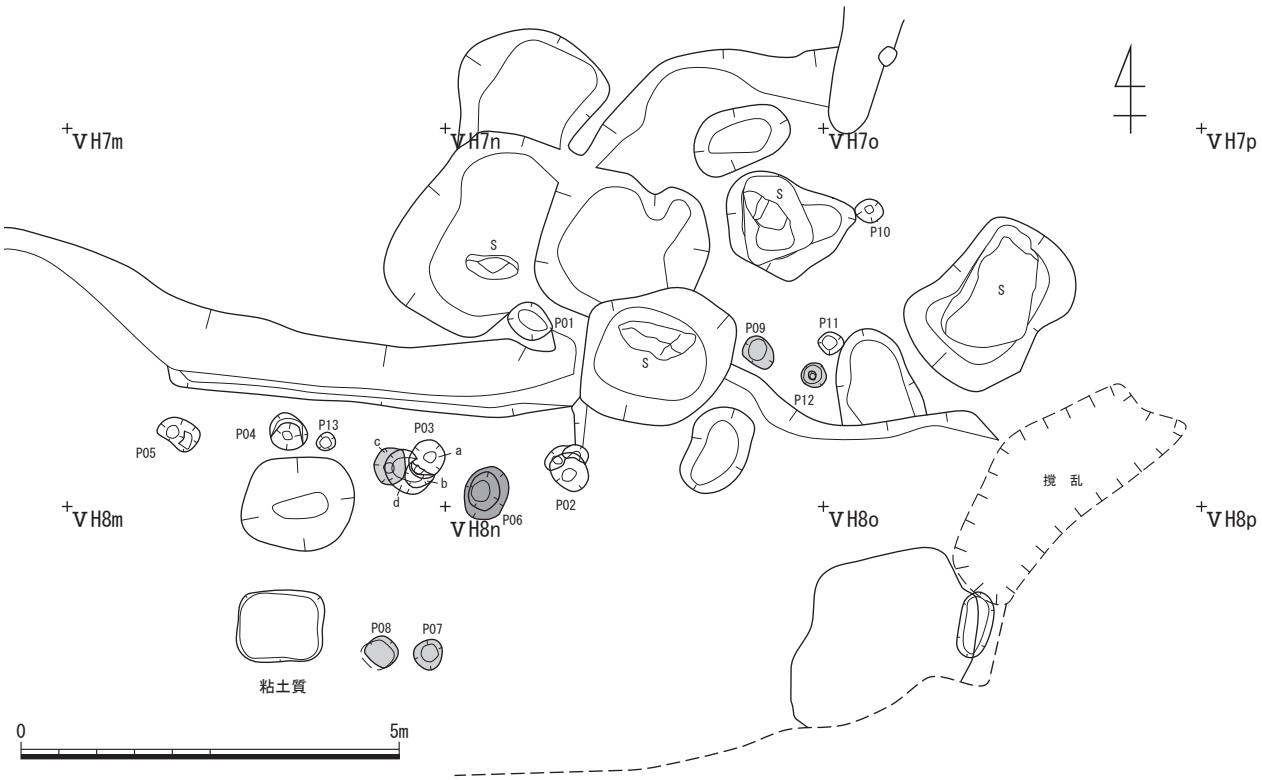
SX04、SX05、SX07、SX08、SX09、SX10、SX11、SX12 で SY01 西側の大形土坑。

SX02 の西側の大形土坑。

大形土坑はともに粘土採掘坑の可能性がある。粘土は荒く長石粒も多く含むことから製品用の粘土ではなく、窯の補修等のための粘土と思われる。

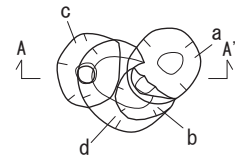
13. 土壙墓（D 区）［図版 91］ SK35

丘陵西端で西側を見おろす場所に SK35 はある。長軸 90㎝短軸 70㎝の楕円形で深さ 60㎝、花崗岩の大きな角礫を土坑の蓋にして、その下にまた角礫が見られ、長石釉の小碗と擂鉢底部片が出土した。

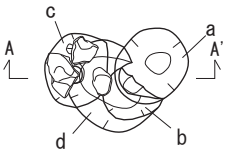


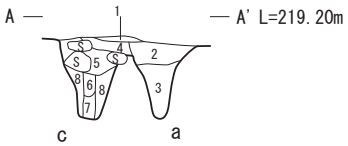
第 72 図　E 区 南側 SX02 轆轤ピット位置図（1:100）

P03（ⅤH7m）



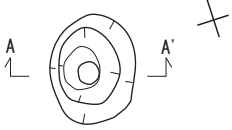
P03出土状況図（ⅤH7m）



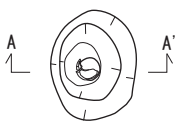


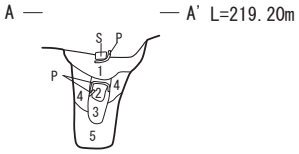
1. N-7灰白色粘土
2. 2.5Y6/3にぶい黄色シルトに7.5YR8/6浅黄橙色シルトが混入 風化花崗岩細粒を含む。
3. 2.5Y5/2暗灰黄色シルトにN-7灰白色粘土がブロック状に混じる。
4. 10YR7/2にぶい黄橙色シルトN-7灰白色粘土ブロック状をわずかに含む。
5. N-7灰白色粘土に10YR6/4にぶい黄橙色中粒砂が混じる。
6. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルトにN-7灰白色粘土がブロック(5cm)で混じる。
7. 5G6/1緑灰色シルトに5Y5/2灰オリーブ色細砂粒が混じる。
8. N-7灰白色粘土

P06（ⅤH7n）



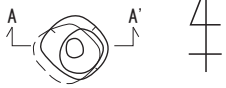
P06出土状況図（ⅤH7n）

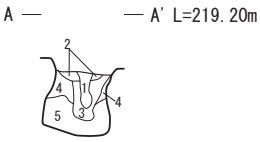




1. 10YR7/6明黄褐色シルト風化花崗岩粒をわずかに含む。
2. 2.5Y6/4にぶい黄色中粒砂
3. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト
4. N-7灰白色粘土に5Y6/3オリーブ黄色シルト 2.5Y6/6明黄褐色 中粒砂が混じる。
5. 5Y6/3オリーブ黄色シルトと2.5Y6/6明黄褐色中粒砂の斑土。

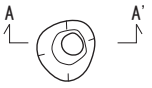
P08（ⅤH8m）



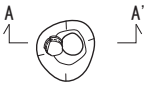


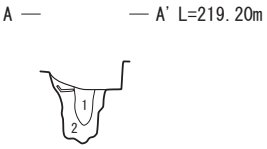
1. 10YR7/3にぶい黄橙色細粒砂
2. 5Y7/1灰白色粘土
3. 2.5Y7/1灰白色粘土炭化物少量混じる。
4. 7.5YR8/3浅黄橙色シルトと10YR8/8黄橙色砂質シルトが斑入。
5. 7.5YR7/2明褐灰色シルトと4の斑土。

P07（ⅤH8m）



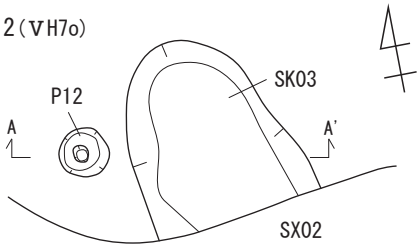
P07出土状況図（ⅤH8m）

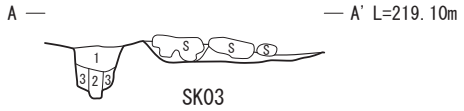




1. 5YR6/8橙色シルト5Y7/1灰白色粘土がブロック状に混じる。
2. 5Y7/1灰白色粘土

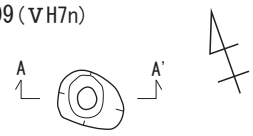
P12（ⅤH7o）

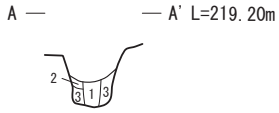




1. 2.5Y6/4にぶい黄色粗粒砂風化花崗岩粒を多く含む。
2. 2.5Y5/4黄褐色中粒砂風化花崗岩粒を少量含む 少量の木炭粒を含む。
3. 5Y6/4オリーブ黄色粗粒砂風化花崗岩粒を多く含む ごくわずか木炭粒を含む。

P09（ⅤH7n）





1. 2.5Y6/3にぶい黄色中粒砂
2. 2.5Y6/8明黄褐色粘土
3. 10YR7/8黄橙色砂質シルト

第73図　E区SX02轆轤ピット（P03・06～09・12）平面図・土層断面図（1:50）

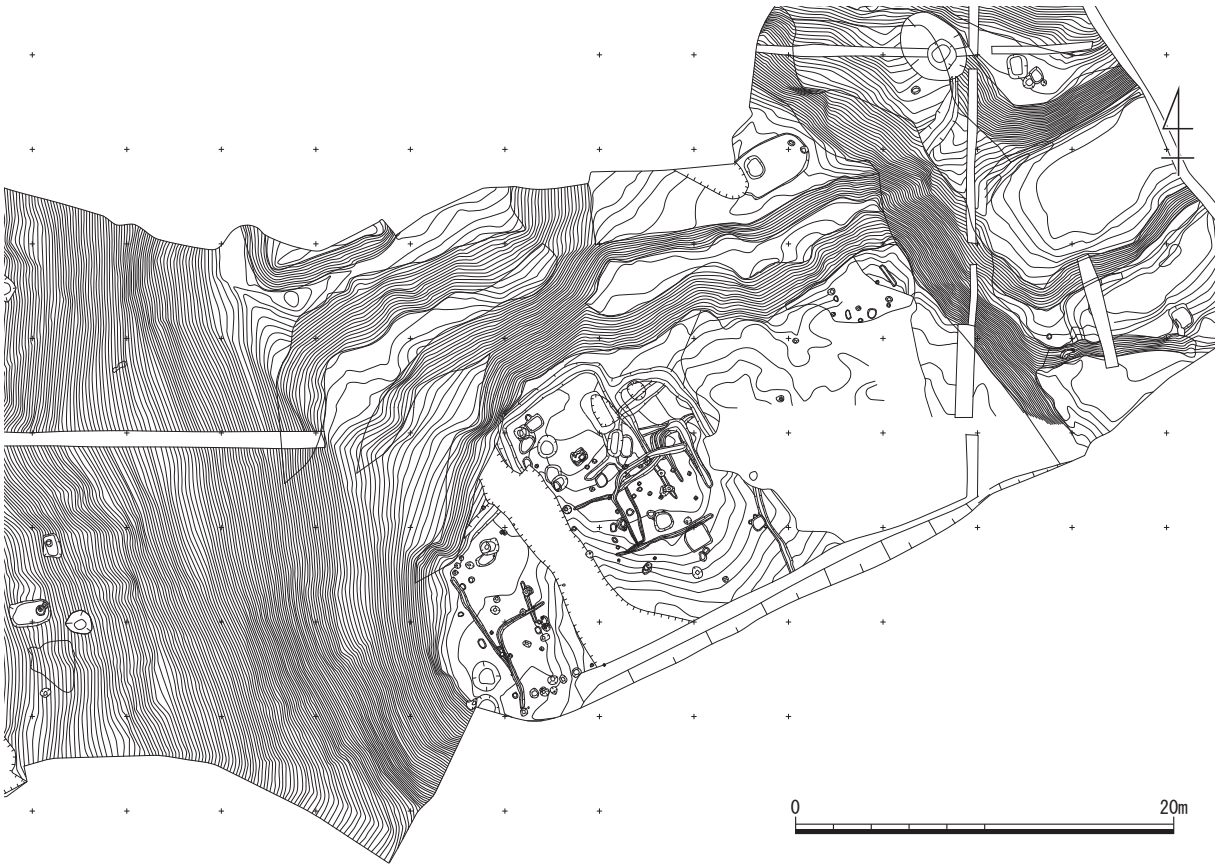
第 4 節　C 区の遺構

1. 遺構の概要

C 区は丘陵東側の谷間の調査区である。東斜面は上品野西金地遺跡、西斜面は A 区となる。C 区は水田の耕作放棄で雑草が覆い茂った状況であり、遺構があったとしても水田等により削平にされたと考えていたが、地山直上に残った遺構が良好に見られた。谷底で湧き水が激しく、土量も多く、排土置き場確保のため調査区を細分した。また冬季の調査であったため降雪と氷に悩まされた調査区でもあった。

谷際が標高 204m、南側の谷底が標高 203m を測り、谷の東側は自然流路が、調査区の西北よりで柱穴と土坑と区画溝が見られた。土坑 SK21 からは炭化物を多く含む埋土と拳大の石が出土し、火葬墓と考えられる。柱穴は南側に多く見られ、柱穴の中には打ち込み柱、P105 では柱とともに礎板が出土した。

L 字形に曲がった溝 SD05、SD06、SD14、SD17、SD07、SD08、SD10 が見られ、区画溝に区画された建物があったようである。西側にも撹乱とした小規模自然流路が流れ、建物の復元は困難であった。出土遺物が丘陵の工房址と比べ、生焼け製品と窯道具が少なく、焼き上がり良好な製品の器種が多く、また煤が付着した灯火台、漆椀、箸、砥石等が見られた事から、C 区は製品を集荷し出荷する建物が存在した屋敷地と考えられる。



第 74 図　C 区全体図 (1:400)

2. 区画溝

SD05　SD06　SD14　SD17　SD07　SD08　SD10 が見られる。

SD06［図版 46、図版 47］　斜面沿い中央の東西方向の溝で現存長さ 2m81cm、幅 79cm、深さ 17cm を測る。古い段階の溝で SD05・14 に切られており全長は不明であるが西北側斜面際の SD18 と同じ溝の可能性もある。天目茶碗、端反皿、丸皿、縁釉挟み皿、木製品の蓋、箸が出土した。

SD05［図版 46、図版 47］　北側斜面際の「凸」形を呈した北に出っ張りの見られる新しい溝群で、西より SD18、SD17、SD05、SD14、により構成された区画溝。斜面際の中央区画は角のある方形状、その東の区画は円みのある細長い長方形区画となっている。西側区画溝の有無は小規模自然流路が流れていることから南北溝は不明である。中央区画は西側現存長さ約 3m、北側約 6m60㎝、東側約 8m40㎝、深い場所は 30㎝浅い場所は 10㎝の深さを測る。天目茶碗、端反皿、灯明皿、灯明台、擂鉢、徳利、卸挟み皿、陶丸と蓋、箸、折敷、飾り金具、砥石が出土した。

SD07　西南側の東へ曲がった逆さ L 字形の南北溝である。全長 7m15㎝、西側 4m50cm、北側 2m65㎝、深さ 9cm で比高差が北から南へ－ 7cm あり、SD08・09 を切る。

SD08　西北側の南北方向の直線溝で現存長 12m、最大幅短軸 63cm、深さ 20cm で比高差が北から南へ 14cm あり、SD07 に南端が切られている。

SD10［図版 47］　調査区中央付近の東へ曲がった逆さ L 字形の溝で東に曲がった北側の溝の方が長い。全長 8m、西側 2m80㎝、北側やや弧状に 5m20㎝、深さ 30㎝を測る。比高差が北西コーナーから南へ－ 7cm、東へ－ 16cm ある。溝の東端より天目茶碗、小鉢、端反皿、稜花皿、稜皿、丸皿、小瓶、腰折皿が出土した。C 区では新しい溝。

3. 土壙墓

SK15［図版 47］　A 区斜面側の下、南西端の角礫が投棄された楕円形土坑である。長軸 1m45cm 短軸 80cm、深さ 39cm、18 個の礫中に片面に擦った痕跡のあるフォルンフェルスが見られた。

SK21　SD05 区画溝の区画された中央南よりの方形土坑で、北側に礫が 9 個集中していた。底部が薄く残る状況で長軸 86cm、短軸 69cm、深さ 10cm を測る。石が見られ墓の可能性がある。

4. 土坑

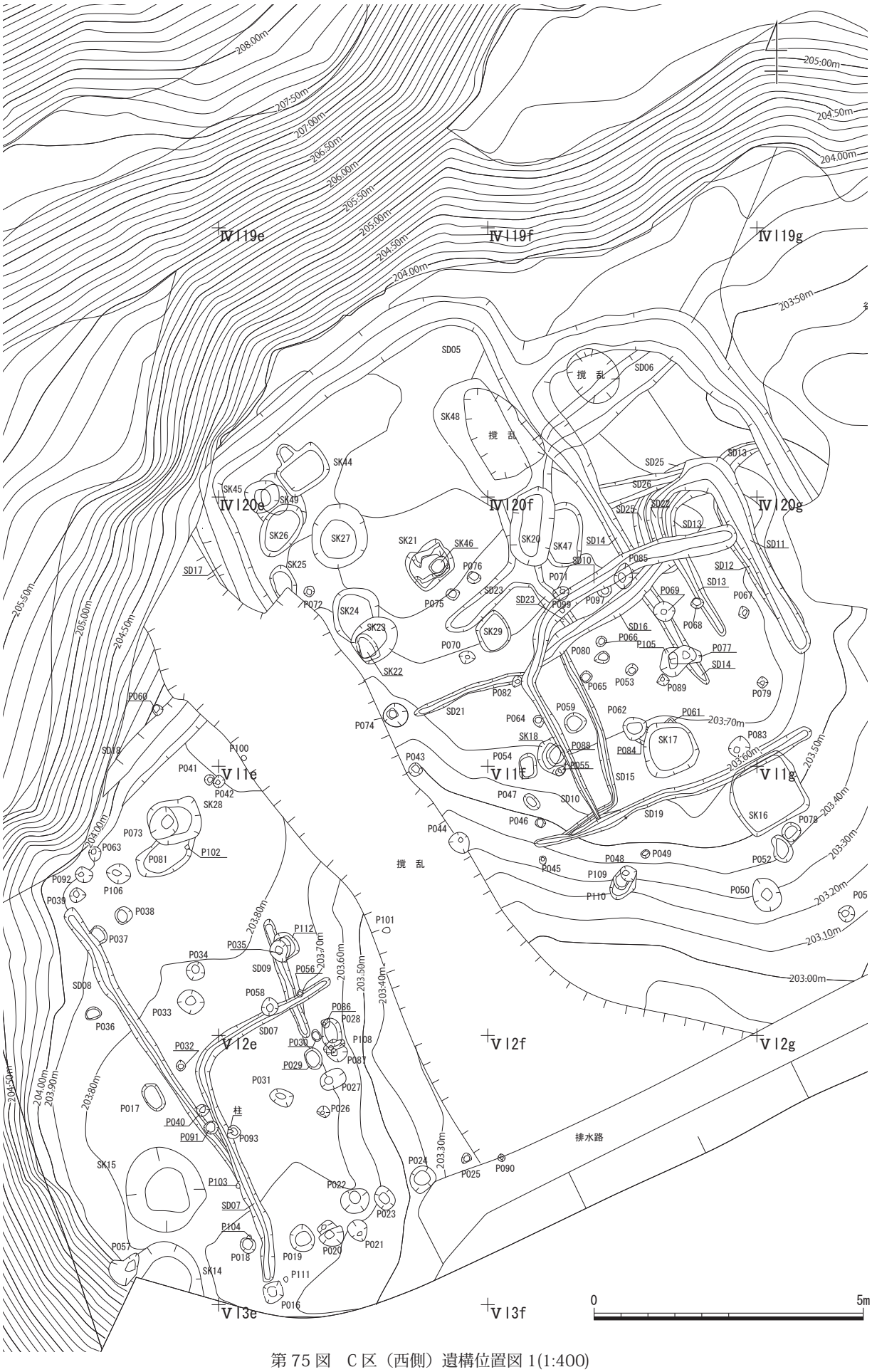
形状が方形で断面がやや角のみられる土坑 SK28、SK29、SK44、SK48 である。

SK28　北西側に P73 より古く P81 を切った長軸 99cm、短軸 79cm、深さ 25cm を測り平面形が歪む方形を呈する。

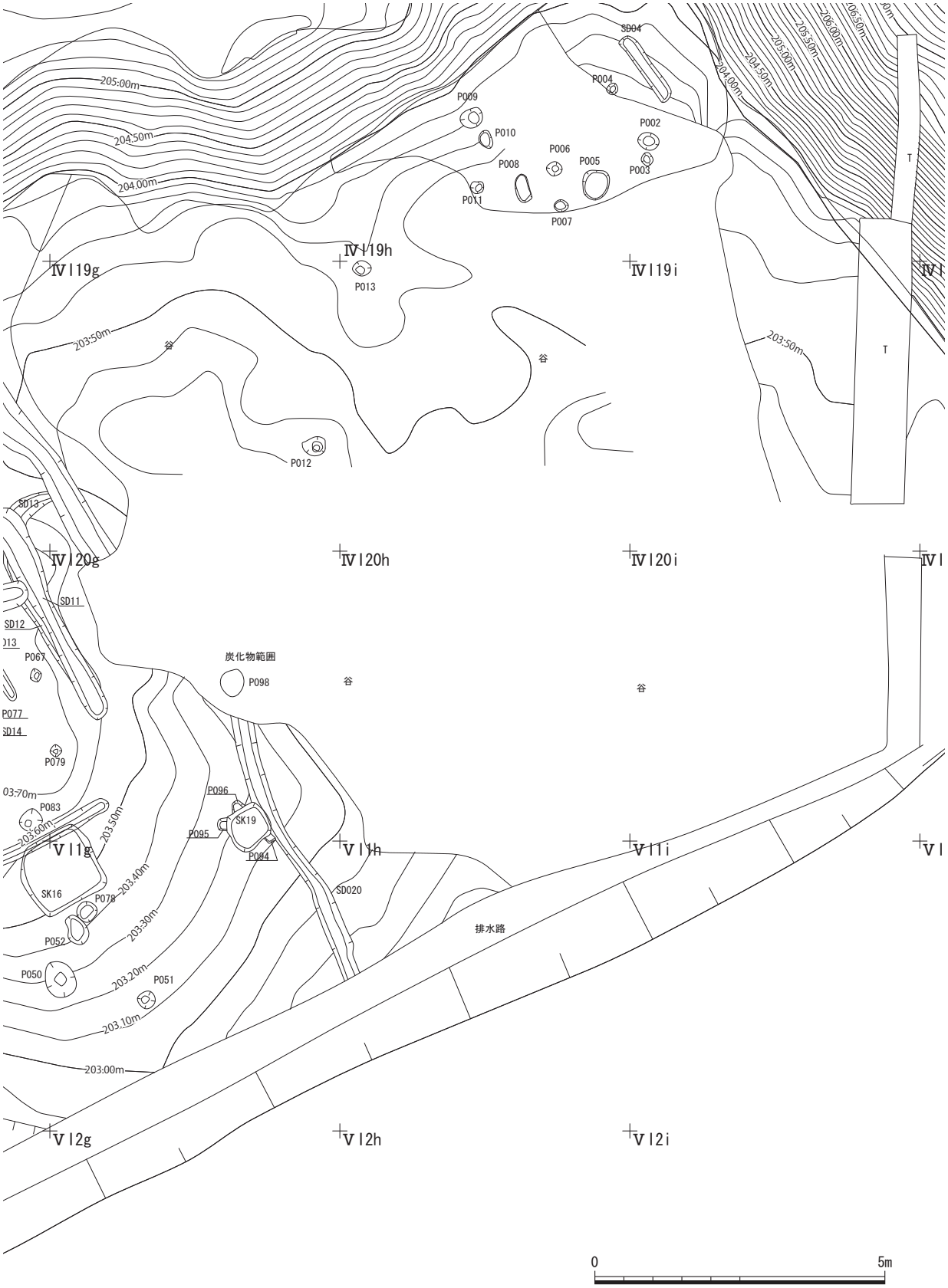
SK29　SD05 区画溝の中央南よりの方形土坑で、北側に SK21 が見られる。底部のみ薄く残った状況である。長軸 66cm、短軸 64cm、深さ 6cm、平面形は歪む方形。SD023 と接する。

SK44［図版 48］　SD05 区画溝中央北側に見られ、北に凸部のある隅丸方形の長軸 95cm、短軸 70㎝凸部から 98cm、深さ 16cm を測る。北の張り出し凸部は別遺構の可能性もある。SK049 を切る。
角礫が中央に、熙寧元宝、聖宋元宝、無文銭、漆器片、下駄？、端反皿が周りに見られた。

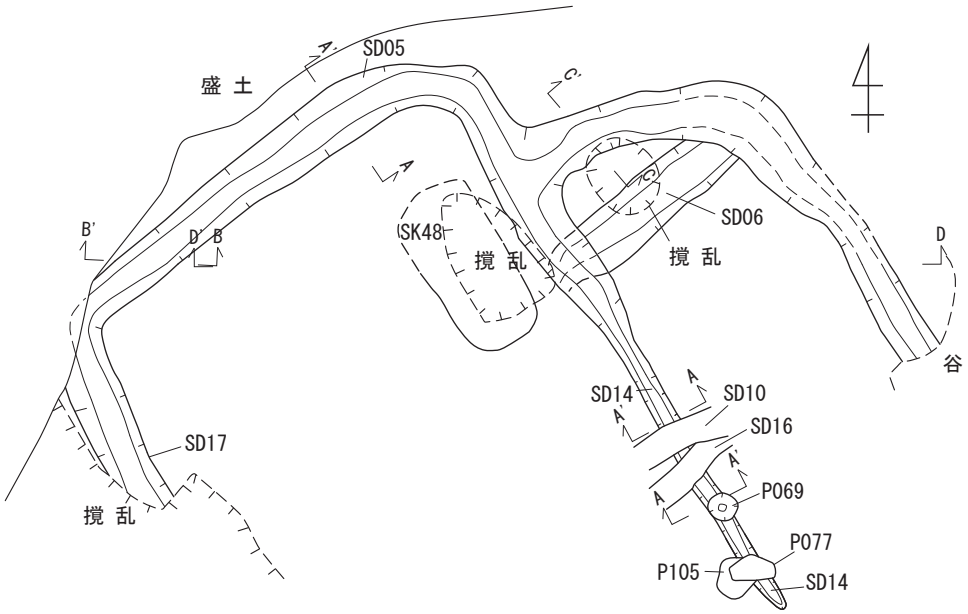
SK48　SD05 区画溝の中央北東側に見られるが撹乱により平面形は不明、南側に窯道具が出土。



第 75 図　C 区（西側）遺構位置図 1(1:400)

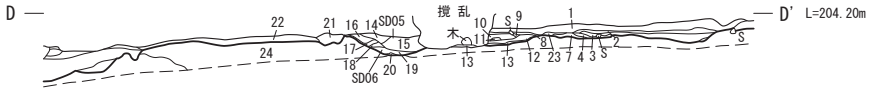


第 76 図　C 区（東側）遺構位置図 2(1:400)



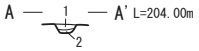
SD05

1. 10BG5/1青灰色シルト
2. 5G6/1緑灰色砂層粘質含む。
   小石含む。
3. 10BG3/1暗青灰色シルト



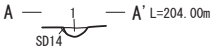
1. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト粗粒砂混じる。
2. 10BG6/1青灰色シルト炭化物を含む。
3. 10BG5/1青灰色硬質シルト粗粒砂を含む。
4. 5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト粗粒砂を含む。
5. 1と5Y8/4淡黄色シルトの斑土。
6. 5Y8/4淡黄色シルト
7. 10BG6/1青灰色粘質シルト
8. 5と同じ。
9. 10YR8/2灰白色粘土
10. 10GY6/1緑灰色シルト粗粒砂を少量含む。炭化物含む。
11. 9と同じ。
12. 9と同じ。但し土層は10YR8/6黄橙色を含む。
13. 2.5Y5/2暗灰黄色硬質シルト
14. 10YR4/1褐灰色砂質シルト
15. 10Y4/1灰色砂質シルト10BG
    7/1明青灰色粘質シルトブロック状混じる。
16. 10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト
17. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト
18. 10BG6/1青灰色シルト
19. 5Y3/2オリーブ黒色シルト
20. 10YR7/2灰白色シルト
21. 5Y4/1灰色砂質シルト2.5Y8/3淡黄色シルトが混入。
22. 2.5Y8/4淡黄色砂質シルト
23. 10BG6/1青灰色シルト粗粒砂を含む。
24. 2.5Y6/2灰黄色粗粒砂

SD14



1. 10YR5/2灰黄褐色シルト
2. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト

P069



1. 10YR5/2灰黄褐色シルト

第 77 図　C 区 溝（SD05・06・14・17、P69）平面図・土層断面図 (1:100)

5. 柱穴

P12　P16　P18　P19　P21　P57　P71　P83　P74　P77　P104　P105 が見られる。

柱坑は北側より南側に多い傾向が見られる。柱穴としたが杭坑の可能性もある。礎盤や柱が見られ、建物の復元を試みたが、水田による削平と自然流路のため困難であった。遺物が出土した柱穴である。

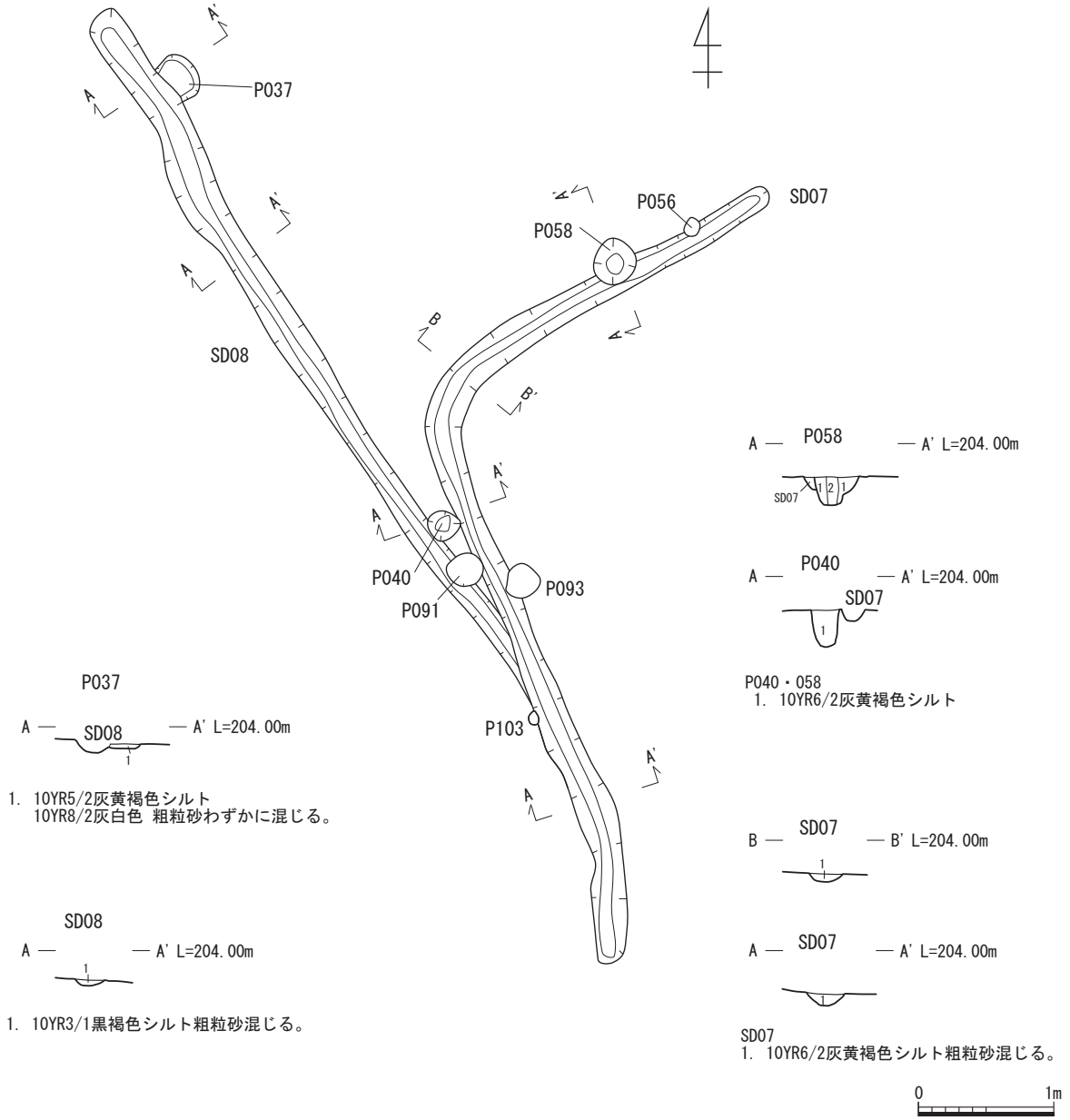
P12　長軸 41cm、短軸 33cm、深さ 57cm を測る。柱痕と柱が見られた。打ち込み杭柱の底のレベルは 202.949m を測る。砥石が出土。

P16　長軸 38cm、短軸 35cm、深さ 27cm を測る。柱が見られた。

P21　長軸 41cm、短軸 35cm、深さ 32cm を測る。硯が出土。

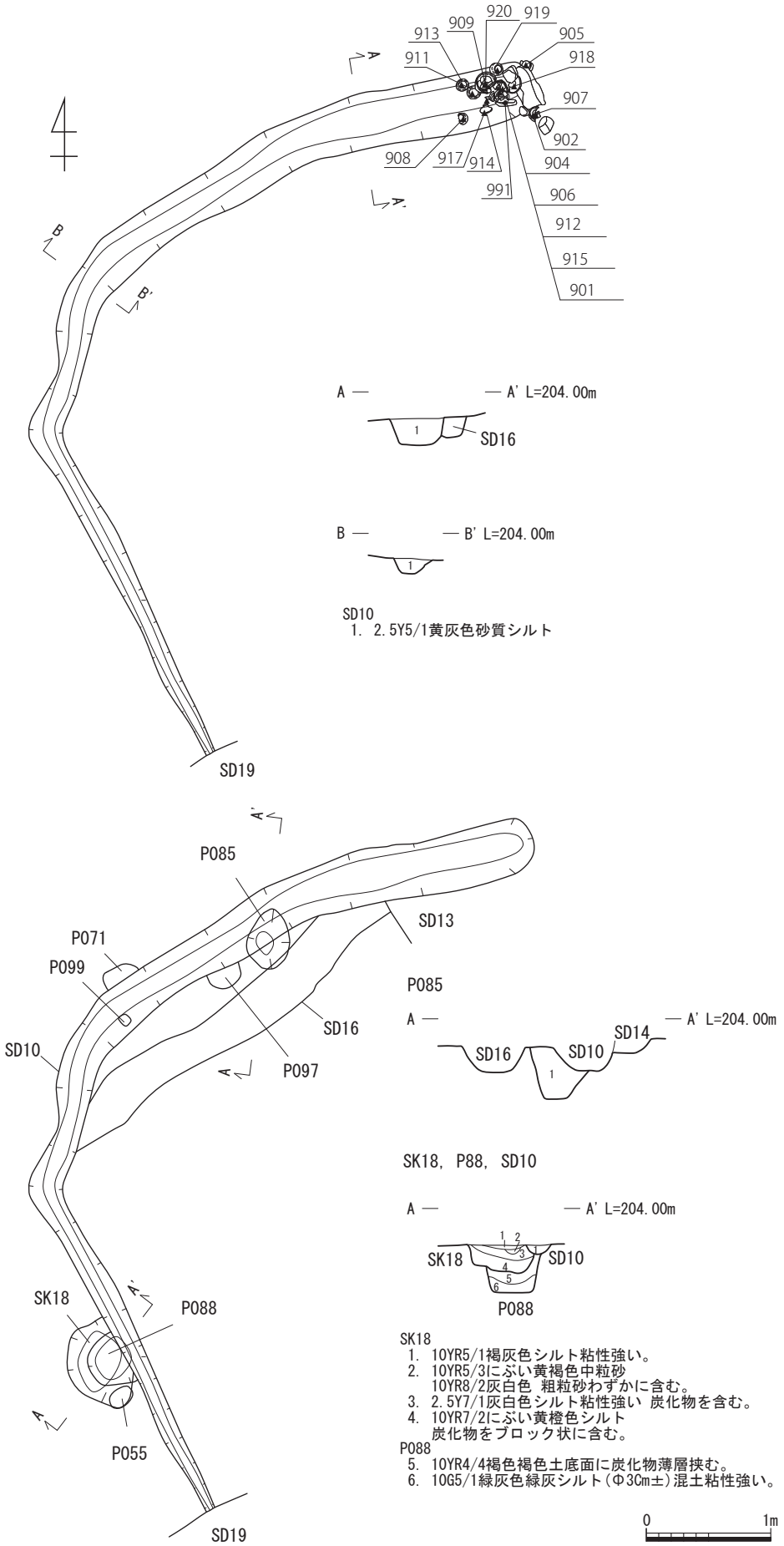
P74［図版 49］　長軸 44cm、短軸 43cm、深さ 73cm を測る。

P105［図版 49］長軸 52cm、短軸 59cm、深さ 47cm を測る。P77 に切られる。礎盤が出土。



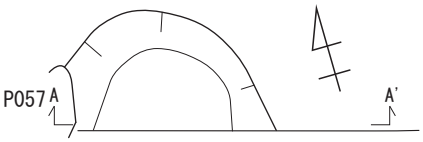
第 78 図　C 区 溝他（SD07・08、P37・40・58）平面図・土層断面図 (1:50)

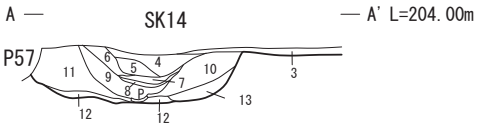
SD10出土状況図



第79図　C区 溝他（SD10、SK18、P71・85・88）平面図・土層断面図 (1:50)

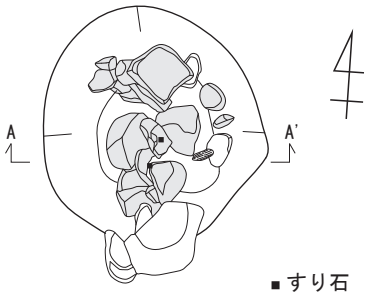
SK14（Ⅴ12d）

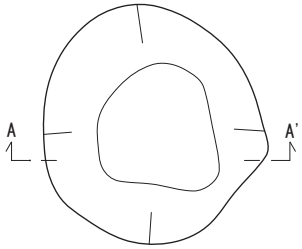


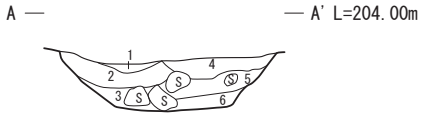


1. 2.5Y7/1灰白色シルト
2. 10YR7/8黄橙色細粒砂
3. 5Y5/1灰色中粒砂＋シルト
4. 2.5Y5/1黄灰色シルト
5. 5Y5/1灰色粘質シルト
6. 10YR7/8黄橙色粘質シルト
7. 5Y5/1灰色シルト＋粗粒砂
8. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト
9. 5Y6/1灰色シルト＋中粒砂
10. 2.5Y6/1黄灰色シルト
11. 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト

SK15出土状況図（Ⅴ12d）

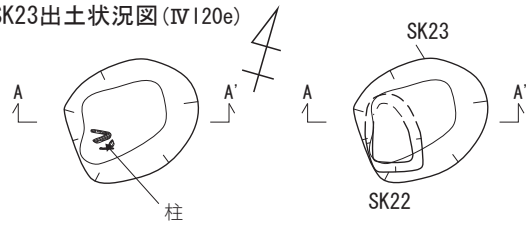


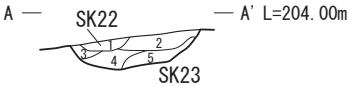




1. 5Y5/1灰色シルト
2. 10YR6/6明黄褐色細粒砂
3. 5Y4/1灰色シルト
4. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト小礫をわずかに含む。
5. 10YR6/2灰黄褐色中粒砂
6. 10YR6/2灰黄褐色粗粒砂

SK23出土状況図（Ⅳ120e）

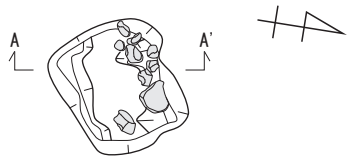


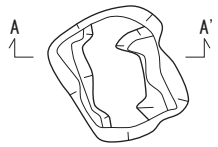


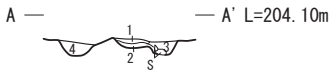
SK22
1. 10Y7/1灰白色細粒砂
10YR5/1褐灰色 シルトを層状に含む。

SK23
2. 10YR5/1褐灰色シルト
10YR8/2灰白色 粗粒砂を含む 礫を含む。
3. 10Y7/1灰白色細粒砂
4. 10YR5/2灰黄褐色シルト
5. 10YR5/1褐灰色砂質シルト

SK21出土状況図（Ⅳ120e）



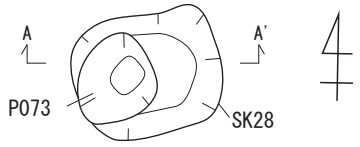


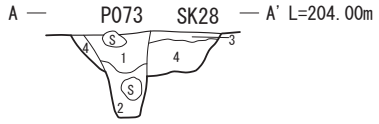


※出土遺物は墓に伴う石である。

1. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト炭化物を少量含む。
2. 10Y5/1灰色シルト炭化物を多く含む。
3. 2.5Y6/1黄灰色シルト
2.5Y8/3淡黄色 粘土をブロック状に含む 炭化物を含む。
4. 10YR4/1褐灰色シルト

SK28, P073（Ⅴ11d）

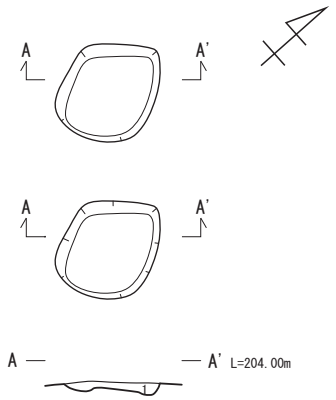




1. 10YR5/2灰黄褐色シルト10BG7/1明青灰色
中粒砂がブロック状に混じる。
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト炭化物わずかに混じる。
4. 10BG7/1明青灰色細粒砂に10YR5/2灰黄褐色
シルトがマーブル状に斑入。

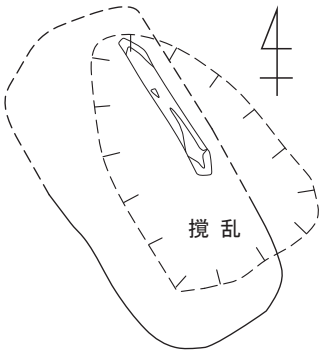
第80図　C区土坑（SK14・15・21・23・28、P73）平面図・土層断面図(1:50)

SK29出土状況図(Ⅳ120f)

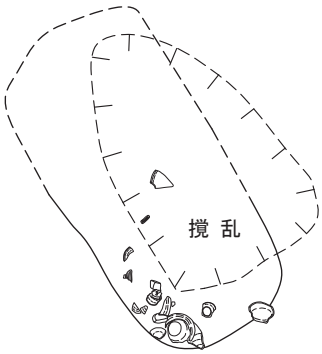


1. 5Y5/1灰色砂質シルト
10YR8/2灰白色粗粒砂班入、炭化物わずか。

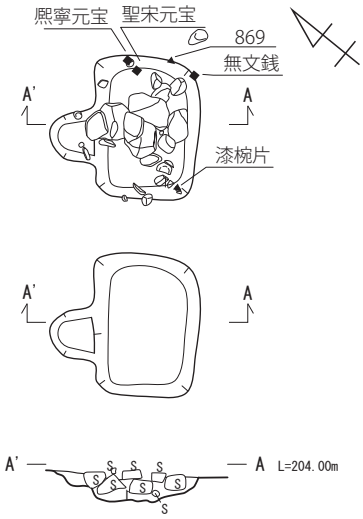
SK48(Ⅳ119f)



SK48出土状況図(Ⅳ119f)

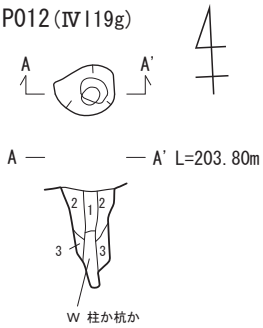


SK44出土状況図(Ⅳ119e)



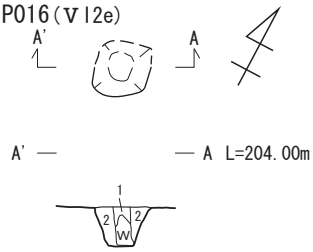
1. 10Y4/1灰色シルト炭化物わずかに混じる。

P012(Ⅳ119g)



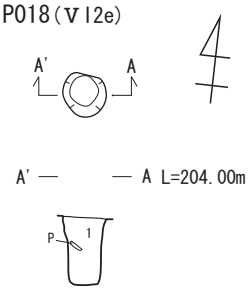
1. 10Y6/1灰色 シルト
2. 10Y4/1灰色シルト粗粒砂を少量含む。
3. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色 シルト

P016(Ⅴ12e)



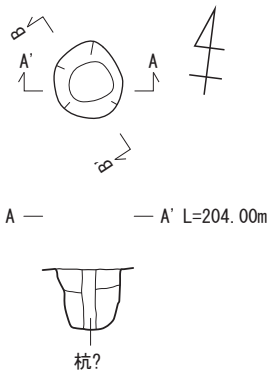
1. 10YR7/8黄橙色粘土ブロック混じる。
2. 10YR5/1褐灰色 シルト

P018(Ⅴ12e)



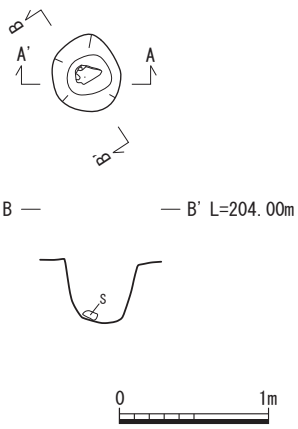
1. 10YR5 Q灰黄褐色シルト

P019(Ⅴ12e)

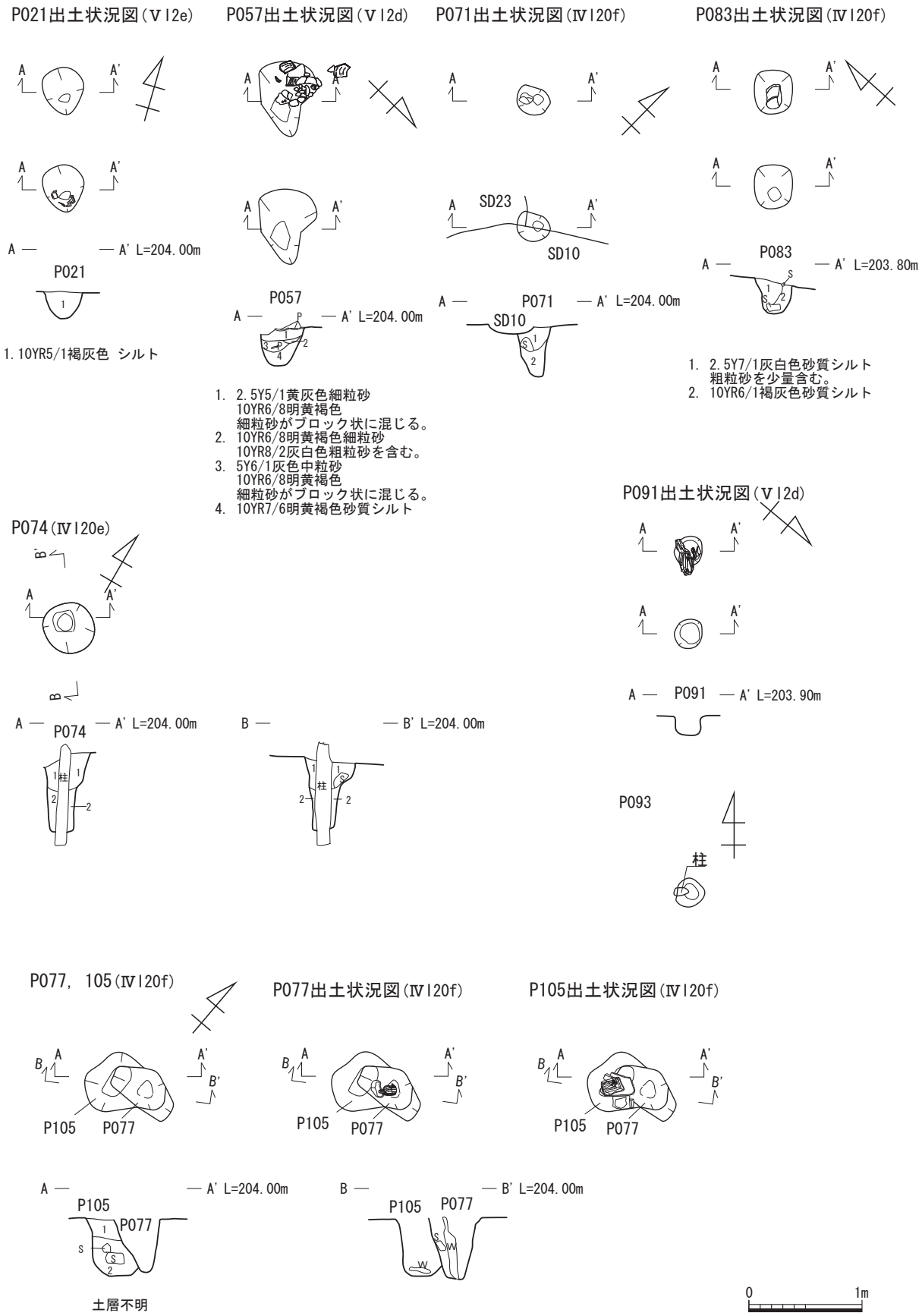


10YR5/2灰黄褐色 シルト

P019出土状況図(Ⅴ12e)



第81図　C区 土坑、柱穴（SK29・44・48、P12・16・18・19）平面図・土層断面図(1:50)



第82図　C区 柱穴（SP21・57・71・74・77・83・91・105）平面図・土層断面図 (1:50)

第３章　出土遺物

第１節　出土遺物の概要

桑下東窯跡は調査前すでに窯体１基が露呈し遺物が周辺に散乱していた。散乱した遺物の大部分が窯道具類（粘土ヨリ、匣鉢、挟み皿）で、製品の破片が僅かに見られるのみであった。調査区外の南端に灰原が位置するのだが、灰原は丘陵の一部とともにすでに崩落しており、崖下に灰原の痕跡も見られなかった。Ｄ区、Ａ区、Ｅ区が丘陵、Ｃ区が谷底になる。

製品の破片については調査区内すべて取り上げカウントした。窯道具（匣鉢、挟み皿）に完形品が多く見られたが、カウントは実施しなかった。窯道具類については、遺構内出土は製品の破片と同じ扱いで取り上げ、遺構外については取り上げるものは残存率 1/4 以上のものとし、1/4 以下のものについては取り上げなかった。窯道具類の破片はＥ区に多く、粘土紐状のヨリ、ピンも目立った。

調査により出土した遺物の総破片数は 24,725 点（第４表）と土質の鍋・釜類が 104 点である。その他に山茶碗、江戸時代の陶磁器類など 535 点が出土し、数えた総点数は 25,364 点である。

出土破片の多い順に、擂鉢 8,115 点、端反皿 7,598 点、天目茶碗 1,903 点、釜 1,269 点　縁釉皿 1,141 点、腰折皿 627 点、壷 574 点、灯明皿 565 点、徳利 519 点、丸皿 496 点、鍋 343 点、丸碗 336 点、筒形容器 264 点、稜皿 256 点、甕 173 点、茶壺 106 点、茶入 75 点、大鉢 75 点、丸皿（ソギ含）61 点、中鉢 29 点、中皿 26 点、蓋 23 点、大皿 17 点、稜花皿 17 点、小杯･小天目 16 点、平碗 15 点、卸目皿 ?27 点　瓶 12 点、桶９点、小壷９点、燭台８点、小鉢７点、香炉６点、小皿４点、水注２点、托２点、の 36 器種で総破片数は 24,725 点である。口縁部個体数 1,294 個体、底部個体数 1,553 個体を数えた。

千点以上出土した器種は、擂鉢 8,115 点、端反皿 7,598 点、天目茶碗 1,903 点、釜 1,269 点　縁釉皿 1,141 点である。擂鉢と釜は碗、皿に比べ形状そのものが大形のため突出した数字になっているが、個体数でみると、擂鉢は口縁部個体数 311 個と底部個体数 205 個、端反皿は口縁部個体数 471 個と底部個体数 728 個、天目茶碗は口縁部個体数 116 個と底部個体数 132 個、釜は口縁部個体数 21 個と底部個体数 24 個、縁釉皿は口縁部個体数 106 個と底部個体数 129 個である。個体数では端反皿が口縁部個体数 471 個と底部個体数 728 個と一番多いのである。図版篇の 73 頁から 78 頁の組成・器種別グラフ参照。

特徴的な遺物として削り出し輪高台の天目茶碗（213.214.304 等）、鎬蓮弁文丸碗（128.220.310.651）、付高台の端反皿、稜花皿、削ぎのある丸皿、稜皿、銅緑釉皿（490.524.525）等が、また特殊な器種として魚形掛花生（464）と狛犬の阿形（298）が見られた。

端反皿の印花文は本窯と同時期の小金山窯跡と同じ印花文（345）も見られたが、新たな花菱（3.227）半菊葉立花（4.5.85.346 ～ 348）糸巻（228.356）丸菱（364）梅（365）三つ盛菊（355）が見られた。

他にＣ区では木製品として折敷、蓋、栓、漆椀、箸が、石製品として硯、砥石が、金属製品として飾り金具と SK44 より熙寧元宝、聖宋元宝、無文銭が見られた。なおＡ区の SK34 より皇宋通宝（32）と開元通宝（27）が各１枚、不明の古銭が４枚と鉄滓が出土した。

第４表　　桑下東窯跡出土遺物破片表

器　種		破片数	比率 %	口縁部個体数	比率 %	底部個体数	比率 %
碗	平碗	15	0.06	1.17	0.09	0.42	0.03
	天目茶碗	1,903	7.70	116.99	9.04	132.17	8.51
	小杯・小天目	16	0.06	2.41	0.19	2.91	0.19
	丸碗	336	1.36	23.25	1.80	27.96	1.80
	小計	2,270	9.18	143.81	11.11	163.45	10.52
皿	縁釉皿	812	3.28	73.32	5.66	87.09	5.61
	縁釉小皿	329	1.33	32.91	2.54	42.65	2.75
	卸皿	27	0.11	2.00	0.15	6.47	0.42
	端反皿	7,598	30.73	471.93	36.46	728.62	46.91
	丸皿	496	2.01	41.17	3.18	40.63	2.62
	丸皿（ソギ）	61	0.25	5.17	0.40	6.48	0.42
	丸皿・大皿	17	0.07	0.67	0.05	0.08	0.01
	丸皿・中皿	26	0.11	1.00	0.08	1.17	0.08
	丸皿・小皿	4	0.02	0.75	0.06	0.99	0.06
	稜花皿	17	0.07	2.33	0.18	2.66	0.17
	稜皿	256	1.04	22.83	1.76	36.08	2.32
	腰折皿	627	2.54	60.65	4.69	103.76	6.68
	小計	10,270	41.54	714.73	55.21	1056.67	68.03
瓶・壷	瓶	12	0.05	0.08	0.01	0.33	0.02
	徳利	519	2.10	7.57	0.59	7.49	0.48
	水注	2	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
	茶入	75	0.30	3.33	0.26	4.57	0.29
	茶壷	106	0.43	0.67	0.05	0.50	0.03
	小壺	9	0.04	0.33	0.03	0.58	0.04
	壺	574	2.32	4.58	0.35	5.92	0.38
	小計	1,297	5.25	16.57	1.28	19.40	1.25
鉢・盤	大鉢	75	0.30	3.67	0.28	2.17	0.14
	中鉢	29	0.12	2.75	0.21	0.33	0.02
	小鉢	7	0.03	1.33	0.10	0.83	0.05
	擂鉢	8,115	32.82	311.71	24.08	205.05	13.20
	小計	8,226	33.27	319.46	24.68	208.39	13.42
その他	香炉	6	0.02	0.58	0.05	0.83	0.05
	釜	1,269	5.13	21.75	1.68	24.80	1.60
	鍋	343	1.39	6.33	0.49	5.90	0.38
	托	2	0.01	0.50	0.04	0.99	0.06
	蓋	23	0.09	2.67	0.21		0.00
	筒形容器	264	1.07	17.75	1.37	4.65	0.30
	桶	9	0.04	0.42	0.03	0.67	0.04
	燭台	8	0.03	0.75	0.06	1.24	0.08
	灯明皿	565	2.29	45.74	3.53	60.69	3.91
	甕	173	0.70	3.42	0.26	5.52	0.36
	小計	2,662	10.77	99.91	7.72	105.29	6.78
不　明		0	0.00	0	0.00	0	0.00
合　計		**24,725**	**100.00**	**1294.48**	**100.00**	**1553.19**	**100.00**

第５表　　掲載遺物時期別表

＊時期区分は藤澤編年

器種	合計	区／時期＊	後Ⅳ新	後Ⅳ新～大１	大１	大１～２	大２	大２～３	大３	計
平碗	3	E	1		1					2
		C			1					1
天目茶碗	91	A	1	3	14	1	1	-	-	20
		E	3	-	9	1	5	-	2	20
		C	1	1	40	1	4	1	3	51
丸碗	28	A			9	-	-			9
		E			7	1	2			10
		C			7	-	2			9
腰折皿	27	A	3	-	-					3
		E	14	1	3					18
		C	6	-	-					6
端反皿	341	A			122	2	-		1	125
		E			126	13	6		-	145
		C			63	5	-		-	68
		D			3	-	-		-	3
丸皿	42	A			1	-	5			6
		E			-	1	11			12
		C			5	-	19			24
鉄釉丸皿	2	C			1		1			2
灰釉皿	1	E					1			1
ソギ皿	1	E					1			1
稜花皿	4	A			1					1
		E			2					2
		C			1					1
稜皿	23	A					4			4
		E					12			12
		C					7			7
鉄釉稜皿	6	C					6			6
灰釉綾皿	1	C					1			1
縁釉皿	2	E			2					2
縁釉小皿	1	E	1							1
縁釉挟み皿	38	A			11					11
		E			5					5
		C			20					20
		D			2					2
縁釉卸皿	1	D			1					1
卸挟み皿	4	E			3					3
		C			1					1
豆皿	1	C				1				1
直縁大皿	5	E	3		1					4
		C	1		-					1
皿	3	A			1	-				1
		C			1	1				2
卸目付大皿	1	A	1							1
大鉢	1	E	1							1
鉢	2	C			1	1				2
浅鉢	2	C			1					1
		D			1					1
小鉢	2	C			1			大１～３ 1		2
双耳小壷	1	C	1							1
筒形香炉	1	A								1
水滴	1	C		1						1
茶入	2	C			1	1				2
徳利	11	E		-	-	1	-			1
		C		1	2	5	2			10
燭台	1	A		1						1
灯明台	6	A		-		2				2
		C		1		3				4
灯明皿	39	A			1		-			1
		E			1		2			3
		C			27		8			35
釜	28	A		8		1	後Ⅳ新～大２ 3			12
		E		6		-	-			6
		C		6		-	後Ⅳ新～大２ 4			10
蓋	2	A				2				2
カメ	8	A				1				1
		C				7				7
壷	2	A					後Ⅳ新～大２ 2			2
擂鉢	87	A	12	1	19	-	18	-	-	50
		E	4	1	7	-	5	2	2	21
		C	2	1	7	1	4	-	1	16
小瓶	1	C				1				1
その他	21	A			11	4	1			16
		E	1		1					2
		C			1	1				2
		D			1					1
総計	**844**		**56**	**33**	**548**	**63**	**139**	**6**	**9**	**844**

実測可能なものを出来るだけ図示した出土各製品は、藤澤編年では後期Ⅳ新段階から大窯３段階（15世紀末から16世紀後葉）まで見られた。井上編年では大窯Ⅰａ期から大窯Ⅱｂ期（15世紀末から16世紀後葉）まで見られ、大窯1a期がほとんどであった。

図示した製品854点の藤澤編年時期別の構成（第５表、第６表）は、後期Ⅳ新段階が56点（6.55%）、後期Ⅳ新段階から大窯１段階が33点（3.86%）、大窯１段階が548点（64.16%）、大窯１段階から大窯２段階が63点（7.37%）、後期Ⅳ期新段階から大窯２段階が139点（16.27%）、大窯２段階から大窯３段階が５点（0.58%）、大窯３段階が10点（1.17%）で、大窯１段階が548点（64.16%）と64%の比率を示し圧倒的に多いのである。調査区別に大窯１段階の製品548点を見ると、A区では191点（34.8%）、E区では168点（30.6%）、C区では181点（33%）、D区では８点（1.4%）出土している。

D区は丘陵西側斜面である。A区、E区、C区は出土点数の差も少なく、この大窯１段階が桑下東窯の最盛期と思われ、丘陵と谷部が一体化していたことが窺えるのである。

調査区D区、E区、A区の丘陵部において窯体・工房のセットが、それも丘陵部全面を活用した大規模な工房が見られたのである。丘陵が『作る、焼く、選別』の作業場で、C区の谷が『集荷出荷』に関わる屋敷と想定できるのではないだろうか。

藤澤氏は、大窯が15世紀末から17世紀初頭にかけての120年130年ほど、戦国から織豊期を、大窯１段階から第４段階までの四段階に、さらに各段階を前後二時期に細分されている。後期Ⅳ期新段階が1460年から1470年代に、大窯１段階が文明８年（1476）から永正２年（1505）、大窯２段階が1530年前後、大窯３段階が1560年代に成立し、1570年代後半には第３段階後半にはいっていた可能性があると考えられている。

井上氏は、大窯が15世紀末から17世紀初めまでの約120年間の大窯ⅠからⅤ期の五期に、戦国期の大窯前期（大窯Ⅰ・Ⅱ期）と安土桃山期の大窯後期（大窯Ⅲ期から大窯Ⅴ期）に編年され、大窯Ⅰ期は古式の大窯Ⅰａ期（1490年から1510年）と新式の大窯Ⅰｂ期（1510年から1530年）に区分、大窯Ⅱ期は古式の大窯Ⅱａ期（1530年から1550年）と新式の大窯Ⅱｂ期（1550年から1570年）に区分される。

第６表　　調査区別時期別表

区／時期	後Ⅳ新	後Ⅳ新～大1	大１	大１～２	大２	大２～３	大３	合計
A	17	14	191	14	29 後Ⅳ～大２ 5		1	271
E	28	8	168	17	46	2	4	273
C	11	11	181	32	54 後Ⅳ新～大 2 5	3	4 大１～３ 1	302
D			8					8
合計	56	33	548	63	139	5	10	854

第 2 節　A 区出土遺物

（巻頭図版 8、図 1 ～図 29、図 62 ～図 65、図版 51 ～図版 76、図版 101 ～図版 104）

狭い場所に轆轤ピットが 40 基も見られた調査区で、遺構数 118 ヶ所に比べ、遺構内遺物が見られたのが 18 ヶ所（15%）で、その中で製品が伴った遺構は 10 ヶ所（8%）と少ない。18 ヶ所に SK34 は含まず。匣鉢、匣蓋、挟み皿等の窯道具類が各遺構ともに多いのである。

第 7 表、第 8 表は遺構毎の出土器種と藤澤編年による段階表である。A 区から 271 点出土した。時期別点数は後期Ⅳ新段階 17 点（6.2%）、後期Ⅳ新段階から大窯第 1 段階 14 点（5.1%）、大窯第 1 段階 191 点（70.4%）、大窯第 1 段階から大窯第 2 段階 14 点（5.1%）、大窯第 2 段階 34 点（12.5%）、大窯第 3 段階 1 点（0.3%）の総数 271 点である。A 区では大窯 1 段階の遺物が、出土した遺物の七割を占めていた。

端反皿の底部内面には菊、梅、かたばみ、花菱などの文様の印花文が見られる。印花文は本窯と同時期の小金山窯跡と同じ印花文も見られたが、新たな花菱（3.227）半菊葉立花（4.5.85.346 ～ 348）糸巻（228.356）丸菱（364）梅（365）三つ盛菊（355）が見られた。

窯道具の匣鉢には大形と小形があり、側面に穿かれた匣鉢がある。挟み皿には篦書きの「一」（72.92.151.204 ～ 207.420.）「二」（421）「×」（133）「×の重ね」（165.166.171.203.418.419）「○」（169.170.423）「◎」（168.424 ～ 426）、文字？（172.422）等、窯印が内外面に見られた。

遺物の出土した轆轤ピットは SK01、SK02、SK03、SK24、SK28、SK32、P03、P14、P32 の 9 遺構である。SK01 では上面を端反皿（1 ～ 5）匣鉢蓋（6）大形匣鉢（7）で覆っていた。端反皿に菊花（2）、花菱（3）立花姿（4.5）の印花文が見られた。SK02 は上面西側肩部に擂鉢（8）、挟み皿（9）が出土し軸穴が匣鉢で覆われていた。SK03 は大形匣鉢（11）が軸穴を覆っていた。SK24 は挟み皿（46）が、SK28 は挟み皿（50.51）、小形匣鉢（52）が、SK32 は端反皿（55）、小形匣鉢（56）が、P03 は擂鉢（91）が、P14 は狛犬の右前脚部分（298）が、P32 は天目茶碗（93）、匣鉢、挟み皿、窯壁片が覆っていた。

遺物の出土した粘土溜土坑は SK04、SK05、SK08、SK09、SK40 の 5 遺構である。SK04 は挟み皿（12）が北東壁際から、SK05 は小形匣鉢（13.15 ～ 25）と挟み皿（14）が、SK08 は擂鉢（26）が、SK09 から天目茶碗（27）、端反皿（28）、釜（29）、挟み皿（30 ～ 33）、匣蓋（34）、匣鉢（35 ～ 41）は大形匣鉢（35）が 1 点ある。SK40 は縁釉挟み皿（75）、端反皿（76）、擂鉢（77.78）、挟み皿（63.66 ～ 68.70.73.74）、匣蓋（64.65.69.71.72）、小形匣鉢（57 ～ 62）が出土した。

SU02 と SU03 は南東端の石敷造成地で造成土中より、天目茶碗（97.127.213）、腰折皿（177）、擂鉢（126.278）、卸目付大皿（277）等の後期Ⅳ新段階と鎬蓮弁文丸碗（128.220）、丸碗（104.218.219）、端反皿は、擂鉢（121 ～ 124.279 ～ 288）等の大窯第 1 段階の遺物が主に見られ、大窯第 2 段階の擂鉢（289 ～ 293）も少し見られた。端反皿は SU02（107.109 ～ 111）、SU03（225.228 ～ 232.224.237.239 ～

第７表　　Ａ区遺構出土遺物一覧表

遺構	器種	登録番号	時期	窯道具
SK01	端反皿　印花	１～５	大１	匣蓋、大形匣鉢
SK02	擂鉢	8	大２	挟み皿、匣鉢
SK03				大形匣鉢
SK04				挟み皿
SK05				小形匣鉢
SK08	擂鉢	26	後期Ⅳ新	
SK09	天目茶碗	27	大１	挟み皿、匣蓋
	端反皿	28	大１	大形匣鉢
	釜	29	後期Ⅳ新～大１	小形匣鉢
SK12				匣蓋、挟み皿
				小形匣鉢
SK24				縁釉挟み皿
				挟み皿、小形匣鉢
SK28				挟み皿、小形匣鉢
SK30				匣蓋、大形匣鉢
SK32	端反皿	55	大１	小形匣鉢
SK40	縁釉挟み皿	75	大１	小形匣鉢
	端反皿	76	大１	
	擂鉢	77	大２	
P03	擂鉢	91	後期Ⅳ新	
P14	狛犬（右前脚）	298		
P28				匣蓋
P32	天目茶碗	93	大２	
P45	端反皿 印花	94.95	大１	
	端反皿	96	大１	
SU02	天目茶碗	127	後期Ⅳ新	匣蓋、挟み皿
		97	後期Ⅳ新～大１	
		98～101.103	大１	

遺構	器種	登録番号	時期	窯道具
		102	大１後半	
	丸碗	104	大１	大形匣鉢
	蓮弁丸碗	128	大１	小形匣鉢
	縁釉挟み皿	106	大１	
	端反皿	107～116.129	大１	
	口広有耳壷	117	後期Ⅳ新～大２	
	釜	118～１２０		
	擂鉢	126	後期Ⅳ新	
		121～124	大１	
		125	大２後半	
SU03	天目茶碗	213	後期Ⅳ新～大１	匣蓋、挟み皿
		214～217	大１	
	丸碗	218.219	大１	大形匣鉢
	蓮弁丸碗	220	大１	小形匣鉢
	稜花皿	221	大１	
	丸皿	222	大１	
	端反皿	223～235	大１	
	縁釉挟み皿	173～176.188.202.208	大１	
	腰折皿	177	後期Ⅳ新	
	卸目付大皿	277	後期Ⅳ新	
	釜	269～275	後期Ⅳ新～大１	
	甕	276	大１.大２	
	擂鉢	278	後期Ⅳ新～大２	
その他	狛犬	298	不明石器	
	燭台	1251.1252		
	茶入	1208.1212		
SK34	古銭．鉄滓	皇宋通宝	開元通宝	不明４枚

241.243～247.252～254.256～262.265.267）に生焼け状態のものが多く見られた。

狛犬は頭部が欠損のため全貌がはっきりしないが、口が開いていることから阿形である。右前脚部分のみがP14より出土しそれ以外は遺構に伴っていない。台座部分の破片から他に２点はあったようである。

擂鉢は後期Ⅳ新段階から大窯第２段階のものが見られた。擂鉢の中に内面の卸目が非常に密になったもの（125.280.287.288.292.293.404）があり、大窯２段階前半に見られていたものであるが、大窯１段階の範疇と見直しされることとなった。

なお土壙墓SK34より古銭と鉄滓が出土した。古銭は皇宋通宝と開元通宝が各１枚、不明の古銭が４枚の、計六枚である。

第３節　Ｅ区出土遺物

（巻頭図版８、図30～図47、図62～図65、図版76～図版90、図版101～図版104）

窯と大規模な工房跡が見られた調査区で、遺構数132ヶ所、遺構内遺物が見られたのが28ヶ所（21%）で、その中で製品が伴った遺構は26ヶ所（20%）でＡ区の10ヶ所（8%）と対照的である。SY01の窯内遺物はなかった。窯道具類の出土が多く、中でもピン、粘土ヨリの細かいものが至る所から出土し、窯

第８表　　Ｅ区遺構出土遺物一覧表

遺構番号	器種	登録番号	時期	窯道具
SY01-SK01				匣鉢
SY01-SK02	丸碗	450	大２	ツク．長脚ピン．ヨリ
SY01-SK03	端反皿	451.452	大１	挟み皿
	丸皿	453	大２前半	大形匣鉢
	擂鉢	455	大１後半	（内底面中央凸帯）
SX03	天目茶碗	485	登４	大形匣鉢
	端反皿	488	大１	
	丸皿（削ぎ）	486	大２	
	丸皿	487	大２	
	鉄釉稜皿	489	大２前半	
	銅緑釉稜皿	490	大２	
	灯明皿	491.492	大２	
SX04	魚形掛け花生	464		
	天目茶碗	475.476	大１	
	丸碗	477	大１	
	端反皿	478 ～ 480	大１	
	丸皿	481	大２	
	釜	482		
	擂鉢	483	大２	
	緑釉皿	484	大１	
SX05	緑釉挟み皿	465	大１	
SX07	端反皿	466.467	大１	
SX08	端反皿	468	大２	
	丸皿（削ぎ）	469	大２前半	
SX10	鉄釉端反皿	471	大１	
SX11	丸皿	472	大２	
SX12	稜皿	473	大２	
SX15	大鉢	474	大２	
SB01	端反皿	583.586	大１	挟み皿
	端反皿	584.585	大１か大２	大形匣鉢
		587	大１か大２	
	緑釉挟み皿	588.589	大１	
	擂鉢	592.593	大２．大２か大３	
SB02	端反皿	629.634	大２	挟み皿
	端反皿	630 ～ 633	大１	小形匣鉢
		635	大１	大形匣鉢
	稜皿	636	大２	
	直縁大皿	639	大１	
	釜	637.638	後期Ⅳ新～大１	
	擂鉢	640	後期Ⅳ新～大１	
	擂鉢	641	大２か大３	
SB03	天目茶碗	596	大１	挟み皿
	丸碗	597 ～ .599	大１	小形匣鉢
	端反皿	600.601	大１	
	直縁大皿	604	後期Ⅳ新	
	釜	602.603	後期Ⅳ新	
	擂鉢	605	大１	
		607.608	後期Ⅳ新	

遺構番号	器種	登録番号	時期	窯道具
SX02	天目茶碗	501.502	大１	挟み皿
		503.504	大２	大形匣鉢
	端反皿	505 ～ 509	大１	小形匣鉢
		512 ～ 514	大１	
		510.511	大１か大２	
		515 ～ 517	大１か大２	
		518.521	大１	
		531.533.534	大１	
		536.537	大１	
	丸皿	520.522	大２	
	端反皿	522.532.535	大２	
	丸皿（削ぎ）	523	大２前半	
	稜皿 銅緑釉	524.525	大２	
	稜花皿 色見	526	大１	
	卸挟み皿	527.546	大１	
	灯明皿	528	大２	
	徳利	530	大１か大２	
	擂鉢	529	大１	
	筒形容器	578		
SX06	天目茶碗	652	大２	大形匣鉢
	丸碗蓮弁	651	大１	小形匣鉢
	緑釉皿	692	大１	挟み皿
	腰折皿	653	後期Ⅳ新	
	端反皿	654~683	大１	
	丸皿削ぎ	684	大２前半	
	擂鉢	688	後期Ⅳ新	
		687	大１	
		685.686	大２	
	釜	689	後期Ⅳ新～大１	
	鍋	690.691		
SK59		494		挟み皿
SK55	端反皿	617	大１	
SK56	端反皿	618	大１	
		620.619	後期Ⅳ新	
	腰折皿	621	大１	
SK57	端反皿	622~625	大１	
	腰折皿	626	大１	
		627	後期Ⅳ新	
	擂鉢	628	大１	
その他	双耳徳利	818	大	卸挟み皿
	直縁大皿	819~821	後期Ⅳ新	不明石器
	甕	822		
	茶入	１２０５．１２０６．１２０９~１２１１．１２１３~１２１６．１２１８．１２２０．1222~1229		
	筒形容器	828.829.831		
	陶丸	1288		

焚口西側の土坑 SK01 と SK02 からはピンとヨリが充填されたかのように多量に詰まっていた。

第 6 表～第 8 表は遺構毎の出土器種と藤澤編年による段階表である。E 区から 273 点出土した。時期別点数は後期Ⅳ新段階 28 点（10.2%）、後期Ⅳ新段階から大窯第 1 段階 8 点（2.9%）、大窯第 1 段階 168 点（61.5%）、大窯第 1 段階から大窯第 2 段階 17 点（6.2%）、大窯第 2 段階 46 点（16.8%）、大窯第 2 段階から大窯第 3 段階 2 点（0.7%）、大窯第 3 段階 4 点（1.4%）の、総数 273 点である。E 区では大窯第 1 段階の遺物が六割を占めている。

SY01 の西側周辺では、焚口西側の土坑 SK03 から挟み皿に混じり端反皿（451 ～ 454）と擂鉢（455）が見られ印花端反皿（453）が大窯 2 段階である。不整形土坑の SX08 より碁笥底の端反皿（468）、削ぎの見られる丸皿（469）が、SX12 より稜皿（473）が、SX15 より大鉢（474）が見られ、いずれも大窯 2 段階である。SX04 は SX03 の北側で二つの不整形土坑からなり、天目茶碗（475.476）、丸碗（477）、端反皿（478 ～ 480）、碁笥底の丸皿（481）、魚形掛け花生（464）、擂鉢が出土した。魚形掛け花生（464）は一ヶ所にまとまっていたのではなく破片が SX04 内の東西に散らばっていた。

掘立柱建物 SX03 は削り込んだ山側の西側と北側の壁際に匣鉢、挟み皿の窯道具が積み上げられていた。窯道具の積み上げられた中の僅かな製品、天目茶碗（485）、削ぎの丸皿（486）、印花丸皿（487）、端反皿（488）、碁笥底の稜皿（489）、銅緑釉稜皿（490）、灯明皿（491.492）が見られ、大窯 2 段階である。

掘立柱建物 SX03 は製品の選別所で製品の出土点数も 14 器種 319 点と少ない。端反皿 122 点（38%）、擂鉢 70 点（22%）、天目茶碗 40 点（13%）、灯明皿 25 点（8%）、丸皿 15 点（5%）、稜皿 13 点（4%）、釜 11 点（4%）、削ぎ丸皿 8 点（3%）、縁釉皿 6 点（2%）、腰折皿 3 点（1%）丸碗 2 点（1%）、卸皿 2 点（1%）、大皿 1 点、稜花皿 1 点である。（% は四捨五入）

SX02 は丘陵南端部の上段と下段の二段になった平坦部で SX03 の南側である。上段部西側は不整形な土坑が切り合い、上段東側には巨石を伴った土坑 SK04、SK06 と、上段縁辺に轆轤ピットが見られた。下段部には轆轤ピットと土坑が見られた。上段の不整形土坑東側から下段の縁辺まで、広場の廻りを囲むかの様な、弧状に匣鉢、挟み皿の窯道具が大量に積み上げられていた。その中の僅かな製品に天目茶碗（501 ～ 504）、端反皿（505 ～ 514.516 ～ 519.521.522.531 ～ 537）、丸皿（515.520）、銅緑釉稜皿（524.525）、稜花皿（526）、卸挟み皿（527.549）、擂鉢（529）、徳利（530）、灯明皿（528.552）、筒形容器（578）が見られる。ほとんどが上段からの出土である。稜花皿（526）は底部に焼成以前に穴が空けられた色見である。端反皿には菊、かたばみの印花文が見られる。

SX02 は上段下段の二段になった平坦部で上段が SX03 から続いた選別所で下段の東側までひろがっていたようである。21 器種 987 点が出土した。端反皿 520 点（53%）、擂鉢 135 点（14%）、天目茶碗 119 点（12%）、灯明皿 46 点（5%）、丸皿 31 点（3%）、縁釉小皿 24 点（3%）、稜皿 24 点（3%）、腰折皿 22 点（2%）、縁釉皿 13 点（1%）削ぎ丸皿 10 点（1%）、卸皿 6 点（1%）、徳利 6 点（1%）、茶入 6 点（1%）、丸碗 5 点（1%）、稜花皿 5 点（1%）、壷 4 点（1%）、鍋 4 点（1%）、釜 3 点、筒形容器 2 点、大皿 1 点瓶 1 点である。（% は四捨五入）

SB01 は SB03 の東側にあり、南に張り出し入り口が付く長方形竪穴建物跡で南側が弓なりになっている。建物廃絶後に石、窯壁、匣鉢、挟み皿、縁釉挟み皿（588.589）、端反皿（583 ～ 587）、擂鉢（592.593）

など大窯２段階の製品が廃棄されていた。15 器種 631 点が出土した。端反皿 255 点（41%）、擂鉢 234 点（37%）、天目茶碗 43 点（7%）、縁釉皿 22 点（4%）、釜 19 点（3%）、縁釉小皿 15 点（2%）、腰折皿 12 点（2%）、壷 8 点（1%）、徳利 7 点（1%）、鍋 5 点（1%）、筒形容器 4 点（1%）、灯明皿 4 点（1%）、卸皿 1 点、丸皿 1 点、稜皿 1 点である。（% は四捨五入）

SB03 は平面形が歪んだ方形で SK55・56・57 に切られている。天目茶碗（596）、丸碗（597 ～ 599）、端反皿（600.601）、釜（602.603）、直縁大皿（604）、擂鉢（605.606）、匣蓋（613.615.616）が出土。

SK56 は SB03 の南側の楕円形土坑で腰折皿（620 ～ 621）と端反皿（618）が出土。

SK57 は SB03 の南側、SK56 の西側のやや不整形な三角土坑で端反皿（622 ～ 625）、腰折皿（626）、擂鉢（627.628）が出土するが、P116 の轆轤ピットの石囲いに伴った可能性もある。

SB02 は平面形の西北が底辺となるような不整形な三角形状で西側に粘土が見られた。端反皿（629 ～ 635）、稜皿（636）、釜（637.638）、直縁大皿（639）、擂鉢（640.641）が出土した。端反皿に小形端反皿（633.634）、印花に菊花弁（629）、先端に○の花弁（630）かたばみ（631.632）が見られた。

SB04 は北側の一辺が見られるのみで 4m10㎝を測る細長い平坦面で端反皿（646 ～ 650）と擂鉢（645）（90）が出土した。擂鉢は大窯第３段階前半である。

SX06 は E 区の西北端にあり、南に張り出しの入り口が付く長方形竪穴建物跡で南西隅が削平で壊されていた。遺物が多く出土した遺構で完形品の匣鉢が 32 個見られ、そのうち 24 個の匣鉢が伏せた状態で出土した。伏せられた匣鉢の上に板でも敷けば床にもなる状況である。匣鉢、挟み皿の窯道具の他に鎬蓮弁文丸碗（651）、天目茶碗（652）、腰折皿（653）、端反皿（654 ～ 683）、丸皿（684）、擂鉢（685 ～ 688）、釜（689）、鍋（690.691）、縁釉皿（692）と出土器種が豊富である。端反皿には花弁の印花（662 ～ 683）が見られた。11 器種 387 点が出土した。端反皿 206 点（53%）、擂鉢 78 点（20%）、腰折皿 32 点（8%）釜 26 点（7%）、縁釉皿 14 点（4%）、丸碗 10 点（3%）、天目茶碗 9 点（2%）、壷 5 点（1%）、筒形容器 4 点（1%）、丸皿 3 点（1%）である。（% は四捨五入）

遺構以外の出土遺物では削ぎの丸皿（804）は、かたばみの印花が、碁笥底の丸皿（807）、碁笥底の稜皿（810 ～ 814）が、生焼けの端反皿（758 ～ 767.769 ～ 771.775.778.779.782 ～ 786.789.793.796.798）が、匣鉢（840）の底部内面に菊花弁が三個直線に並んだ印花文が、その他に茶入も見られた。

第 4 節 D 区出土遺物

（図 48、図 64、図版 90、図版 91）

D 区は丘陵西側の斜面で対面斜面は桑下城跡である。遺構としては P14 のみである。僅かな遺物で 15 世紀末から 19 世紀初頭の E 区からの流れ込みがほとんどであった。輪禿皿（858）長石釉の小碗（860）、鉄釉汁注ぎ（861）、瀬戸水甕（862）が見られた。

第 9 表　　SX03・02 出土遺物破片表

SX03

器　種		破片数	比率	口縁部個体数	比率	底部個体数	比率
碗	天目茶碗	40	12.54	2.42	13.37	0.99	6.24
	丸碗	2	0.63	0.17	0.92		0.00
	小計	**42**	**13.17**	**2.58**	**14.29**	**0.99**	**6.24**
皿	縁釉皿	6	1.88	0.75	4.15		0.00
	縁釉小皿		0.00		0.00		0.00
	卸皿	2	0.63	0.25	1.38	0.33	2.10
	端反皿	122	38.24	5.50	30.43	6.81	42.97
	丸皿	15	4.70	1.75	9.68	2.16	13.60
	丸皿（ソギ）	8	2.51	0.92	5.07		0.00
	丸皿・大皿	1	0.31	0.08	0.46		0.00
	稜花皿	1	0.31	0.33	1.84		0.00
	稜皿	13	4.08	0.92	5.07	1.25	7.88
	腰折皿	3	0.94	0.42	2.31	0.08	0.53
	小計	**171**	**53.61**	**10.92**	**60.40**	**10.64**	**67.08**
瓶・壷	瓶		0.00		0.00		0.00
	徳利		0.00		0.00		0.00
	茶入		0.00		0.00		0.00
	壺		0.00		0.00		0.00
	小計	-	**0.00**	**0.00**	**0.00**	**0.00**	**0.00**
鉢　盤	擂鉢	70	21.94	1.58	8.76	1.00	6.31
	小計	**70**	**21.94**	**1.58**	**8.76**	**1.00**	**6.31**
その他	釜	11	3.45		0.00	0.17	1.05
	鍋		0.00		0.00		0.00
	筒形容器		0.00		0.00		0.00
	灯明皿	25	7.84	2.99	16.54	3.06	19.32
	小計	**36**	**11.29**	**2.99**	**16.54**	**3.23**	**20.37**
不　明			0.00		0.00		0.00
合　計	**14 器種**	**319**	**100.00**	**18.07**	**100.00**	**15.86**	**100.00**

SX02

器　種		破片数	比率	口縁部個体数	比率	底部個体数	比率
碗	天目茶碗	119	12.06	12.91	16.41	9.70	11.32
	丸碗	5	0.51	0.33	0.42		0.00
	小計	**124**	**12.56**	**13.24**	**16.83**	**9.70**	**11.32**
皿	縁釉皿	13	1.32	0.83	1.06	0.58	0.68
	縁釉小皿	24	2.43	2.25	2.86	1.08	1.26
	卸皿	6	0.61	0.42	0.53	2.07	2.42
	端反皿	520	52.68	35.16	44.70	46.09	53.79
	丸皿	31	3.14	5.33	6.78	4.30	5.02
	丸皿（ソギ）	10	1.01	1.42	1.80	2.33	2.72
	丸皿・大皿	1	0.10	0.08	0.11		0.00
	稜花皿	5	0.51	0.75	0.95	2.32	2.71
	稜皿	24	2.43	3.17	4.03	5.23	6.10
	腰折皿	22	2.23	2.25	2.86	3.08	3.60
	小計	**656**	**66.46**	**51.66**	**65.68**	**67.10**	**78.31**
瓶・壷	瓶	1	0.10		0.00		0.00
	徳利	6	0.61	0.17	0.21		0.00
	茶入	6	0.61	0.75	0.95		0.00
	壺	4	0.41		0.00	0.42	0.49
	小計	**17**	**1.72**	**0.92**	**1.17**	**0.42**	**0.49**
鉢　盤	擂鉢	135	13.68	5.75	7.31	2.74	3.20
	小計	**135**	**13.68**	**5.75**	**7.31**	**2.74**	**3.20**
その他	釜	3	0.30	0.42	0.53		0.00
	鍋	4	0.41	0.08	0.11		0.00
	筒形容器	2	0.20	0.17	0.21		0.00
	灯明皿	46	4.66	6.42	8.16	5.73	6.69
	小計	**55**	**5.57**	**7.08**	**9.01**	**5.73**	**6.69**
不　明			0.00		0.00		0.00
合　計	**21 器種**	**987**	**100.00**	**78.65**	**100.00**	**85.69**	**100.00**

第 10 表　　SB01、SX06 出土遺物破片表

SB01

器　種		破片数	比率	口縁部個体数	比率	底部個体数	比率
碗	天目茶碗	43	6.81	0.67	4.65	0.67	5.20
	丸碗		0.00		0.00		0.00
	小計	**43**	**6.81**	**0.67**	**4.65**	**0.67**	**5.20**
皿	縁釉皿	22	3.49	1.42	9.88	0.25	1.95
	縁釉小皿	15	2.38	0.67	4.65		0.00
	卸皿	1	0.16		0.00	0.17	1.30
	端反皿	255	40.41	6.67	46.51	7.91	61.66
	丸皿	1	0.16	0.08	0.58		0.00
	丸皿（ソギ）		0.00		0.00		0.00
	丸皿・大皿		0.00		0.00		0.00
	稜花皿		0.00		0.00		0.00
	稜皿	1	0.16	0.08	0.58		0.00
	腰折皿	12	1.90	0.67	4.65	0.50	3.90
	小計	**307**	**48.65**	**9.58**	**66.86**	**8.82**	**68.81**
瓶・壷	瓶		0.00		0.00		0.00
	徳利	7	1.11		0.00	0.17	1.30
	茶入		0.00		0.00		0.00
	壺	8	1.27		0.00		0.00
	小計	**15**	**2.38**	**0.00**	**0.00**	**0.17**	**1.30**
鉢　盤	擂鉢	234	37.08	3.25	22.67	2.25	17.55
	小計	**234**	**37.08**	**3.25**	**22.67**	**2.25**	**17.55**
その他	釜	19	3.01	0.25	1.74	0.25	1.95
	鍋	5	0.79		0.00	0.25	1.95
	筒形容器	4	0.63	0.33	2.33		0.00
	灯明皿	4	0.63	0.25	1.74	0.42	3.25
	小計	**32**	**5.07**	**0.83**	**5.81**	**0.92**	**7.15**
不　明			0.00		0.00		0.00
合　計	**15 器種**	**631**	**100.00**	**14.33**	**100.00**	**12.82**	**100.00**

SX06

器　種		破片数	比率	口縁部個体数	比率	底部個体数	比率
碗	天目茶碗	9	2.33	0.42	0.87	0.99	2.00
	丸碗	10	2.58	1.92	4.01	0.92	1.86
	小計	**19**	**4.91**	**2.33**	**4.88**	**1.91**	**3.86**
皿	縁釉皿	14	3.62	2.33	4.88	1.82	3.69
	縁釉小皿		0.00		0.00		0.00
	卸皿		0.00		0.00		0.00
	端反皿	206	53.23	31.62	66.07	36.84	74.62
	丸皿	3	0.78	0.67	1.39	0.99	2.00
	丸皿（ソギ）		0.00		0.00		0.00
	丸皿・大皿		0.00		0.00		0.00
	稜花皿		0.00		0.00		0.00
	稜皿		0.00		0.00		0.00
	腰折皿	32	8.27	2.25	4.70	0.67	1.35
	小計	**255**	**65.89**	**36.87**	**77.04**	**40.32**	**81.66**
瓶・壷	瓶		0.00		0.00		0.00
	徳利		0.00		0.00		0.00
	茶入		0.00		0.00		0.00
	壺	5	1.29	0.33	0.70		0.00
	小計	**5**	**1.29**	**0.33**	**0.70**	**0.00**	**0.00**
鉢　盤	擂鉢	78	20.16	6.41	13.39	5.81	11.77
	小計	**78**	**20.16**	**6.41**	**13.39**	**5.81**	**11.77**
その他	釜	26	6.72	1.42	2.96	1.33	2.70
	鍋		0.00		0.00		0.00
	筒形容器	4	1.03	0.50	1.04		0.00
	灯明皿		0.00		0.00		0.00
	小計	**30**	**7.75**	**1.92**	**4.01**	**1.33**	**2.70**
不　明			0.00		0.00		0.00
合　計	**11 器種**	**387**	**100.00**	**47.86**	**100.00**	**49.38**	**100.00**

第 5 節　C 区出土遺物

［図 49 ～図 63、図 65 ～図 70、図版 92 ～図版 106］

C 区は丘陵東側の谷間の調査区である。東斜面は上品野西金地遺跡、西斜面は A 区となる。

SK20 より生焼けの丸碗底部片（867）。SK27 より生焼けの端反皿（868）。SK44 より生焼けの端反皿（869）。P24 より生焼けの端反皿（870）。P50 より生焼けの端反皿（871）。P57 より内耳鍋（874）と大形匣鉢（875）。SK48 より天目茶碗（79）、端反皿（80 ～ 83）、縁釉挟み皿（85）、灯明台（86）、擂鉢（87.88）。SK49 より皿（89）が出土。

SD05 は北側斜面際の全体が「凸」形を呈した北に出っ張りの見られる新しい溝群で区画溝である。天目茶碗（876）、端反皿（877 ～ 883）、灯明皿（884）、擂鉢（886）、卸挟み皿（885）、陶丸（888）が、卸挟み皿（885）としたが卸皿として作り転用し挟み皿として使用している。蓋（W-9）、箸（W-10 ～ W18）、折敷（W-19.W-20）、飾り金具（M-5.M-6）、砥石（S-13.S-14）が出土した。

SD06 は斜面沿い中央の東西方向の溝で天目茶碗（891）、端反皿（892 ～ 896）、丸皿（897）、縁釉挟み皿（898）が見られ、生焼け端反皿（896）もある。木製品の蓋（W-9.W21）、箸（W-10 ～ W-18）が出土した。

SD10 中央付近の東へ曲がった逆さ L 字形の溝、溝の東端より内反り高台の天目茶碗（901）、小鉢（903）端反皿（904.906.907）、稜花皿（905）、稜皿（910 ～ 914）、灰釉稜皿（915）、削ぎの丸皿（908.909）、腰折皿（916）小瓶（917）、釜（918）、筒形容器（919）が出土した。生焼け丸皿（906.907）もある。

遺構外では天目茶碗の中に色見（958）と生焼けの天目茶碗（930.936.945.947.951.955.959）が見られた。付け高台の丸碗（967）と生焼けの丸碗（968）、生焼けの端反皿（978.1001.1008）、重圏が螺旋状になった灯明皿（1058.1059.1082）、焼き締めた無釉の丸皿（1092）、鉢（1093.1094）、徳利（1099 ～ 1110）、筒形容器（1111）、灯明台（1112 ～ 1116）、小形筒形容器（1117 ～ 1119）、祖母懐茶壺（1158）等が見られた。

第 11 表　C 区遺構出土遺物一覧表

遺構番号	器種	登録番号	時期	窯道具
SK20	丸碗	867	大 1	匣蓋、大形匣鉢
SK27	端反皿	868	大 1	挟み皿、匣鉢
SK44	端反皿	869	大 1	大形匣鉢
P24	端反皿	870	後期Ⅳ新	挟み皿
P50	端反皿	871	大 1	小形匣鉢
P57	内耳鍋	874		大形匣鉢
SD05	天目茶碗	876	大 1	挟み皿、匣蓋
	端反皿	877 ～ 883	大 1	
	灯明皿	884	大 1	
	卸挟み皿	885	大 1	
	擂鉢	886	大 1	
	徳利	899	後期Ⅳ新～大 1	
SD06	天目茶碗	891	大 1	大形匣鉢
	端反皿	892 ～ 896	大 1	
	丸皿	897	大 2 前半	
	縁釉挟み皿	898	大 1	
SD10	天目茶碗	901.902	大 2	小形匣鉢
	小鉢	903	大 1	匣蓋、挟み皿
	端反皿	904.906.907	大 1	小形匣鉢
	稜花皿	905	大 1	
	丸皿	908.909	大 2 前半	
	稜皿	910 ～ 915	大 2	
	腰折皿	916	後期Ⅳ新	
	小瓶	917	大 1 か大 2	
	窯	918		
	筒形容器	919	大 1 か大 2	

遺構番号	器種	登録番号	時期	窯道具
その他	天目茶碗 (灰釉)	959.96		硯
		961	大 2	砥石
		962 ※ .965.966	大 3	不明石器
	小鉢	976		
	丸皿	1022.1023	大 2	
	丸皿 (焼締)	1024	大 2 か 3	
	丸皿 (豆皿)	1014	大 1 ～大 2	
	浅鉢	1093	大 1	
	鉢	1094	大 1 か大 2	
	蓋	1097.1098		
	徳利	1099.1104		
		1106.1107	大 2	
	灯明台	1112 ～ 1116		
	筒形容器	1117 ～ 1119.1121		
	窯	1129 ～ 1130		
	内耳鍋	1132		
	鉢	1133	大 1	
	片口鉢	1134.1135		
	桶	1149 ～ 1157		
	托	1162		
	棗蓋	1203		
	茶入	1207.1217. 1219.1221		
	水滴	1232	後期Ⅳ新～大 1	
	双耳小壷	1233	後期Ⅳ新	

第 6 節　その他の出土遺物

1. 石製品［図 65、図 66］

A 区から断面三角の不明石器（S-3）と敲石（S-7）が、E 区から不明石器（S-1.S-2.S-4）、擦り石（S-5.S-6）敲石（S-8.S-9）、台石（S-10）が出土した。C 区から硯（S-11.S-12）砥石（S-13 ～ 18）が出土した。

2. 木製品［図 67 ～図 70、図版 105］

C 区からの出土木製品である。杭（W-1 ～ W-4.W-6 ～ W-8）と礎盤（W-5）が見られる。

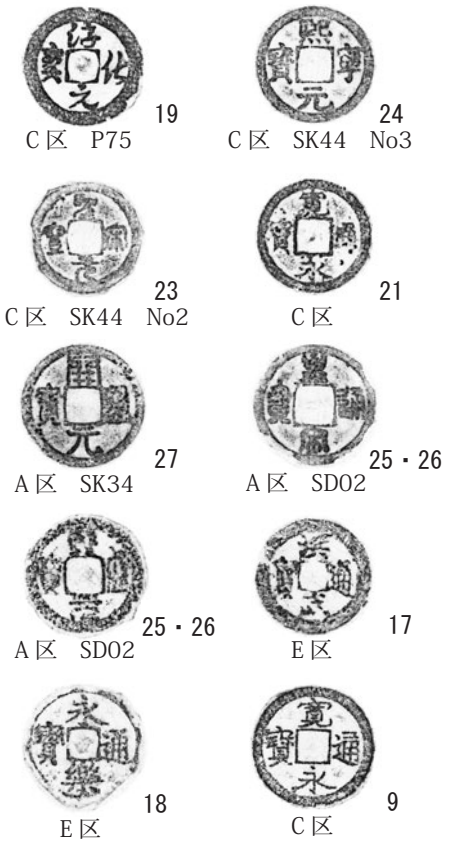
杭は P12（W-1）、P16（W-2）、P77（W-4）、P100（W-3）、礎盤は P105（W-5）から出土。 SD05 よりつまみの付いた黒漆蓋（W-9）、箸（W-10 ～ W-18）、折敷の側板の再利用（W-19）、折敷の底部（W-20）、が出土。SD06 より杭（W-8）、黒漆蓋（W-21）、SD22 より箱物（W-31）、SK44 より下駄（W-22）が出土した。これら以外は検出時の出土で、杭（W-6.W-7）、下駄差歯（W-23）、栓（W-24）、木製の錘り（W-25）、黒漆椀（W-27.W-28）、柄杓の底（W-29）か、箱物（W-31.W-32.W-34 ～ W-36）の側板で箱物の底部（W-33）には側面に木釘が見える。曲物の底（W-37）、桶の底（W-38）、不明（W-26.W-30）があり W-26 は錘、W-30 は真ん中に方形の穴と右端が三角状になっている事から柄付きの T 形の道具か。

これら木製品の樹種同定は第 4 章第 2 節を参照されたいが、杭はコナラ、マツ、クヌギ、ヒノキ、クリ、礎盤はクリ、蓋、箸、折敷、箱物、曲物の底、桶の底はヒノキ、錘、椀はクリ、栓はマツであった。

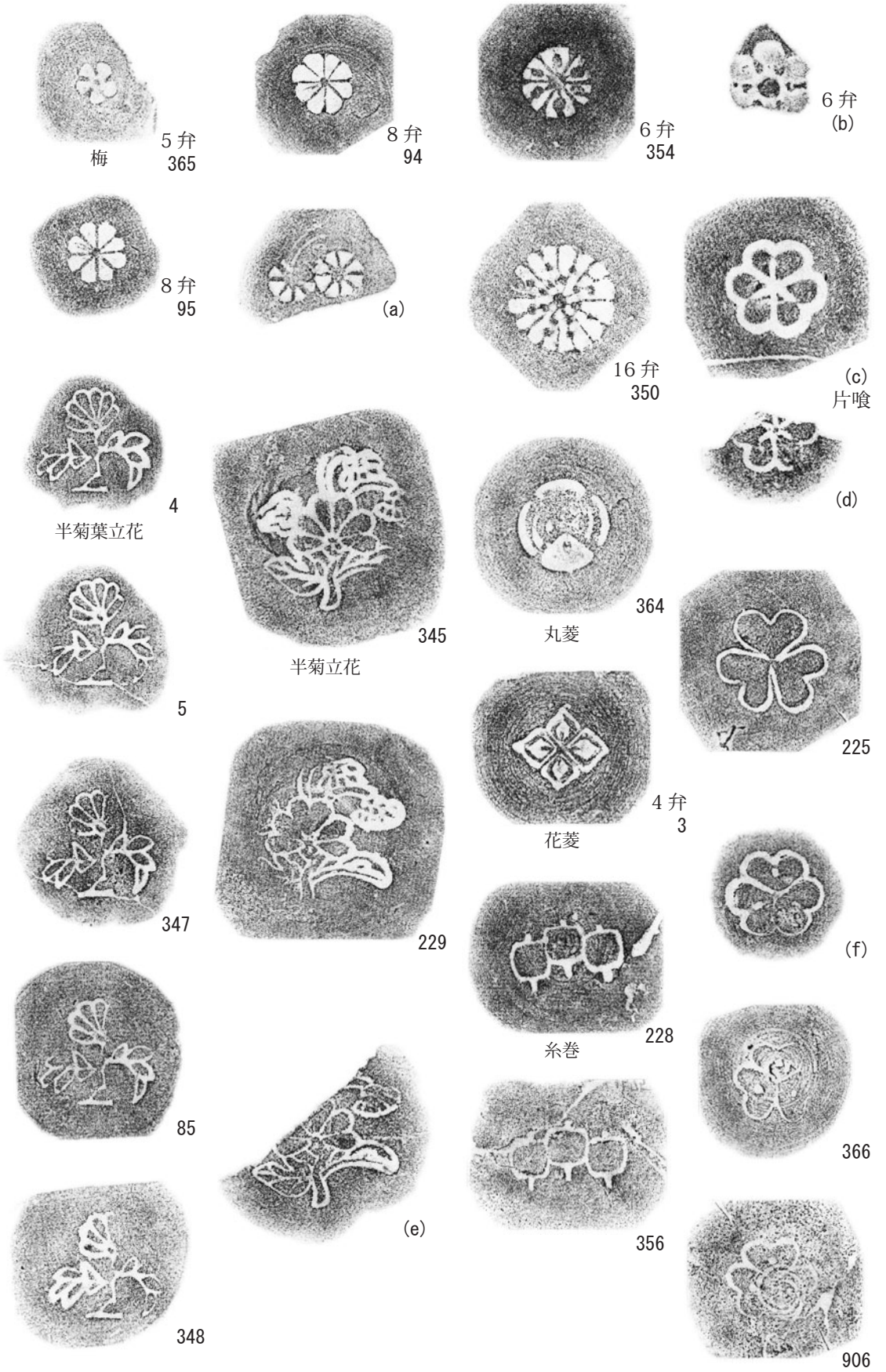
3. 金属製品［図 70、図版 106］

A 区では墓壙 SK34 より古銭と鉄滓（M-3）が出土した。古銭は皇宋通宝（32）と開元通宝（27）が各一枚、不明の古銭が四枚（28 ～ 30、31）の、計六枚である。その他小柄（M-1）、火燧金（M-2）が出土した。

C 区では SK44 より熙寧元宝（24）、聖宋元宝（23）、無文銭（22）が見られた。SD05 より飾り金具（M-5.M-6）が出土した。その他飾り金具（M-7）、小刀（M-8）、角釘（M-4）が出土した。

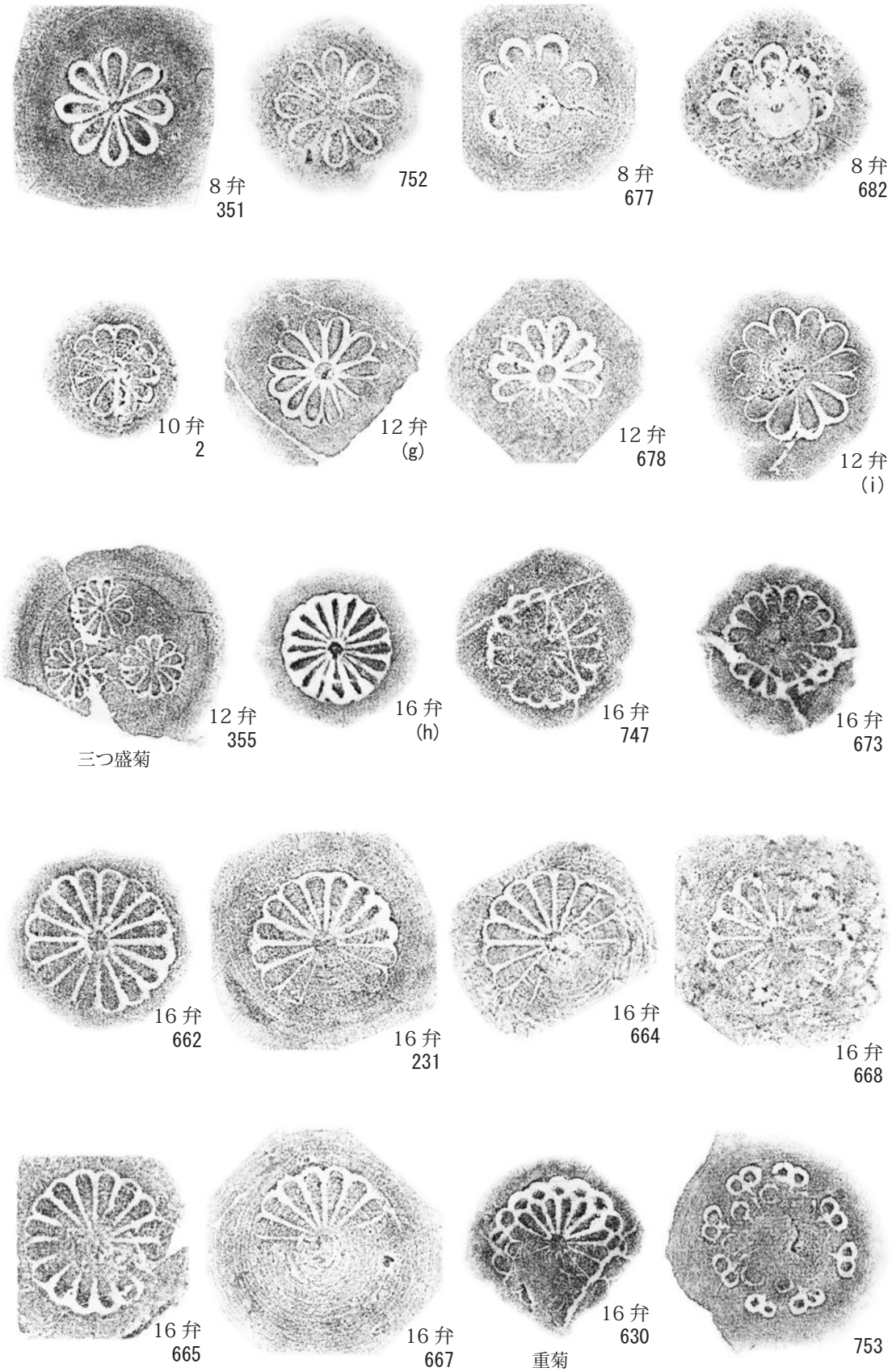


第 83 図　出土古銭拓影 (2:3)



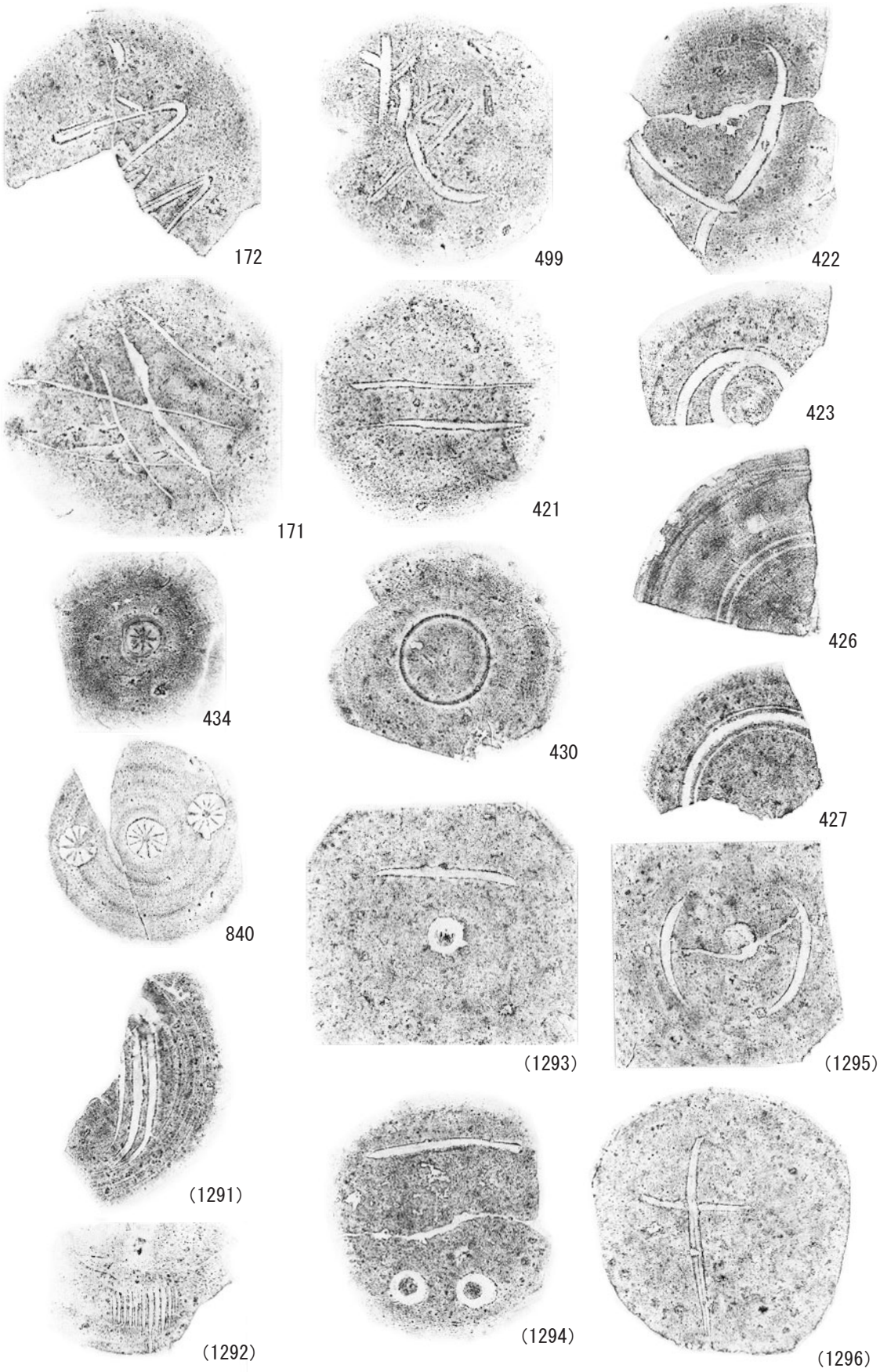
（a～f）は実測図なし

第 84 図　印花文拓影 1 (2:3)



（g～i）は実測図なし

第85図　印花文拓影2 (2:3)



(　　)は実測図なし

第 86 図　窯道具窯印の拓影 1 (1:2)

第 4 章　自然科学分析

第 1 節　考古地磁気年代推定

藤根 久・Lomtatidze Zaur（パレオ・ラボ）

1. はじめに

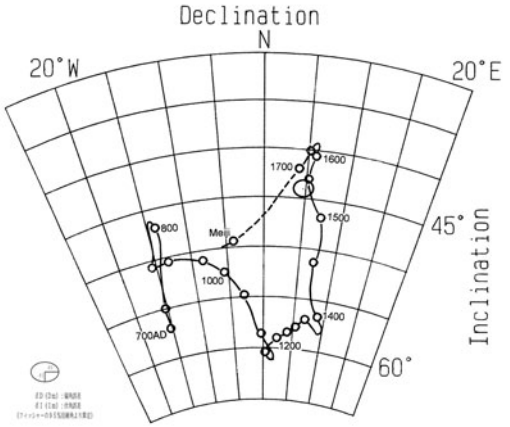
桑下東窯は、瀬戸市上品野町地内の丘陵地斜面に位置する 16 世紀の窯跡や工房跡などからなる遺跡である。ここでは、窯跡の床面焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から窯跡の焼成年代を推定した。

2. 考古地磁気年代推定の原理

地球上には地磁気が存在するために、磁石は北を指す。この地磁気は、その方向と強度（全磁力）によって表される。方向は、真北からの角度である偏角（Declination）と水平面からの角度である伏角（Inclination）によって表す。磁気コンパスが北として示す方向（磁北）は、真北からずれており、この間の角度が偏角である。また、磁針をその重心で支え磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のＮ極が水平面より下方を指す。この時の傾斜角が伏角である。現在、この付近の偏角は約 7.10°、伏角は約 48.07°、全磁力（水平分力）は約 30606.77(nT) である（理科年表、2006；いずれも 2000 年値）。

これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は、観測する地点によって異なった値になる。全世界地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気の分布は、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や炉跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などの残留磁化測定から知ることができる。大半の物質は、ある磁場中に置かれると磁気を帯びるが、強磁性鉱物（磁鉄鉱など）はこの磁場が取り除かれた後でも磁気が残る。これが残留磁化である。



第 87 図　　桑下東遺跡窯跡床面焼土の残留磁化と標準曲線
（広岡・藤澤（2002）に標準曲線にプロット）

考古地磁気では、焼土の残留磁化（熱残留磁化）が、焼かれた当時の地磁気の方向を記録していることを利用する。こうした地磁気の化石を調べた結果、地磁気の方向は少しづつ変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。過去 2,000 年については、西南日本の窯跡や炉跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている（広岡、1977、Shibuya、1980）。一方、地磁気には地域差が認められることから、東海地方の地磁気永年変化曲線が求められている（広岡・藤澤、2002；第 87 図）。

こうした年代のよく分かっている窯跡焼土や火

山岩の熱残留磁化測定などから地磁気永年変化曲線が得られると、逆に年代の確かでない遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気永年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。

この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。ただし、この方法は、14C 年代測定法など他の絶対年代測定法のように、測定結果単独で年代の決定を決定する方法ではない。すなわち、焼土の熱残留磁化測定から得られる偏角および伏角の値からは複数の年代値が推定されるが、いずれを採用するかは、焼き物等の年代が参考となる。

3. 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成年代を推定する。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

a. 測定用試料の採取および整形

試料は、床焼土面において、①一辺約 4cm の立方体試料を取り出すため、瓦用ハンマーなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く溶いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや固め（練りハミガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺 5cm の正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方位および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を掘り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺 3.5cm・厚さ 2cm 程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とする。採取した試料は、17 試料である。なお、採取時において 2 試料が破損した。

b. 段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：㈱夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意 1 試料（№ 4）について交流消磁装置（DEM-8601：㈱夏原技研製）を用いて段階的に消磁を行い、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した。その結果、試料の磁化強度は 10 − 2emu と強いことが分かった。さらに、磁化方向は、両者とも中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録していることが分かった。

以上の理由から、150 Oe で消磁した際の残留磁化方向が焼成時の磁化方向であると判断した。そこで、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料も、150 Oe 消磁した後に残留磁化を測定した。

複数試料の測定から得た偏角（Di）、伏角（Ii）を用いて、Fisher（1953）の統計法により平均値（Dm、Im）を求めた。信頼度計数は、2020.68 であり、従って伏角および偏角の各誤差が小さな値であった（表 1）。求めた熱残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の

第 12 表　　残留磁化測定結果（偏角補正前）

遺 構 名	試料 No.	偏角 (゜E)	伏角 (゜)	強度 (x10-3 emu)	備　考	統計処理項目	統計値
窯跡（150 Oe）	1	11.3	44.5	58.370		試料数（n）	15
	2	10.4	45.5	53.290			
	3	10.8	45.1	33.150		平均偏角 Dm（゜E）	11.75
	4	10.2	45.4	34.300	段階交流消磁		
	5	12.0	46.1	100.000		平均伏角 Im（゜）	45.92
	6	11.3	45.9	37.960			
	7	11.7	46.5	74.390		誤差角 δ D（゜）	1.22
	8	11.3	45.8	54.530			
	9	11.4	45.8	87.320		誤差角 δ I（゜）	0.85
	10	8.9	45.1	81.440			
	11	11.9	46.5	17.310		信頼度計数（k）	2020.68
	12	12.8	46.5	43.550			
	13	11.7	43.5	11.780		平均磁化強度 (x10-3 emu)	45.98
	14	16.5	49.4	0.531			
	15				破 損		
	16	14.6	47.0	1.727			
	17				破 損		

1990.0 年の磁気偏角近似式から計算した 7.10゜W を使用した。その結果は、広岡・藤澤（1998）による地磁気変化曲線とともにプロットした。図中測定点に示した楕円は、フッシャー（1953）の 95% 信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

4. 焼成年代値の推定

第 87 図には、広岡・藤澤（2002）による東海地方の地磁気永年変化（実線）の一部曲線とともに床面焼土の磁化方向を示した。

磁化方向は、標準曲線の 1,500 ～ 1,600 年間にプロットされた。年代の推定は、磁化方向の中心もっとも近い標準曲線上に移動して推定した。その結果、A.D.1,540 ± 10 年と推定された。

第 13 表　　窯跡の焼成年代推定

遺　構	遺物年代	残留磁化による推定年代
窯　跡	16 世紀	A.D.1,540 ± 10 年

引用文献

Fisher、R.A.（1953）Disparsion on a sphere.Proc.Roy.Soc.London,A，217,295-305.

広岡公夫（1977）考古学地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向．第四紀研究，15，200-203.

広岡公夫・藤澤良祐（2002）東海地方の地磁気永年変化曲線．考古学と自然科学，45，29-54.

理科年表（2006）国立天文台偏，丸善，1030p.

Shibuya、H.（1980）Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000　years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文，54p

第２節　出土木製品の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

桑下東窯跡は瀬戸市上品野町に位置し、水野川北岸の丘陵上に立地する遺跡である。ここではＣ区から出土した木製品 41 点の樹種同定を行なった。

2. 試料と方法

試料は調査区 05C から出土した木製品 41 点である。剃刀を用いて試料の３断面（横断面・接線断面・放射断面）から切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

3. 結果と考察

樹種同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属、ヒノキ、カヤの３分類群、広葉樹ではクリ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節、サクラ属？、フサザクラの６分類群、合計９分類群が確認された。結果の一覧は第 14 表に示す。

以下に同定根拠となった木材組織の特徴を示し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

（1）マツ属複維管束亜属　Pinus Subgen. Diploxylon　マツ科　第 88 図　1a-1c(No.24)

仮道管、垂直・水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで､晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側へ向かって鋸歯状の突起がみられる。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靭性は大である。

（2）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　第 88 図　2a-2c(No.33)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は急である。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で１分野に２個存在する。

ヒノキは温帯から暖帯に分布する。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性、耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

（3）カヤ　Torreya nucifera Sieb. et Zucc.　イチイ科　第 88 図　3a-3c(No.8)

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管壁に２本対になったらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、１分野に通常４個存在する。

カヤは暖帯から温帯に分布する常緑高木である。材は木理直通、硬堅、緻密で、弾性・耐久力が強く水湿にも強い。

（4）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　第 89 図　4a-4c(No.28)

大型の道管が年輪界に並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方

向柔組織はいびつな線状となり、道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。
クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。
（5）コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen.Cyclobalanopsis　ブナ科　第 89 図　5a-5c(No.26)
円形でやや大型の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔細胞は短接線状～いびつな線状となり、道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がある。
アカガシ亜属は主に暖帯に分布する常緑高木で、イチイガシ、アカガシ、ハナカガシ、ツクバネガシ、アラカシなど 8 種がある。材はきわめて堅硬、弾性が強く、強靭である。
（6）コナラ属クヌギ節 Quercus sect. Aegilops　ブナ科　第 89 図　6a-6c(No.4)
年輪界はじめに大型の道管が並ぶ環孔材で、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する。軸方向柔組織はいびつな線状で、道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がある。
クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギ・アベマキがある。材は全体的に重硬である。
（7）コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　第 90 図　7a-7c(No.1)
大型の道管が年輪界に沿って 1 ～ 3 列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状で、道管の穿孔は単一である。放射組織は同性、単列と広放射組織の 2 種類がある。
コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は全体的に重硬である。
（8）サクラ属？　Prunus s.l.　バラ科　第 90 図　8a-8c(No.40)
やや小型の道管が散在する散孔材である。道管の穿孔は単一、放射組織は 1 ～ 5 細胞幅程度、上下端が方形細胞の異性である。横断面において道管の配列が正確に観察できなかったため、サクラ属？とした。
サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属、スモモ亜属、モモ亜属、ウワズミザクラ亜属などに分類され、25 種がある。材は全体的に重硬である。
（9）フサザクラ　Euptelea polyandra Siebold et Zucc.　フサザクラ科　第 90 図　9a-9c(No.41)
小型の道管がほぼ単独で密に分布する散孔材で、晩材部でやや小型化する。道管の穿孔は階段状で、階段数はかなり多い。放射組織は 6 ～ 10 列幅程度の異性で、細胞高は 1mm 以上ある。
フサザクラは温帯から暖帯上部に分布する落葉高木である。谷筋に多く生育し、痩せ地にもよく生える。材はやや重硬で割れにくいが、脆い。

4. まとめ

樹種同定結果ではヒノキが過半数を占めており、次にマツ属複維管束亜属、クリの順に数が多い。その他の樹種は 1 点ずつ検出された。1 点のみ検出されたフサザクラは、樹皮はサクラに似るが、大径材が出ず材質もあまりよくないため、あまり有用ではなく、他の遺跡における検出例も少ない。
瀬戸市に所在する巡間 E 窯跡、凧山 C 窯跡など山茶碗の中世窯では、燃料材としてマツ属複維管束亜属とクリの使用例が多い（植田，2003・2005a）。さらに同じく瀬戸市に所在する 14 世紀から 15 世紀に操業されていた鶯古窯では、マツ属複維管束亜属とヒノキが多く利用されているほか、本遺跡で検出さ

れたクリ、サクラ属、アカガシ亜属などの広葉樹も多種類検出されている（植田，2005b）。

本遺跡の近隣に所在する上品野蟹川遺跡において、中世・近世の遺構で花粉分析が行なわれている。これによると中世以降はイチイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科、アカガシ亜属、シイノキ属が減少し、マツ属複維管束亜属およびコナラ属コナラ亜属を主とした森林の存在が復元されており（新山・鈴木，1998）、二次林要素の強い森林であったことがわかる。本遺跡において利用されていた樹種は、花粉分析においても確認できるほか、鶯窯跡における利用傾向とも類似していることから、木製品の製作には遺跡周辺に生育していた樹木を利用したと推測される。

第 14 表　桑下東遺跡出土木製品の樹種同定結果

樹種番号		調査区	グリッド	遺構	樹種	木取り
W-1	杭	5C	Ⅳ I19g	P12 No.1	コナラ節	芯持丸木
W-2		5C	Ⅴ I2e	P16 No.1	マツ属複維管束亜属	芯持丸木
W-3		5C	Ⅴ I1e	P100	マツ属複維管束亜属	芯持丸木（片側加工）
W-4		5C	Ⅳ I20f	P77 No.1	クヌギ節	芯持丸木（片側加工）
W-5	基盤	5C	Ⅳ I20f	P105 No.2	クリ	割材
W-6	杭	5C	Ⅳ I19f	検Ⅱ　②	ヒノキ	芯持丸木（片側加工）
W-7		5C	Ⅳ I18h	褐灰色砂	クリ	芯持丸木（片側加工）
W-8		5C	Ⅳ I19f	SD06 No.13	カヤ	芯持丸木（片側加工）
W-9	蓋	5C	Ⅳ I19e	SD05 No.16	ヒノキ	柾目
W-10	箸	5C	Ⅳ I19f	SD05 No.22	ヒノキ	角材
W-11		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.39	マツ属複維管束亜属	分割削出
W-12		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.8	ヒノキ	分割削出
W-13		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.36	ヒノキ	角材
W-14		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.38	ヒノキ	角材
W-15		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.33	ヒノキ	分割削出
W-16		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.17 ②	ヒノキ	分割削出
W-17		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.29	ヒノキ	分割削出
W-18		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.52	ヒノキ	分割削出
W-19	折敷	5C	Ⅳ I19e	SD05 No.01	ヒノキ	柾目
W-20		5C	Ⅳ I19e	SD05 No.5･6	ヒノキ	柾目
W-21	蓋	5C	Ⅳ I19f	SD06 No.1	ヒノキ	柾目
W-22	下駄	5C	Ⅳ I19e	SK44 No.4	ヒノキ	柾目
W-23		5C	Ⅳ I18g	No.36	マツ属複維管束亜属	板目
W-24	栓	5C	Ⅳ I19g	検Ⅱ	マツ属複維管束亜属	芯持削出
W-25	錘	5C	Ⅳ I19g	No.40	クリ	芯持丸木
W-26	不明	5C	Ⅳ I19g	検Ⅲ	アカガシ亜属	芯持丸木
W-27	椀	5C	Ⅳ I19g	No.42　漆椀	クリ	横木取り
W-28		5C	Ⅳ I18g	No.8　漆椀	クリ	横木取り
W-29	不明	5C	Ⅳ I18i	褐灰色砂	ヒノキ	板目
W-30		5C	Ⅳ I18f	No.18	マツ属複維管束亜属	板目
W-31	箱物	5C	Ⅳ I20f	SD22	ヒノキ	板目
W-32		5C	Ⅳ I19g	No.47	ヒノキ	板目
W-33		5C	Ⅳ I19g	No.38	ヒノキ	柾目
W-34		5C	Ⅳ I19g	No.41 ②	ヒノキ	柾目
W-35		5C	Ⅳ I19g	検Ⅱ	ヒノキ	柾目
W-36		5C	Ⅳ I19g	No.41 ①	ヒノキ	柾目
W-37	曲物底	5C	Ⅳ I18f	No.19	ヒノキ	柾目
W-38	桶底	5C	Ⅳ I18g	No.44	ヒノキ	柾目
39		5C	Ⅳ I18h	褐灰砂	ヒノキ	角材
40		5C	Ⅳ I18i	褐灰色砂　うるし	サクラ属？	縦木取り
41		5C	Ⅳ I19i	No.49	フサザクラ	横木取り

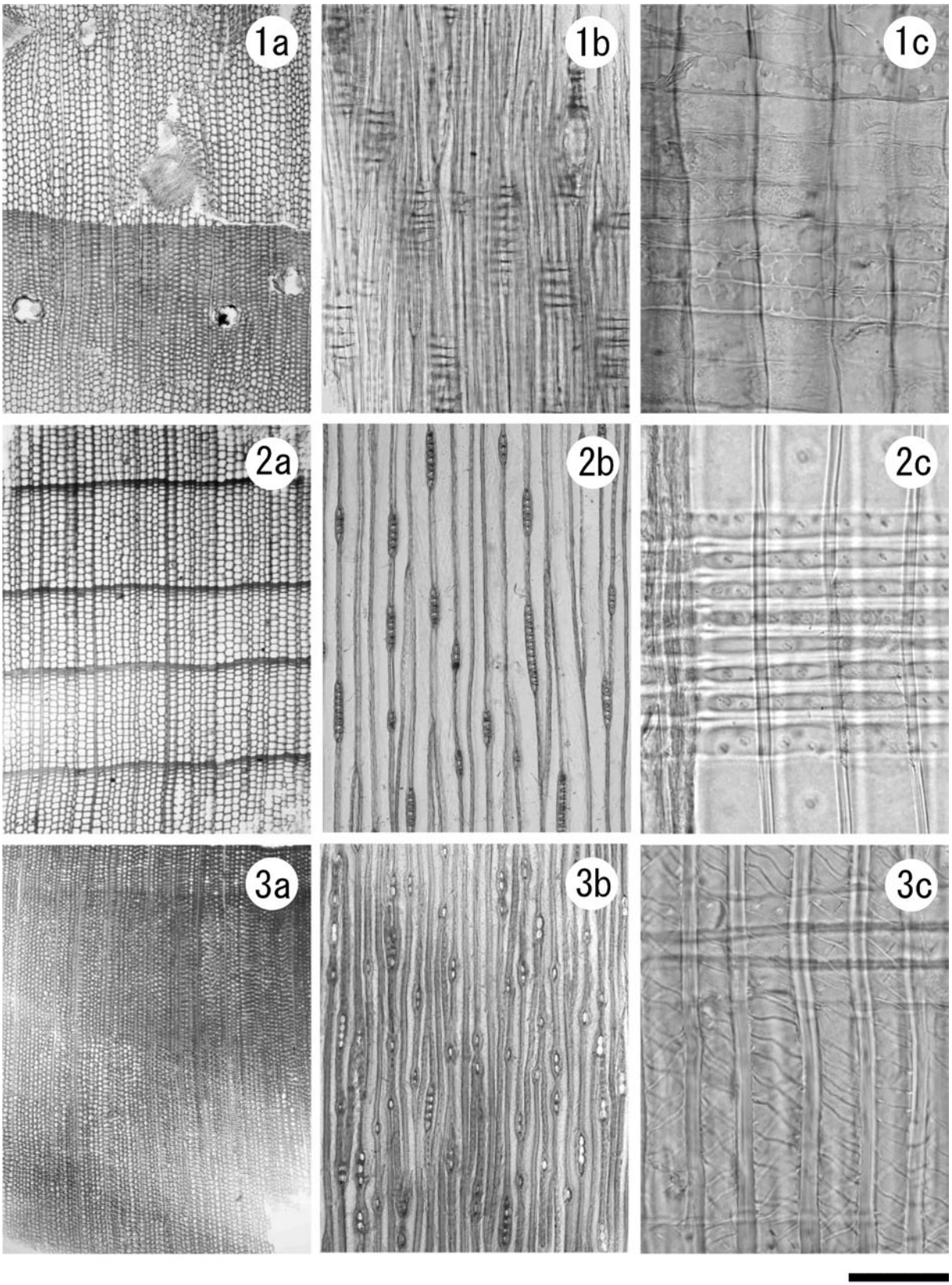
引用文献

植田弥生（2003）巡間 E 窯跡遺跡出土炭化材の樹種同定．愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター編「巡間 E 窯跡」：79-82，愛知県埋蔵文化財センター．

植田弥生（2005a）炭化材の樹種同定．愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター編「凧山 C 窯跡・惣作・鐘場遺跡 I」：60-62，愛知県埋蔵文化財センター．

植田弥生（2005b）灰原および工房跡から出土した炭化材の樹種同定．愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター編「鶯窯跡」：198-209，愛知県埋蔵文化財センター．

新山雅広・鈴木茂（1998）上品野蟹川遺跡の自然科学分析．瀬戸市埋蔵文化財センター編「上品野蟹川遺跡」：82-98，瀬戸市埋蔵文化財センター．

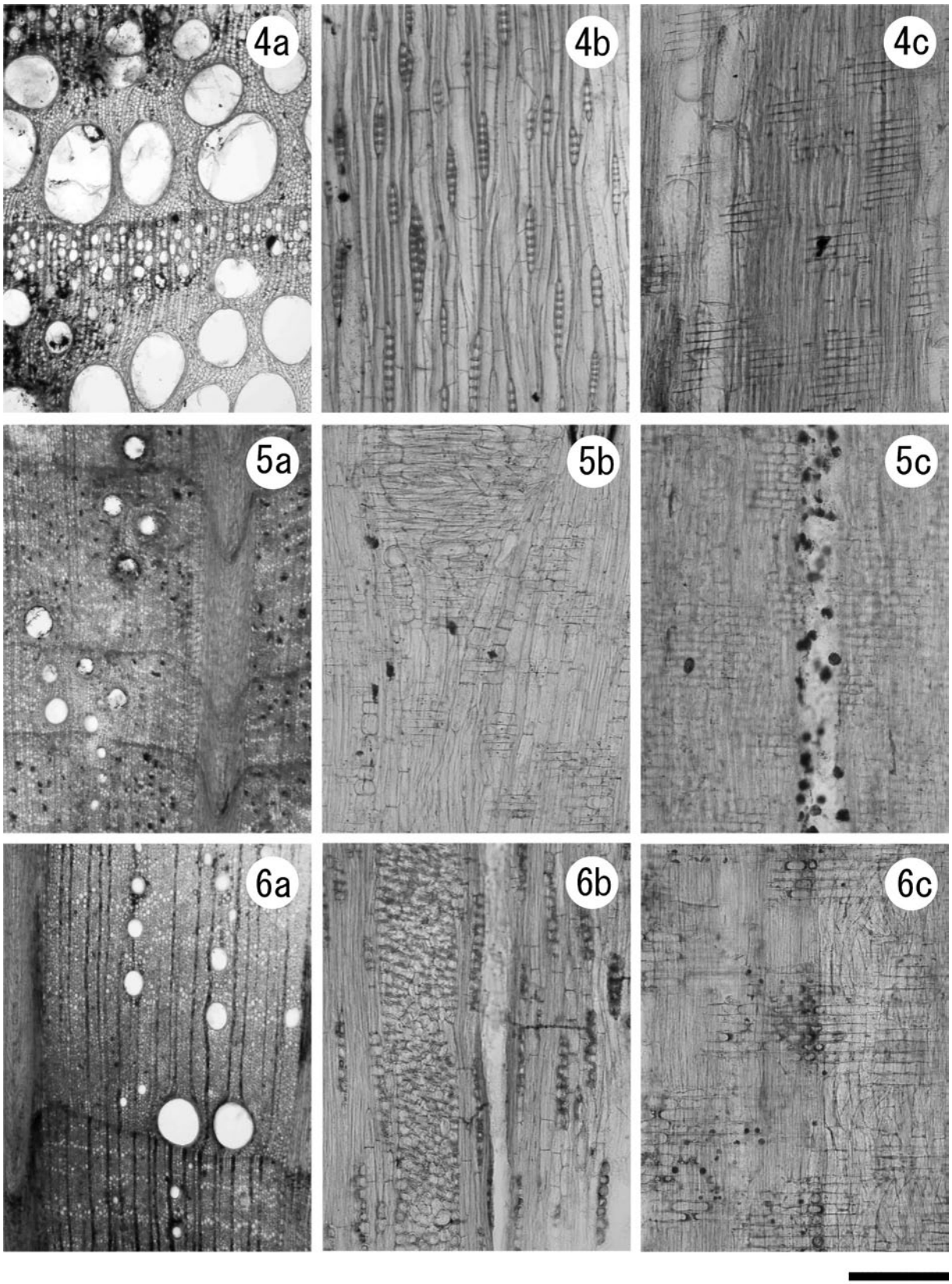


第 88 図　出土材の光学顕微鏡写真（a: 横断面 ,b: 接線断面 ,c: 放射断面）

1a-1c. マツ属複維管束亜属（№ 24,a:500 μ m,b:200 μ m,c:50 μ m）

2a-2c. ヒノキ（№ 33,a:500 μ m,b:200 μ m,c:50 μ m）

3a-3c. カヤ（№ 8,a:500,b:200 μ m,c:50 μ m）

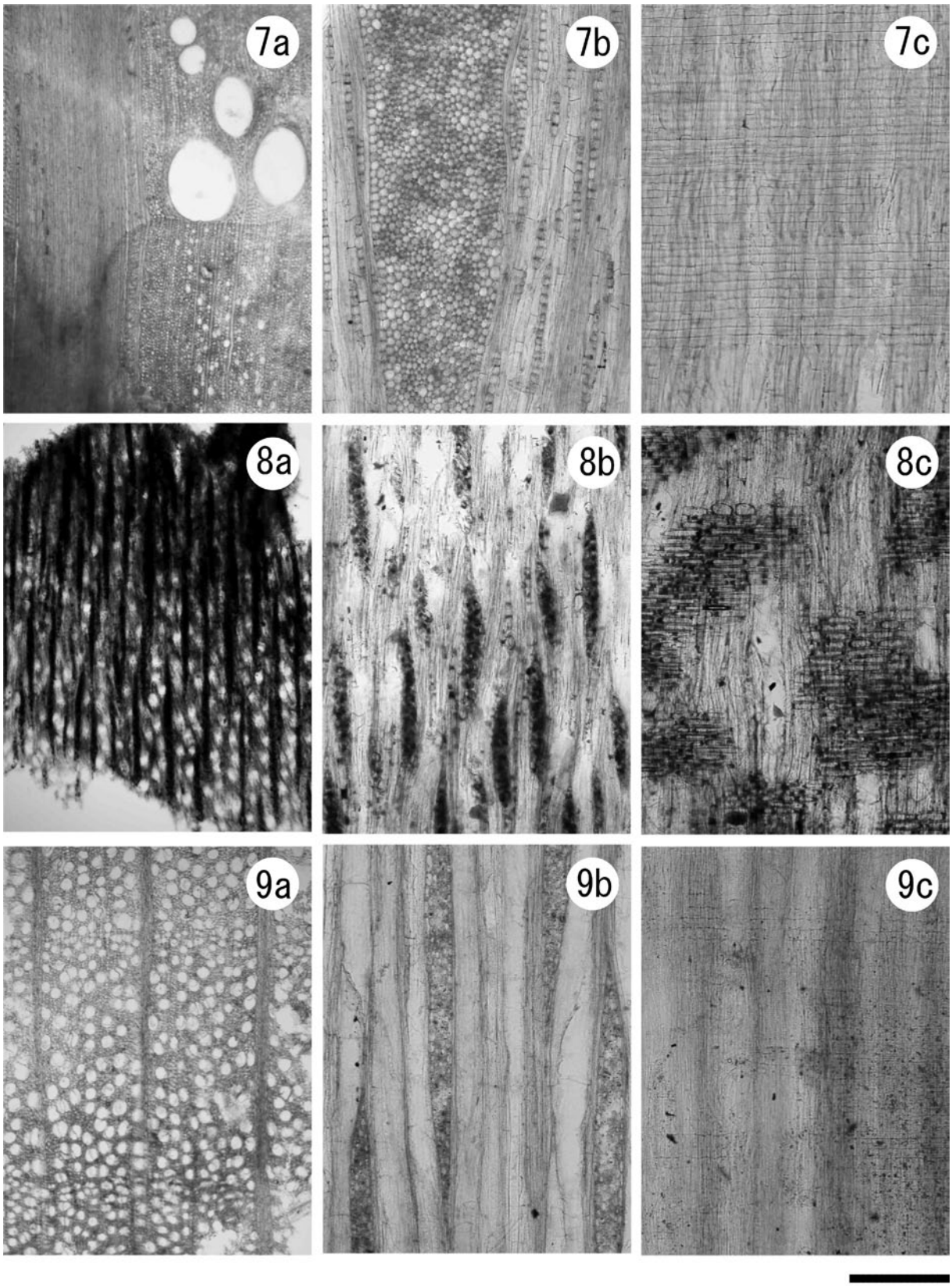


第 89 図　出土材の光学顕微鏡写真（a: 横断面 ,b: 接線断面 ,c: 放射断面）

4a-4c. クリ（№ 28,a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m）

5a-5c. コナラ属アカガシ亜属（№ 26,a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m）

6a-6c. コナラ属クヌギ節（№ 4, a:500 μ m, b:200 μ m,c:200 μ m）



第 90 図　出土材の光学顕微鏡写真（a: 横断面 ,b: 接線断面 ,c: 放射断面）

7a-7c. コナラ属コナラ節（№ 1,a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m）

8a-8c. サクラ属？（№ 40,a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m）

9a-9c. フサザクラ（№ 41,a:500 μ m,b:200 μ m,c:200 μ m）

第５章　総括

第１節　轆轤ピット

1. はじめに

ロクロピットは轆轤を設置した軸棒を固定した穴、ロクロ軸木穴で、二段構造を持っている。

桑下東窯跡よりロクロピットがＡ区から 40 基、Ｅ区から 15 基、の轆轤ピット総数 55 基（第 15 表）を検出した。Ａ区では約 50㎡の範囲に轆轤ピット 40 基が集中し、密集した轆轤ピットは土坑群の様相を呈していた。今迄の常識では考えられないロクロピットの数とＡ区の密度である。窯跡のロクロピットについての覚え書きである。

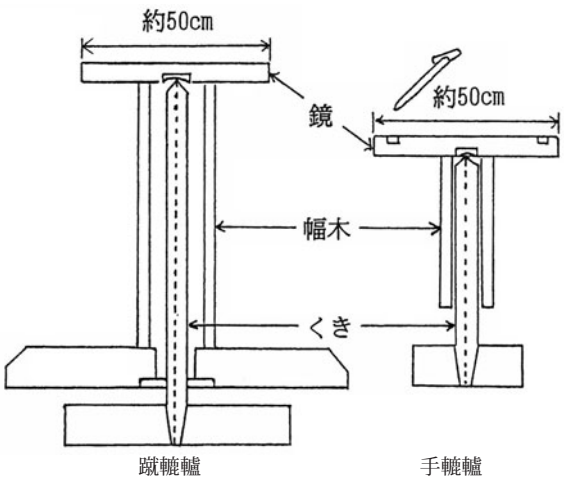
2. 桑下東窯跡の轆轤ピット

桑下東窯跡で見られたロクロピット 55 基をその形状により二つの型に分類した。

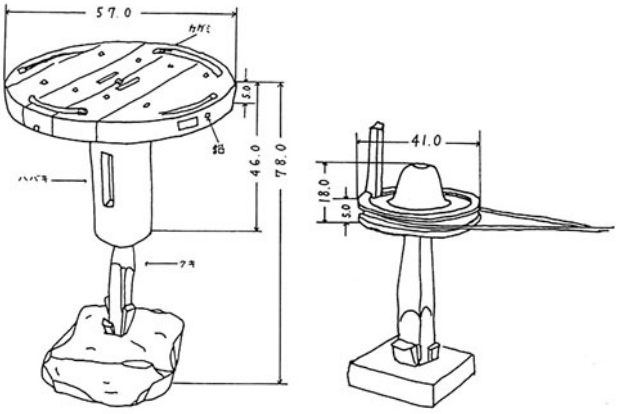
１類は従来のロクロピットで柱穴型とした（第 92 ～第 94 図）轆轤ピットである。長軸径 40㎝から 60㎝、短軸径 40㎝から 60㎝、深さ 62㎝から 78㎝を測る。平面形は、やや角のある円形あるいは歪んだ円形等の円形で軸穴は中央にある。１類の柱穴型は 31 基検出した。

２類は土坑型（第 95 図、第 96 図）とした轆轤ピットである。平面形は円形か隅円方形で、上半に土坑状の掘り込み部分と下半の柱穴状掘り込み部分から成る「土坑」プラス「ロクロピット」である。長軸径 71㎝から 89㎝、短軸径 60㎝から 81㎝、深さ 97㎝から 127㎝を測る。２類の土坑型は 24 基である。

ロクロピットが密集していたＡ区では１類の柱穴型が 20 基、２類の土坑型を 20 基検出した。



陶磁器の轆轤『日本民具辞典』より



手轆轤　　引き轆轤

『窯業民俗資料調査報告１（瀬戸市）』より

第 91 図　轆轤

3. 柱穴型轆轤ピット

1 類は“柱穴タイプ”の轆轤ピットで従来のロクロピットである。平面形は、やや角のある円形あるいは歪んだ円形等の円形である。二段構造の穴で、上部が粘土で充填される例が多い。断面形はだいたいが深鉢形で、軸穴は中央にある。軸穴の蓋として、匣鉢や挟み皿、欠損した製品、粘土塊あるいは石で塞いでいる。軸穴は、掘り込み中位で一度突き固められ、軸穴周りは、礫、焼台で固定している。下半の軸周りに焼台を円形に敷き刳り貫かれた SK25 もある。軸穴底面に、粘土や版築様の粘土を挟み、レンズ状の堆積となり、軸受けと考えられる。そして底が硬化していた。

長軸径は 40㎝から 60㎝が多く、最小径 24㎝、最大径 67㎝である。短軸径は 40㎝から 60㎝が多く、最小径 18㎝が見られたが削平され軸部のみの数値で、最小径は 26㎝と思われ最大径は 63㎝である。

深さ 62㎝から 78㎝が多く、浅い 26㎝が見られるが削平された数値であるため、最浅い深さは 50㎝と思われ、最深が 1m である。

1 類の“柱穴タイプ”の轆轤ピットは、長軸径 40㎝から 60㎝、短軸径 40㎝から 60㎝、深さ 62㎝から 78㎝が平均的な数値と思われる。

4. 土坑型轆轤ピット

2 類は“土坑タイプ”の轆轤ピットで、平面形は円形か隅円方形で、上半に土坑状の掘り込み部分と下半の柱穴状掘り込み部分から成る轆轤ピットである。「土坑」プラス「ロクロピット」である。

上半の土坑は周りが素掘りのままのものと、角礫による石組みを伴うもの（「井戸」に似たもの）が見られる。石組は土坑の掘り込みの壁沿いに積まれ、石組みを伴う例として SK21、SK06、SK07、E 区 P116 がある。土坑下部に大礫を伴う例も見られたことから壁だけでなく底にも埋設した可能性がある。

軸穴は上部土坑の掘り込みの中位付近からで、軸穴底面に版築様の粘土や層厚 1 ～ 2 cm の薄い粘土敷きが見られ、軸受けと考えられる。軸穴底面の軸受け粘土はうすい扁平状（「せんべい」とやや厚い「丸餅」の様）であった。

長軸径は 71㎝から 89㎝が多く、最小径 16㎝が見られたが削平のためと思われ、最小径は 30㎝前後か、最大径は 101㎝である。短軸径は 60㎝から 81㎝が多く、最小径 20㎝が見られたが削平された数値で、最小径は 25㎝前後と思われる。最大径は 95㎝である。

深さは 97㎝から 127㎝が多く、浅い 21㎝が見られたが削平された数値であるため、最も浅い深さは 54㎝前後と思われる。最深が 1m37㎝である。

2 類の“土坑タイプ”の轆轤ピットは、長軸径 71㎝から 89㎝、短軸径 60㎝から 81㎝、深さ 97㎝から 127㎝が平均的な数値と思われる。なお、据え直しの痕跡が SK06（2 本）、SK27（3 本）で見られた。

5. 柱穴型と土坑型について

土坑タイプ 2 類の轆轤ピットは土坑型と称した様に、土坑状の掘り込みの中にロクロピットが見られるものである。1 類柱穴型と比較すると 2 類土坑型の特徴として四点指摘できる。

①形状がひと回り大きくなっている。長軸で 30㎝、短軸で 20㎝、大きくなり、軸穴の深さも最小差でも 35㎝は深い。軸底までの深さが最小差で 35㎝を測り軸底までの深さが 1m 以上測る例が 10 例ある。

②上部土坑の掘り方が、垂直で角ある箱状を呈する。SK18 と SK21。

③軸木上端（上部土坑の底）の幅が 46㎝、68㎝と幅が広い。1 類の柱穴型では軸木上端の幅は最大でも 44㎝で 40㎝が多く見られる。

④上部土坑周りに角礫による石組み（「石組み井戸」類似）がある。SK21、SK06、SK07、E 区 P116 の 4 例見られる。埋土中から灰、炭化物、焼土や水の痕跡はなく、炉でも井戸でもない。石組は土坑の掘り込みの壁沿いに積まれている。ロクロ軸と壁の間を幅広くするためか、崩れ易くなり周りの壁に角礫を積み上げ壁の崩落を防ぐためか、とも考えられる。

6. 轆轤の構造

轆轤の構造などについて、加藤唐九郎編『原色陶器大辞典』に詳しい説明がありこれを抜粋した。
また昭和十一年刊行の『陶器大辭典』中の「ろくろ　轆轤」に図が見られ第 97 図に転載した。

【構造および種類】轆轤は成形用の円盤とこれを支える軸木とからなり、軸木の下端は地中に埋めて固定する。軸木の頂部に水平に安定している円盤は、手または足、あるいは動力によって旋回運動を起す。軸木と円盤の接点には摩滅防ぐため陶磁器や鋼鉄製の頂を嵌入し、円盤の表面はおおむね陶工が座って作業する床と同じ高さにある。主として木製または金属製であるが、外に土製、石製、石膏製、陶磁製のものもある。木製は最も通用されるところでわが国・朝鮮ともに欅材が多く用いられる。……
【中国】……『清国窯業視察報告』（北村弥一郎）…景徳鎮における陶車は手動式で概してわが国の手轆轤と似ており、円盤はたいてい直径 96㎝より 1,3m に至り、厚さは 6㎝前後とする。円盤と軸木との接触部分には陶製の軸受けがある。また軸木を囲んで四本の木杵があり、木杵の下端に陶製の輪環を付す。軸木の頂端は堅木でつくり滅損すれば取り替える。陶工は腰板に踞座し両方を前方に開き、両手で回棒を持ち円盤上に穿たれた孔にこれを挿入し円盤を回転させる。回棒には竹製・木製があり、長さ 1m 内外とする。ただし大器をつくる場合は補助工に円盤を旋回させ、器物によっては補助工三人を要することがある。福建省徳化窯の陶車は脚車で、その制式は景徳鎮および石湾窯のものと異なり、またわが国におけるとも異なる。すなわち木製円筒脚があって軸木の上に載っている。円筒脚の上端平面に九本の杙を直角に打ち込みこれに竹片を組み付けて円坐をつくり、これを骨として上に泥土を塗布して成形用円盤をつくる。円盤の直径はたいてい 54㎝より 60㎝を普通とする。そしてこれを旋回させるには、陶工は陶車前に踞坐し右足を上げて円盤の縁辺を蹴り回すものとする。また遅緩な回転を要する時はこれを手でおこなうことがあり、そのため円盤の縁端に小盃を埋め込み手掛かりとする。広東省石湾窯の陶車は円盤の直径約 74㎝、地孔に装置した軸木の上に載る円盤の高さは地上よりほぼ 15㎝のところにある。陶車の使用は必ず造坏工と補助工の二人でし、補助工は陶車のかたわらに立ち屋裏より懸垂した吊り縄を手にして身体を固定させ、足を上げて円盤の上部を蹴り動かし造坏工は陶車に対して踞坐し、その両足を左右に開いて器物を成形する。徳化窯の式と共にその構造はわが国の手轆轤に似ているが操作は蹴轆轤に似たものである。
【朝鮮】朝鮮の轆轤は輪台の字を当て、材は多く欅制、軸木のみは壇木を使用する。全部蹴轆轤で、その複盤式はわが国九州地方の蹴轆轤に非常に類似する。上盤の径約 48㎝、厚さ 9㎝ばかり。下盤はその中央に軸木を通す円孔を有する。上下両盤は四本の木杆によって連結され、軸木は上盤を

受け下盤の円孔を通り下端は地中に固定される。陶車全体は直径 90㎝内外に掘られた穴に装置され、上盤はあたかも地上平面と平均する。工人はかたわらに掘った穴に木板を架し、これに腰掛け下盤を蹴りつつ器物を成形する。

【日本】……わが国においては単盤式の手轆轤と複盤式の蹴轆轤が並用され、各陶業地の伝統に従い両者は相対立の勢力を示している。手轆轤の行われる地方は尾張（愛知県）・美濃（岐阜県）・磐城（福島県）・京都などを主とし、また瀬戸轆轤ともいう。構造は大体成形用円盤とその円盤の裏面中央に中空の円筒を取り付け、中に軸木を挿入して円盤を支持し、円盤と軸木との接点には陶磁製や鉄製の頂を嵌入して摩滅を避ける。軸木の下端は地中に固定する。寸法は地方によりやや異同があるが、大体円盤の径 54㎝より 66㎝、厚さ 75㎝より 90㎝、円筒の外径 14,5㎝、円筒の長さ 42㎝ばかりとする。……

7. まとめ

日本の手轆轤の寸法は『原色陶器大辞典』では、円盤の径 54㎝より 66㎝、厚さ 75㎝より 90㎝、円筒の外径 14,5㎝、円筒の長さ 42㎝である。『窯業民俗資料調査報告 1（瀬戸市）』では手轆轤　第 91 図はカガミ（円盤）径 57㎝、ロクロ台の高さ 46㎝、クキの台まで高さは 78㎝を測る。クキの台は花崗岩を方形に粗割りしたものの中心に約 10㎝角の孔を穿ちそこにクキを立てている。

クキの台の孔がロクロピットの軸穴径である。桑下東窯跡の軸穴径を測ると 1 類が 7㎝から 16㎝で、2 類が 12㎝から 20㎝と 2 類が軸穴も一回り大きくなっている。

1 類の軸径は、SK01 が 16㎝、SK02 が 10㎝、SK16 が 10㎝、SK25 が 7㎝、SK28 が 12㎝、P02 は 14㎝、P03 は 13㎝、P32 は 7㎝、P37 は 11㎝、P63 は 7㎝、SX02-P06 は 12㎝を測る。

2 類の軸径は、SK18 が 12㎝、SK21 が 15㎝、SK24 が 20㎝、P14 は 22㎝、P53 は 13㎝を測る。

それまでのロクロピットより一回り大きなロクロピット、土坑型轆轤ピット 2 類が見られた。

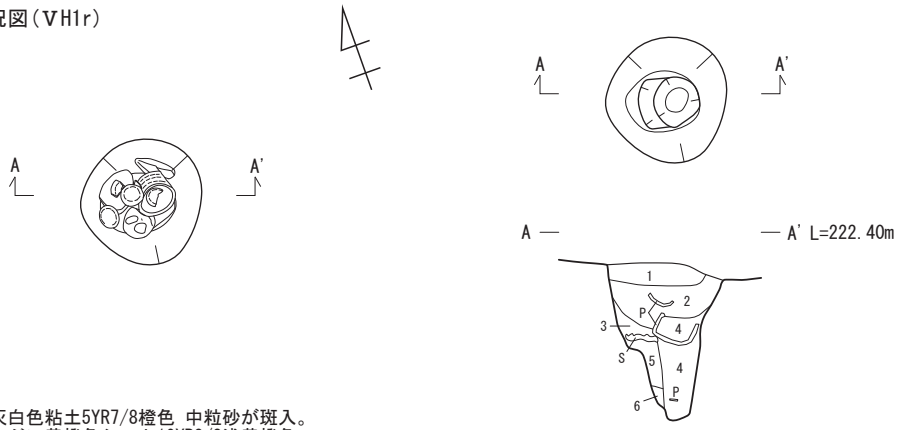
土坑型轆轤ピット 2 類が大形製品を作るためか、轆轤の構造的な違いか、轆轤の場所が固定化されたことから等、いずれに起因するか、現状では想起できる資料に乏しく、今後類例の増加が期待されるのである。

第 15 表　桑下東窯跡　轆轤ピット一覧

柱穴型　31 基　　土坑型　24 基
例　0.5=0.50㎝　0.7=0.70㎝

	区　遺構 No.	長軸 m	短軸 m	深さ ㎝	深さ ㎝	埋土	平面形	型	方位	断面形状	軸穴 : 上部	軸穴 : 周り	軸穴 : 底
1	A 区　SK01	0.5	0.46	62		3 層	不整円	柱穴		深鉢	匣鉢	礫	
2	SK02	0.67	0.55	72		3 層	不整円	柱穴	N-72 ° -E	深鉢		中位小礫	粘土
3	SK03	0.65	0.63	63		2 層	円	柱穴		深鉢	匣鉢		明赤橙色砂？
4	SK06	0.83	0.76	71		3 層	不整方	土坑	N-14 ° -E	箱　段	2 本	北側礫積み	シルト敷き
5	SK07-P13	0.42 0.31	0.7 0.26	32 72	104		やや 長方円方	土坑 柱穴	N-88 ° -E	箱　深鉢	周囲沈鉄	東側 礫積み	
6	SK16	0.55	0.5	69			円	柱穴	N-47 ° -W	深鉢　段	粘土塊		硬化
7	SK18	0.98	0.95	45 87	132	3 層	不整円	土坑	N-21 ° -E	鉢　段	礫		
8	SK21	0.86	0.79	43 79	122	4 層	円	土坑	N-9 ° -E	箱　段		礫積み　全周	
9	SK23	1.01	0.81	60 77	137	3 層	隅円長方	土坑	N-9 ° -E	箱　段			
10	SK24	0.71	0.54	35 74	109	2 層	隅円方	土坑		箱　段			シルト敷き
11	SK25	0.59	0.52	75			円	柱穴		深鉢		焼台刳り貫き	
12	SK26	0.62	0.36	68		3 層	隅円方	土坑	N-52 ° -W	箱　段		匣鉢片	
13	SK27	0.84	0.71	18 82	100	1 層	隅円方	土坑		（箱　段）	3 本		
14	SK28	0.49	0.48	71		2 層	円方	柱穴		深鉢	匣鉢	匣鉢・礫・粘土塊	
15	SK30	0.75	0.73	40 81	121	3 層	隅円方	土坑	N-55° -W	鉢　段	小皿・匣鉢		
16	SK31	0.6	0.52	58			隅円方	柱穴	N-58° -E	鉢	礫	炭	粘土
17	SK32	0.73	0.64	45 63	108	3 層	不整方	土坑		鉢　段	端反皿		
18	SK37	0.89	0.76	43 75	118	3 層	隅円方	土坑	N-26° -E	箱　段	3 本		版築様硬質シルト
19	SK38	0.67	0.62	71		2 層	長円		ほぼ東西	深鉢			
20	SK39	0.6	0.7	31 66	97	3 層	方	土坑	北西 - 南東	鉢　段	大礫		
21	P01	0.28	0.25	54			円	土坑		箱	粘土		
22	P02	0.5	0.45	82			円方	柱穴	北西 - 南東				
23	P03	0.42	0.38	30 62	92	3 層	円	柱穴	N-21° -W	箱　段	粘土		
24	P04	0.16	0.2	21		2 層	円	土坑		深鉢	周囲沈鉄		
25	P05	0.38	0.32	14 40	54	2 層	円	土坑	N-21° -W	浅箱　段			
26	P06	0.22	0.21	24		2 層	円	土坑		深鉢	周囲沈鉄	沈鉄	
27	P08	0.29	0.26	73		2 層	隅円方	柱穴	N-57° -E	深鉢	周囲沈鉄	焼台片	
28	P10	0.44	0.4	69		3 層	円	柱穴		深鉢	粘土		版築様硬質シルト
29	P14	0.65	0.51	31 96	127	3 層	隅円方	土坑	N-88° -E	深鉢 狛犬片	赤色系土		粘土混
30	P15	0.45	0.38	21 35	66	2 層	長円	柱穴	N-20° -E	鉢　段	粘土塊		
31	P32	0.42	0.42	40 60	100	4 層		柱穴	N-30° -W	深鉢		礫 東側半周	
32	P37	0.42	0.4	26 52	78	3 層	円方	柱穴	N-49° -W	深鉢			
33	P41	0.24	0.18	26		2 層	円方	柱穴	N-39° -E	鉢			
34	P47	0.42	0.43	17 46	63	2 層	隅円方	柱穴	北西 - 南東	箱　段	軸穴直立せず		
35	P52	0.52	0.44	76		2 層	長円	柱穴	N-50 ° -E	深鉢			
36	P53	0.45	0.37	19 71	90	3 層	長円	土坑	N-38° -W	逆凸			扁平な粘土
37	P55	0.72	0.26	38		単層	隅円方	土坑		箱　段			
38	P58	0.35	0.3	50		2 層	円	柱穴		深鉢			
39	P63	0.22	0.2	42		3 層		土坑	N-40° -E	深鉢	周囲沈鉄		
40	P65	0.4	0.4	68			円方	柱穴		深鉢　段			
41	E 区 P113	0.34	0.32	56		3 層	円	柱穴	N-50° -W	深鉢			
42	P115-a	0.44	0.37	55 17	72		隅円方	柱穴	N-72° -W				粘土
43	P116	0.51	0.51	24 53	77	3 層	隅円方	土坑	N-43° -W	深鉢　段			焼台片
44	P117	0.45	0.45	25 51	76	2 層	隅円方	土坑	N-46° -E	逆凸			
45	P119	0.26	0.24	31		3 層	隅円方	柱穴	N-40° -E	鉢			
46	P121	0.39	0.29	22 54	76	2 層	隅円長方	土坑	N-60° -W	鉢段			焼台片
47	P122	0.32	0.28	43		2 層	円	柱穴	N-45° -W	深鉢			粘土で固定
48	P123	0.22	0.21	36		3 層	隅円方	柱穴	N-35° -W	深鉢	粘土質シルト		
49	SB03-P01	0.45	0.41	31 56	87	3 層	円	土坑		鉢段	陶器片		
50	SX02-P03C	0.8	0.54	67		2 層	不整形	柱穴	N-111° -E	深鉢	礫		
51	SX02-P06	0.72	0.55	67		5 層	楕円	柱穴	N-27° -E	深鉢			
52	SX02-P07	0.38	0.38	47		2 層	楕円	柱穴	N-38° -W	箱	匣鉢 . 挟み皿		
53	SX02-P08	0.41	0.38	53		5 層	隅円方	柱穴	N-48° -W	箱	粘土		
54	SX02-P09	0.47	0.36	42		3 層	隅円方	柱穴	N-56° -W	鉢			
55	SX02-P12	0.48	0.35	42		3 層	隅円方	柱穴	N-46° -W	箱　段			

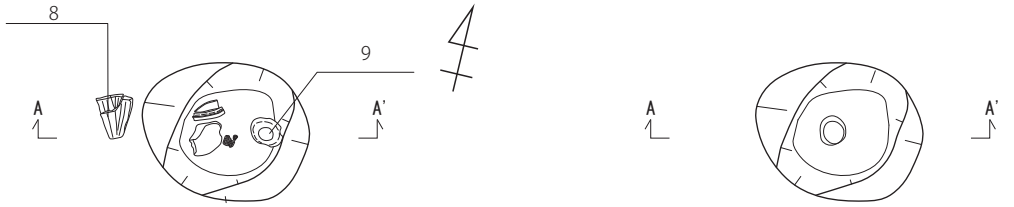
SK01出土状況図（ⅤH1r）



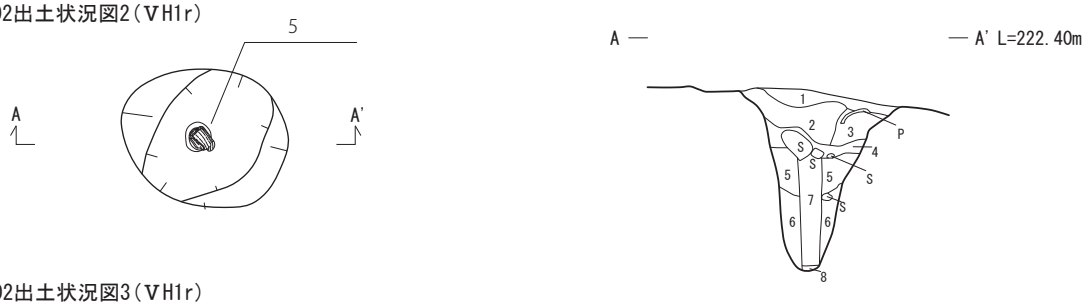
1. 2.5Y8/2灰白色粘土5YR7/8橙色 中粒砂が斑入。
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト10YR8/3浅黄橙色粘土をブロック状に含む。
3. 5YR5/4にぶい赤褐色砂質シルト
4. 7.5YR5/6明褐色砂質シルト
5. 5YR5/6明赤褐色シルト砂含む。
6. 10Y6/2オリーブ灰色シルト

※4層はロクロ軸穴

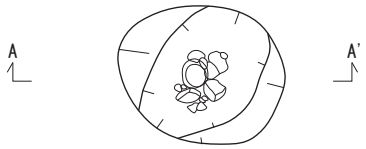
SK02出土状況図1（ⅤH1r）



SK02出土状況図2（ⅤH1r）



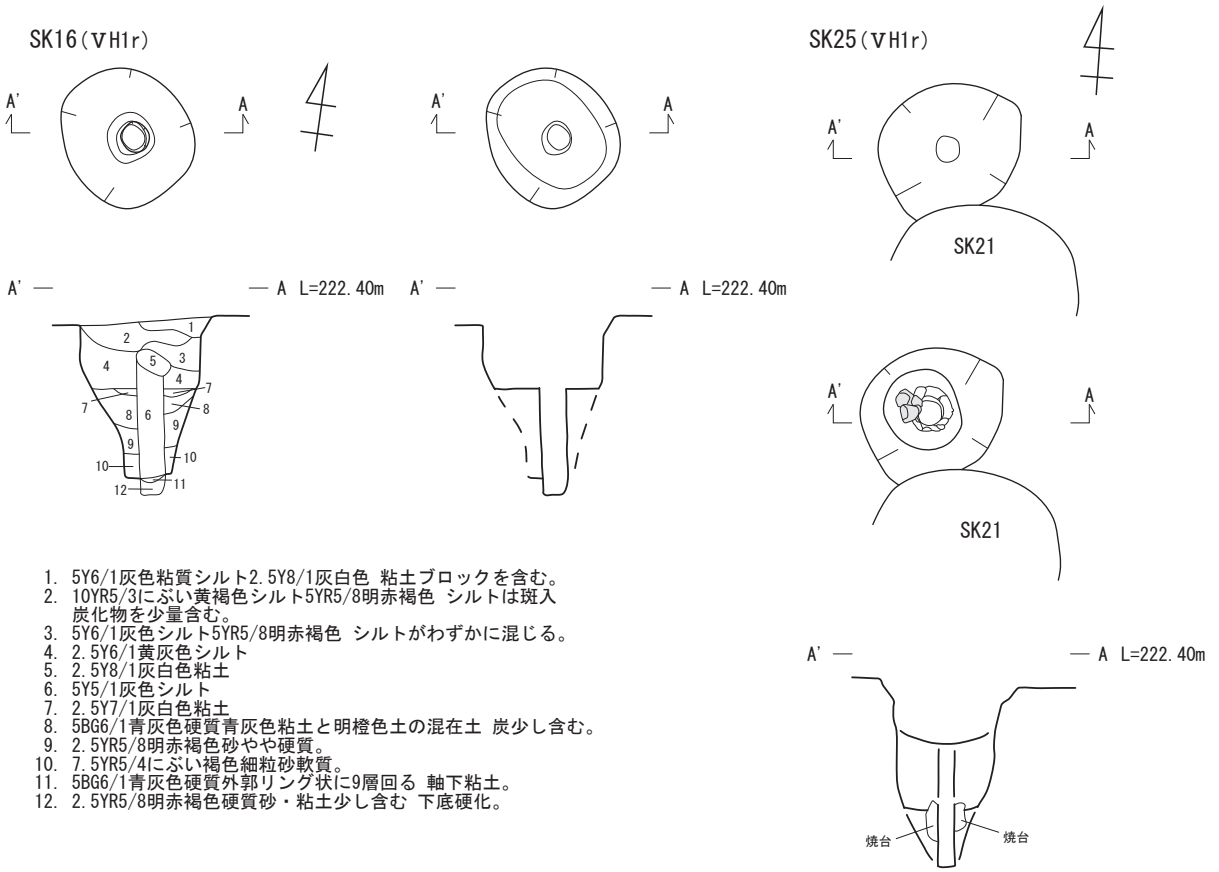
SK02出土状況図3（ⅤH1r）



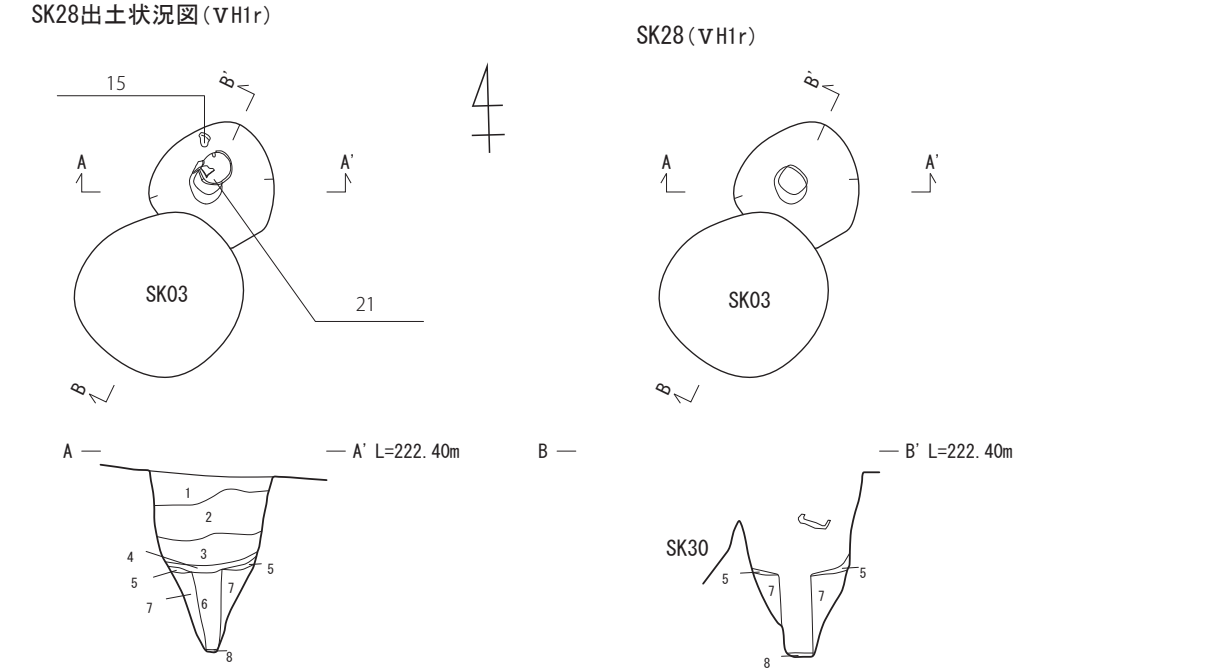
1. 2.5Y8/2灰白色粘土炭化物を濃密に含む。
2. 2.5Y8/2灰白色粘土
3. 7.5YR4/4褐色シルト5Y5/4 オリーブ色 中粒砂をブロック状に含む。
4. N-4灰色シルト
5. 7.5YR6/2灰褐色シルト2.5Y8/2灰白色 粘土を塊状に含む。
6. 7.5YR5/6明褐色シルト質粘土・砂・シルト含む。
7. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂極めて軟質。
8. 10GY6/1緑灰色粘土橙色砂少し含む。極めて硬質。

0 1m

第92図　轆轤ピット1類（柱穴）SK01・02（1:30）



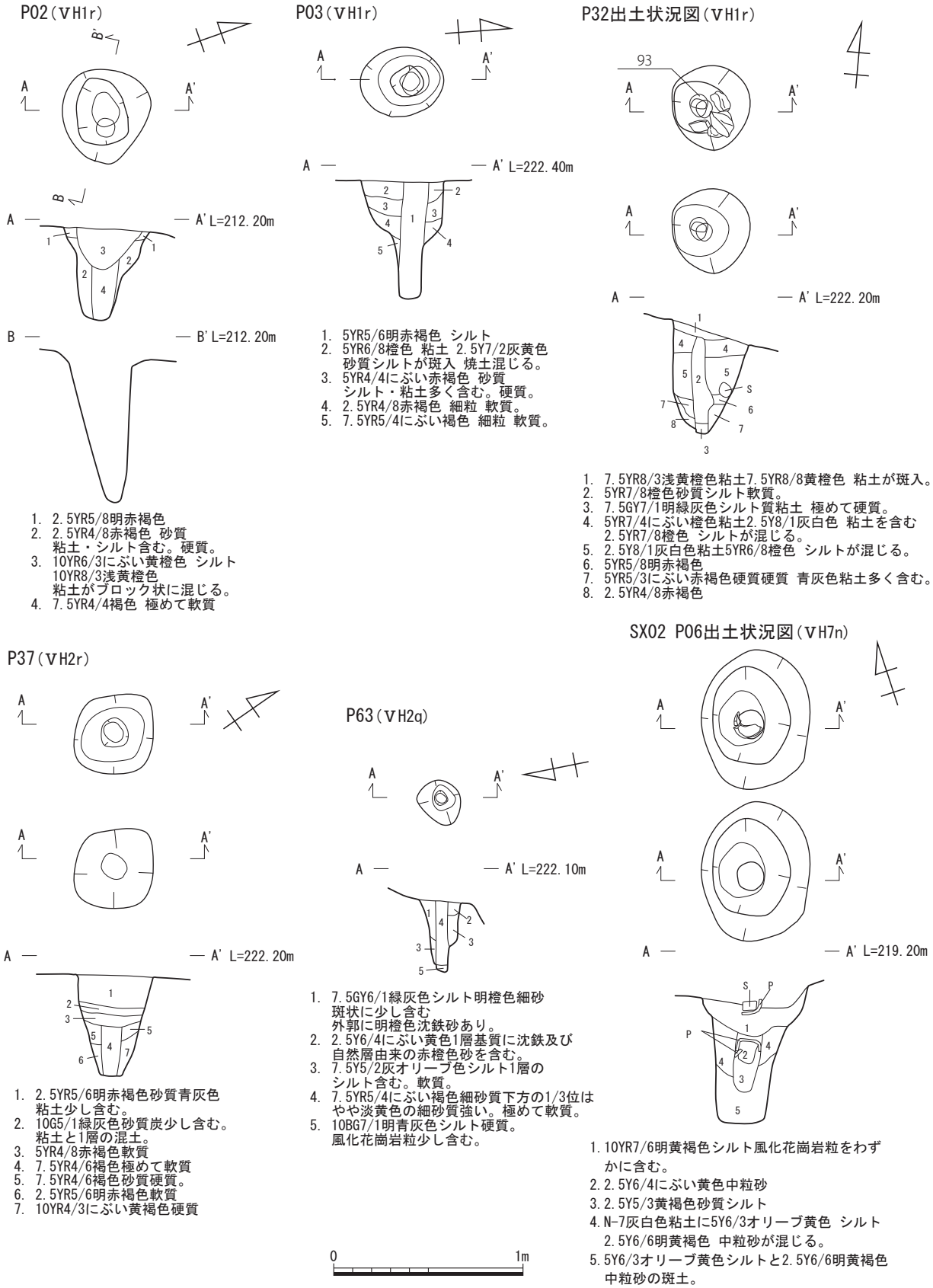
1. 5Y6/1灰色粘質シルト2.5Y8/1灰白色 粘土ブロックを含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト5YR5/8明赤褐色 シルトは斑入炭化物を少量含む。
3. 5Y6/1灰色シルト5YR5/8明赤褐色 シルトがわずかに混じる。
4. 2.5Y6/1黄灰色シルト
5. 2.5Y8/1灰白色粘土
6. 5Y5/1灰色シルト
7. 2.5Y7/1灰白色粘土
8. 5BG6/1青灰色硬質青灰色粘土と明橙色土の混在土 炭少し含む。
9. 2.5YR5/8明赤褐色砂やや硬質。
10. 7.5YR5/4にぶい褐色細粒砂軟質。
11. 5BG6/1青灰色硬質外郭リング状に9層回る 軸下粘土。
12. 2.5YR5/8明赤褐色硬質砂・粘土少し含む 下底硬化。



1. 2.5YR6/6橙色砂質青灰色粘土少し含む 炭少し含む。硬質。
2. 10Y5/1灰色硬質青灰色粘土と3層の互層 炭層状に挟む。
3. 2.5YR6/6橙色砂質青灰色粘土・炭まばらに含む。
4. 10YR5/8黄褐色砂質軟質。
5. 10GY6/1緑灰色粘土外郭に橙色砂リング状に挟む。
6. 10YR4/3にぶい黄褐色軟質炭少し含む。
7. 7.5YR5/4にぶい褐色細砂質 灰色砂やや多く斑状に含む。硬質。
8. 10BG6/1青灰色粘土版築様。

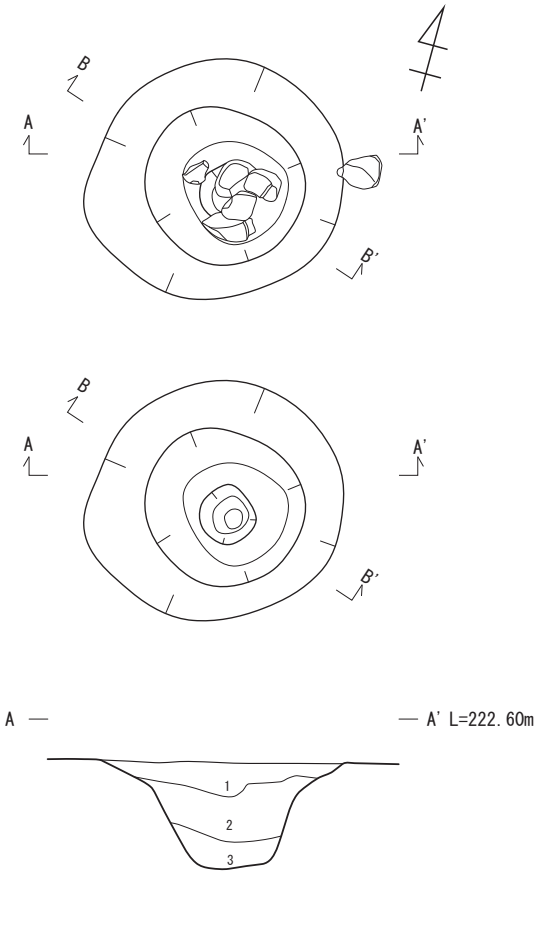
0 1m

第93図　轆轤ピット1類（柱穴）SK16・25・28（1:30）



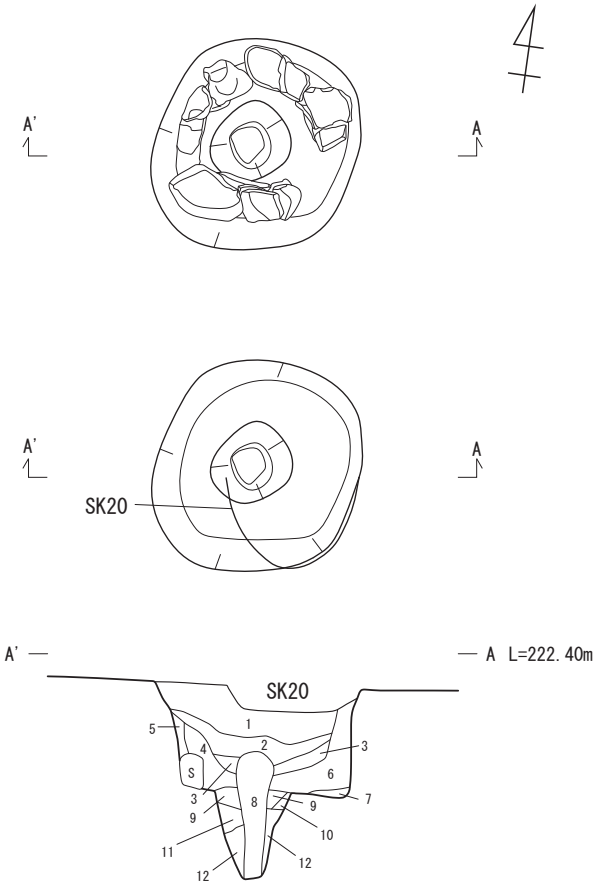
第94図　轆轤ピット1類（柱穴）P02・03・32・37・63、SX02、P06（1:30）

SK18出土状況図(ⅣH20q)



1. 2.5YR5/8明赤褐色シルト粘土多く含む
炭やや多く含む
赤橙色砂質土の斑強い。
2. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト粘土含む。
3. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質
淡灰色砂塊やや多く含む。
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質軟質。
5. 5Y5/3灰オリーブ色細砂質硬質
10G6/1緑灰色粘土互層状に挟む。
6. 10BG7/1明青灰色粘土極めて硬質。
7. 5BG6/1青灰色シルト極めて硬質
外郭に層厚0.5cmの橙色砂挟む。
8. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土6層少し含む。
9. 10Y6/2オリーブ灰色細砂質 シルト硬質。

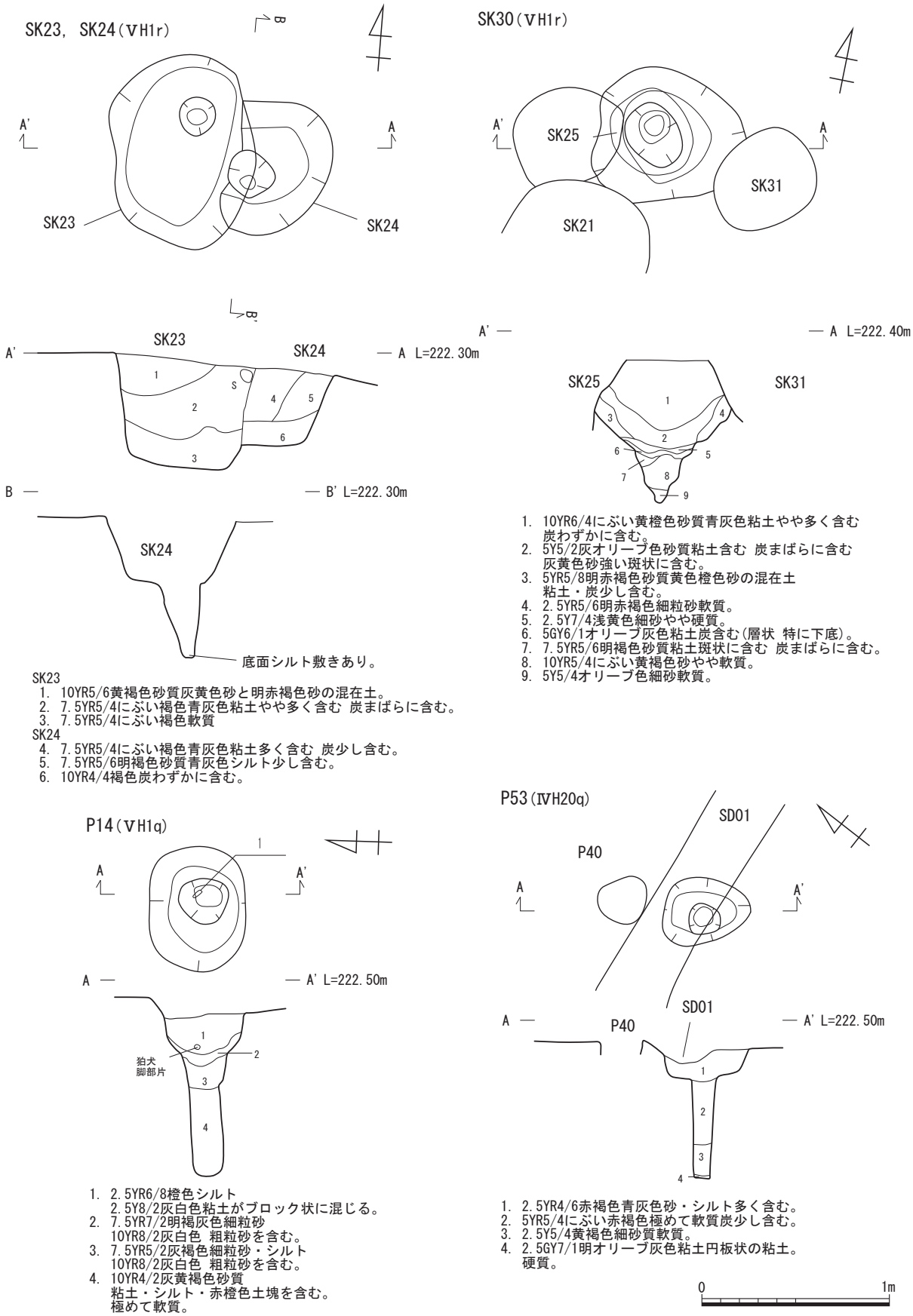
SK21出土状況図(ⅤH1r)



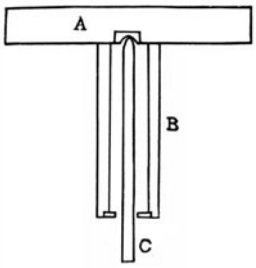
1. 2.5YR6/8橙色シルト2.5Y8/1灰白色 粘土が斑入
炭化物少量混じる。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色軟質青灰色粘土まばらに含む
炭わずかに含む。
3. 10YR4/4褐色砂質炭わずかに含む。
4. 5YR6/8橙色やや硬質灰色シルト含む。
5. 5YR5/8明赤褐色砂質灰色シルト・青灰色粘土やや多く含む
炭やや多く含む。
6. 5YR5/8明赤褐色やや硬質灰色シルト・青灰色粘土まばらに含む。
7. 7.5YR5/4にぶい褐色砂質軟質。
8. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質底面にシルト敷き 樹根貫入。軟質。
9. 7.5YR5/4にぶい褐色Φ1cm前後の粘土・
Φ0.3～0.5cmの炭多く含む。
10. 2.5YR5/6明赤褐色やや硬質
11. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質Φ2cm前後の青灰色粘土を含む。
12. 2.5YR5/8明赤褐色砂質やや硬質。

0 1m

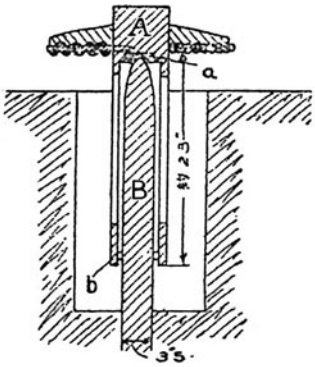
第95図　轆轤ピット２類（土坑）SK18・21（1:30）

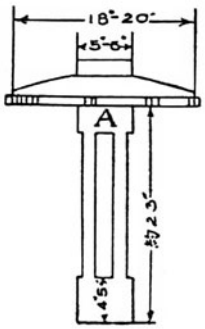


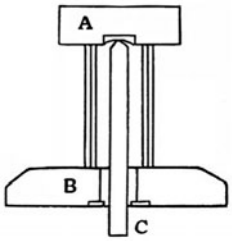
第96図　轆轤ピット２類（土坑）SK24・30、P14・53（1:30）



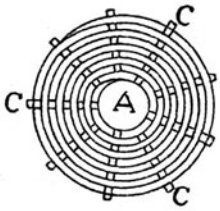
手轆轤



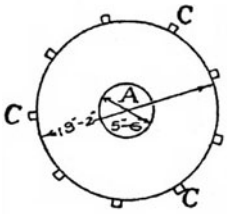




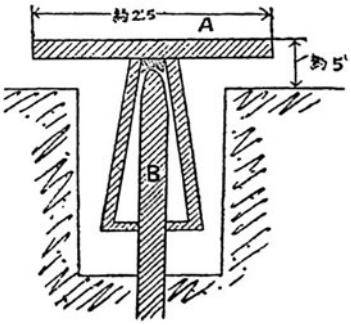
蹴轆轤



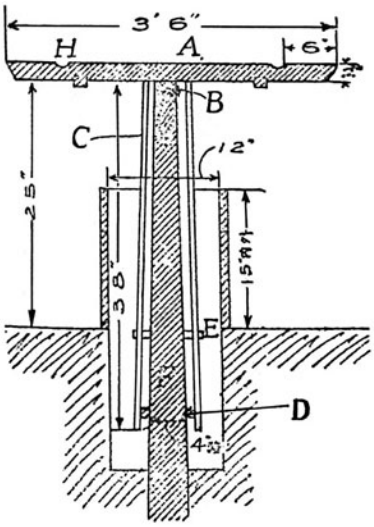
徳化窯陶車



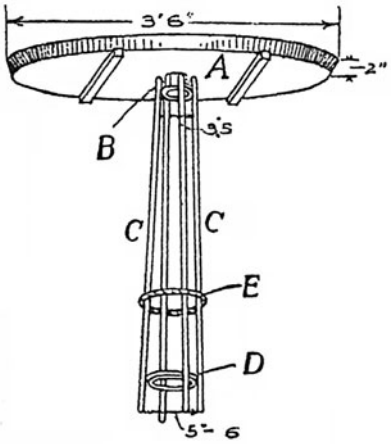
徳化窯陶車



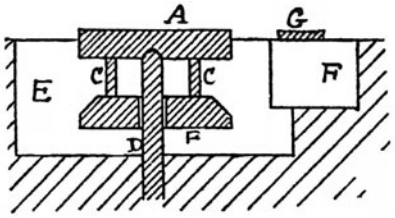
石灣窯陶車



景徳鎮陶車



景徳鎮陶車



朝鮮轆轤

3'6"= 3尺6寸
'尺　"寸

『陶器大辭典』より

第97図　轆轤

第 2 節　桑下東窯跡の遺構変遷

1. はじめに

桑下東窯跡は水野川北側の丘陵部に立地し、窯と大規模な工房址が見られる大窯 1 期操業の窯跡である。調査区は丘陵に沿った形で西から D 区、E 区、A 区、C 区、となり、D 区、E 区、A 区が丘陵部分となる。A 区と E 区の間に谷状を呈した地滑り痕が見られ、旧地形が失われていたため、この辺りの遺構については不明であるが、状況から窯や工房址があったと考えられる。窯は丘陵の頂部近くの斜面に SY01（窯体の一部）が一基見られた。灰原は SY01 の下方に広がっていたと思われるが、地滑り等の為すでに滅失していた。轆轤ピットのあり方から遺構の変遷をたどってみた。

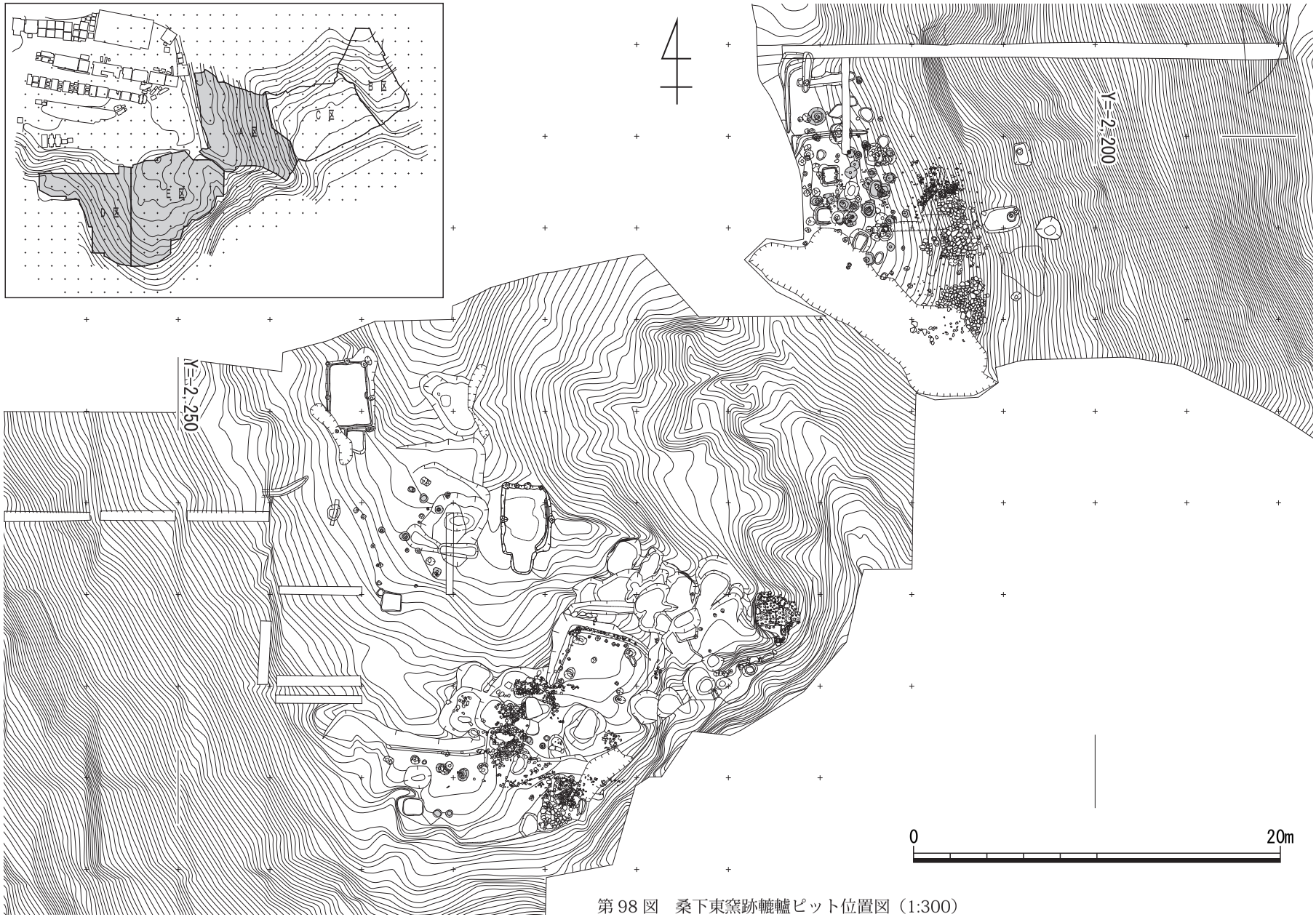
2. 轆轤の設置数について

今迄の常識では考えられないロクロピットの数と密度である。桑下東窯跡では A 区 40 基、E 区 15 基のロクロピット総数 55 基（第 15 表）で、これまでの調査で窯跡から二桁数字のロクロピット例はないのである。瀬戸市内窯跡のロクロピット例（第 16 表）をみると、13 窯跡より 22 基の轆轤ピットがみられ、1 基が 6 窯跡、2 基が 5 窯跡、3 基が 2 窯跡である。

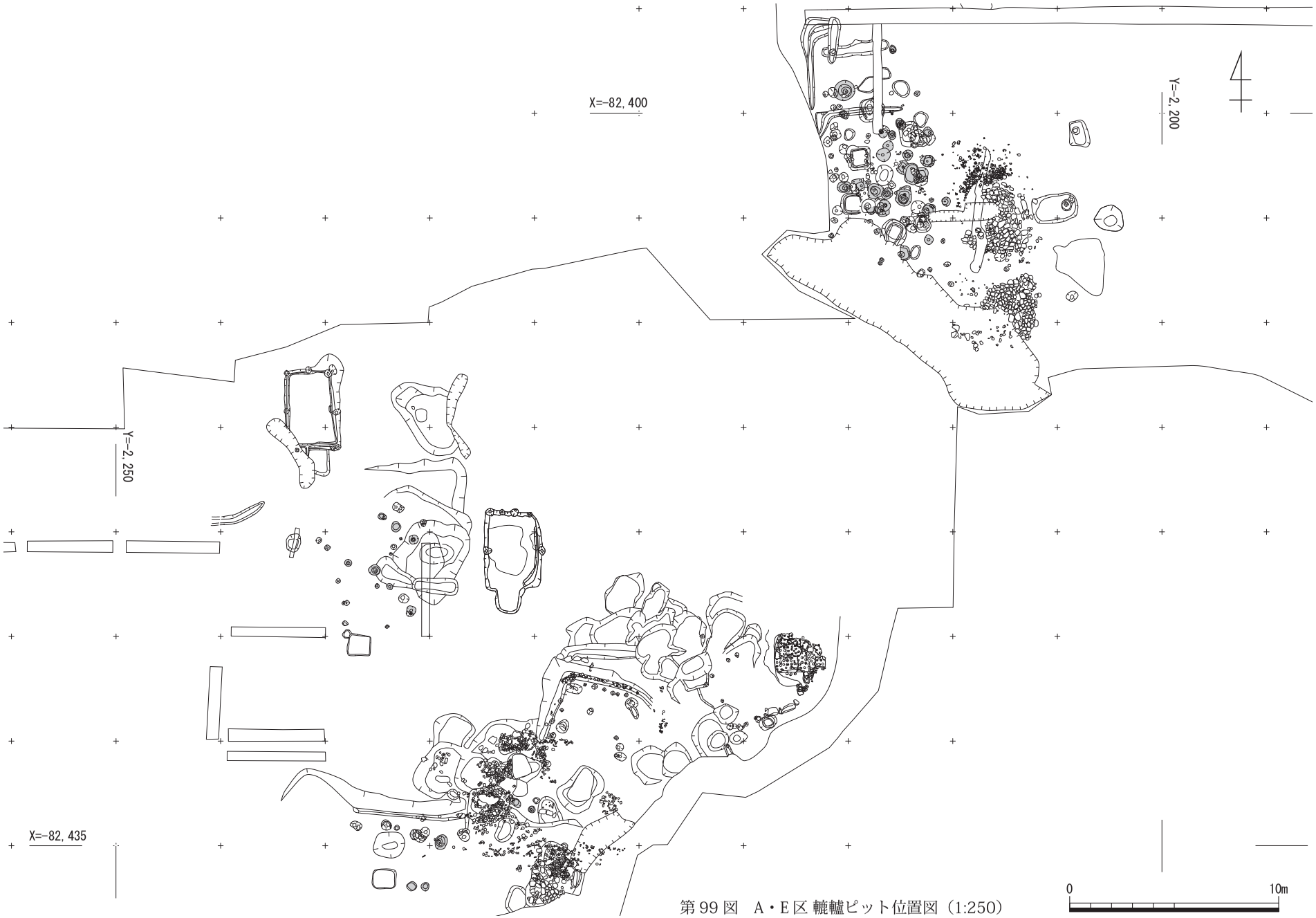
特筆すべきは A 区において約 50㎡の範囲に轆轤ピットが 40 基集中し、密集した轆轤ピットは土坑群の様相を呈していた。このような狭い場所に何度も繰り返し設置する理由はなんであろうか。轆轤を回すスペース、仕事の範囲を考えればとても同時期に同時に稼働していたとはとうてい考えられない状況である。出土遺物は後期Ⅳから大窯 3 段階の時期の製品がみられ、大窯 1 段階が出土遺物中 64％を占めている。

第 16 表　瀬戸市内轆轤ピット一覧表

	遺跡名	時期／世紀	古瀬戸様式	山茶碗型式	住所	轆轤数	遺構
1	広久手 12 号窯跡	11 末～ 12 前葉		3 型式	瀬戸市吉野町 184	1	土坑 1 の内側
2	広久手 7・17 号窯跡	13 中葉～後葉		7 ～ 8 型式	瀬戸市宮地町 42	2	工房跡 P14 P15
3	太子 A 窯跡	13 中葉	前期Ⅲ 転用	7 型式	瀬戸市太子町 36-1	1	工房跡
4	五葉窯跡	13 末～ 14 前葉	中期Ⅰ・Ⅱ期	8 型式	瀬戸市針原町 13	2	作業場 RP1RP2
5	仏供田窯跡	13 中葉～後葉		7 ～ 8 型式	瀬戸市針原町 124	2	工房跡
6	小田妻 4578 号窯跡	13 前葉～後葉	前期Ⅰ b	6 型式後半 ～ 8 型式	瀬戸市本郷町 20	3	SB01
7	暁 3 ～ 5 号窯跡	13 末～ 14 中葉	中期Ⅳ～後期Ⅰ期	8 ～ 9 型式	瀬戸市暁町 3	2	工房跡
8	中洞窯跡	13 末～ 14 初頭	中期Ⅰ 前半	8 型式	瀬戸市上品野町 154	1	SK08 可能性
9	下半田川 C 窯跡	13 後半～ 14 前半		7 型式末 ～ 8 型式初期	瀬戸市下半田川町 1493	1	
10	紺屋田 A 窯跡	13 前葉～中葉	前期Ⅱ	8 型式	瀬戸市東印所町	2	2 基
11	塩草 B 窯跡	13 中葉～後葉		7 ～ 8 型式	瀬戸市塩草町 1-3	1	1 基
12	巡間 E 窯跡	14 後葉	後期Ⅰ	9 型式	瀬戸市巡間 15	1	SY01 SK04
13	小長曽陶器窯跡	14 末 15 初頭	後期Ⅱ 室町	9 型式	瀬戸市東白坂町 1	3	工房跡
14	桑下東窯跡	16 前半			瀬戸市上品野町 1373	55	工房跡



第 98 図　桑下東窯跡轆轤ピット位置図（1:300）



第99図　A・E区 轆轤ピット位置図（1:250）

3. 轆轤ピットについて

ロクロピットを形状から 1 類の柱穴型（第 92 図～第 94 図）と 2 類の土坑型（第 95 図、第 96 図）に分類した。形状の違いは、轆轤の構造的な違いなのか、技術向上と生産性の向上のために新たな轆轤（例えばひき轆轤、蹴轆轤）を導入したからなのか、あるいは工房の中での轆轤作業場所を確定（轆轤の固定化）したからなのか、断定できる資料はないが、その可能性は指摘できよう。

ロクロ軸木穴が埋まらないように碗あるいは匣鉢等を蓋代わりにして塞ぎ、次回の使用に備えているが　桑下東窯跡でもロクロ軸木穴を石と匣鉢で塞いだ状況の轆轤ピットが SK01、SK02、SK03、SK18、SK28、SK31、SK32 の 7 例見られる。轆轤ピット群となった A 区は繰り返し掘られているため、仮に蓋代わりの匣鉢や石があったとしても、新しい轆轤設置により壊されなくなった可能性がある。E 区の轆轤ピットについては密集状況ではないので蓋をした痕跡があってもよいのだが、その痕跡はなかった。ロクロ軸木穴の蓋については、他の窯跡でも蓋のない例もあり、蓋の有る無しがロクロピットの決定とはならない。

製作する期間のみ、ロクロを設置したため、痕跡として狭い場所に、密集した状況で 40 基ものロクロピットが見られたのではないだろうか。使用期間がすぎればロクロは持ち去られ、ロクロ軸木穴はそのまま放棄された。そして次に使用する時、再利用せず新たな場所に設置した。前と同じ場所にこだわらなかったのか、あるいは時が過ぎロクロ軸木穴が埋もれ、位置がわからなくなっていたためか、いずれの場合でも新たに設置している。時にはそのまま再利用となったこともあったかもしれないが、多くの轆轤ピットは新たな整地後に設置しているのである。そのため平面プランとして単体での確認が困難であった。

いずれにしても轆轤ピットの数の多さを考えれば、生産工程の整備確立に伴い、生産能力の向上が図ら

第 17 表　各期別遺構一覧表

*　SY-00 は想定した窯　　**　列は東側谷部より

	Ⅰ　期	Ⅱ　期	Ⅲ　期		Ⅳ　期	
窯　体	(E 区) SY-00*	(E 区) SY-00*	(E 区) SY-01 (A 区)		(E 区) SY-01 (A 区)	
工　房	(E 区) SB02・03	(E 区) SB04	SB05・01 SX02 上段		SX02 下段 SX03・06	
土　坑 (粘土採掘)		(E 区) SX04・05 SX07・10・11			SX08・12 SX13・14・15	
区画	A 区 溝 SD02・03	A 区　溝　SD01 SK22		柵 P62・61・60 P31・49・42 P44　SD04		
石　敷				SX01	SX02-SK07	SX01
土　坑	A 区　SK51・53	A 区　SK50・52				
土　坑 (粘土溜)	A 区　SK05	A 区　SK08・40		SK09	SK02	SK04
轆　轤	A 区　1 列 ** P01 SK27 P55 2 列　SK26 3 列　P05 P03 4 列　P65 5 列　P41 SK30 6 列　SK32 P58	A 区　1 列　SK24 SK38 P52 2 列　P15 SK28 SK39 P06 3 列　P14 P63	P117 P119 P113 P123 P115 SX02-P03 SX02-P06 SX02-P09 SX02-P12	1 列　P02 SK02 SK37 P37 2 列　P10 SK03 SK31 SK16 P04 3 列　SK25	P07 P08 P121 SB03-P1 P116 P122	1 列　P32 2 列　P47 SK01 SK23 SK06 SK07-P13 3 列　SK21 P08 4 列　SK18 P53
轆轤計	11	9	9	10	6	10
各期計	11	9		19		16

れ、その一つとしてロクロを増やし、生産器種を限定することで、短期に大量の製品製作を可能にした。そしてこの時期に生産が飛躍的に上がったと考えるのが妥当ではないだろうか。

4. 遺構の変遷

瀬戸市内では一窯でロクロ 1 基から 2 基で、出土遺物の時期型式から、一つの型式では 1 基、一型式以上では 2、3 基となっており、一窯で一型式ロクロ 1 基が生産単位のようにもみられる。瀬戸市内の窯跡調査の成果より、一窯にロクロ 1 基から 2 基ということから、桑下東窯跡のロクロを 2 基で一組として捉えた。地滑りによって失われた部分を復元するのは困難であるが、出土遺物の時期幅、轆轤ピットの総数と作業空間の広さ等から、A 区南側の E 区に別の窯 1 基（第 100 図下段）SY-00 があったと想定した。

轆轤ピットは 2 基で一組を基本とし、作業が出来る間隔を約 1m 程度、遺構の切り合い関係等を考慮し、55 基の轆轤ピットを含め遺構を見ると、南北に列を成すような分布状況の A 区、丘陵縁辺部に沿って並んで分布する E 区と轆轤ピットの分布にも違いが見られ、E 区の轆轤ピットの分布は他の窯跡にも見られるあり方と言えよう。A 区 E 区毎に遺構を第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期に捉えた。

第Ⅰ期　窯　SY-00　工房址　SB02　SB03（第 100 図）

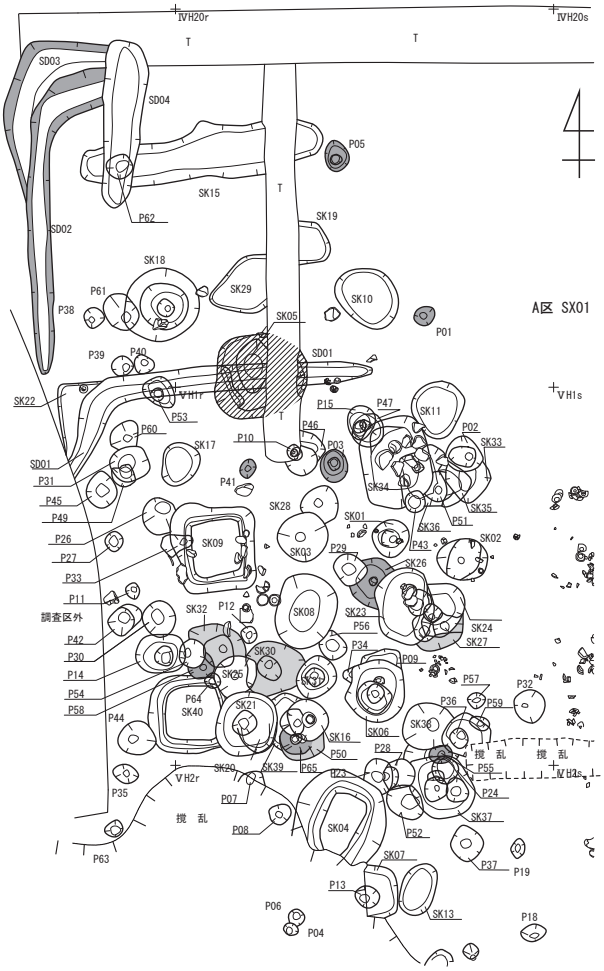
E 区　窯は丘陵南側縁辺に 1 基（SY-00）、窯の西側丘陵の頂部縁辺の狭い範囲に作業場が広がっていたと思われる。窯、作業場とも地滑りにより滅失しているが、窯の西側、丘陵頂部縁辺（標高 221m）西側に不整形な工房址 SB02 と SB03 が南北に見られるが、轆轤ピットはない。頂部縁辺の標高 221m から 222m50㎝の中に作業空間があったと考えられる。

A 区　丘陵東側の縁辺（標高 222m）の平坦に轆轤ピットが 11 基、轆轤ピットと区切るかのように北側には溝（SD02、SD03）があり、溝より北には遺構が見られず作業場との区画溝と考えた。轆轤ピットは谷に面し、柱穴型の轆轤ピットが 7 基と多く、粘土溜め土坑（SK08）の回りには土坑型の轆轤ピットが見られる。轆轤ピットの北端は P05、分布は全面へ散らばった感じの広がりでやや南側に偏った傾向がある。そして轆轤ピットより低い標高 219m の斜面中程に土坑（SK51、SK53）が見られる。

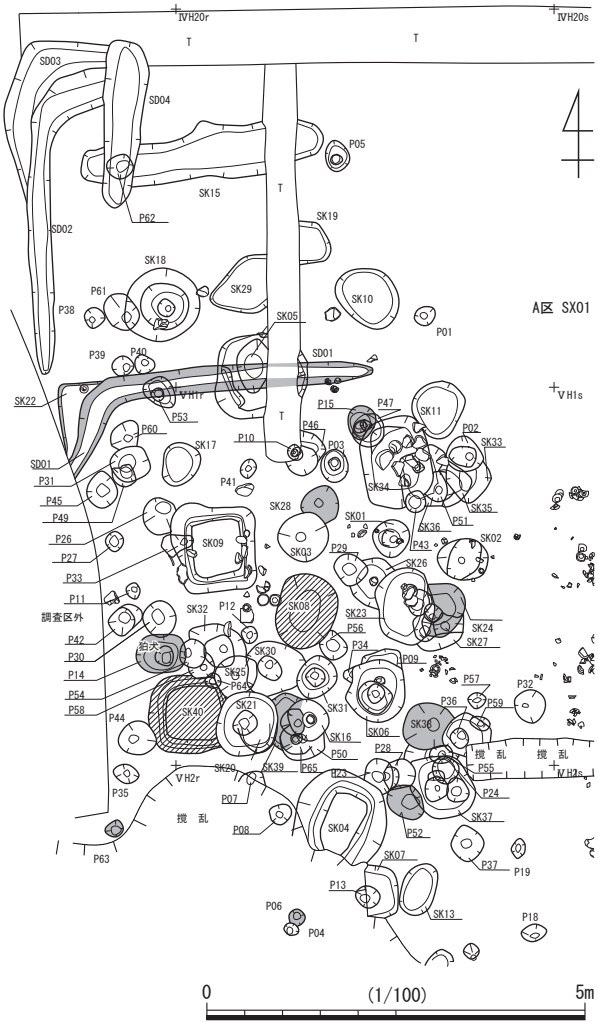
第Ⅱ期　窯　SY-00　工房址　SB04（第 100 図）

E 区　窯は段丘南側縁辺に 1 基（SY-00）、窯の西側丘陵に作業場が広がっていたと思われる。窯の西側、丘陵頂部縁辺に不整形な工房址 SB04 が、SB04 の東南側には粘土採掘坑とおぼしき SX04、SX05、07、SX10、SX11 が見られ、粘土採掘坑の粘土は荒く長石粒も多く含むことから製品用の粘土ではなく、窯の補修等のための粘土と思われる。轆轤ピットはない。作業範囲が標高 220m の位置まで下がっている。

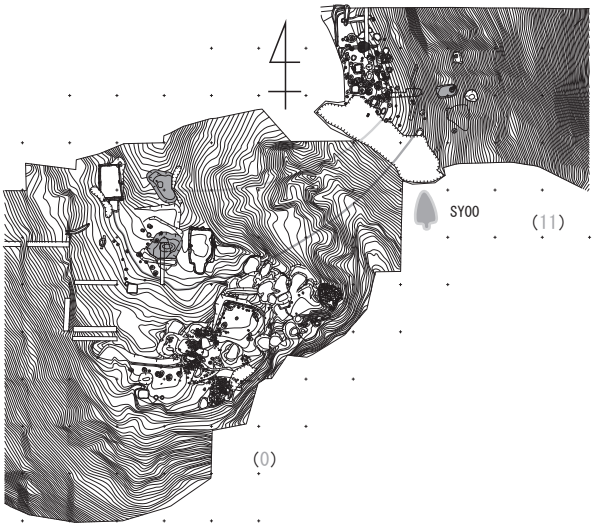
A 区　丘陵東側の縁辺（標高 222m）の平坦に轆轤ピットが 9 基あり、轆轤ピットの北側には溝（SD01、SK22）があり、溝より北には遺構が見られず作業場との区画溝と考えた。轆轤ピットは南側の狭い範囲にまとまった感があり、谷に面して南北に並んだような状況が見られる。三列並び、柱穴型の轆轤ピットは 5 基ある。粘土溜め土坑（SK40）は形状が四角になり内側の回りに溝が巡っている。轆轤ピットが南側にまとまるというのは窯 SY-00 の近い場所に轆轤ピットがあるということでもある。轆轤ピットの東側は谷で、焼成不良品や破損品が廃棄されていた。そして轆轤ピットより低い標高 218m の斜面中程に



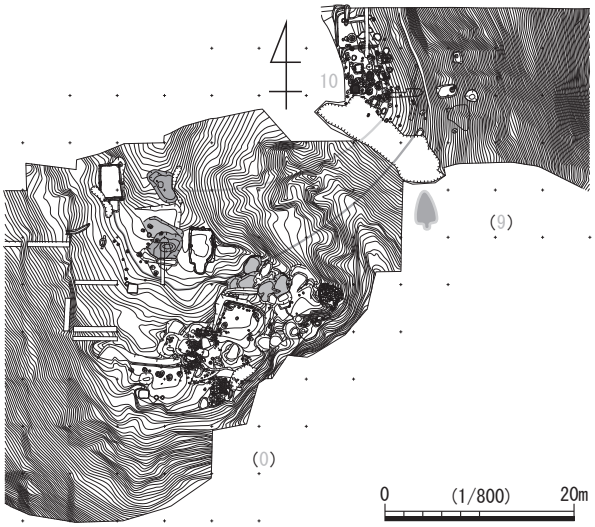
Ⅰ期　A区轆轤ピット（11）



Ⅱ期　A区轆轤ピット（9）



Ⅰ期　E・A区



Ⅰ期　E・A区

第100図　遺構変遷図　Ⅰ・Ⅱ期　A区、E・A区

は土坑（SK50、SK52）と土坑の南側地山直上で焼土が見られた。窯 SY-00 の操業はこの段階で終了。

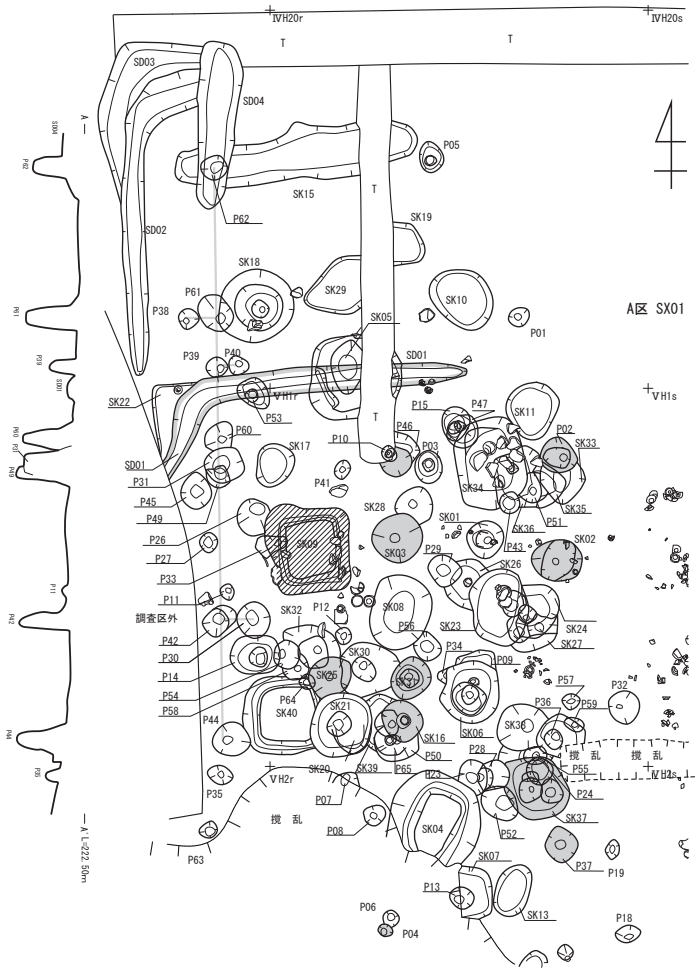
第Ⅲ期　窯 SY01　工房址　SB01　SB05　SX02 上段　谷側部分造成含む SX01（第 101 図）

E 区　Ⅱ期と状況が一変する。新たな窯 SY01 が SY-00 の西側に築かれ、それに伴い SY01 の西北側の標高 221m から 222m の平坦部に SB01 と SB05 が、西南側には平坦部を削りだした SX02 上段部（標高 219m より 220m）が見られる。丘陵頂部に近い北部側建物を伴う工房と丘陵縁辺部の南部側轆轤ピット列とは作業内容が違っていたと思われる。SB01 は出入り口のある南北に長い方形の竪穴建物の工房で、南が入り口で奥に 1 間× 1 間の柱が見られる。全体を柱の規模から 2 間× 1 間の建物の工房であるが、入り口から手前半分に柱はなく、床には粘土が厚く堆積し、北東壁側に炭化物が見られた。床面から匣鉢、挟み皿が多く出土したことから、選別乾燥の工房と考えられる。SB05 は SB01 の北西に近接し、北側を削り込み東西に長い平坦部が設けられ、南側に 1 基轆轤ピット P117 がある。SB05 前方約 2m の西南の丘陵縁辺（標高 221m 前後）に轆轤ピット P119、P113、P123、P115 が並んで見られる。SX02 は SB01 の南側で丘陵南端の法面を削りだし東西に細長い平坦部（標高 219m）を造成し、北側には水切り用の溝を設け、轆轤ピット SX02-P03、SX02-P06 が見られられる。この細長い平坦部の東側の縁辺にも轆轤ピット SX02-P09 と SX02-P12 が並んで見られ、SX02-P09 と SX02-P12 の西側に見られる不規則な大形土坑は窯補修等の粘土を採掘した採掘坑の可能性もある。

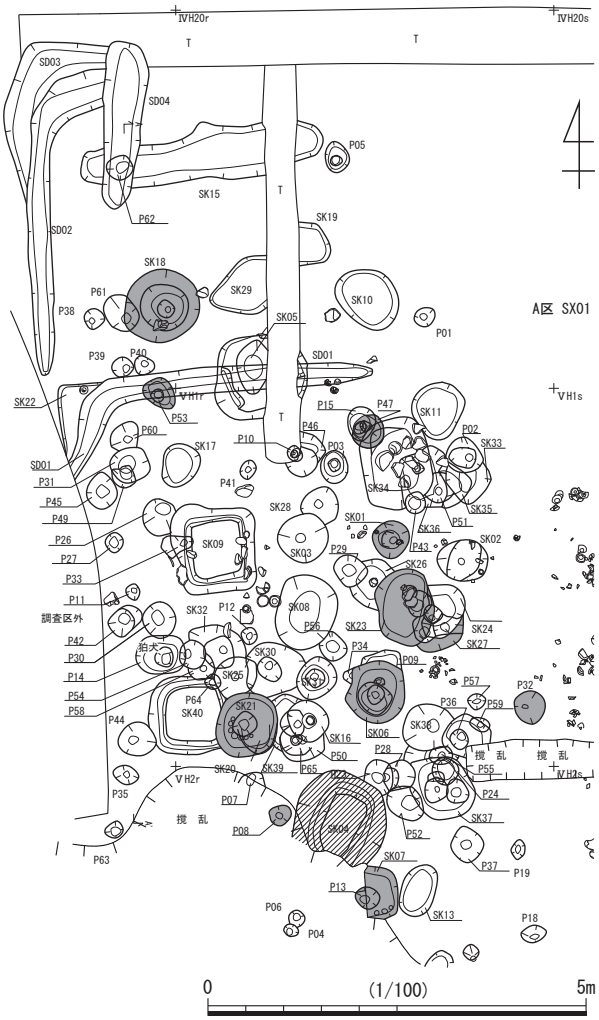
A 区　大きく変化し作業効率が飛躍的に向上したものと思われる。SY01 の窯が新設され、轆轤ピット群の東側部分の谷に面した縁辺部を造成することにより、轆轤作業空間を拡張した。縁辺を盛土し、東側に幅約 4m 長さ約 10m の平坦部分を造成した。地山から 2m を測る盛土をして更に地表に石を敷くという手の込んだ地業である。造成地が縁辺で雨による崩壊を避けるため地表に河床の円礫（花崗岩）を敷いたと考えられる。石敷全体が谷方向に下がった（東に傾斜）状況が遺構としての完掘状態であったため、傾斜が不可解であったが、造成後から調査に至る間に敷石の重みで谷側に傾斜したと解釈した。A 区の西側には柵が設けられている。柵とした杭列は P62、P61、P38、P39、P40、P60、P31、P49、P45、P42、P30、P44 で構成され P38、P40、P45、P30 は柵を補助する補助杭で、北西風を遮る柵と考えたが、杭列の西側が現代の造成工事により滅失し不明で、この柵列が柱列とすれば建物の一部、差掛けによる覆い屋根の一部などの可能性もある。粘土溜め土坑（SK09、SK04）の形状は方形で、板が回りを巡っていた痕跡と見られる溝が巡る。轆轤ピットは平場の南側、谷に面して並列した状況で 10 基、土坑型が 6 基見られる。作業効率が飛躍的に上がった時期と思われる。

第Ⅳ期　窯 SY01　工房址　SX02 南部　SX03、SX06 造成含む SX01（第 101 図）

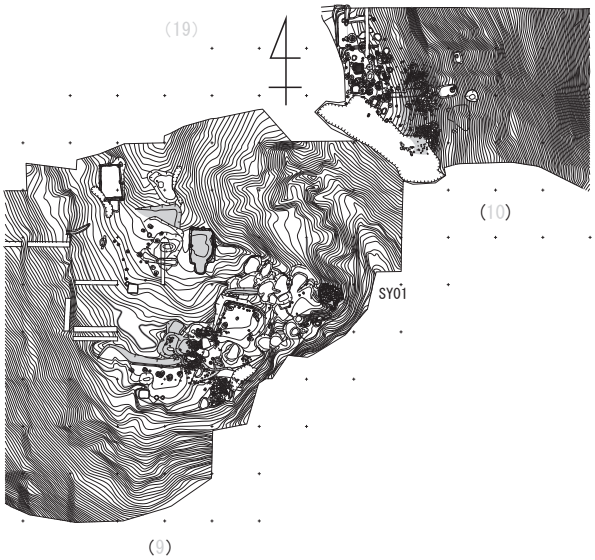
E 区　SY01 北西側に三ヶ所工房が見られる。標高 221m の縁辺部分を削り竪穴建物の工房 SX06 が、その南東側の平坦部に 4 基の轆轤ピットが、北側に P121、SB03-P01、縁辺側（標高 221m10㎝）に P116、P122 がある。SX06 は竪穴建物で南に入り口があり、長方形を呈した 1 間× 2 間の堀立柱建物である。床面から匣鉢が 19 個伏せた状態で出土したことから、伏せた匣鉢の上に板を敷けば床になり、製品の乾燥、あるいは倉庫として使用されていたと考えられる。SX03 は窯 SY01 に一番近接する遺構で丘陵の北側斜面（標高 219m ～ 220m）を大規模に切り込み平坦部を造成し、切り込んだ西側と北側に溝



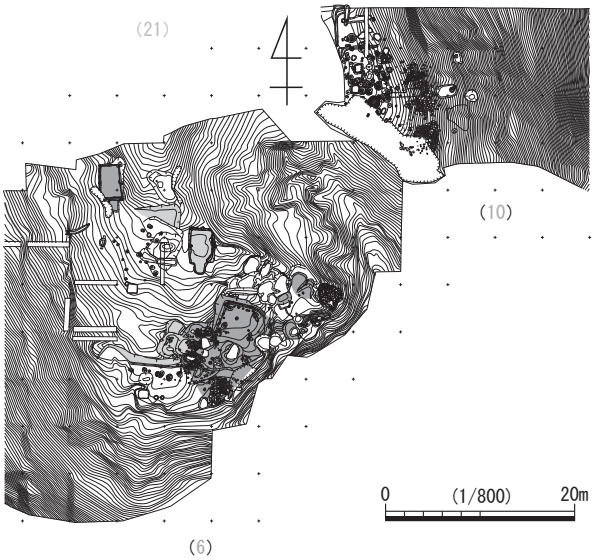
Ⅲ期　A区轆轤ピット（10）



Ⅳ期　A区轆轤ピット（10）



Ⅲ期　E・A区



Ⅳ期　E・A区

第101図　遺構変遷図　Ⅲ・Ⅳ期　A区、E・A区

のある掘立て建物である。SX03 は桑下東窯跡で一番大きな堀立柱建物で立て替えも見られ、匣鉢、挟み皿が山積みの出土状況から窯出し後の製品を選別した建物と見られる。SX03 の南側、SX02 上段からも匣鉢、挟み皿が山積みの状況で出土しており、この辺りまで選別場所が広がっていたようである。SX02 下段部（標高 218m60㎝より 219m）は丘陵の南端で桑下東窯跡の南西端の遺構でもあり丘陵南端の斜面を削りだし平坦部に轆轤ピット SX02-P08、SX02-P07 が並んで見られる。粘土溜め土坑 SX02-SK02 の形状は方形である。また南東端には規模が 2m × 2m と小さい範囲の A 区 SX01 同様の石敷 SX02-SK07 が見られ、丘陵縁辺部では上面に石を敷くことにより造成部分の流失崩壊を防いでいたと考えられる。SX03 の北東側で不規則な大形土坑 SX08、SX12 ～ SX115 が見られる。大形土坑は窯 SY01 の補修等の粘土を採掘した採掘坑の可能性もある。

A 区　西側の柵がなくなり、石敷北側部分から匣鉢、挟み皿が重なって出土していることから、SX01 でも、窯出し直後の選別作業が行われていた。轆轤ピットは 10 基で土坑型が 6 基、谷に面して南北に 5 基がほぼ一列に見られる。3 基の轆轤ピットが南側に偏っていたが、北側にも轆轤ピットが設置されるようになった。轆轤ピット土坑型に角礫を積み上げた石組み井戸の様な新しい轆轤ピット SK06、SK07、SK21 が 3 基見られ、角礫積みの轆轤ピットの出現は設置場所が固定化された結果といえよう。粘土溜め土坑は 2 基でⅢ期と同様であるが SK05 が新たに増え、SK09 はⅢ期に続いて使用されたと考えた。

5. Ⅰ期からⅣ期について

桑下東窯跡の A 区 E 区の遺構について、主に轆轤ピットのあり方より、Ⅰ期からⅣ期に分け遺構変遷を試みた。（第 17 表　各期別遺構一覧表を参照）

Ⅰ期は、頂部近辺の比較的平な部分を利用し、不整形な形状の竪穴が見られる。作業空間を標高で見ると頂部 222m90㎝から 221m までの間、1m90㎝の比高差の中で作業が行われていた。丘陵全体から見れば規模も小規模である。窯体 SY-00 に伴う工房である。

Ⅱ期は、Ⅰ期の平らな部分を拡張し、縁辺に即した細長い平らな面を造成するなど作業空間をⅠ期より広げ、不整形な竪穴が見られる。窯の補修に使用した粘土を採掘したと考えられる新たな土坑、粘土採掘土坑が見られる。作業空間の標高は頂部から 221m 前後までの範囲で、全体の規模もⅠ期とほとんど同じある。窯体 SY-00 に伴う工房である。

Ⅲ期は、作業空間が大きく変化した時期で、窯 SY01 が新たに築かれ、大規模に造成された作業場、規格化した建物等、丘陵全体が整備され、生産体制が一変したようである。窯の西南側には粘土採掘土坑が見られる。作業空間の標高は頂部から 219m までと広がり、作業効率が格段に上がった時期と考えられる。SY01 に伴う工房である。

Ⅳ期は、作業空間がⅢ期より広がり最大規模となっている。作業空間の標高は頂部から 218m までの範囲である。造成可能な縁辺には平な作業場を造成した。それぞれの作業場毎に作業内容が異なり、丘陵全体で製作・焼成・選別の一連作業が集約され確立した時期と考えられ、「北工房」では製作が、「南工房」では焼成と選別が、行われていた。SY01 に伴う工房である。

第 3 節　まとめ

桑下東窯は、頂部より造成可能なぎりぎりの傾斜までの間、丘陵の南北 43m 東西 37m の範囲内で、山側の斜面を削り平坦面を拡張し、窯に伴う各施設を整備している。

平な部分を造成した作業場が A 区 SX01 と SB05.SB04 の南側と SX02 の北側と南西部分の四ヶ所に、A 区 SX01 では石敷があった。竪穴 SB02.SB03 が二ヶ所、竪穴建物は SB01.SX06 が二棟、掘立柱建物は SX03 が一棟、粘土溜は六ヶ所 A 区では五ヶ所 SK04.SK05.SK08.SK09.SK40、E 区では一ヶ所 SX02-SK02 が、轆轤ピットは 55 基、A 区 40 基 E 区 15 基である。丘陵の南東端に石敷を施した大規模造成地と大規模大規模な轆轤工房 A 区 SX01、南東端に窯体 1 基 SY01 が、その西側に選別施設 SX02・SX03、工房（轆轤ピット）、乾燥施設 SB01、倉庫 SX06 である。

総破片数 24,725 点 36 器種出土し、藤澤編年の後期Ⅳ新段階から大窯 3 段階（15 世紀末から 16 世紀後葉）まで見られた。実測可能な製品 854 点の時期別の構成より大窯第 1 段階が操業の最盛期である。

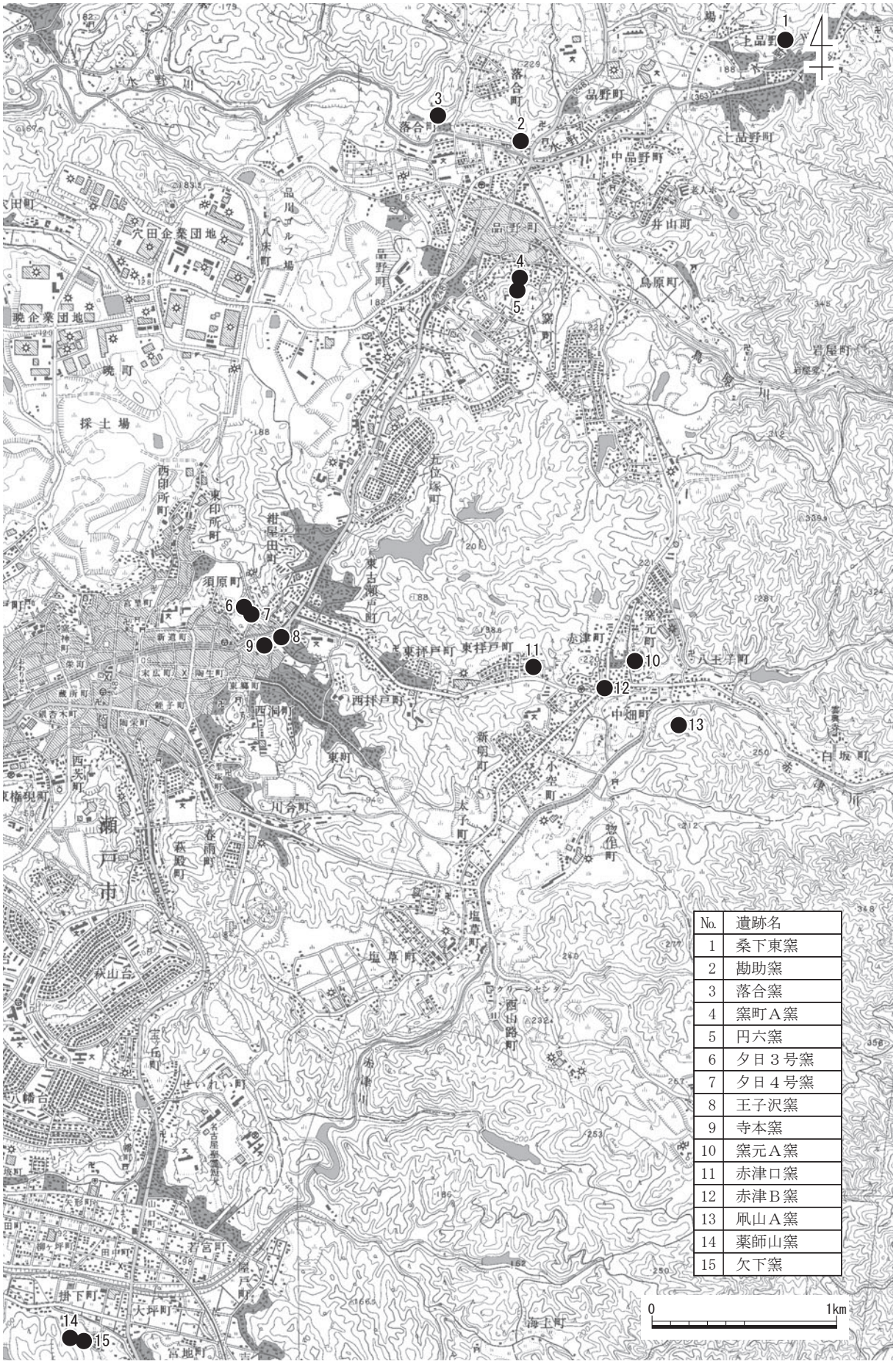
窯跡の遺構について、古瀬戸後期以前の窯跡の工房は一棟ないし二棟であった。古瀬戸後期の鶯窯跡では一基の窖窯のまわりに工房跡が 11 ヶ所あり、その中に乾燥施設が見られる。古瀬戸系施釉陶器窯の土岐市下石西山窯跡では一基の窖窯の周辺に工房跡と思われる平坦面五面とセットとなる乾燥施設が存在している。大窯と窯構造が違い単純にこれらと比較することは難しいが、桑下東窯跡と規模、選別作業施設の掘立柱建物の存在、轆轤ピット等の遺構構成の違いが際立っている。

轆轤工房、掘立柱建物など施設の充実が見られ、丘陵全体で轆轤から製品選別までの一連作業が営まれ、さながら焼き物工場のような状況である。また丘陵の東谷 C 区には区画溝に区画された建物があり、出土遺物が丘陵の工房と比べ器種が豊富で生焼け製品が少なく、焼き上がり良好な製品が多いことから C 区は製品を集荷し出荷する建物があった屋敷と考えられる。

藤澤氏は窯跡の分布から同時操業窯数の検討を行い、後期Ⅳ古段階の窯跡が 20 ヶ所、大窯第 1 段階の窯跡が 14 ヶ所と窯の減少等により、生産がより集約的に行われ「窯大将組織」が成立していた可能性を指摘されているが、桑下東窯跡は「窯大将組織」が遺跡から窺える最初の調査例となった。

土壙墓（第 103 図～第 105 図）が A 区の轆轤ピット群の下層、SK34 と E 区の西縁辺部、SK35、と C 区の SK44、B 区の西側斜面の上段 SK30 では大窯 1 期の伏せた擂鉢が、下段 SK12 では江戸期の墓が見られることから、時代を問わず丘陵縁辺の見晴らしのよい場所に墓が設けられていたようである。

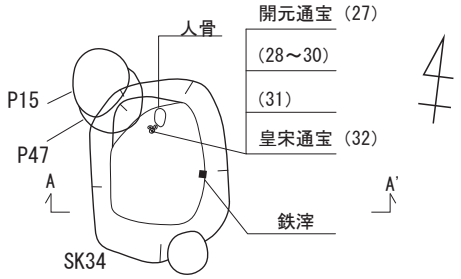
また桑下東窯跡に隣接する上品野西金地遺跡は、縄文時代から江戸時代の複合遺跡で戦国期の遺構から大窯期前半の遺物が出土し、窯道具も見られ、丘陵東斜面から南東斜面に大窯前半の遺物包含層が確認されていることから、調査区の北側に桑下東窯に従事した工人集団の居住域があった可能性が想起される。



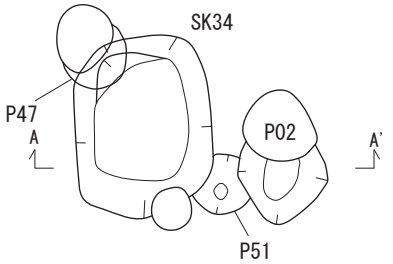
No.	遺跡名
1	桑下東窯
2	勘助窯
3	落合窯
4	窯町Ａ窯
5	円六窯
6	夕日３号窯
7	夕日４号窯
8	王子沢窯
9	寺本窯
10	窯元Ａ窯
11	赤津口窯
12	赤津Ｂ窯
13	凧山Ａ窯
14	薬師山窯
15	欠下窯

第 102 図　大窯跡位置図（1:30,000）

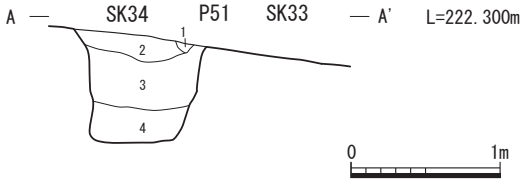
SK34出土状況図



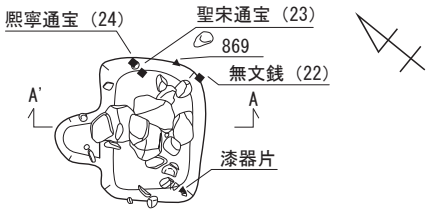
SK33, SK34, P51



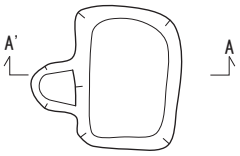
SK33
1. 2.5YR5/6明赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む 炭少し含む。
SK34
1. 7.5GY7/1明緑灰色長石混シルト
2. 5YR5/4にぶい赤褐色砂質砂・シルトやや多く含む。軟質。
3. 2.5YR4/6赤褐色砂質砂・シルト含む。軟質。
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。
P51
1. 5YR5/6明赤褐色砂質橙色土の斑が強い 砂・シルト多く含む。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質砂・シルト多く含む。軟質。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色極めて軟質混入物少ない。



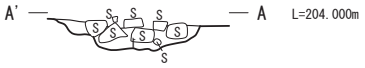
SK44出土状態図



SK44

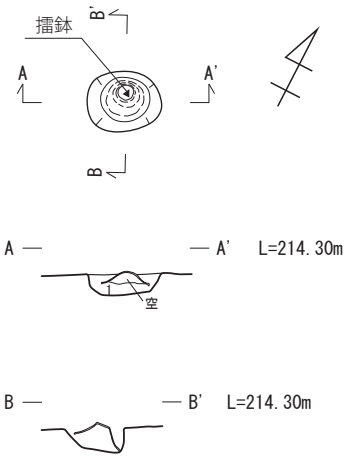


1. 10Y4/1灰色シルト炭化物わずかに混じる。

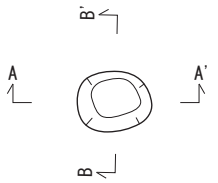


第 103 図　土壙墓 1　A 区 SK34 C 区 SK44　平面図・土層断面図 (1:50)

SK30出土状態図

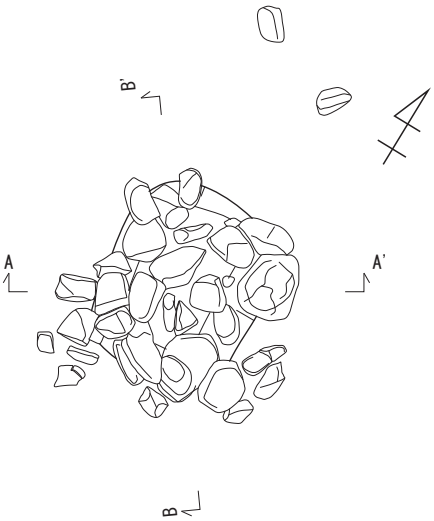


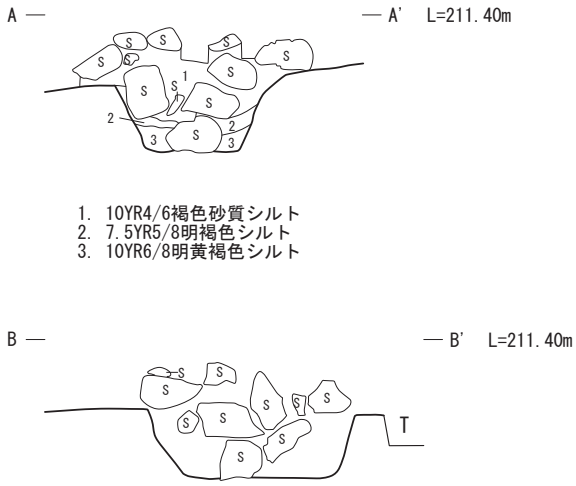
SK30



1. 10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルト

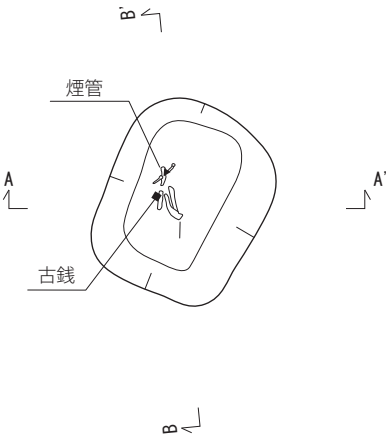
SK12出土状態図1

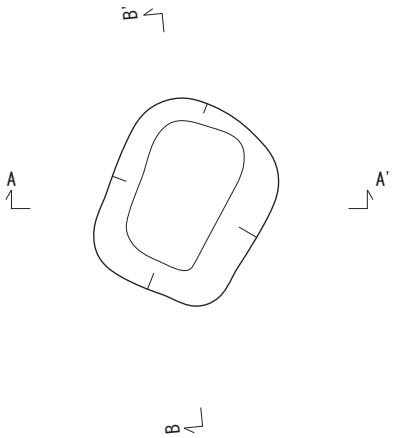




1. 10YR4/6褐色砂質シルト
2. 7.5YR5/8明褐色シルト
3. 10YR6/8明黄褐色シルト

石の下より銭・数珠玉・キセル・人骨出土。

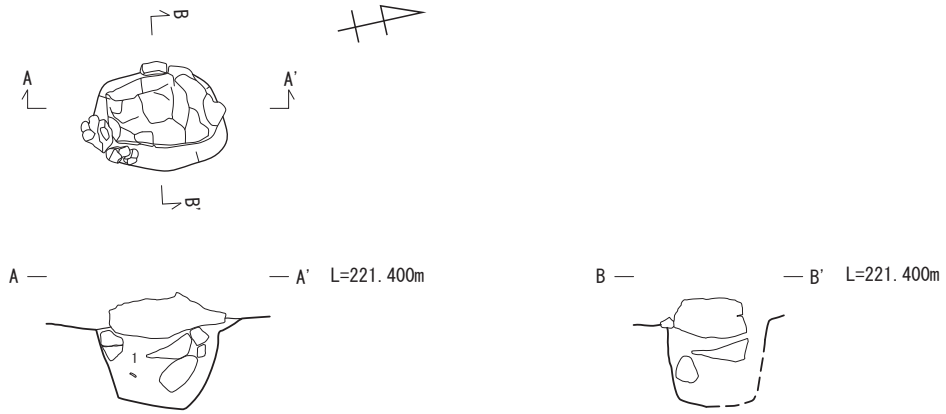




0　1m

第 104 図　土壙墓２　B 区 SK12・30　平面図・土層断面図 (1:50)

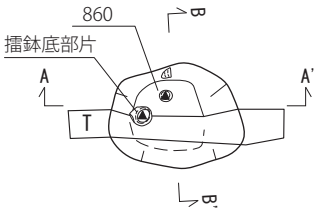
SK35出土状態図1



1. 5YR6/6橙色シルト焼土わずかに混じる。

SK35出土状態図2

SK35出土状態図3



第 105 図　土壙墓３　E 区 SK35　平面図・土層断面図 (1:50)

参考・引用文献目録

A．発掘調査報告書

『妙土窯跡発掘調査報告書』 笠原町教育委員会　1976
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 35 集　小田妻古窯跡群』 財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1992
『上之山 - 愛知県瀬戸市吉田・吉田奥遺跡群　広久手古窯跡群　発掘調査報告書 -』 瀬戸市教育委員会　1992
『仏供田窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1993
『下半田川 C 窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1994
『暁窯跡　第３・４・５号窯跡の調査』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1995
『太子 A 窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1997
『瀬戸市内遺跡詳細分布調査報告書』 瀬戸市教育委員会　1997
『八床９・10 号窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1998
『陶邑窯跡群　泉北若竹保育園移転新築用地　豊田地区・STK99 地点』 小谷城郷土館発掘調査団　2001
『塩草 B 窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2002
『国指定史跡小長曽陶器窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2002
『元屋敷陶器窯跡発掘調査報告書』 土岐市教育委員会　2002
『市内遺跡調査報告Ⅳ　五葉窯跡』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2003
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 118 集　巡間 E 窯跡』
　財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　2003
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 119 集　金萩遺跡』
　財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　2004
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 124 集　宇トゲ窯跡・中洞窯跡』
　財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　2004
『下石西山窯跡発掘調査報告書』 土岐市教育委員会財団法人　土岐市埋蔵文化財センター　2004
『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第 109 集　鶯窯跡』
　財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター　2005
『紺屋田 A 窯跡』 財団法人瀬戸市文化振興財団　2009

B．論文等

井上喜久男 「美濃窯の研究（一）-15 ～ 16 世紀の陶器生産 -」『東洋陶磁　第 15・16 号』 東洋陶磁学会　1988
『尾張陶磁』 ニュー・サイエンス社　1992
「近世の瀬戸・美濃」『東洋陶磁史—その研究と現在—』 東洋陶磁学会　2002
「日本陶磁の流れ（10）・（11）」『陶説　第 604・605 号』 2003
「美濃桃山陶の成立と展開」『東洋陶磁　第 36 号』 東洋陶磁学会　2007
「瀬戸窯における陶製狛犬の製作年代」『愛知県陶磁資料館研究紀要 15』 愛知県陶磁資料館　2010
尾野　善裕 「一五・一六世紀における流通・海運の変革—東海地方港津遺跡の検討—」
『国立歴史民俗博物館研究報告　第 113 集』 国立歴史民俗博物館　2004
神崎　宣武 『暮らしの中の焼きもの　日本人の生活と文化 4』 ぎょうせい　1982
関口　広次 「美濃・妙土大窯の復元とその構造について」『物質文化（33）』 物質文化研究会　1979
楢崎　彰一 「概説—施釉の器と茶陶のはじまり」『日本陶磁全集９　瀬戸　美濃』 中央公論社　1976
藤澤　良祐 「瀬戸大窯発掘調査報告」『研究紀要Ⅴ』 瀬戸市歴史民俗資料館　1986
「大窯期工人集団の史的考察—瀬戸・美濃系大窯を中心に—」『国立歴史民俗博物館研究報告　第 46 集』
国立歴史民俗博物館　1992
「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第 10 輯』 2002
「瀬戸・美濃大窯の生産と流通」『戦国時代の考古学』 高志書院　2003
『瀬戸窯跡群』 同成社　2005
「中世瀬戸窯の乾燥場遺構」『吉岡康暢先生古稀記念論集　陶磁器の社会史』 2006
『中世瀬戸窯の研究』 高志書院　2008
橋本　鉄男 『ろくろ　ものと人間の文化史 31』 法政大学出版　1979
本田　静雄 『陶磁の狛犬』 求龍堂　1976
吉岡　康暢 「15・16 世紀の窯業生産」『東日本における中世窯業の基礎的研究』 国立歴史民俗博物館　1993

C．その他
『原色陶器大辞典』 淡交社　1972
『日本民具辞典』 株式会社ぎょうせい　1997
『陶器大辭典　五巻』 五月書房　覆刻版　1980
『張州雑誌　第十二巻』 愛知県郷土資料刊行会　1976
『瀬戸市史　陶磁史篇二』 瀬戸市　1981
『瀬戸市史　陶磁史篇　四』 瀬戸市　1993
『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』 愛知県　2007
『窯業民俗資料調査報告１（瀬戸市）』 愛知県教育委員会　1974
『美濃の古陶』 光琳社　1976
『日本やきもの集成３』 平凡社　1980
『陶磁器の文化史』 国立歴史民俗博物館　1998
『列島に拡がる大窯製品　－東日本の様相 -』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1999
『列島に華開く大窯製品　－西日本の様相 -』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2000
『瀬戸大窯とその時代』 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2001
『シンポジュウム 「戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品 - 東アジア的視野から -」資料集』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2001
『土岐市収蔵品図録Ⅱ—収蔵品にみる美濃窯の歴史—』 土岐市美濃陶磁歴史館　2004
『愛知県史研究　第 13 号』 愛知県　2009

遺構一覧表

調査区	遺構№	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸(上端)	長軸(下端)	短軸(上端)	短軸(下端)	深さ	平面形	方位	備考
A	SK001	V H-2r	逆台形	—	1.22	0.36	0.93	0.19	0.37	楕円	N-20-W	
A	SK005	Ⅳ H-18s	箱形	1 層	1.41	0.64	1.12	0.74	0.84	やや歪む方形	N-56-W	北西辺で段がつく
A	SK050	V H 1・2 t	浅鉢	—	1.37	0.62	1.24	0.53	1.18	不整楕円形	N-89-E	
A	SK051	V H-2 t	深鉢形	2 層	0.58	0.18	0.48	0.21	0.34	楕円	N-80-E	
A	SK052	V H-1 t	逆台形	2 層	1.21	1.09	0.89	0.59	0.61	やや歪む方形	N-12-W	中央部北側で一段窪む
A	SK053	V H-1s・2 t	逆台形	2 層	2.19	1.94	1.38	1.1	0.41	やや歪む方形	N-82-E	底面東端付近で Pit 状に二箇所窪む (別遺構か？)
A	SU02	V H-3 t 付近										SX01(石敷) 東側斜面の物原？ (南側)
A	SU03	Ⅳ H20 ～ V H1 付近										SX01(石敷) 東側斜面の物原？ (北側)
A	SX01-		—	—	—		—		—	不整形		石敷・粘土敷遺構、東西約 11 m、南北約 11 m の範囲に礫、遺物分布。
A	SK01	V H -1r	深鉢	主 3 層	0.50		0.46		0.62	やや角のある円 (P タイプ RP)	なし	軸穴周礫、上匣鉢
A	SK02	V H -1r	深鉢	主 3 層 (軸上・掘り方・軸)	0.67		0.55		0.72	円みの強い方 (P タイプ RP)	N-72° -E	軸穴上は礫を置いて炭化物と粘土で埋めたと思われる。軸上に軸の可能性のある炭化材片が出土 (蓋？)。軸穴中位に小礫を回して軸を固定。軸底に粘土を敷く (メモ参照)
A	SK03	V H -1r	深鉢	主 2 層	0.65		0.63		0.63	円 (P タイプ RP)	なし	セク崩落で精査できなかったが、底面に明赤橙色の砂と小凹、軸穴上匣鉢
A	SK04	V H -2r	箱 (周溝)	主 2 層	(1.12)		1.25		0.38(0.51)	円みのある方	N-25° -E	上面は円形状、底面は長方形状、周溝を持つ。南半は攪乱
A	SK05	Ⅳ H -20r	箱 OH	主 2 層	1.23		1.10		0.45	隅円方	N-81° -E	SD01 に切られる。土盛り整地前の遺構 北東 - 南西側対に周溝様掘り込み
A	SK06	V H -1r	箱 段	主 3 層	0.83		0.76		0.71	不整方 (土坑タイプ RP)	N-14° -E	軸穴 2 本、切り合いではなく作り直しで礫積みしたと考えられる。底面にシルト敷きあり。北側のみ礫積み
A	SK07	V H -2r	箱	—	(0.42)		(0.70)		0.32(0.72)	〔やや長い方〕(土坑タイプ RP)	N-88° -E	西半は攪乱、東壁側に礫積み、礫積みが全周？別々に番号を付したが P13 とセットの土坑タイプロクロピットと考えられる
A	SK08	V H -1r	椀	主 2 層	(0.99)		(0.78)		(0.23)	円みの強い方	N-23° -E	北北東 - 南南西に帯状に認められる赤橙色の盛り土を切って構築される。盛り土から西側は砂層露出、東側は敷石関連の盛り土。盛り土は地滑り等で生じた表土流失を補填したと思われる
A	SK09	V H -1r	箱 (周溝)	主 2 層 (粘土・赤橙色土互層)	1.19		1.12		0.50(0.57)	隅円方	N-5° -W	上面に盛り土の粘土敷き (敷石？礫含む)。遺物多く覆土は互層。周溝巡る。類例としては南側の SK40 がある
A	SK10	Ⅳ H -20r	浅鉢	赤褐色土単	0.90		0.71		0.08	長円	N-35° -W	最上部の盛り土を切って構築されており、新しい土坑と判断される
A	SK11	V H -1r	浅鉢	赤褐色土単	0.72		0.68		0.10	不整方	N-44° -E	最上部の盛り土を切って構築されており、新しい土坑と判断される
A	SK12	V H -2s	浅鉢	シルト塊混土単	(1.03)		0.66		0.19	不整長方	N-34° -E	覆土は石敷の盛り土か？シルト塊多く含む。石敷より古い。南半は斜面で崩落
A	SK13	V H -2r	浅鉢	粘土混土単	0.71		0.46		0.12	長円	N-21° -E	覆土は粘土多く含む。根攪乱顕著
A	SK14	削除	箱 段	シルト混土単	0.86		0.73		0.30(0.58)	円みの強い方 (土坑タイプ RP)	N-30° -W	精査・検討の結果、SK34 の陥化部分と判断。したがって本址は削除
A	SK15	Ⅳ H -20q・r	浅鉢	シルト塊混土単	3.23		0.72		0.28	溝	N-83° -E	最上部の盛り土を切って構築されており、P62 を切る。土坑番号を付したが溝状遺構である
A	SK16	V H -1r	深鉢・段	典型的ロクロピット	0.55		0.50		0.69	円みのある方 (P タイプ RP)	N-47° -W	柱穴タイプロクロピット。軸柱を立て中ほどまで突き固めて固定、底面は硬化。軸穴上に粘土塊を蓋状に置く
A	SK17	V H -1r	浅鉢	赤褐色土単	0.58		0.49		0.11	やや長い不整円	N-22° -E	盛り土より新しいと考えられる。SD01 などと同じように赤橙色系の覆土は大半が盛り土を切って構築される
A	SK18	Ⅳ H -20q	鉢 段	土坑部分と軸穴部分 主 3 層	0.98		0.95		0.45(0.87)	やや角のある円 (土坑タイプ RP)	N-21° -E	土坑タイプロクロピット。土坑部分の底面に配礫があり当初は土坑墓と考えたが、軸穴を伴う。類例はない。ロクロピットの機能転化か？盛り土を切って構築される
A	SK19	Ⅳ H -20r	皿	シルト塊混土単	(0.43)		(0.57)		0.05	〔隅円方〕	〔ほぼ東西〕	赤橙色系盛り土を切って構築される。西半は試掘坑で不明
A	SK20	V H -1r	浅箱	粘土・シルト混炭質土単	(0.36)		(0.52)		0.10	〔円〕	〔北北西 - 南南東〕	通しセクションで北半は不明。炭混入多い
A	SK21	V H -1r	箱 段	主 4 層	0.86		0.79		0.43(0.79)	円みの強い方 (土坑タイプ RP)	N-9° -E	SK25・30・39・40 を切る。土坑タイプ RP で井戸のような礫積み (2 ～ 3 段) が全周。類例はない
A	SK22	V H -1q	浅箱	赤褐色土単	(0.94)		(0.72)		0.06	〔方〕	〔北北西 - 南南東〕	盛り土に伴う区画のコーナー部分と考えられる
A	SK23	V H -1r	箱 段	3 層 (中層粘土質)	1.01		0.81		0.60(0.77)	隅円長方 (土坑タイプ RP)	N-9° -E	土坑タイプ RP。軸穴は北側に寄って作られる
A	SK24	V H -1r	箱 段	主 2 層 (中央上部粘土質)	(0.54)		(0.71)		0.35(0.74)	〔隅円方〕(土坑タイプ RP)	[西北西 - 東南東]	SK27 を切る。ピット部底面にわずかにシルト敷きの痕跡が認められた
A	SK25	V H -1r	深鉢	典型的ロクロピット	0.59		(0.52)		0.75	円 (P タイプ RP)	なし	SK30・32・40 などを切る。焼台刳り貫き軸穴。盛り土を切る
A	SK26	V H -1r	箱 段	主 3 層	(0.65)		0.62		0.36(0.68)	〔隅円方〕(土坑タイプ RP)	N-52° -W	軸穴脇に固定用と思われる匣鉢片がある
A	SK27	V H -1r	〔箱 段〕	主単層	(0.84)		(0.71)		0.18(0.82)	〔隅円方〕	〔北北西 - 南南東〕	浅い土坑状の掘り込みと 3 本の柱穴から成る。覆土は赤褐色系の軟質土で軸穴の掘り変えと推察される。類例は SK37
A	SK28	V H -1r	深鉢	粘土・炭互層 主 2 層	(0.49)		0.48		0.71	円みのある方 (P タイプ RP)	北西 - 南東	柱穴タイプロクロピット。軸穴上位に匣鉢出土、意図的かどうかは不明ながら軸穴上に匣鉢・礫・粘土塊などの目印らしきものは多い
A	SK29	Ⅳ H -20r	浅箱	炭質土単	(0.94)		0.72		0.08	[不整長方 菱形？]	[N-70° -E]	石敷盛り土と同時か新しいと考えられる
A	SK30	V H -1r	鉢 段	主 3 層	(0.75)		(0.73)		0.40(0.81)	〔隅円方〕(土坑タイプ RP)	N-55° -W	最上部粘土敷きより旧。軸穴上に小皿・匣鉢
A	SK31	V H -1r	鉢	砂・炭・粘土	0.60		0.52		0.58	隅円方 (P タイプ RP)	N-58° -E	最上部粘土敷きより新。軸穴上に礫を置く。礫周りは炭、その下は粘土、軸穴内に炭。軸抜き取りか？
A	SK32	V H -1r	鉢 段	主 3 層 (土坑・掘り方・軸部)	(0.73)		(0.64)		0.45(0.63)	[不整方](土坑タイプ RP)	[北北西 - 南南東]	最上部粘土敷きに覆われ、SK25・P54・58 に切られる。軸穴が中央部より東側に偏るものの上に小皿を置く
A	SK33	V H -1r	浅鉢	赤褐色土単	(0.53)		0.59		0.18	不整方 [菱形]	[ほぼ北 - 南]	P02 に切られる
A	SK34	V H -1r	箱	赤褐色系砂質土	1.20		0.92		0.65	やや円みのある長方	N-7° -W	P15・47・43 に切られる。最上部に礫伴う墓壙、陥下による凹みが SX01 検出当初から認められた
A	SK35	V H -1r	箱	主単層 (赤褐色土系)	(0.53)		(0.50)		0.53	[やや円みのある方]	[北西 - 南東]	重複するすべての遺構に切られる
A	SK36	V H -1r	箱	黄褐色系砂質土	(0.81)		(0.65)		0.88(0.97)	隅円方	N-12° -W	SK34・43・51 に切られる。形状から土坑墓の可能性が高い。底面北側の小ピットは古いものと思われるが、P51 のように SK34 より古く本址より新？覆土は極めて軟質な暗黄褐色土である
A	SK37	V H -2r	箱 段	主 3 層 (土坑・軸・旧軸部)	0.89		0.76		0.43(0.75)	隅円方	N-26° -W	P24・28 に切られる。軸穴 3 カ所、古い軸穴を再利用しないでそのつど掘り直していると考えられる。最新軸底面に版築様のきわめて硬質なシルトを敷く。中央は P55 の軸穴の可能性あり

遺構一覧表

調査区	遺構№	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸(上端)	長軸(下端)	短軸(上端)	短軸(下端)	深さ	平面形	方位	備考
A	SK38	VH-1r	深鉢	主2層	(0.67)		0.62		0.71	やや長い円	ほぼ東西	P36に切られる。最上部粘土敷きに覆われていた。柱穴と考えられるが、軸穴抜き取りのロクロピットの可能性もある
A	SK39	VH-1r	[鉢段]	主3層(礫上・下・軸部)	(0.60)		0.70		0.31(0.66)	[方]	[北西-南東]	SK16・20・21・P50・65に切られ全容不明。軸穴上に大礫を置く。軸固定用の礫の可能性が高い
A	SK40	VH-1r	箱 周溝	主2層(主に粘土と赤褐色土)	(1.07)		1.03		0.39(0.46)	方	N-86°-E	P44に切られる。最上部粘土敷きに覆われる。大部分の遺構に切られる。SK09と類似
A	P01	IVH-20r	箱		0.28		0.25		0.54	円[土坑タイプRP?]		第1確認段階で上面に灰色粘土がみられた。確定はできないが土坑タイプRPの軸穴と考えられる
A	P02	VH-1r	深鉢	主3層(掘り方・軸・軸上)	0.50		0.45		0.82	円みのある方(台形)	北西-南東	軸穴が直立していない。最上部から検出されていた
A	P03	VH-1r	箱段	主3層(上部粘土・軸・中)	0.42		0.38		0.30(0.62)	円	N-21°-W	最上部盛り土を切ると考えられる。上面は精査時に樹根と判断し15cm程度下げたが、SK01類似のロクロピットである
A	P04	VH-2r	深鉢	主2層(軸・掘り方)	(0.16)		(0.20)		(0.21)	円[土坑タイプRP?]		上部は攪乱削平されているが、土坑タイプRPの軸部分と考えられる。周囲に強い沈鉄(明オレンジ色)。SK07・P06・08・63と類似
A	P05	IVH-20r	浅箱段	主2層(軸・土坑部)	0.38		0.32		0.14(0.40)	円[土坑タイプRP]	N-21°-W	小土坑タイプRPの上部が削平されたものと考えられる
A	P06	VH-2r	深鉢	主2層(軸・掘り方)	(0.22)		(0.21)		(0.24)	円[土坑タイプRP?]		上部は攪乱削平されているが、土坑タイプRPの軸部分と考えられる。周囲に強い沈鉄(にぶいオレンジ色)。SK07・P06・08・63と類似
A	P07	VH-2r	深鉢	主単層	(0.33)		(0.28)		0.52	[隅円方]	N-80°-E	攪乱の壁に検出された
A	P08	VH-2r	深鉢	主2層(軸・掘り方)	((0.29)		(0.26)		0.73	[隅円方]	N-57°-E	攪乱により上部削平。柱穴タイプロクロピットと考えられる。軸穴内から焼台片出土
A	P09	VH-1r	浅箱	単	(0.54)		(0.27)		0.14	隅円方	N-11°-W	P番号としたが小土坑と考えられる。大部分Sk06に切られる
A	P10	VH-1r	深鉢	主3層(軸・軸底・掘り方)	(0.44)		(0.40)		0.69	円		西半は試掘坑で不明、底部の一部が残存。P46とひとつの可能性がある。底面は逆凸型に小掘り込みを有しきわめて硬質な版築様のシルトが認められた。上面に粘土敷きあり
A	P11	VH-1q	鉢	主2層(上部粘土・砂土)	0.21		0.18		0.17	やや角のある円		覆土上部の粘土は最上部の粘土敷きと思われこれより古いピット
A	P12	VH-1r	鉢	単	0.22		0.20		0.13	隅円方	N-30°-W	最上部粘土敷き下から確認
A	P13	VH-2r	深鉢	RP軸(柱痕様)	(0.31)		(0.28)		(0.72)	円みのある方		SK07とセットになる土坑タイプRPの軸穴部分と考えられる
A	P14	VH-1q	深鉢	主3層	0.65		0.51		0.31(0.96)	隅円方(土坑タイプRP)	N-88°-E	上部は赤色系土、土坑部底は粘土混、柱穴部は埋め戻しと思われる赤色土から成る。軸抜き取りの可能性が高い。最上部盛り土に覆われる
A	P15	VH-1r	鉢段		0.45		0.38		0.21(0.35)	長円	N-20°-E	小規模なロクロピットと思われる。軸穴上に粘土塊あり
A	P16	VH-2r	深箱	主単層(赤褐色土)	0.19		0.19		0.46	隅円方	N-45°-W	オーバーハングする小ピット
A	P17	VH-2r	深鉢	主単層(赤褐色土)	0.28		0.24		0.39	円	N-48°-W	
A	P18	VH-2r	箱	主2層(赤褐色土)	0.34		0.22		0.26	長円	N-83°-E	柱痕と思われる掘り込み上部に匣鉢(ほぼ横立)出土
A	P19	VH-2r	鉢	単(赤褐色土)	0.27		0.18		0.23	長円	N-9°-E	
A	P20	VH-2r	箱	単(赤褐色土)	(0.42)		(0.32)		0.15	[隅円長方]	N-30°-E	南半は攪乱で不明
A	P21	VH-2s	鉢	主単層(赤褐色土)	(0.33)		(0.28)		0.18	[隅円不整方]	N-20°-W	上部は攪乱様の溝状炭化物範囲。新しい遺構と思われる
A	P22	VH-2s	鉢	単(赤褐色土)	(0.27)		(0.22)		0.14	[隅円方]	N-54°-W	上部は攪乱様の溝状炭化物範囲。新しい遺構と思われる
A	P23	VH-2r	深鉢		(0.47)		(0.36)		0.71	円みのあるやや長い方	N-5°-W	SK04に切られる。柱痕を伴い柱穴と考えられる
A	P24	VH-1・2r	箱	主単層(赤褐色土)	0.35		0.34		0.32	隅円方	N-41°-W	最上部粘土敷きに覆われる
A	P25	VH-2s	深鉢	主単層(赤褐色土)	(0.23)		(0.23)		0.40	不整方	N-29°-E	上部に攪乱と思われる細長い溝状の凹みあり。新しい遺構と思われる
A	P26	VH-1q	深鉢		(0.53)		0.48		0.64	円		
A	P27	VH-1q	鉢	主単層(赤褐色土)	0.23		0.23		0.13	隅円方	N-38°-E	粘土塊を含む赤橙色土(最上部盛り土)に覆われる
A	P28	VH-2r	深鉢	黄褐色砂質土主単層	(0.43)		0.39		0.65	[長円]	[東北東-西南西]	断面形はアサガオ形に外反。柱穴と考えられる
A	P29	VH-1r	鉢	炭・粘土混赤褐色土	0.42		0.37		0.34	円みのある方	N-36°-W	最上部盛り土に覆われる。内面に砂質土を敷き粘土を入れたように考えられる
A	P30	VH-1q	丸鉢	2層	(0.46)		0.43		0.30	円	N-30°-W	
A	P31	VH-1q	深鉢	主単層(赤褐色土)	0.49		0.45		0.62	隅円方	N-60°-E	掘立柱建物址と推測される柵列(SA01)の柱穴(P49)を切って構築されている
A	P32	VH-1r	深鉢	主4層(土坑上・下・軸上・下)	0.42		0.42		0.40(0.60)	円みの強い方	N-30°-W	上面は石敷・挟み皿列下の粘土に覆われる。軸穴固定と推察される礫が東側を半周
A	P33	VH-1r	深鉢	砂質土	(0.42)		(0.30)		0.61	〔円〕		
A	P34	VH-1r	深鉢	赤褐色系軟質土主単層	(0.19)		(0.20)		0.39	[方]		サラサラ未固結状の軟質な覆土
A	P35	VH-2q	深鉢	灰黄色系軟質土	(0.29)		(0.24)		0.64	円みの強い方	N-41°-W	上面は削平(最初の階段部)されているが、露出した砂層に彫りこまれている
A	P36	VH-1r	箱段	主2層(柱痕・掘り方)	(0.46)		0.56		0.42(0.63)	[隅円方]	[北西-南東]	柱痕を伴う掘立柱建物址と考えられる。東側は試掘坑で切られ不明
A	P37	VH-2r	深鉢	主3層(土坑・軸・掘り方)	0.42		0.40		0.26(0.52)	円みのある方	N-49°-W	挟み皿列下の粘土敷きに一部覆われる。典型的な柱穴タイプロクロピット
A	P38	IVH-20q	鉢	主単層(赤褐色土)	0.26		0.25		0.26	円みのある方	N-43°-E	覆土(軟質土)の状況から新しいピットと思われる
A	P39	IVH-20q	鉢	主単層(黄褐色砂質土)	0.26		0.26		0.34	円みのある方	N-42°-W	
A	P40	IVH-20q	深鉢	主単層(赤褐色土)	0.26		0.24		0.62	円みのある方	N-43°-W	覆土(赤褐色系軟質土)の状況から新しいピットと思われる
A	P41	VH-1r	鉢	主2層(軸・掘り方)	0.24		0.18		0.26	円みのある方	N-39°-E	最上部粘土敷きに覆われていない。新しいロクロピットと考えられる
A	P42	VH-1q	深鉢 上段	主単層(赤褐色系軟質土)	0.45		0.33		0.71	円みのある方	N-48°-E	掘立柱建物址と推察される柵列(SA01)の柱穴。最上部粘土敷きの1段階前の遺構と考える
A	P43	VH-1r	鉢	主単層	0.27		0.27		0.41	円		
A	P44	VH-1q	深鉢	主単層(褐色系砂質土)	(0.48)		(0.47)		(0.64)	やや角のある円	N-53°-W	掘立柱建物址と推察される柵列(SA01)の柱穴。最上部粘土敷きの1段階前の遺構と考える。上面は樹根と削平がある
A	P45	VH-1q	深鉢	赤褐色系砂質軟質土	0.48		0.41		0.46	やや角のある円	N-5°-W	

遺構一覧表

調査区	遺構№	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸（上端）	長軸（下端）	短軸（上端）	短軸（下端）	深さ	平面形	方位	備考
A	P46	VH-1r	—	赤褐色系土	(0.40)		(0.27)		0.25	[方]		P10に切られるが、P10の掘り方部分の可能性もある。西半は試掘坑で不明
A	P47	VH-1r	箱段		(0.42)		0.43		0.17(0.46)	[隅円方]	[北西-南東]	SK34を切る。軸穴が直立していない
A	P48	VH-2r	深鉢	暗褐色軟質土	0.62		0.48		0.60	やや長い隅円方	N-40°-E	石敷下から検出されたが上部に攪乱がみられ、その樹根と考えられる
A	P49	VH-1q	深鉢	黄褐色土系砂質土	(0.29)		(0.29)		0.69	[隅円方]	[北北西-南南東]	P31に切られる。掘立柱建物址と推測される柵列(SA01)の柱穴
A	P50	VH-1r	深鉢		0.58		(0.48)		0.60	円みの強い方	N-85°-E	SK16に切られる。底面に強い沈鉄がみられP65の影響とも考えられるが、掘立柱建物址のアタリと考えたほうがよいと思われる
A	P51	VH-1r	深鉢	赤褐色系土	(0.38)		0.40		0.96	円		SK33・34に切られる
A	P52	VH-2r	深鉢	黄褐色系軟質砂質土 主2層	(0.52)		(0.44)		0.76	やや長い円	N-50°-W	砂質のきわめて軟質な覆土から成る
A	P53	Ⅳ H-20q・VH-1q	逆凸	主3層(軸底・軸・土坑部)	0.45		0.37		0.19(0.71)	長円	N-38°-W	底面に径7～8㎝、層厚1～2㎝の扁平な粘土(センベイ様)が認められ、軸受けと考えられる
A	P54	VH-1r	鉢	主2層	0.38		(0.34)		0.40	やや角のある円	北北東-南南西	最上部粘土敷きに覆われSK32・P58を切る。粘土敷きは少なくとも2層に区分され下位のものよりは新しい
A	P55	VH-1r	[箱段]	主単層 黄褐色系砂質土	(0.72)		(0.26)		0.38	[隅円方]	不明	SK37・38・24・28・36に切られ残存わずか。土坑タイプRPと推察するものの概要不明。位置的に考えてSK37底面やや北寄りの小ピットが本址のロクロ軸の可能性も考えられる
A	P56	VH-1r	鉢	主2層	(0.38)		0.32		0.37	隅円方	N-37°-W	最上部粘土敷きに覆われる
A	P57	VH-1r	鉢	主単層(褐色系砂質土)	0.21		0.21		0.19	歪な方	N-57°-E	
A	P58	VH-1r	深鉢	主2層	0.35		(0.30)		0.50	円		SK32・40・P64を切る。断面下半の形状から柱穴タイプロクロピットの可能性が高い
A	P59	VH-1r	深鉢	主単層	(0.26)		(0.17)		0.44	[円]		
A	P60	VH-1q	深鉢	主2層(盛り土・黄褐色砂質土)	(0.38)		0.37		0.63	円みのある不整方		最上部粘土敷きに覆われる
A	P61	ⅣH-20q	深鉢	主2層(赤・黄褐色系砂質土)	(0.51)		(0.41)		0.68	やや長い円	N-40°-W	SK18に切られる。径3㎝・長さ約10㎝の棒状炭化物(ロクロ軸の可能性あり)が南側底面やや上(覆土の4層)から出土
A	P62	ⅣH-20q	深鉢	赤褐色系砂質軟質土	(0.33)		(0.32)		0.60	円みの強い方	N-56°-E	掘立柱建物址と推察される柵列(SA01)の柱穴。区画状のSD04下から検出されたが、関連遺構の可能性がある。なお柱穴列はほぼ真北を示す
A	P63	VH-2q	深鉢段	主3層(軸底・軸・土坑部)	(0.22)		(0.20)		(0.42)	円みの強い方	N-40°-E	上部は攪乱削平されているが、土坑タイプRPの軸部と考えられる。強い沈鉄が認められる。類例はP04・06・08・13がある
A	P64	VH-1r	深鉢	褐色系砂質軟質土	(0.20)		(0.20)		0.62	やや角のある円		重複する遺構すべてに切られる
A	P65	VH-1r	[深鉢段]		[0.4]		[0.4]		0.68	[円みの強い方](PタイプRP)		断面形はSK16に類似と考えられるが、大半は切られて不明
A	SD01	VH-1r	逆台形	2層	3.63		0.35		0.15	「┌」字形	N-83-E	西側で緩く南曲。区画溝？盛り土を切る 方向は長辺で計測
A	SD02	ⅣH-20q	逆台形	2層	4.4		0.5		0.2	「┌」字形	N-1-E	区画溝？方向は長辺で計測
A	SD03	ⅣH-20q	逆台形	2層	2.37		0.4		0.15	「┌」字形	N-7-E	区画溝？方向は長辺で計測
A	SD04	ⅣH-20q	逆台形	2層	2.23		0.55		0.2	南北方向の長楕円	N-5-E	区画溝？
C	SK004	ⅣI-17g・h	箱形	—	(3.6)	(3.51)	2.54	2.39	0.52	隅円長方	N-61-E	西側で一段窪む
C	SK014	VI-2d	逆台形	10層	(1.42)	(0.89)	(0.74)	(0.5)	0.3	-	-	P57に切られる、南半部は調査区外へ延びる
C	SK015	VI-2d	浅鉢形	6層	1.45	0.76	0.8	0.77	0.39	楕円	N-83-E	礫埋
C	SK016	VI-1g	浅鉢形	5層	1.34	1.18	1.26	1.13	0.15	やや歪む方形	N-57-E	SD19に切られる
C	SK017	ⅣI-20f	逆台形	4層	0.99	0.79	0.97	0.76	0.24	歪んだ隅円方	N-68-E	P61・84を切る
C	SK018	ⅣI-20f	逆台形	4層	(0.7)	(0.47)	0.44	0.42	0.21	[不整形]	-	SD10より古く、P088より新しい、P55を切る
C	SK019	ⅣI-20g	浅皿形	1層	0.73	0.68	0.61	0.56	0.15	歪んだ隅円方	N-59-E	P95・96、SD20と切り合う、SD20より新しい
C	SK020	ⅣI-20f	逆台形	4層	1.47	1.1	0.78	0.35	0.19	やや歪む長楕円	N-9-E	SD23、SK47と切り合う
C	SK021	ⅣI-20e	凸凹	4層	0.86	0.73	0.69	0.54	0.1	やや歪む方形	N-48-E	SK46より新しい
C	SK022	ⅣI-20e	浅鉢形	1層	(0.36)	(0.28)	(0.33)	(0.26)	(0.16)	[歪む方形]	-	SK23より新しい
C	SK023	ⅣI-20e	浅鉢形	4層	0.87	0.56	0.77	0.45	0.22	楕円	N-59-E	SK22・24と切り合う
C	SK024	ⅣI-20e	浅鉢形底面には凸凹	1層	0.98	0.67	0.73	0.61	0.21	[歪む楕円]	N-54-E	SK23と切り合う
C	SK025	ⅣI-20e	[箱形]	1層	(0.61)	(0.43)	0.44	0.33	0.16	[長楕円]	N-41-W	南半部分を攪乱に壊される
C	SK026	ⅣI-20e	[浅鉢形]	2層	1.07	0.84	0.7	0.58	0.14	歪んだ楕円	N-37-E	SK49を切る
C	SK027	ⅣI-20e	浅皿形	1層	1.15	0.68	1.16	0.69	0.19	歪んだ円	N-37-E	
C	SK028	VI-1d	[逆台形]	2層	0.99	(0.29)	0.79	0.52	0.25	[歪む方形]	N-70-E	P73より古くP81を切る
C	SK029	ⅣI-20f	逆台形	1層	0.66	0.54	0.64	0.5	0.06	[歪む方形]	N-47-W	SD23と接する
C	SK044	ⅣI-19e	鉢形	1層	0.95	0.76	0.98	0.51	0.16	北辺に張り出がつく隅円方	N-51-E	北辺の張り出しは別遺構の可能性、SK49を切る
C	SK045	ⅣI-20e	逆台形	2層	0.65	0.33	0.59	0.32	0.16	歪んだ楕円	N-98-E	SK49と切り合う
C	SK046	ⅣI-20e	浅鉢形	1層	0.36	0.26	0.29	0.2	0.05	歪んだ楕円	N-45.6-E	SK21に切られる
C	SK047	ⅣI-20f	浅皿形	4層	1.19	1.01	(0.56)	(0.49)	0.09	[やや歪む隅円方]	N-2-W	SK20と切り合う
C	SK048	ⅣI-19e・f	[浅皿形]	[6層]	保留	保留	保留	保留	保留	保留	保留	東半部上面を攪乱に壊される
C	SK049	ⅣI-20e	逆台形	3層	1.15	0.56	0.83	0.52	0.36	歪んだ楕円	N-42-W	SK26・44・45に切られる
C	P02	ⅣI-18i	浅皿	〃	0.37		0.3		0.08	長楕円	N-71-W	
C	P03	ⅣI-18i	浅鉢	〃	0.22		0.2		0.06	隅円方	N--36-W	
C	P04	ⅣI-18h	浅鉢	〃	0.2		0.18		0.03	やや歪な隅円方	N-138-W	
C	P05	ⅣI-18h	浅鉢	〃	0.51		0.44		0.09	歪な隅円方	N-6-E	
C	P06	ⅣI-18h	深鉢	〃	0.27		0.25		0.26	歪な長楕円	N-84-W	
C	P07	ⅣI-18h	浅鉢	〃	0.25		0.2		0.11	歪な長楕円	N-88-W	
C	P08	ⅣI-18h	深鉢	〃	0.49		0.24		0.11	歪な隅円長方	N-10-W	
C	P09	ⅣI-18h	鉢	〃	0.39		0.32		0.2	歪な隅円方	N-71-W	
C	P10	ⅣI-18h	鉢	〃	0.32		0.22		0.19	歪な楕円	N-32-W	
C	P11	ⅣI-18h	深鉢	〃	0.22		0.2		0.27	歪な隅円方	N-92-W	
C	P12	ⅣI-18h	深鉢	2層(下半暗灰・上半灰)	0.41		0.33		0.57	円	N-90-W	柱痕・柱材有り 柱穴＋打ち込み杭 柱底レベル202,949m
C	P13	ⅣI-18h	鉢	暗灰粘質土	0.32		0.27		0.02	歪な楕円	N-91-W	
C	P16	VI-2e	逆台形	2層	0.38		0.359		0.27	隅円方	N-64°-E	
C	P17	VI-2d	浅皿	1層	0.56		0.34		0.03	隅円長方	N-24°-W	
C	P18	VI-2e	箱形	1層	0.29		0.29		0.44	やや歪な円	N-48°-W	
C	P19	VI-2e	深鉢	2層	0.5		0.45		0.36	やや歪な隅円方	N-41°-W	
C	P20	VI-2e	深鉢	2層	0.47		0.34		0.3	不整形	N-73-E	P20はa、bあり
C	P21	VI-2e	深鉢	1層	0.41		0.35		0.32	やや歪な円	N-34°-W	

遺構一覧表

調査区	遺構No.	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸（上端）	長軸（下端）	短軸（上端）	短軸（下端）	深さ	平面形	方位	備考
C	P22	V I-2e	逆台形	2層	0.53		0.44		0.45	やや歪な隅円方	N -103° - W	
C	P23	V I-2e	逆台形	1層	0.42		0.36		0.36	やや歪な隅円方	N -47° - W	
C	P24	V I-2e	逆台形	2層	0.48		0.44		0.44	隅円方	N -38° - E	
C	P25	V I-2e	鉢	1層	0.2		0.16		0.07	不整方	N -44° - E	
C	P26	V I-2e	深鉢	1層	0.22		0.2		0.2	隅円方	N -52° - W	
C	P27	V I-2e	逆台形	3層	0.5		0.33		0.4	隅円長方	N -115° - W	
C	P28	V I-1e	鉢形	1層	0.53		0.37			隅円方	N -10° - W	
C	P29	V I-2e	浅鉢形	1層	0.4		0.31		0.06	やや歪な隅円方	N -22° - W	
C	P30	V I-2e	浅鉢形	1層	0.22		0.16		0.03	やや歪な隅円方	N -38° - W	
C	P31	V I-2e	漏斗形	3層	0.43		0.3		0.24	やや歪な隅円方	N -61° - W	
C	P32	V I-2d	逆台形	1層	0.18		0.17		0.171	やや歪な隅円方	N -47° - W	
C	P33	V I-1d	鉢形	4層	0.47		0.42		0.29	隅円方	N -51° - W	
C	P34	V I-1d	箱形	1層	0.33		0.33		0.48	隅円方	N -27° - W	
C	P35	V I-1e	「V」字状	3層	0.42		0.38		0.42	隅円方	N -39° - E	
C	P36	V I-1d	浅鉢形	1層	0.3		0.24		0.07	やや歪な円	N -52° - E	
C	P37	V I-1d	浅鉢形	1層	0.35		(0.23)		0.03	[方]	N -43° - W	
C	P38	V I-1d	浅鉢形	1層	0.32		0.31		0.04	隅円方	N -37° - W	
C	P39	V I-1d	深鉢形	3層	0.27		0.24		0.31	やや歪な隅円方	N -45° - E	
C	P40	V I-2d	深鉢形	1層	0.22		0.21		0.25	やや歪な隅円方	N -36° - E	SD7・8に切られる
C	P41	V I-1d	鉢形	1層	0.19		0.17		0.06	やや歪な円	N -41° - E	
C	P42	V I-1d	深鉢	—	0.22		0.19		0.37	隅円方	N -43° - E	
C	P43	V I-1e	鉢形	2層	0.25		0.24		0.27	隅円方	N -45° - E	
C	P44	V I-1e	逆凸	2層	0.4		0.37		0.35	やや歪な円	N -34° - W	
C	P45	V I-1f	深鉢形	1層	0.16		0.12		0.14	やや歪な隅円方	N -21° - W	
C	P46	V I-1f	浅鉢形	1層	0.18		0.16		0.03	隅円方	N -45° - E	
C	P47	V I-1f	鉢形	1層	0.35		0.23		0.19	隅円長方	N -47° - W	
C	P48	V I-1f	深鉢形	2層（新期）	0.3		0.26		0.31	やや歪な隅円方	N -54° - W	a、b、cの切り合い、c→b→a
C	P49	V I-1f	鉢形	1層	0.16		0.15		0.2	やや歪な隅円方	N -57° - W	
C	P50	V I-1g	深鉢形	3層	0.65		0.53		0.58	やや歪な隅円方	N -28° - W	
C	P51	V I-1g	深鉢形	2層	0.3		0.28		0.29	やや歪な隅円方	N -30° - W	
C	P52	V I-1g	逆台形	2層	0.52		0.38		0.2	不整円	N -37° - W	
C	P53	Ⅳ I-20f	深鉢形	1層	0.22		0.18		0.18	隅円方	N -43° - E	
C	P54	Ⅳ I-20f	浅皿	1層	0.46		0.42		0.06	隅円方	N -11° - W	
C	P55	V I-1f	深鉢	1層	0.2		0.14		0.05	隅円方	N -54° - E	
C	P56	V I-1e	鉢形	1層	0.14		0.11		0.03	やや歪な隅円方	N -29° - E	
C	P57	V I-2d	深鉢形	4層	0.66		0.5		0.36	不整形	N -48° - E	SK14を切る
C	P58	V I-1e	箱	1層	0.32		0.3		0.23	隅円方	N -36° - E	
C	P59	Ⅳ I-20f	鉢形	2層	0.4		0.36		0.16	やや歪な隅円方	N -65° - E	
C	P60	Ⅳ I-20 d	鉢形	1層	0.2		0.18		0.08	やや歪な隅円方	N -49° - W	
C	P61	Ⅳ I-20f	[鉢形]	1層	(0.14)		(0.12)		0.14	[方]	N -48° - E	SK17に切られる
C	P62	Ⅳ I-20f	箱形	6層	0.45		0.42		0.3	やや歪な円	N -60° - E	
C	P63	V I-1d	深鉢	2層	0.27		0.23		33	やや歪な円	N -1° - E	
C	P64	Ⅳ I-20f	深鉢形	1層	0.21		0.19		0.18	やや歪な円	N -48° - W	
C	P65	Ⅳ I-20f	浅鉢形	1層	0.23		0.19		0.03	隅円方	N -50° - E	
C	P66	Ⅳ I-20f	鉢形	1層	0.2		0.18		0.16	隅円方	N -50° - E	
C	P67	Ⅳ I-20f	深鉢	1層	0.2		0.18		0.27	隅円方	N -23° - E	
C	P68	Ⅳ I-20f	深鉢	1層	0.21		0.2		0.29	やや歪な隅円方	N -47° - E	
C	P69	Ⅳ I-20f	浅鉢形	1層	0.38		0.37		0.23	円	N -41° - E	SD14を切る
C	P70	Ⅳ I-20e	深鉢形	1層	0.26		0.23		0.28	やや歪な隅円方	N -64° - E	
C	P71	Ⅳ I-20f	深鉢形	2層	0.3		0.24		0.27	隅円方	N -58° - E	SD10に切られる
C	P72	Ⅳ I-20e	深鉢形	1層	0.2		0.19		0.22	やや歪な隅円方	N -36° - E	
C	P73	V I-1d	深鉢形	2層」」	0.56		0.51		0.51	やや歪な隅円方	N -51° - E	
C	P74	Ⅳ I-20e	漏斗形	2層	0.44		0.43		0.73	やや歪な隅円方	N -44° - W	
C	P75	Ⅳ I-20e	皿	2層	0.24		0.2		0.03	隅円方	N -60° - W	
C	P76	Ⅳ I-20e	浅皿状	1層	0.24		0.22		0.004	やや歪な隅円方	N -48° - W	
C	P77	Ⅳ I-20f	浅皿状	1層	0.61		0.35		0.53	不整形	N -82° - E	
C	P78	V I-1g	浅鉢形	1層	0.35		0.34		0.09	隅円方	N -37° - E	
C	P79	Ⅳ I-20g	鉢形	1層	0.19		0.18		0.15	隅円方	N -43° - E	
C	P80	Ⅳ I-20f	浅鉢形	1層	0.29		0.23		0.14	歪な円	N -68° - E	
C	P81	V I-1d	浅鉢形	2層	(1.25)		0.66		0.13	[不整]	N -51° - E	SK28・P73に切られる
C	P82	Ⅳ I-20f	深鉢	—	0.2		0.17		0.23	やや歪な隅円方	N -32° - E	
C	P83	Ⅳ I-20f	深鉢形	2層	0.4		0.34		0.35	隅円方	N -47° - E	
C	P84	Ⅳ I-20f	[—]	[1層]	0.33		(0.18)		0.1	—	—	SK17、P62に切られる
C	P85	Ⅳ I-20f	逆台形	1層	0.45		0.35		0.25	不整楕円	N -16° - E	SD10に切られる
C	P86	V I-1e	深鉢形	1層	0.18		0.16			やや歪な円	N -45° - E	P28に切られる
C	P87	V I-1e	深鉢形	2層	(0.4)		0.34			隅円方	N -55° - W	
C	P88	Ⅳ I-20f	[深鉢]	2層	0.45		0.47		0.37	やや歪な円	N -59° - E	
C	P89	Ⅳ I-20f	鉢形	1層	0.2		0.19		0.12	隅円方	N -38° - E	
C	P90	V I-2 f	鉢形	—	0.13		0.13		0.11	隅円方	N -52° - W	
C	P91	V I-2d	深鉢形	—	0.25		0.25		0.17	やや歪な円	N -52° - E	
C	P92	V I-1d	深鉢形	2層	0.31		0.27		0.41	隅円方	N -60° - W	0
C	P93	V I-2e	—	—	0.25		0.23			やや歪な隅円方	N -50° - W	
C	P94	Ⅳ I-20g	—	—	(0.13)		(0.12)		0.04	[方]	—	
C	P95	Ⅳ I-20g	—	—	(0.16)		0.21		0.07	[方]	N -92° - E	
C	P96	Ⅳ I-20g	—	—	0.25		(0.16)		0.08	[方]	N -30° - W	
C	P97	Ⅳ I-20f	逆台形	1層	0.27		(0.16)		0.11	[隅円方]	N -32° - W	
C	P98	Ⅳ I-20g	—	—	0.48		0.41		—	やや歪な円	N -36° - E	
C	P99	Ⅳ I-20f	—	—	0.09		0.08		—	隅円方	N -42° - W	
C	P100	Ⅳ I-20e	—	—	0.09		0.09		—	隅円方	N -48° - W	
C	P101	V I-1e	—	—	0.15		0.11		—	やや歪な円	N -77° - E	
C	P102	欠番か	—	—	—		—		—	—	—	
C	P103	V I-1e	—	—	0.1		0.07		—	やや歪な円	N -4° - E	
C	P104	V I-2e	—	—	0.1		(0.07)		—	[円]	N -26° - E	
C	P105	Ⅳ I-20f	深鉢形	2層	(0.52)		0.59		0.47	やや歪な隅円方	N -33° - E	P77に切られる
C	P106	V I-1d	逆台形	1層	0.46		0.37		0.24	やや歪な円	N -45° - W	

遺構一覧表

調査区	遺構№	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸(上端)	長軸(下端)	短軸(上端)	短軸(下端)	深さ	平面形	方位	備考
C	P107	Ⅳ I-14 j	深鉢	—	0.3		0.27		0.35	隅円方	N -35° - W	
C	P108	Ⅴ I-2e	深鉢	—	0.42		(0.22)		—	[不整]	N -67° - E	
C	P109	Ⅴ I-1f	[浅鉢]	[1 層]	(0.35)		0.29		0.1	[方]	N -34° - E	
C	P110	Ⅴ I-1f	[浅鉢]	[1 層]	(0.63)		0.46		0.11	[円]	N -27° - E	
C	P111	Ⅴ I-2e	—	—	0.09		0.07		—	やや歪な円	N -33° - W	
C	P112	Ⅴ I-1e	箱	2 層	0.51		(0.36)		0.26		N -39° - W	
C	SD04	Ⅳ I -18i	浅鉢	暗灰	1.33		0.29		0.14	長円	N -37° - W	小溝
C	SD05	Ⅳ I -19e・f	浅鉢	5 層	14.7		0.85		0.18	方形周溝状？	N-57 °-W(西側北辺で)	内郭に粘土・炭範囲(礫・遺物含む)有り、N -38° - W(東側長辺で)、新しい溝群
C	SD06	Ⅳ I -19f	浅鉢	暗灰粘質土	2.81		0.79		0.17	東西方向の溝跡	N -49° - E	SD05・14 に切られる 北壁沿いに木杭列？
C	SD07	Ⅴ I -1e・2e	逆台形	1 層	7.101		0.29		0.09	「 ⌐」字状の溝跡	N-56 ° - E・N -18° - W	比高差北→南へ 7㎝、SD8・9 を切る
C	SD08	Ⅴ I -1d・2e	逆台形	1 層	5.72		0.33		0.05	南北方向の溝跡	N -33° - W	比高差北→南へ 14㎝、SD7 に切られる
C	SD09	Ⅴ I -1e	—	灰黄褐色 砂質シルト	2.31		0.26		0.04	南北方向の溝跡	N-19° - E	比高差北→南へ 8㎝、SD7 に切られる。SD7 に切られる
C	SD10	Ⅳ I -20 f	逆台形	1 層	8		0.46		0.25	「 ⌐」字状の溝跡	N -67 ° - E・N -26° - W	比高差北西コーナー→南へ -7㎝、コーナー→東へ -16㎝、C 区では新しい溝群
C	SD11	Ⅳ I -20 f・g	逆台形	1 層	3.58		0.5		0.17	「¬」字状の溝跡	N -28° - W	比高差北→南へ -11㎝、SD22 と同じ溝跡。SD10 に切られ、SD12 を切る
C	SD12	Ⅳ I -20 f	[逆台形]	[1 層]	2.46		-0.16		0.09	南北方向の溝跡	N -32° - W	比高差北→南へ -8㎝、SD10・11 に切られる
C	SD13	Ⅳ I -20 f	[逆台形]	2 層	4.64		0.38		0.08	「 ⌐」字状の溝跡	N -28 ° - W・N -53° - E	比高差北→南北方向なし。東西方向→東へ -11㎝
C	SD14	Ⅳ I -19・20 f	逆台形	2 層	6.46		0.79		0.13	南北方向の溝跡	N -32° - W	比高差 (S D 6 付近から南北方向に傾斜)、北→ -7㎝ 南→へ -7㎝、
C	SD15	Ⅳ I -20 f・Ⅴ I -1 f	鉢	—	4		0.18		0.1	「┘」字状の溝跡	N -20 ° - W・N -56° - E	比高差北→南へ -14㎝、南東コーナー→西 -5.5㎝(北→西 -19.5㎝)、P65 を切る
C	SD16	Ⅳ I -20 f	逆台形	2 層	2.7		0.35		0.15	東西方向の溝跡	N-53° - E	比高差西→東へ -8㎝
C	SD17	Ⅳ I -20e	逆台形	5 層	3.69		0.84		0.16	方形周溝状？	N -21 ° - W・N -47° - E	SD05 と同じ溝跡
C	SD18	Ⅳ I -20 d・Ⅴ I -1 d	[逆台形]	3 層	2.03		0.73		0.2	北東－南西方向の溝跡	N-42° - E	P 68 と切り合い有り
C	SD19	Ⅴ I -1f・Ⅳ I -20 g	逆台形	1 層	5.57		0.24		0.1	東西方向の溝跡	N-67° - E	比高差東→西へ -17㎝、SD10・15、SK16 を切る
C	SD20	Ⅳ I -20 g・Ⅴ I -1 g	逆台形	1 層	4.96		0.38		0.1	南北方向の溝跡	N -24° - W	比高差北→南へ -44㎝、SK19 に切られる
C	SD21	Ⅳ I -20e・Ⅳ I -20 f	[鉢]	—	2.11		0.2		0.05	東西方向の溝跡	N-65° - E	比高差東→西へ -2㎝、SD10・19 に切られる
C	SD22	Ⅳ I -20 f	逆台形	2 層	2.82		0.64		0.1	「∩」字状の溝跡	N -2.5 ° - W・N -66° - E	SD11 と同じ溝、SD12 を切る
C	SD23	Ⅳ I -20e・f	逆台形	2 層	1.65		0.43		0.05	東西方向の溝跡	N-50° - E	SD15 と接続、SK20 に切られる
C	SD25	Ⅳ I -19・20 f	[逆台形]	1 層	1.94		0.24		0.08	「 ⌐」字状の溝跡	N -5° - E	SD26 に切られる。溝群のなかでもっとも古い溝跡
C	SD26	Ⅳ I -20 f	[逆台形]	2 層	1.41		0.45		0.06	東西方向の溝跡	N-73° -E	SD13 に切られる
D	P14	Ⅴ H -5f	—	3 層	(0.46)		(0.41)		(0.07)	[不整形]	N-22-E	
E	SK035	Ⅴ H-5i	逆台形	1 層	0.87	0.49	0.69	(0.23)	0.6	歪んだ楕円	N-21-E	窯壁片が入る
E	SK036	Ⅴ H-5 m	浅皿形	1 層	—	—	—	—	—	—	—	P116 を切る。「∩」字型に礫が配置 東西 1.2m ×南北 0.8m
E	SK037	Ⅴ H-6 m	—	—	—	—	—	—	—	—	—	「C」字型に礫 南北 0.7 ×東西 0.57m
E	SK038	Ⅴ H-6 m	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東西 0.9 ×南北 0.9m に礫配置
E	SK039	Ⅴ H-6 m	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東西 0.5 ×南北 05m に礫配置
E	SK040	Ⅴ H-7 m	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東西 1.78 ×南北 0.5m に礫配置
E	SK041	Ⅴ H-5 n	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東西 0.7 ×南北 0.7m に遺物・礫配置
E	SK042	Ⅴ H-5 n	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東西 1.6 ×南北 0.6m に礫配置
E	SK043	Ⅴ H-5o	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東西 0.3 ×南北 0.6m に礫配置
E	SK054	Ⅴ H-6 m	逆台形	3 層	1.11	0.99	1	0.88	0.37	やや歪む方形	N-92-E	P125 を切る
E	SK055	Ⅴ H-5 n	浅皿	—	東西(0.59)	(0.59)	南北(0.99)	(0.51)	(0.22)	—	—	SB03 と切り合うがベルト内のため詳細は不明
E	SK056	Ⅴ H-5 m・n	浅皿	—	2.17	1.94	0.79	0.32	0.36	やや歪む隅円長方	N-95-W	SB03 を切る
E	SK057	Ⅴ H-5 m	逆台形	9 層	(2.0)	1.55	1.17	0.55	0.35	不整楕円形	N-55-W	SK36・56、P122 に切られる
E	SK058	Ⅴ H-8 n	逆台形	3 層	(1.15)	(0.97)	(1.01)	(0.86)	0.22	不整楕円形	N-24-W	SX02 SK07 に切られる
E	SK059	Ⅴ H-8o	逆台形	3 層	1.5	0.98	1.66	1.22	0.29	歪んだ円	N-5-W	SX02 SK07 と切られる
E	P113	Ⅴ H -5 m	深鉢	3 層	0.34		0.32		0.56	円	N-50° -W	崩落のため精査できなかったが、ロクロピットの可能性が高い
E	P114	Ⅴ H -5 m	深鉢	1 層	0.49		0.42		0.56	円みの強い方	N-61° -W	
E	P115- a	Ⅴ H -5 m	深鉢	軸下・掘り方・軸・軸上	0.44		0.37		0.55(0.17)	隅円方	N-72° -W	P122 と類似。軸穴が底面まで届かず粘土上で固定
E	P115-b	Ⅴ H -5 m	深鉢	—	(0.32)		(0.28)		0.35	円	—	
E	P116	Ⅴ H -5 m	深鉢 段	主 3 層(軸下・掘り方・軸)	0.51		0.51		0.24(0.53)	隅円方	N-43° -W	軸穴下に焼台片を置く。軸は抜き取られたと推察され、強い互層状の粘土で埋め戻しされている
E	P117	Ⅴ H -5 m	逆凸	主 2 層(軸・土坑部)	0.45		0.45		0.25(0.51)	やや歪な隅円方	N-46° -E	小土坑タイプロクロピット
E	P118-a	Ⅴ H -4 m	深鉢	4 層	0.38		0.35		0.42	隅円方	N-30° -E	
E	P118-b	Ⅴ H -4 m	[鉢]	[1 層]	(0.31)		0.35		0.16	隅円方	N-56° -W	
E	P119	Ⅴ H -5 m	鉢	3 層(軸上・軸・掘り方)	0.26		0.24		0.31	隅円方	N-40° -E	小規模なロクロピットと考えられるが不明。軸穴を有する
E	P120	Ⅴ H -4l	鉢	2 層	0.28		0.25		0.54	隅円方	N -40° - E	上部は埋め戻しされたような混在土
E	P121	Ⅴ H -4 m	鉢 段	主 2 層(軸・土坑部)	0.39		0.29		0.22(0.54)	隅円長方	N-60° -W	軸穴内から焼台片出土。小規模な土坑タイプ RP と考えられる
E	P122	Ⅴ H -5 m	深鉢	2 層(軸・掘り方)	0.32		0.28		0.43	円	N-45-W	底部に粘土を詰め軸を固定したと考えられる。P115 と類似
E	P123	Ⅴ H -5 m	深鉢	3 層	0.22		0.21		0.36	隅円方	N-35° -W	覆土上部の外周に青色の強い粘土質シルトを貼ったように見受けられ、ロクロピットの軸穴の可能性がある。上面では確認できなかった
E	P124	Ⅴ H -5 m	深箱	3 層	0.26		0.26		0.51	やや角のある円	N-66-W	SB04 もしくは 03 に関連するピットの可能性がある
E	P125	Ⅴ H -5 m	浅箱	2 層(層間に赤色砂挟む)	(0.38)		0.42		0.07	不整方	N-54° -W	SK54 に切られる
E	P126	Ⅴ H -5 m	鉢	単	0.25		0.22		0.16	隅円方	N-44° -W	
E	P127-a	Ⅴ H -5 m	鉢	単(粘土質シルト)	0.24		0.21		0.11	方	N-41° -E	
E	P127-b	Ⅴ H -5 m	鉢	単(赤褐色土)	(0.17)		(0.15)		0.10	隅円方	N-37° -E	

遺構一覧表

調査区	遺構№	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸(上端)	長軸(下端)	短軸(上端)	短軸(下端)	深さ	平面形	方位	備考
E	P128	VH-5 m	鉢	単(粘土質シルト)	0.18		0.14		0.10	方	N-43°-E	
E	P129-a	VH-4 m	深鉢	4層	(0.28)		(0.25)		(0.40)	隅円方	N-42°-E	SB03に切られる
E	P129-b	VH-4 m	深鉢	2層	(0.18)		(0.24)		(0.38)	[方]	—	SB03に切られる
E	P130	VH-5 m	箱	単(粘土質土)	0.12		0.12		0.09	方	N-14°-W	P128と類似
E	P131	VH-5 m	鉢	単(黄褐色土)	0.23		0.20		0.28	円	N-44°-E	
E	P132	VH-5 m	—	—	0.15		0.13		0.21	円	N-92-W	
E	SB01	V H-4・5 n	浅逆台形	9層						南に張り出しの付く方形	N-4-E	構造はSX06と同じ南に張り出しの付く住居跡。南西のコーナーを撹乱に壊される。
E	―P01	VVH-5 n			0.39		0.36		0..76	不整形	N-86-W	東辺に周溝状の落ち込みがつく。周溝の長さは1.9m、深さは3～6cm
E	―P02	VH-4 n			0.38		0.34		0.6	不整形	N-82-W	北妻は3間で総長約2m、柱間は西から約0.6m、約0.6m、約0.8mである。
E	―P03	VH-4 n			0.27		0.24		0.37	歪む楕円	N-60-W	西側柱列は約1.9m以上、東側柱列は約1.8m以上である
E	―P04	VH-4 n			0.38		0.35		0.4	歪む楕円	N-56-E	方向は北妻でN-94-E、西側柱列でN-5-Eである。
E	―P05	VH-4 n			0.3		0.18		0.06	やや歪む楕円	N-32-E	
E	―P06	VH-5o	深鉢	4層	0.38		0.3		0.42	やや歪む方形	N-33-W	SK42に切られる
E	SB02	VH-3･4 m･n	浅鉢	3層	4.1		2.78		0.18	不整形	N-44-W	東辺を霍乱に壊される、
E	SB03	VH-4･5 m･n		5層						[歪む方形]	北辺でN-79-E	SK55・56・57に切られる
E	-P01	VH-5 m	鉢段	3層(土坑部粘土・軸・掘り方	(0.45)		(0.41)		0.31(0.56)	ほぼ円		SB №を付したが上から掘り込まれている。土坑部分は礫を含む粘土で埋められ、軸穴上には陶器片で蓋をしている。掘り込み外郭に沿って薄く粘質土を貼ったように見受けられる
E	SB04	V H-4 m・n		2層	(4.0)		(1.16)		(0.1)	[歪む方形]	北辺でN-62-E	北辺の一部のみ、SB03に切られる
E	SB05	V H-4 m・n		2層	(4.57)		(2.4)		(0.47)	[歪む方形]	北辺でN-83-E	北辺の一部のみ、SB04に切られる
E	SY01		—		[—]		[—]		[—]	残存部は方形	N-0-W	窯体：三つの掘り込みから成る。南壁沿いに扁平礫(下部掘り込みから直立気味)。掘り直しの一連の遺構と考えられる。古い掘り込みを粘土で充填したものか？灰や炭などの掻き出し遺構かもしれない
E	-SK01	VH-6 q	鉢	主3層(炭・粘土・灰質土)	0.87		0.64		0.19(0.33)	円みの強い長方	N-58°-E	a,b2時期ありか、P7に切られる
E	-SK02	VH-6 p	浅鉢	灰・炭化物など	0.82		0.60		0.22	円みの強い長方	N-50°-E	SK01上部掘り込みと類似
E	-SK03	VH-6 p	丸底箱	灰質土3(層間炭化物葉層)	1.02		0.95		0.45	円みの強い方	N-37°-W	SX15を切る
E	-SK04	VH-6 p	鉢	主単層(軟質赤褐色土)	1.11		(0.92)		0.24	[やや長い円]	N-51°-E	SY01-P01に切られSX15を切る。西側が浅く段状になっており、二つの遺構の切り合いとも考えられるが不明
E	-P01	VH-7 p	丸底鉢	軟質赤褐色土	(0.60)		0.30		0.20	溝状	N-24°-W	SK04を切る、北側にピット状の掘り込みあり、覆土は樹根の多い砂質土で別の掘り込みと思われるが不明。南側は斜面崩落
E	-P02	VH-6 p	鉢	含炭砂質灰褐色土、樹根多	0.34		0.28		0.34	円	N-53-E	P03を切る
E	-P03	VH-6 p	鉢	赤褐色土、樹根多	(0.23)		0.23		0.20	[長円]	N-87-W	P02に切られる
E	-P04	VH-6 p	鉢	軟質黄褐色粗砂質土	0.30		0.22		0.27	円みのある方	N-40-W	P05を切る
E	-P05	VH-6p	鉢	灰黄褐色細砂質土	(0.14)		(0.14)		0.22	円みのある方	N-118-W	P04に切られる
E	-P06	VH-6 q	鉢	赤褐色土	0.24		0.20		0.22	円い長方	N-121-W	
E	-P07	VH-6 q	丸底鉢	主2層(上焼砂・下灰質土)	(0.29)		0.30		0.13	円みのある方	N-15°-W	P08を切る
E	-P08	VH-6 q	鉢	黄褐色砂質土	0.19		0.15		0.16	円い長方	N-5°-W	P07に切られる
E	SX02	VH7付近	[逆台形]	15層	—	—	—	—	—	不整形	—	
E	SK01	VH-7 m	鉢	3層	1.59	0.78	1.18	0.28	0.47	楕円	N-82°-E	北壁に花崗岩巨礫が露出
E	SK02	VH-8 m	箱	10層	1.14	1.03	0.96	0.84	0.36	方形	N-87°-E	上層は粘土で充填されている。
E	SK03	VH-7o	浅鉢	4層	(1.26)	(1.09)	1.1	0.79	0.23	(長楕円)	N-15°-W	窯体片(逆位)で並べる。ヨリなど出土。カマド様の施設の可能性があるが不明、類例はない
E	SK04	VH-7o	段付き逆台形	—	2.28	1.7	1.71	1.05	0.73	やや歪む方形	N-39°-E	巨岩が入る土坑？掘り込み不明
E	SK05	VH-7n	逆台形	5層	1.23	0.89	0.77	0.45	0.09	楕円	N-30°-E	
E	SK06	VH-7n	鉢	—	1.7	1.51	1.32	1.09	0.37	不整楕円	N-85°-E	巨岩が入る土坑？掘り込み不明
E	SK07	VH-8o	浅鉢	2層	2.65	—	1.89	—		不整楕円	—	
E	P01	VH-7n	丸底鉢	3層	0.54	—	0.47	—	0.71	やや歪んだ楕円	N-47°-W	SX02 P01としたが、壁面に彫りこまれた工具痕の凹みであることが判明
E	P02	VH-7n	鉢	3層	0.62	—	0.53	—	0.56	不整形	N-32°-W	仮(b・c)を切る。SX02北壁沿いに並ぶ掘立柱の柱穴と考えられる。重複は建て替えに伴うと思われる。仮(b)は仮(c)を切る
E	P03	VH-7 m	深鉢	2層	0.8	—	0.54	—	0.67	不整形	N-111°-E	上面は粘土敷きに覆われる。(b～d)を切る。SX02北壁沿いに並ぶ掘立柱の柱穴と考えられる。(b)は(a)に切られ(c・d)を切る。(c)は軸固定と推察される礫を伴うロクロピット。(d)柱穴の建て替え？
E	P04	VH-7 m	深鉢段	3層	0.52	—	0.46	—	0.61	やや歪んだ楕円	N-48°-W	SX02北壁沿いに並ぶ掘立柱の柱穴と考えられる
E	P05	VH-7 m	深鉢段	4層	0.54	—	0.36	—	0.59	やや歪んだ楕円	N-55°-W	SX02北壁沿いに並ぶ掘立柱の柱穴と考えられる
E	P06	VH-7n	深鉢	5層	0.72	—	0.55	—	0.67	楕円	N-27°-E	ロクロピット。軸内に挟み皿・匣鉢を倒置して蓋としている
E	P07	VH-8 m	箱	2層	0.38	—	0.38	—	0.47	楕円	N-38°-W	ロクロピット。軸は底面まで届かず掘り方粘土内
E	P08	VH-8 m	箱OH	5層	0.41	—	0.38	—	0.53	やや歪んだ隅円方	N-48°-W	ロクロピット。土坑掘り方に軸より太い筒状の粘土を立て軸の掘り方とし軸を立てて、さらに上部を粘土で固定している。類例は見あたらない
E	P09	VH-7n	鉢	3層	0.47	—	0.36	—	0.42	やや歪んだ隅円方	N-56°-W	ロクロピット
E	P10	VH-7o	深鉢	2層	0.38	—	0.32	—	0.55	やや歪んだ楕円	N-78°-W	
E	P11	VH-7o	箱	1層	0.29	—	0.29	—	0.45	隅円方	N-52°-W	多量の匣鉢(主に逆位)を充填するピット
E	P12	VH-7n	箱段	3層	0.48	—	0.35	—	0.42	隅円方	N-46°-W	ロクロピット
E	P13	VH-7 m	深箱	4層	0.33	—	0.29	—	0.51	やや歪んだ隅円方	N-45°-E	

遺構一覧表

調査区	遺構№	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	断面形	埋土	長軸（上端）	長軸（下端）	短軸（上端）	短軸（下端）	深さ	平面形	方位	備考
E	SX03	V H-6o			(5.12)		(4.02)		0.56	[方形]	N -67- W	東西２間以上、南北２間以上の建物跡
E	P01	V H-6o	段深鉢	５層	0.76		0.46		0.48	長楕円	N -76- W	柱間は西側柱列で約 2m 以上、北側柱列で約 2.8m 以上と推定
E	P02	V H-6o		２層	0.60		0.56		0.39	楕円	N -74- W	方向は北側柱列で N-104-E、西側柱列で N-24-E
E	P03	V H-6o		５層	0.66		0.55		0.69	楕円	N -36- E	北・西辺ともに堀方底面に小 Pit が北辺で７基、西辺で４基並ぶ。
E	P04	V H-7o		４層	0.36		0.36		0.66	楕円	N -71- W	
E	P05	V H-6o		１層	0.27		0.22		0.16	隅円方	N -57- E	
E	P06	V H-6o			0.36		0.26		0.54	隅円方	N -36- E	
E	P07	V H-6o			0.24		0.19		0.12	隅円方	N -38- E	
E	P08	V H-6o			0.20		0.19		0.14	隅円方	N -43- E	
E	P09	V H-6o			0.39		0.26		0.09	長楕円	N -83- E	
E	P10	V H-6o			0.14		0.13		0.09	楕円	N -34- E	
E	P11	V H-6o			0.17		0.15		0.07	隅円方	N -44- W	
E	P12	V H-6o			0.15		0.15		0.07	隅円方	N -51- W	
E	P13	V H-6o			0.19		0.19		0.1	歪む隅円方	N -33- W	
E	P14	V H-6o			0.18		0.16		0.08	歪む隅円方	N -49- E	
E	P15	V H-6o			0.64		0.31		0.21	長楕円	N -27- W	
E	P16	V H-7o			0.59		0.38		0.5	長楕円	N -76- W	
E	P17	V H-6o			0.2		0.17		0.1	隅円方	N -48- W	
E	P18	V H-6o			0.32		0.29		0.24	歪む隅円方	N -35- W	
E	P19	V H-6o			0.19		0.15		0.09	歪む隅円方	N -38- W	
E	遺物											
E	SX04	V H-5o	鉢	３層	(3.76)		(1.49)		0.92	不整形	—	SX5 を切る（断面図 120 参照）
E	SX05	V H-5o			2.39		1.41		0.93	不整楕円	N -46- E	SX4 に切られる（断面図 120 参照）
E	SX06	V H-3i・4m	逆台形	６層	5.82		2.71		0.69	逆凸形	N-3-W	方向は北妻で N-88-E、東側柱列北で N-3-W
E	P01	V H-3i	深鉢		0.21		0.21		0.05	方形	N-46-W	桁行２間、梁行２間、南辺に張り出しの付く建物跡
E	P02	V H-3i	深鉢		0.3		0.28		0.65	方形	N-39-W	梁行 北妻総長 約 2.2m、柱間は西より約 1.1m、約 1.1m、南妻は総長約 2m
E	P03	V H-3 m			0.49		0.33		1.48	長楕円	N-29-W	東側柱 桁行総長約 3.7m、柱間は北から約 2m、約 1.7m
E	P04	V H-3 m	深鉢		0.37		0.24		0.85	長楕円	N-61-E	西側柱 桁行総長約 3.7m、柱間は北から約 1.8m、約 1.9m
E	P05	V H-4 m			0.25		0.24		0.19	楕円	N-59-E	建物内を周溝が巡り、南側の張り出しに接続する。周溝の深さは３～ 5㎝
E	P06	V H-4 m			0.19		0.18		0.23	歪む方形	N-52-E	床面には鞘鉢が配置？北東コーナーの遺物集積とはレベル差があり、別遺構の可能性が高い
E	P07	V H-4i	鉢		0.17		0.17		0.30	方形	N-87-W	
E	P08	V H-3i	深鉢		0.27		0.23		0.41	歪む方形	N-65-W	
E	-SD01	V H-4i	逆台形	２層	2.4		0.42		0.09		N -66°- W	SX06 から延びる溝状遺構と推定。西端は斜面で不明、やや北側に緩く湾曲。覆土は風化花崗岩を含む部分と灰黄褐色土に分かれ、切り合いの可能性がある
E	SX07	V H-5・6 p	箱型		2.82		2.44		0.28	不整形	—	SX09 b → SX07 ≒ 09a
E	SX08	V H-6 p			2.73		1.45		1.56	不整形	—	SX7・10・11 を切る
E	SX09	V H-5o・p	[箱形]		3.27		1.63		0.69	不整形	—	SX09 は a・b あり？（断面図 120 参照）SX09 b → SX07 ≒ 09a
E	SX10	V H-5 p			2.34		2.0		0.66	不整形		SX7・8 に切られ、SX09 を切る
E	SX11	V H-5 p			3.16		1.98		0.48	不整形	—	SX09、12 に切られる
E	SX12	V H-6 p・q			1.97		1.34		0.63	不整形	—	SX11 を切り、SX8、SY01-SK03 に切られる
E	-P01	V H-6 p			0.15		0.14		0.11	隅円方	N-61°-W	
E	-P02	V H-6 p			0.2		0.18		0.28	隅円方	N-44°-W	
E	-P03	V H-6 p			0.18		0.18		0.25	隅円方	N-42°-W	
E	-P04	V H-6 p	深鉢	１層	0.19		0.18		0.30	不整円	N-48°-W	
E	-P05	V H-6 p			0.2		0.18		0.47	不整円	N-28°-W	
E	SX13	V H-7 p	浅皿形		1.86		1.77		0.71	不整形	—	SX14 を切る
E	SX14	V H-7 p			1.63		1.24		0.39	不整形	—	SX13 に切られる
E	SX15	V H-6 p	[逆台形]		[2.18]		[0.79]		0.89	不整形	—	SY01-SK02・03・04 に切られる
B	SK002	Ⅳ I-19j	箱型で中央部で一段窪む	３層	0.87	0.62	(0.47)	(0.32)	0.61	—	N-56-E	南半分を撹乱に壊される 円形状に周りが焼ける
B	SK003	Ⅳ I-18i	箱型	１層	1.314	1.007	1.02	0.89	0.54	隅円方	N-30-W	南東隅木根による撹乱
B	SK006	Ⅳ I-14j	深鉢形	１層	0.61	0.22	0.51	0.18	0.07	歪んだ楕円形	N-61-E	
B	SK007	Ⅳ I-14j	箱形	—	1.1	0.76	(0.54)	(0.31)	0.51	[不整楕円形]	N-20-W	SK34 を切る、礫埋設
B	SK008	Ⅳ I-14j	浅鉢形	１層	0.63	0.41	0.63	0.39	0.21	歪んだ円	—	手実測
B	SK009	Ⅳ I-14j	箱形	２層	0.82	0.39	0.73	0.46	0.49	歪んだ円	—	手実測
B	SK010	Ⅳ I-14j	鉢形	１層	(0.79)	(0.81)	0.34	0.23	0.28	[歪んだ円]	—	手実測
B	SK011	Ⅳ I-14i	浅鉢形	１層	1.16	0.86	(0.86)	(0.69)	0.3	[不整楕円形]	N-72.8-W	南半部撹乱で壊される、SD24 に切られる
B	SK012	Ⅳ I-16j	逆台形	３層	1.27	0.96	1.03	0.58	0.46	やや歪む方形	N-7-W	SK33 と接する
B	SK013	Ⅳ I-16i	箱形	１層	0.47	0.37	0.39	0.19	0.32	楕円	N-58.-E	
B	SK030	Ⅳ I-14j	逆台形	１層	0.5	0.32	0.4	0.26	0.18	歪んだ楕円	N-66-E	SD24 に切られる
B	SK031	Ⅳ I-14j	箱形	３層	1.09	0.77	(0.52)	(0.3)	0.56	—	N-21-W	SK7 に切られる
B	SK032	Ⅳ I-16j	逆台形	２層	0.76	0.58	0.65	0.45	0.21	やや歪む方形	N-37-W	SK33 を切る、P15 と接する
B	SK033	Ⅳ I-16j	[逆台形]	３層	0.65	0.33	(0.54)	(0.35)	0.28	歪んだ楕円	N-37-W	SK12 と接し、SK32 に切られる
B	SK034	Ⅳ I-14j	逆台形	２層	0.83	0.62	0.51	0.34	0.25	やや歪む長楕円	N-106-E	
B	P01	ⅣⅠ-18j	浅皿	暗灰粘質土	0.28		0.26		0.05	やや歪な円	N-26-E	SK02 の北上に隣接
B	P15	ⅣⅠ-16j	—	２層	0.3		0.3		0.66	円	N-85-E	土坑墓付近
B	SE01	ⅣⅠ-15i	箱	５層	(3.99)		3.64		1.17	やや歪む楕円形	N-51°-W	石組井戸
B	SD01	ⅣⅠ-16i	逆台形	１層	2.26		1.14		0.26	南北方向の溝跡	N -38°- E	SE01 から延びる
B	SD02	欠番	逆台形	１層	-		-		-	-	-	ST01 に付随する排水溝として欠番
B	SD03	欠番	-	-	-		-		-	-	-	ST01 に付随する排水溝として欠番
B	SD24	ⅣⅠ-14i・j	逆台形	２層	4.52		1.3		0.55	東西方向の溝跡	N-78°- E	SK11 と切りあい有り
B	SU01	Ⅳ I-14 付近										炉址群付近・後日 SK に変換
B	ST01											Ｂ区南半の段切り（３段）畑

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区	遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
51	1	A	SK01	端反皿	9.0	4.9	2.15	5/12	5/12	V H1r		大 1	—
51	2	A	SK01	端反皿	8.8	5.0	2.5	12/12	12/12	V H1r	印花	大 1	—
51	3	A	SK01	端反皿	10.6	6.7	2.7	2/12	10/12	V H1s	印花	大 1	大 I a
51	4	A	SK01	端反皿	8.8	5.25	2.4	12/12	12/12	V H1r	印花	大 1	—
51	5	A	SK01	端反皿	9.1	4.95	2.4	9/12	12/12	V H1r	印花	大 1	—
	6	A	SK01	匣蓋	13.3	6.1	2.9	9/12	12/12	V H3s		大 1	—
51	7	A	SK01	匣鉢	15.7	12.5	9.7	12/12	12/12	V H1r		—	—
	8	A	SK02	擂鉢	27.0	—	12.7	2/12	—	V H1r		大 2	—
	9	A	SK02	挟み皿	11.9	5.4	3.0	10/12	12/12	—		大 2	—
	10	A	SK02	匣蓋	14.3	7.1	2.8	6/12	12/12	V H1r		—	—
	11	A	SK03	匣鉢	16.47	15.6	10.4	11/12	12/12	V H1r		—	—
	12	A	SK04	挟み皿	12.5	6.0	2.0	12/12	12/12	V H2r		—	—
	13	A	SK05	匣鉢	14.3	6.0	2.7	8/12	12/12	V H1r		—	—
	14	A	SK05	挟み皿	12.2	6.4	5.1	4/12	7/12	V H1r		—	—
	15	A	SK05	匣鉢	12.2	7.0	5.0	6/12	6/12	V H1r		—	—
	16	A	SK05	匣鉢	12.1	5.8	4.8	10/12	12/12	V H1r		—	—
	17	A	SK05	匣鉢	11.5	5.6	4.9	6/12	12/12	V H1r		—	—
	18	A	SK05	匣鉢	11.8	6.2	5.2	5/12	5/12	V H1r		—	—
52	19	A	SK05	匣鉢	11.7	5.6	4.1	11/12	12/12	V H1r		—	—
	20	A	SK05	匣鉢	10.5	6.0	4.2	5/12	5/12	V H1r		—	—
	21	A	SK05	匣鉢	11.6	6.0	4.5	10/12	12/12	V H1r		—	—
	22	A	SK05	匣鉢	11.4	6.4	4.0	6/12	12/12	V H1r		—	—
52	23	A	SK05	匣鉢	11.5	6.1	3.9	12/12	12/12	V H1r		—	—
52	24	A	SK05	匣鉢	11.9	5.7	3.9	12/12	12/12	V H1r		—	—
	25	A	SK05	匣鉢	12.0	5.6	4.0	8/12	12/12	V H1r		—	—
	26	A	SK08	擂鉢	—	9.2	8.3	—	9/12	V H1r		後Ⅳ新	—
	27	A	SK09	天目茶碗	11.7	—	5.45	3/12	—	V H1r		大 1	—
52	28	A	SK09	端反皿	11.2	6.3	2.4	11/12	9/12	V H1r		大 1	—
	29	A	SK09	土瓶か釜	14.2	—	4.7	2/12	—	V H1r		後Ⅳ新 ~ 大 1	—
52	30	A	SK09	挟み皿	11.85	5.1	2.7	12/12	12/12	V H1r		—	—
52	31	A	SK09	挟み皿	11.8	5.7	2.7	12/12	12/12	V H1r		—	—
	32	A	SK09	挟み皿	12.0	4.6	1.9	12/12	12/12	V H1r		—	—
	33	A	SK09	挟み皿	10.7	4.0	2.0	5/12	4/12	V H1r		—	—
	34	A	SK09	匣蓋	13.5	6.8	2.8	12/12	12/12	V H1r		—	—
	35	A	SK09	匣鉢	—	12.0	6.9	—	3/12	V H1r		—	—
	36	A	SK09	匣鉢	12.6	5.5	4.3	12/12	12/12	V H1r		—	—
	37	A	SK09	匣鉢	11.4	6.1	4.3	12/12	12/12	V H1r		—	—
	38	A	SK09	匣鉢	11.8	7.1	4.3	12/12	12/12	V H1r		—	—
	39	A	SK09	匣鉢	12.6	6.6	5.0	12/12	12/12	V H1r		—	—
52	40	A	SK09	匣鉢	11.9	5.5	5.0	12/12	12/12	V H1r		—	—
	41	A	SK09	匣鉢	12.2	6.6	5.5	12/12	12/12	V H1r		—	—
53	42	A	SK12	蓋	13.8	6.0	2.3	9/12	12/12	V H2s		大	—
	43	A	SK12	挟み皿	14.0	6.0	2.3	2/12	5/12	V H2s		—	—
	44	A	SK12	挟み皿	13.0	5.5	2.2	6/12	6/12	V H2s		—	—
	45	A	SK12	匣鉢	12.4	6.0	5.2	4/12	7/12	V H2s		—	—
	46	A	SK24	挟み皿	11.2	5.8	2.0	2/12	6/12	V H1g		—	—
	47	A	SK24	緑釉挟み皿	12.3	5.8	2.55	3/12	12/12	V H1g		—	—
	48	A	SK05	匣鉢	11.9	7.0	4.5	4/12	4/12	V H1r		—	—
	49	A	SK24	匣鉢	11.6	6.9	4.6	8/12	7/12	V H1r		—	—
	50	A	SK28	挟み皿	12.6	5.8	2.3	5/12	12/12	V H1r		—	—
	51	A	SK28	挟み皿	14.2	6.0	2.4	3/12	2/12	V H1r		—	—
	52	A	SK28	匣鉢	13.0	6.0	4.0	5/12	12/12	V H1r		—	—
	53	A	SK30	匣蓋	13.6	6.2	2.3	10/12	12/12	V H1r		—	—
	54	A	SK30	匣鉢	16.4	11.7	11.7	12/12	12/12	V H1r		—	—
	55	A	SK32	端反皿	11.5	6.1	3.0	12/12	12/12	V H1r		大 1	—
	56	A	SK32	匣鉢	11.6	5.9	5.3	12/12	12/12	V H1r		—	—
	57	A	SK40	匣鉢	12.2	6.3	5.2	5/12	12/12	V H1r		—	—
	58	A	SK40	匣鉢	11.5	6.0	4.9	6/12	6/12	V H1r		—	—
53	59	A	SK40	匣鉢	11.5	5.7	4.1	10/12	11/12	V H1r		—	—
	60	A	SK40	匣鉢	11.6	6.5	3.3	12/12	12/12	V H1r		—	—
	61	A	SK40	匣鉢	11.4	5.9	4.0	12/12	12/12	V H1r		—	—
53	62	A	SK40	匣鉢	12.6	5.8	4.3	12/12	12/12	V H1r		—	—
	63	A	SK40	挟み皿	11.5	5.0	2.05	12/12	12/12	V H1r		—	—
	64	A	SK40	匣蓋	11.8	5.1	2.3	11/12	12/12	V H1r		—	—
	65	A	SK40	匣蓋	11.6	5.8	2.2	12/12	12/12	V H1r		—	—
	66	A	SK40	挟み皿	11.8	6.0	2.1	10/12	12/12	V H1r		—	—
	67	A	SK40	挟み皿	12.0	5.5	高 2.4 低 1.7	12/12	12/12	V H1r		—	—
53	68	A	SK40	挟み皿	11.7	5.0	2.5	12/12	12/12	V H1r		—	—
53	69	A	SK40	匣蓋	11.5	5.4	1.6	12/12	12/12	V H1r		—	—
	70	A	SK40	挟み皿	11.65	5.15	2.5	12/12	12/12	V H1r		—	—
53	71	A	SK40	匣蓋	13.75	5.9	2.7	12/12	12/12	V H1r		—	—
53	72	A	SK40	匣蓋	13.6	6.2	2.4	12/12	12/12	V H1r		—	—
	73	A	SK40	挟み皿	11.8	5.0	高 2.8 低 1.7	11/12	12/12	V H1r		—	—
	74	A	SK40	挟み皿	12.0	5.2	高 2.7 低 2.1	12/12	12/12	V H1r		—	—
	75	A	SK40	緑釉挟み皿	11.2	5.0	2.75	3/12	3/12	V H1r		大 1	—
53	76	A	SK40	端反皿	11.0	6.5	2.5	11/12	12/12	V H1r		大 1	—
	77	A	SK40	擂鉢	31.6	—	5.0	2/12	—	V H1r		大 2	—
	78	A	SK40	擂鉢	—	10.0	3.4	—	4/12	V H1r		大 1	大 I a
	79	C	SK48	天目茶碗	10.8	—	6.3	2/12	—	Ⅳ I19f		大 1	—
53	80	C	SK48	端反皿	11.5	6.25	2.75	3/12	12/12	Ⅳ I19t		大 1	大 I
54	81	C	SK48	端反皿	10.9	6.0	2.65	5/12	10/12	Ⅳ I19f	印花	大 1	—
54	82	C	SK48	端反皿	12.8	6.1	2.9	2/12	5/12	Ⅳ I19f		大 1	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区	遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
54	83	C	SK48	端反皿	12.6	6.9	2.95	4/12	12/12	Ⅳ I19f	印花	大１	—
54	84	C	SD01	端反皿	9.0	5.2	2.3	12/12	12/12	Ⅳ H20r	印花	大１	—
	85	C	SK48	縁釉挟み皿	—	5.7	1.8	—	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
54	86	C	SK48	灯明台	12.0	16.0	21.2	6/12	12/12	Ⅳ I19f		—	—
	87	C	SK48	擂鉢	30.4	9.6	12.0	2/12	12/12	Ⅳ I19f		大１後	—
	88	C	SK48	擂鉢	33.8	—	12.9	1/12	—	Ⅳ I19f		大２	—
54	89	C	SK49	皿	11.4	5.0	3.2	10/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
	90	E	SB04	擂鉢	—	10.6	8.8	—	4/12	—		大3?	大Ⅰa
	91	A	P3	擂鉢	29.1	—	9.2	1/12	—	Ⅴ H1r		後Ⅳ新	—
	92	A	P28	匣蓋	14.0	7.2	3.2	8/12	12/12	Ⅴ H1r		—	—
54	93	A	P32	天目茶碗	11.6	—	5.5	9/12	—	Ⅴ H1r		大２	—
	94	A	P45	端反皿	—	4.9	1.1	—	12/12	Ⅳ H20g	印花	大１	—
54	95	A	P45	端反皿	8.95	4.6	2.1	7/12	12/12	Ⅳ H20g	印花	大１	—
	96	A	P45	皿（碁笥底）	11.45	6.55	2.85	4/12	12/12	Ⅳ H20g		大１	—
	97	A	SU02	天目茶碗	12.2	—	5.6	2/12	—	Ⅴ H2t		後Ⅳ新～大１	—
55	98	A	SU02	天目茶碗	12.3	—	6.2	3/12	6/12	Ⅴ H2t		大１	—
55	99	A	SU02	天目茶碗	12.0	—	6.0	10/12	—	Ⅴ H3t		大１	—
	100	A	SU02	天目茶碗	11.5	—	5.5	4/12	—	—		大１	—
55	101	A	SU02	天目茶碗	12.0	—	5.9	5/12	—	Ⅴ H2t		大１	—
	102	A	SU02	天目茶碗	11.0	—	5.6	4/12	2/12	Ⅴ H2t		大１後半	—
	103	A	SU02	天目茶碗	—	4.4	2.4	—	12/12	Ⅴ H2t		大１	—
55	104	A	SU02	丸碗	10.95	5.6	5.8	3/12	12/12	Ⅴ H3s		大１	—
	105	A	SU02	縁釉挟み皿	12.0	5.15	2.6	11/12	12/12	Ⅴ H3t		大１	—
55	106	A	SU02	縁釉挟み皿	12.0	6.0	2.35	7/12	12/12	Ⅴ H3t		大１	—
55	107	A	SU02	端反皿	8.35	5.2	2.0	10/12	12/12	Ⅴ H3t		大１	—
55	108	A	SU02	端反皿	10.8	6.3	2.55	5/12	6/12	Ⅴ H2t		大１	—
56	109	A	SU02	端反皿	11.1	6.7	2.8	11/12	12/12	Ⅴ I3c		大１	—
	110	A	SU02	端反皿	11.2	6.0	2.85	7/12	12/12	Ⅴ I3c		大１	—
56	111	A	SU02	端反皿	11.0	5.8	2.75	12/12	12/12	Ⅴ H3t		大１	—
56	112	A	SU02	端反皿	11.7	6.3	2.8	7/12	9/12	Ⅴ H3t		大１	—
	113	A	SU02	端反皿	11.7	6.1	2.6	7/12	12/12	—		大１	—
56	114	A	SU02	端反皿	10.9	6.35	2.2	6/12	11/12	Ⅴ H3t		大１	—
56	115	A	SU02	端反皿	上 13.3 下 11.5	上 5.8 下 6.2	上 2.5 下 2.5	上 5/12 下 12/12	上 12/12 下 12/12	Ⅴ H3s	蓋＋端反皿	大１	—
56	116	A	SU02	端反皿	上 11.7 中 11.5 下 11.5	上 5.3 中 6.3 下 6.0	上 2.8 中 2.7 下 2.9	上 6/12 中 12/12 下 5/12	上 6/12 中 12/12 下 5/12	Ⅴ H3t	端反皿×２＋挟み皿	大１	—
57	117	A	SU02	口広有耳壷	11.0	8.8	13.2	1/12	7/12	Ⅴ H3t		後Ⅳ新～大２	—
	118	A	SU02	釜	14.1	—	8.1	3/12	—	Ⅴ H3t		後Ⅳ新～大２	—
	119	A	SU02	釜	—	11.2	10.2	—	5/12	Ⅴ H3t		後Ⅳ新～大２	—
	120	A	SU02	釜	—	9.2	4.4	—	12/12	Ⅴ H3s		後Ⅳ新～大２	—
	121	A	SU02	擂鉢	24.8	—	8.9	4/12	—	Ⅴ H3s		大１	—
57	122	A	SU02	擂鉢	28.4	9.8	10.1	7/12	4/12	Ⅴ H3t		大１	—
	123	A	SU02	擂鉢	36.0	—	12.5	3/12	—	Ⅴ H3t		大１	—
57	124	A	SU02	擂鉢	28.1	8.9	11.6	6/12	12/12	Ⅴ H3t		大１	—
	125	A	SU02	擂鉢	36.8	—	9.5	3/12	—	Ⅴ H3t		２類の大２後半	大Ⅰa
	126	A	SU02	擂鉢	28.0	9.4	10.8	3/12	2/12	—		後Ⅳ新	大Ⅰa
	127	A	SU02	天目茶碗	13.4	—	6.0	9/12	—	Ⅴ H3t		後Ⅳ新	—
	128	A	SU02	丸碗連弁	12.0	—	4.7	2/12	—	Ⅴ H1s		大１	—
	129	A	SU02	端反皿	11.2	6.0	3.5	2/12	—	Ⅴ H3t		大１	—
	130	A	SU02	匣蓋	13.45	5.2	2.2	12/12	12/12	Ⅴ H3t		—	—
	131	A	SU02	挟み皿	11.8	5.15	2.5	9/12	12/12	Ⅴ H3s		—	—
	132	A	SU02	匣鉢	上 12.0 下 14.6	上 下 6.6	上 4.6 下 3.2	上 7/12 下 10/12	上 7/12 下 12/12	Ⅴ H3t	匣鉢＋匣蓋	—	—
	133	A	SU02	匣鉢	11.25	7.0	3.8	9/12	12/12	Ⅴ H3t		—	—
57	134	A	SU02	端反皿	上 10.7 下	上 7.1 下	上 2.6 下 3.0	上 10/12 下	上 12/12 下	Ⅴ H3t	端反皿×２	大１	—
	135	A	SU02	匣鉢	11.05	6.2	4.3	9/12	12/12	Ⅴ H3s		—	—
57	136	A	SU02	匣鉢	11.3	6.7	4.2	8/12	12/12	Ⅴ H3t		—	—
	137	A	SU02	匣鉢	10.9	6.2	4.4	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	138	A	SU02	匣鉢	10.0	5.6	3.15	10/12	12/12	Ⅴ H3t		—	—
	139	A	SU02	壷	13.7	—	7.0	2/12	—	Ⅴ H2s		—	大Ⅰa
	140	A	SU02	匣鉢	14.0	11.4	9.8	9/12	12/12	Ⅴ H3t		—	—
	141	A	SU02	匣鉢	14.4	11.3	9.9	7/12	12/12	Ⅴ H3t		—	—
	142	A	SU02	匣鉢	15.2	13.0	10.1	12/12	12/12	Ⅴ H2t		—	—
	143	A	SU03	匣鉢	15.5	12.2	11.1	6/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	144	A	SU03	匣鉢	15.1	12.0	10.3	7/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	145	A	SU03	匣鉢	15.3	11.8	11.4	10/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
57	146	A	SU03	匣鉢	15.3	12.5	11.2	9/12	12/12	—		—	—
58	147	A	SU03	匣鉢	15.4	11.8	11.2	8/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	148	A	SU03	匣鉢	14.8	11.9	9.8	12/12	12/12	—		—	—
58	149	A	SU03	匣鉢	16.0	12.3	10.6	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
58	150	A	SU03	匣鉢	14.8	12.1	10.7	12/12	12/12	—		—	—
	151	A	SU03	匣鉢	16.4	13.6	10.2	12/12	12/12	—		—	—
	152	A	SU03	匣鉢	14.2	10.8	10.0	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
58	153	A	SU03	匣鉢	上 15.6 下 12.2	上 14.2 下 5.6	上 10.5 下 1.6	上 12/12 下	上 12/12 下	Ⅴ H1s	匣鉢＋挟み皿	大１	—
58	154	A	SU03	匣鉢	19.6	14.1	9.2	5/12	12/12	—		—	—
59	155	A	SU03	匣鉢	20.4	16.8	7.0	11/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	156	A	SU03	匣鉢	19.8	15.7	7.1	4/12	5/12	—		—	—
	157	A	SU03	匣鉢	11.6	6.5	4.3	5/12	7/12	—		—	—
	158	A	SU03	匣鉢	11.2	5.0	4.4	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	159	A	SU03	匣鉢	12.3	6.1	4.8	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	160	A	SU03	匣鉢	11.8	5.8	5.1	10/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	161	A	SU03	匣鉢	11.3	6.0	4.2	11/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区	遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	162	A	SU03	匣鉢	11.6	6.3	4.8	11/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	163	A	SU03	匣鉢	11.9	6.0	4.3	8/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	164	A	SU03	匣鉢	12.2	6.4	4.6	11/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
59	165	A	SU03	匣鉢	20.8	15.4	7.5	6/12	12/12	Ⅴ H1t	文様	—	—
59	166	A	SU03	匣鉢	24.0	15.6	8.2	10/12	12/12	Ⅴ H1s	文様	—	—
59	167	A	SU03	端反皿	11.1	6.1	3.4	7/12	7/12	Ⅴ H1t	重ね	大１	大Ⅰａ
	168	A	SU03	挟み皿	11.6	5.5	2.0	4/12	6/12	Ⅳ H20t	凸円	—	—
	169	A	SU03	挟み皿	11.4	5.4	2.1	7/12	7/12	Ⅴ H1s	押印○	—	—
	170	A	SU03	挟み皿	13.0	5.0	1.7	3/12	6/12	Ⅴ H1s	押印◎	—	—
59	171	A	SU03	挟み皿	14.3	6.2	2.1	10/12	12/12	Ⅴ H1t	三条＋文字	—	—
60	172	A	SU03	挟み皿	14.5	6.4	1.9	6/12	10/12	Ⅴ H1t	波状	—	—
60	173	A	SU03	緑釉挟み皿	11.8	5.2	2.3	10/12	12/12	Ⅴ H1s		大１	—
	174	A	SU03	緑釉挟み皿	12.4	6.0	2.7	11/12	12/12	Ⅴ H1t		大１	—
	175	A	SU03	緑釉挟み皿	12.7	6.0	2.7	4/12	12/12	Ⅴ H1t		大１	—
	176	A	SU03	緑釉挟み皿	12.0	5.6	3.2	9/12	12/12	Ⅴ H1s		大１	—
	177	A	SU03	腰折皿	10.6	5.6	2.2	4/12	6/12	—		後Ⅳ新	—
	178	A	SU03	緑釉挟み皿	12.1	6.4	2.5	9/12	12/12	—		大１	—
	179	A	SU03	挟み皿	11.8	6.0	2.2	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	180	A	SU03	挟み皿	11.1	5.5	2.5	12/12	12/12	Ⅴ H2t		大１	—
	181	A	SU03	挟み皿	11.4	5.2	2.4	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	182	A	SU03	挟み皿	12.3	6.0	3.4	8/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	183	A	SU03	挟み皿	12.2	5.8	2.4	9/12	10/12	Ⅴ H1t		—	—
	184	A	SU03	挟み皿	12.0	5.9	2.3	7/12	12/12	Ⅴ H2t		大１・２	—
	185	A	SU03	挟み皿	12.0	5.55	2.6	6/12	12/12	Ⅳ H20t		大１	—
	186	A	SU03	挟み皿	12.2	5.4	2.9	11/12	12/12	Ⅴ H2t		大１	—
	187	A	SU03	挟み皿	12.2	5.2	2.7	6/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	188	A	SU03	緑釉挟み皿	12.7	6.65	2.75	7/12	10/12	—		大１	—
	189	A	SU03	挟み皿	12.3	5.5	3.0	6/12	12/12	Ⅴ H1s		大１	—
	190	A	SU03	挟み皿	12.0	6.1	2.6	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	191	A	SU03	挟み皿	12.4	6.2	2.0	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	192	A	SU03	挟み皿	12.5	6.7	2.3	9/12	12/12	—		—	—
	193	A	SU03	挟み皿	12.8	5.6	2.8	8/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	194	A	SU03	匣蓋	13.6	5.7	2.2	11/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	195	A	SU03	挟み皿	13.4	5.6	2.4	8/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	196	A	SU03	挟み皿	13.2	6.2	2.7	7/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	197	A	SU03	挟み皿	12.5	5.2	3.2	9/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	198	A	SU03	挟み皿	12.5	6.0	3.0	7/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	199	A	SU03	挟み皿	13.6	5.6	2.7	8/12	12/12	—		—	—
	200	A	SU03	匣蓋	13.9	5.7	2.4	9/12	12/12	—		—	—
60	201	A	SU03	匣蓋	14.8	7.8	2.8	12/12	12/12	Ⅴ H2t		—	—
60	202	A	SU03	緑釉挟み皿	12.1	6.1	4.0	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
60	203	A	SU03	挟み皿	12.0	6.4	2.7	12/12	12/12	Ⅴ H1s	文様	大１・２	—
	204	A	SU03	匣蓋	11.9	5.7	2.1	12/12	12/12	—	一文字	—	—
60	205	A	SU03	挟み皿	11.9	5.3	2.3	12/12	12/12	—	一文字	—	—
	206	A	SU03	匣蓋	12.0	5.6	2.2	12/12	12/12	—	一文字	—	—
	207	A	SU03	挟み皿	12.5	6.1	2.6	12/12	12/12	Ⅴ H2t	一文字	大１	—
60	208	A	SU03	緑釉挟み皿	11.1	4.9	2.5	9/12	12/12	—		—	—
	209	A	SU03	挟み皿	11.6	5.6	2.3	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
61	210	A	SU03	挟み皿	11.8	6.2	2.8	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	211	A	SU03	挟み皿	12.1	5.8	2.8	10/12	12/12	—		—	—
61	212	A	SU03	挟み皿	12.2	5.6	2.5	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
	213	A	SU03	天目茶碗	11.3	4.6	6.15	2/12	12/12	Ⅴ H2t		後Ⅳ新～大１	—
61	214	A	SU03	天目茶碗	12.2	4.0	7.5	3/12	12/12	Ⅴ H1t		大１	—
	215	A	SU03	天目茶碗	12.0	—	5.1	6/12	—	Ⅴ H1t		大１	—
	216	A	SU03	天目茶碗	12.2	—	5.85	4/12	—	—		大１	—
	217	A	SU03	天目茶碗	12.4	—	5.9	4/12	—	—		大１	—
61	218	A	SU03	丸碗	11.8	6.0	6.4	4/12	12/12	—		大１	—
61	219	A	SU03	丸碗	11.6	5.6	6.7	11/12	12/12	—		大１	—
61	220	A	SU03	丸碗	11.5	—	5.3	3/12	—	—		大１	—
61	221	A	SU03	稜花皿	10.5	5.6	2.8	9/12	12/12	Ⅴ H2t		大１	—
62	222	A	SU03	丸皿	11.9	6.0	2.5	3/12	6/12	Ⅴ H1s	鉄釉	大１	—
	223	A	SU03	端反皿	10.9	5.4	3.0	1/12	6/12	Ⅴ H1s		大３	—
62	224	A	SU03	端反皿	11.6	6.3	2.55	6/12	12/12	Ⅴ H1o	印花	大１	—
62	225	A	SU03	端反皿	9.1	5.1	2.25	5/12	12/12	Ⅳ H20t	印花	大１	—
62	226	A	SU03	端反皿	9.1	4.9	2.1	5/12	7/12	Ⅴ H1s	印花	大１	—
62	227	A	SU03	端反皿	11.0	6.3	2.7	4/12	12/12	Ⅴ H1s	印花	大１	—
62	228	A	SU03	端反皿	11.3	5.95	2.9	4/12	12/12	Ⅳ H20t	印花	大１	—
62	229	A	SU03	端反皿	11.8	6.0	2.9	10/12	12/12	Ⅴ H2t	印花	大１	—
63	230	A	SU03	端反皿	11.7	6.5	2.7	5/12	12/12	Ⅴ H1s	印花	大１	大Ⅰａ
63	231	A	SU03	端反皿	9.5	5.8	2.1	9/12	12/12	Ⅴ H1s	印花	大１	大Ⅰａ
63	232	A	SU03	端反皿	11.2	6.4	2.95	4/12	12/12	Ⅴ H1o	印花	大１	—
	233	A	SU03	端反皿	—	6.2	2.4	—	12/12	—	印花	大１	—
63	234	A	SU03	端反皿	12.4	5.8	2.5	2/12	12/12	Ⅴ H1t	印花	大１	—
63	235	A	SU03	端反皿	12.5	5.9	5.1	12/12	12/12	Ⅴ H1s	端反皿＋挟み皿	大１	—
	236	A	SU03	壷	—	8.8	6.3	—	5/12	—		後Ⅳ新～大２	—
	237	A	SU03	丸皿	9.1	5.1	2.2	3/12	2/12	Ⅳ H20t		大２	—
63	238	A	SU03	端反皿	9.4	5.2	2.1	11/12	12/12	Ⅴ H1s		大１	大Ⅰａ
	239	A	SU03	端反皿	11.1	6.0	2.9	6/12	12/12	Ⅴ H1s		大１	—
64	240	A	SU03	端反皿	10.6	6.8	2.6	12/12	12/12	—		大１	—
63	241	A	SU03	端反皿	11.0	6.5	2.7	12/12	12/12	—		大１	—
64	242	A	SU03	端反皿	11.1	6.1	2.6	10/12	12/12	Ⅴ H2t		大１	—
64	243	A	SU03	端反皿	11.3	6.45	2.8	12/12	12/12	—		大１	—
	244	A	SU03	端反皿	11.0	6.9	2.4	10/12	12/12	—		大１	—
	245	A	SU03	端反皿	11.1	5.7	2.75	12/12	12/12	—		大１	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	246	A SU03	端反皿	11.4	6.4	2.5	10/12	12/12	—		大 1	—
64	247	A SU03	端反皿	11.0	6.3	2.8	5/12	2/12	Ⅴ H1o		大 1	—
	248	A SU03	端反皿	11.3	6.7	2.8	11/12	12/12	—		大 1	—
	249	A SU03	端反皿	11.0	6.5	2.8	8/12	12/12	—		大 1	—
	250	A SU03	端反皿	11.2	5.5	2.55	9/12	12/12	—		大 1	—
	251	A SU03	端反皿	11.1	5.8	2.8	10/12	8/12	—		大 1	—
	252	A SU03	端反皿	11.3	6.5	2.9	11/12	12/12	—		大 1	—
	253	A SU03	端反皿	11.4	6.6	2.8	10/12	12/12	—		大 1	—
	254	A SU03	端反皿	11.4	6.7	2.8	7/12	7/12	Ⅳ H20t		大 1	—
	255	A SU03	端反皿	11.0	6.5	2.8	7/12	12/12	—		大 1	—
	256	A SU03	端反皿	11.3	6.6	3.0	8/12	12/12	—		大 1	—
	257	A SU03	端反皿	11.45	6.7	2.7	9/12	12/12	Ⅳ H20t		大 1	—
	258	A SU03	端反皿	11.55	6.25	2.85	12/12	12/12	—		大 1	—
	259	A SU03	端反皿	11.65	6.8	2.85	12/12	12/12	—		大 1	—
64	260	A SU03	端反皿	11.7	5.7	2.9	8/12	12/12	Ⅳ H20t		大 1	—
	261	A SU03	端反皿	11.65	6.25	2.85	10/12	12/12	—		大 1	—
	262	A SU03	端反皿	11.8	6.4	2.7	12/12	12/12	—		大 1	—
	263	A SU03	端反皿	11.8	7.6	2.7	1/12	6/12	—		大 1	—
	264	A SU03	端反皿	11.75	6.6	3.1	9/12	12/12	—		大 1	—
	265	A SU03	端反皿	11.95	7.1	3.0	9/12	12/12	Ⅳ H20t		大 1	—
	266	A SU03	端反皿	11.2	7.0	3.9	4/12	4/12	—		大 1	—
64	267	A SU03	端反皿	11.0	6.35	2.6	8/12	12/12	Ⅴ H1o		大 1	—
64	268	A SU03	端反皿	10.8	5.9	2.4	10/12	10/12	—		大 1	—
65	269	A SU03	土鍋か釜	15.0	12.6	18.1	6/12	6/12	—		後Ⅳ新～大 1	—
	270	A SU03	土鍋か釜	14.2	—	7.7	2/12	—	—		後Ⅳ新～大 1	—
	271	A SU03	土鍋か釜	13.5	—	8.3	4/12	—	—		後Ⅳ新～大 1	—
	272	A SU03	土鍋か釜	14.8	—	8.7	2/12	—	Ⅴ H1t		後Ⅳ新～大 1	—
	273	A SU03	土鍋か釜	—	11.8	9.8	—	12/12	Ⅴ H1t		後Ⅳ新～大 1	—
	274	A SU03	土鍋か釜	—	9.4	7.8	—	3/12	Ⅴ H1t		大 1・2	—
65	275	A SU03	土鍋か釜	—	12.0	13.7	—	12/12	Ⅴ H2t		後Ⅳ新～大 1	—
65	276	A SU03	甕	19.2	—	11.7	4/12	—	Ⅳ H20t		大 1・2	大Ⅰa
65	277	A SU03	卸目付大皿	40.8	13.6	11.3	4/12	6/12	Ⅳ H20t		後Ⅳ新	—
	278	A SU03	擂鉢	27.8	9.8	10.0	3/12	3/12	Ⅴ H3t		後Ⅳ新	—
	279	A SU03	擂鉢	42.0	—	14.4	4/12	—	Ⅴ H1o		大 1	—
	280	A SU03	擂鉢	36.0	10.6	14.4	3/12	2/12	Ⅴ H1o		大 1	—
	281	A SU03	擂鉢	29.2	10.8	11.3	3/12	4/12	—		大 1	—
	282	A SU03	擂鉢	29.2	9.1	10.9	3/12	2/12	Ⅴ H1t		後Ⅳ新～大 1	—
65	283	A SU03	擂鉢	28.1	10.4	10.5	5/12	12/12	Ⅴ H1t		大 1	—
	284	A SU03	擂鉢	29.6	9.5	11.2	4/12	7/12	Ⅴ H1o		大 1	—
65	285	A SU03	擂鉢	30.0	9.1	10.6	5/12	12/12	Ⅴ H1t		大 1	—
	286	A SU03	擂鉢	28.8	10.2	11.8	3/12	3/12	Ⅳ H20t		大 1 後半	—
66	287	A SU03	擂鉢	36.2	11.0	13.8	12/12	12/12	—		大 1	—
	288	A SU03	擂鉢	39.8	—	16.1	3/12	—	Ⅴ H1o		大 1	—
66	289	A SU03	擂鉢	29.4	9.2	12.2	11/12	12/12	Ⅳ H20s		大 2 後半	—
66	290	A SU03	擂鉢	29.8	9.5	12.2	6/12	12/12	Ⅳ H20s		大 2 前半	—
	291	A SU03	擂鉢	28.8	10.0	11.9	1/12	6/12	—		大 2	—
	292	A SU03	擂鉢	39.2	11.6	16.2	5/12	1/12	—		大 2	—
66	293	A SU03	擂鉢	38.3	10.3	15.2	7/12	7/12	—		大 2	—
	294	A SU03	端反皿	12.4	7.2	2.2	4/12	4/12	Ⅴ H1t	穿孔	大 1	大Ⅰa
67	295	A SU03	匣鉢	16.7	13.9	10.8	5/12	5/12	Ⅳ H20s		—	—
67	296	A SU03	匣鉢	11.9	5.9	4.0	4/12	12/12	Ⅴ H3s		—	—
	297	A	不明	最大径 3.2	—	厚み 1.2	—	—	—		—	—
76	298	A	狛犬	最大幅 6.2	前後幅 9.0	現存高 14.0	—	—	胴部～台座 Ⅳ H8t 台座 Ⅴ H2t Ⅴ H2s Ⅴ H8i 脚 Ⅴ H1s Ⅳ H20t Ⅴ H3t		—	大Ⅰa
	299	A	狛犬台座	最大幅 5.1	前後幅 4.3	現存高 1.1	—	—	Ⅴ H2s		—	大Ⅰa
	300	A	狛犬台座	最大幅 6.1	前後幅 6.1	現存高 1.6	—	—	Ⅴ H2t		—	大Ⅰa
	301	A	狛犬脚	最長幅 1.1	最短幅 1.0	—	—	—	Ⅳ H20t		—	大Ⅰa
	302	A	狛犬脚	最長幅 1.2	最短幅 1.0	—	—	—	Ⅴ H3t		—	大Ⅰa
67	303	A	天目茶碗	12.4	—	5.8	6/12	—	Ⅴ H3s		後Ⅳ新～大 1	—
67	304	A	天目茶碗	11.8	4.5	5.8	10/12	12/12	Ⅴ H1s		大 1	—
67	305	A	天目茶碗	11.8	4.5	7.2	4/12	12/12	Ⅳ H20a		大 1	—
67	306	A	天目茶碗	12.2	4.1	6.6	5/12	12/12	Ⅴ H2s		大 1	大Ⅰa
67	307	A	天目茶碗	11.2	—	5.7	3/12	—	Ⅴ H3s		大 1・2	—
	308	A	丸碗	12.0	—	5.0	2/12	—	Ⅴ H1s		大 1	—
67	309	A	丸碗	12.0	5.4	6.5	12/12	8/12	Ⅴ H2a		大 1	—
	310	A	丸碗	12.0	—	4.7	2/12	—	Ⅴ H1s	連弁	大 1	—
68	311	A	丸碗	11.8	5.6	6.3	7/12	12/12	Ⅴ H2s		大 1	大Ⅰa
	312	A	端反皿	—	5.8	1.7	—	5/12	Ⅴ H1s	印花	大 1	—
	313	A	端反皿	8.2	5.0	2.1	2/12	3/12	Ⅳ H19f		大 1	—
67	314	A	端反皿	8.8	5.3	2.4	5/12	8/12	Ⅳ H19s		大 1	大Ⅰa
	315	A	端反皿	8.9	5.8	2.1	3/12	3/12	Ⅴ H3t		大 1	—
	316	A	端反皿	9.4	5.1	2.5	4/12	6/12	Ⅳ H19t		大 1	—
	317	A	腰折皿	10.8	5.3	2.6	9/12	12/12	Ⅳ H20r		後Ⅳ新	—
	318	A	端反皿	11.4	6.1	2.7	12/12	12/12	Ⅳ H20r		大 1	—
	319	A	端反皿	11.2	6.2	2.7	8/12	12/12	Ⅳ H19s		大 1	—
68	320	A	端反皿	11.2	7.0	2.6	11/12	12/12	Ⅳ H20r		大 1	—
	321	A	端反皿	11.0	6.3	2.8	11/12	8/12	Ⅳ H20r		大 1	—
	322	A	端反皿	11.3	6.8	2.8	12/12	12/12	Ⅳ H20r		大 1	—
	323	A	端反皿	11.2	6.2	2.6	12/12	12/12	Ⅳ H20a		大 1	—
68	324	A	端反皿	11.0	6.4	2.6	4/12	12/12	Ⅳ H19s		大 1	—
	325	A	端反皿	11.4	6.2	2.7	10/12	12/12	Ⅳ H20r		大 1	—
	326	A	端反皿	11.7	6.0	2.6	12/12	10/12	Ⅳ H20r		大 1	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
68	327	A	端反皿	11.6	6.1	2.4	6/12	9/12	Ⅴ I3a		大１	—
	328	A	端反皿	11.4	6.3	2.8	7/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	329	A	端反皿	11.7	6.6	2.8	11/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	330	A	端反皿	11.3	4.3	2.7	10/12	10/12	Ⅳ H20r		大１	—
	331	A	端反皿	11.3	6.5	2.55	6/12	12/12	Ⅴ H3t		大１	—
	332	A	端反皿	11.5	6.2	2.8	12/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	333	A	端反皿	11.6	6.7	2.8	9/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	334	A	端反皿	11.8	6.1	2.8	8/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	335	A	端反皿	11.8	6.4	2.8	11/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	大Ⅰa
	336	A	端反皿	11.4	6.4	2.8	7/12	11/12	Ⅳ H20r		大１	—
	337	A	端反皿	11.4	6.7	2.75	3/12	12/12	Ⅴ H1t		大１	—
	338	A	端反皿	11.2	5.8	2.7	4/12	6/12	Ⅳ H20r		大１	—
	339	A	端反皿	11.2	6.1	2.9	9/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	340	A	端反皿	11.4	6.0	2.6	7/12	5/12	Ⅳ H20r		大１	—
	341	A	端反皿	11.6	6.4	2.6	2/12	5/12	Ⅳ H20r		大１	—
	342	A	端反皿	11.7	6.4	2.7	11/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
68	343	A	端反皿	12.0	6.1	2.7	10/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	344	A	端反皿	12.1	7.1	2.6	1/12	11/12	Ⅴ H1r		大１	—
	345	A	端反皿	11.4	6.2	2.8	5/12	12/12	Ⅴ H1t	印花	大１	大Ⅰ
	346	A	端反皿	9.5	5.2	2.55	8/12	12/12	Ⅴ H1r	印花	大１	—
	347	A	端反皿	9.4	5.6	2.6	8/12	11/12	Ⅳ H20r	印花	大１	—
68	348	A	端反皿	9.2	5.4	2.6	12/12	12/12	Ⅳ H20r	印花	大１	—
	349	A	端反皿	—	3.2	1.7	—	8/12	Ⅴ H1s	印花	大１・２	—
	350	A	端反皿	11.5	6.0	2.8	8/12	11/12	—	印花	大１	—
	351	A	端反皿	—	6.0	2.6	—	12/12	Ⅴ I2a	印花	大１	—
	352	A	端反皿	11.9	6.6	3.0	4/12	5/12	Ⅳ H20r	印花	大１	—
	353	A	端反皿	9.4	5.2	2.7	1/12	12/12	Ⅳ I19f	印花	大１	—
	354	A	端反皿	9.0	5.0	2.1	7/12	12/12	Ⅴ H2t	印花	大１	—
	355	A	端反皿か丸皿	7.3	4.9	1.3	—	10/12	Ⅴ H1s	印花	大１・２	—
	356	A	端反皿	11.4	5.8	3.1	10/12	10/12	Ⅳ H20r	印花	大１	—
	357	A	端反皿	12.2	7.0	2.6	3/12	5/12	Ⅳ H20r		大１	—
68	358	A	端反皿	11.2	7.0	2.5	3/12	6/12	Ⅴ H3s		大１	—
69	359	A	端反皿	11.2	6.2	2.4	5/12	12/12	Ⅴ H2s		大１	大Ⅰa
69	360	A	端反皿	10.4	5.9	3.3	6/12	12/12	Ⅴ H2s		大１	—
	361	A	端反皿	10.7	5.6	2.5	3/12	9/12	Ⅴ H2s		大１	—
69	362	A	端反皿	11.0	5.8	2.7	5/12	12/12	Ⅴ H2s		大１	—
	363	A	端反皿	11.7	6.2	2.15	2/12	6/12	Ⅴ H3t		大１	—
	364	A	丸皿	11.7	6.8	2.8	3/12	12/12	Ⅴ H2s	印花	大２	—
69	365	A	丸皿	11.8	6.6	2.8	10/12	9/12	Ⅴ H2t	印花	大２後	—
	366	A	丸皿	9.0	5.2	2.4	11/12	12/12	Ⅴ H1s	印花	大２	—
	367	A	端反皿	8.1	4.8	2.2	1/12	3/12	Ⅴ H2t	ソギ	大１	—
69	368	A	稜皿	11.1	5.0	2.3	4/12	4/12	Ⅴ H1s	鉄釉	大２	—
70	369	A	端反皿	11.4	6.5	2.7	2/12	3/12	Ⅴ I2a		大１	—
	370	A	丸皿？	12.3	5.0	2.1	1/12	7/12	Ⅴ H1r	器種不明　鉄釉　碁笥底	—	—
	371	A	端反皿	11.1	5.05	2.65	6/12	12/12	Ⅳ H20q・r	碁笥底	大１	—
70	372	A	丸皿	11.5	5.6	2.9	1/12	10/12	Ⅳ I20a	碁笥底	大２	—
70	373	A	稜皿	10.2	4.8	2.2	4/12	10/12	Ⅴ H1r	碁笥底	大２	—
70	374	A	稜皿	11.8	6.8	2.1	6/12	6/12	Ⅴ H1s	碁笥底	大２前	大Ⅰb
70	375	A	稜皿	11.1	5.8	2.0	3/12	6/12	Ⅴ H1s	碁笥底	大２	—
	376	A	腰折皿	11.4	4.9	2.2	3/12	12/12	Ⅴ H2s		後Ⅳ新	—
	377	A	縁釉挟み皿	10.9	5.3	2.5	4/12	6/12	Ⅴ H3s		大１	—
70	378	A	縁釉挟み皿	12.2	5.8	2.7	12/12	12/12	Ⅴ I2a		大１	—
	379	A	挟み皿	12.4	5.6	2.3	1/12	7/12	Ⅴ H3s		大１	—
	380	A	挟み皿	12.9	5.5	2.6	4/12	6/12	Ⅴ H3t		大１・２	—
	381	A	燭台	15.0	—	3.0	3/12	—	Ⅳ H15s		大１・２	—
71	382	A	蓋	17.6	—	1.1	5/12	—	Ⅳ H19s		大１・２	—
71	383	A	蓋	17.8	14.8	1.05	1/12	—	Ⅴ H1s		大１・２	—
	384	A	擂鉢	27.6	8.4	10.5	1/12	4/12	Ⅴ H3s		後Ⅳ新	大Ⅰa
71	385	A	擂鉢	29.6	8.8	11.3	5/12	12/12	Ⅴ H1s		後Ⅳ新	大Ⅰa
	386	A	擂鉢	30.4	11.2	11.9	2/12	3/12	Ⅳ H20s		後Ⅳ新	—
	387	A	擂鉢	27.0	8.6	11.0	2/12	5/12	Ⅴ H3s		後Ⅳ新	—
	388	A	擂鉢	27.0	9.8	11.0	3/12	4/12	Ⅳ H20r		後Ⅳ新	—
	389	A	擂鉢	27.4	9.8	10.9	2/12	3/12	Ⅴ H1t		後Ⅳ新	—
	390	A	擂鉢	26.7	9.4	10.3	2/12	6/12	Ⅳ H20r		後Ⅳ新	—
71	391	A	擂鉢	28.8	9.1	12.2	5/12	11/12	Ⅳ H19s		大１	—
71	392	A	擂鉢	28.3	9.4	12.3	6/12	12/12	Ⅴ H2t		大１後半	—
	393	A	擂鉢	29.3	9.8	11.1	2/12	10/12	Ⅳ H20r		大１	—
71	394	A	擂鉢	29.8	9.9	11.4	4/12	12/12	Ⅴ H2t		大１後半	大Ⅰa
71	395	A	擂鉢	28.2	9.2	12.2	12/12	12/12	Ⅳ H18s		大１後半	—
72	396	A	擂鉢	30.3	10.3	11.8	11/12	12/12	Ⅳ H19s		大２	—
	397	A	擂鉢	30.2	9.6	11.6	3/12	2/12	Ⅳ H19t		大２	—
72	398	A	擂鉢	30.6	9.6	12.1	5/12	12/12	Ⅳ H19s		大２	—
72	399	A	擂鉢	28.5	9.5	11.8	3/12	7/12	Ⅳ H20s		大２前	—
	400	A	擂鉢	28.8	8.7	12.7	2/12	4/12	Ⅳ H20s		大２前	—
72	401	A	擂鉢	29.6	9.6	11.9	10/12	12/12	Ⅳ I19r		大２前半	—
72	402	A	擂鉢	29.6	9.9	12.3	8/12	12/12	Ⅳ I19r		大２前半	—
72	403	A	擂鉢	28.8	9.7	12.0	9/12	12/12	Ⅳ H20t		大２前半	—
73	404	A	擂鉢	36.9	10.2	13.9	5/12	5/12	Ⅴ H1t		大２後半	—
	405	A	土瓶か釜	—	11.2	9.6	—	12/12	Ⅳ H20r		後Ⅳ新－大１	—
73	406	A	灯明皿	11.0	4.5	2.8	11/12	12/12	Ⅳ H19s		大１	大Ⅰa
	407	A	挟み皿	11.1	4.9	3.2	10/12	12/12	Ⅴ H1q		—	—
	408	A	挟み皿	12.3	6.3	3.1	11/12	12/12	Ⅳ H20r		大１	—
	409	A	匣蓋	12.8	6.3	2.7	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	410	A	匣蓋	13.3	6.8	2.6	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	411	A	匣蓋	13.6	6.5	2.55	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	412	A	匣蓋	13.3	6.7	2.5	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
73	413	A	匣蓋	14.7	6.6	2.6	11/12	12/12	Ⅴ H1r		—	—
	414	A	挟み皿	11.7	5.8	2.3	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	415	A	挟み皿	12.0	6.1	2.2	12/12	12/12	Ⅴ H1q		大１・２	—
73	416	A	挟み皿	11.9	5.0	2.45	10/12	12/12	Ⅴ H3s		—	—
73	417	A	挟み皿	11.55	5.4	2.0	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	418	A	挟み皿	11.9	5.0	2.3	12/12	12/12	Ⅴ H1s	底部に十文字	—	—
73	419	A	挟み皿	11.7	4.8	2.9	6/12	12/12	Ⅴ H3s	十文字	—	—
74	420	A	挟み皿	12.6	6.0	2.5	11/12	12/12	Ⅴ H1s	一条	—	—
	421	A	挟み皿	12.6	5.8	2.6	11/12	12/12	—	二条	—	—
	422	A	挟み皿	12.7	5.4	2.3	4/12	12/12	Ⅴ H2s	文様	—	—
	423	A	挟み皿	12.8	6.2	2.7	3/12	5/12	Ⅴ H3s	文様	—	—
	424	A	挟み皿	12.4	6.4	1.7	5/12	7/12	Ⅴ H3s	凸円＋十文字	—	—
74	425	A	挟み皿	13.0	5.8	2.0	8/12	12/12	Ⅳ H20r	凸円	—	—
	426	A	挟み皿	10.8	5.0	2.4	3/12	4/12	Ⅴ H3s	凸円	—	—
	427	A	挟み皿	12.4	6.0	2.5	3/12	4/12	Ⅴ H1s	凸円	—	—
	428	A	挟み皿	11.2	5.0	2.2	3/12	4/12	Ⅳ H20s	凸円	—	—
	429	A	挟み皿	13.9	7.0	1.8	6/12	6/12	Ⅳ H20r	押印	—	—
	430	A	挟み皿	11.6	5.0	2.4	4/12	12/12	Ⅴ H2s	凸円	—	—
	431	A	挟み皿	11.8	5.0	2.1	1/12	11/12	Ⅳ H20t	凸円	—	—
	432	A	挟み皿	13.0	6.6	2.4	11/12	9/12	Ⅳ H19t	押印	—	—
	433	A	挟み皿	12.6	5.4	2.7	3/12	12/12	Ⅳ H20s	押印	—	—
74	434	A	挟み皿	11.8	5.0	2.2	2/12	12/12	Ⅴ H3t	押印	—	—
74	435	A	端反皿	12.0	6.1	3.4	4/12	6/12	Ⅴ H2s	印花	大１	—
74	436	A	匣鉢	11.9	8.5	5.4	11/12	12/12	Ⅳ H19s		—	—
74	437	A	端反皿	—	6.0	4.0	10/12	12/12	Ⅴ H1s		大１	—
	438	A	匣鉢	11.2	6.0	3.8	12/12	12/12	Ⅴ H1t		—	—
75	439	A	匣鉢	15.7	6.05	9.7	—	12/12	Ⅴ H2t	匣鉢＋重ね皿	大１	大Ⅰａ
75	440	A	端反皿	10.9	5.7	3.3	8/12	9/12	Ⅴ H2s		大１	—
	441	A	匣鉢	12.0	6.0	4.0	12/12	12/12	Ⅴ H1s		—	—
	442	A	匣鉢	11.1	6.7	5.0	12/12	11/12	Ⅴ H1s		—	—
75	443	A	匣鉢	10.8	6.6	6.0	12/12	12/12	Ⅴ H3s	ヘラ	—	—
	444	A	匣鉢	—	6.3	2.5	—	12/12	Ⅴ H2s	ヘラ	—	—
	445	A	匣鉢	—	6.4	2.7	—	12/12	Ⅴ H3s	ヘラ	—	—
	446	A	筒形容器	14.1	—	9.6	3/12	—	Ⅴ H1s		大１	—
	447	A	匣鉢	18.9	14.3	8.7	10/12	12/12	Ⅳ H19s		—	—
75	448	A	羽釜	40.8	—	9.45	3/12	—	Ⅴ H2t		—	—
	449	E SY01 SK01	匣鉢	11.6	6.8	4.7	11/12	12/12	—		—	—
75	450	E SY01 SK02	丸碗	11.4	4.8	6.75	6/12	12/12	—		大２	大Ⅰａ
	451	E SY01 SK03	端反皿	12.0	—	2.1	1/12	—	—		大１	大Ⅰａ
	452	E SY01 SK03	端反皿	11.0	—	1.8	1/12	—	—		大１	大Ⅰａ
75	453	E SY01 SK03	丸皿	10.5	5.8	2.95	5/12	12/12	—	印花	大２前	大Ⅱａ
	454	E SY01 SK03	端反皿	15.0	—	1.2	2/12	—	—		大１	大Ⅰａ
	455	E SY01 SK03	擂鉢	28.0	—	6.95	1/12	—	—		大１後半	大Ⅰｂ
	456	E SY01 SK03	挟み皿	12.0	5.6	1.8	12/12	12/12	—		—	—
	457	E SY01 SK03	挟み皿	12.4	5.4	2.5	2/12	1/12	—		—	—
	458	E SY01 SK03	挟み皿	12.2	5.8	2.3	1/12	12/12	—		—	—
	459	E SY01 SK03	挟み皿	12.6	5.4	2.95	2/12	12/12	—		—	—
	460	E SY01 SK03	挟み皿	13.1	5.3	2.7	12/12	12/12	—		—	—
	461	E SY01 SK03	挟み皿	14.0	6.6	2.75	7/12	6/12	—		—	—
75	462	E SY01 SK03	匣鉢	16.4	12.9	9.5	12/12	12/12	—		—	—
	463	E SY01 SK03	匣鉢	18.0	—	6.7	4/12	—	—		—	—
76	464	E SX04	花生	—	—	—	—	—	—	魚	—	—
	465	E SX05	挟み皿	12.0	5.8	2.3	4/12	5/12	—		大１	—
77	466	E SX07	端反皿	上 12.2 下 10.9	上 下 5.1	4.2	上 5/12 下 8/12	上 下 8/12	—	端反皿＋挟皿	大１	—
	467	E SX07	端反皿	11.6	6.4	2.5	1/12	12/12	—	印花	大１	—
	468	E SX08	端反皿	10.2	4.8	2.4	4/12	3/12	—		大２	—
77	469	E SX08	丸皿	11.0	5.7	3.4	4/12	12/12	—	ソギ	大２前	—
	470	E SX08	挟み皿	12.4	5.6	1.5	5/12	6/12	—	ヘラ	—	—
	471	E SX10	端反皿	14.6	7.9	2.7	3/12	11/12	—	鉄	大１	—
77	472	E SX11	丸皿	10.7	5.9	3.4	3/12	12/12	—		大２	—
77	473	E SX12	稜皿	10.0	4.8	2.7	4/12	8/12	—		大２	—
	474	E SX15	大鉢	34.6	—	6.2	1/12	—	—		大２	—
	475	E SX04	天目茶碗	11.8	—	6.0	4/12	—	—		大１	大Ⅰａ
	476	E SX04	天目茶碗	—	4.7	2.7	—	3/12	—		大１か	大Ⅰａ
	477	E SX04	丸碗	11.6	—	6.0	1/12	—	—		大１	大Ⅰａ
	478	E SX04	端反皿	8.2	4.9	2.0	12/12	12/12	—	小	大１	大Ⅰａ
	479	E SX04	端反皿	10.8	上 5.3 下 5.8	上 2.5 下 2.6	1/12	2/12	—	重ね	大１	大Ⅰａ
77	480	E SX04	端反皿	上 14.3 下 12.3	上 6.4 下 6.8	上 2.6 下 2.2	上 3/12 下 4/12	上 12/12 下 6/12	—	重ね	大１	大Ⅰａ
	481	E SX04	丸皿	10.0	5.0	2.1	1/12	4/12	Ⅴ H5p		大２	大Ⅰａ
	482	E SX04	釜、鍋	16.0	—	5.0	3/12	—	—		—	大Ⅰａ

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	483	E SX04	擂鉢	26.8	10.8	11.7	2/12	1/12	—		大２	大Ⅰａ
77	484	E SX04	緑釉皿	13.0	5.8	2.7	5/12	12/12	—		大１	大Ⅰａ
77	485	E SX03	天目茶碗	11.35	4.3	5.9	5/12	12/12	—		登４	—
	486	E SX03	菊のみ皿	9.3	5.1	.7	4/12	12/12	—		大２前半	大Ⅱａ
78	487	E SX03	丸皿	9.2	5.5	2.85	5/12	7/12	—	印花	大２	大Ⅰｂ
	488	E SX03	端反皿	8.3	5.0	2.2	10/12	12/12	—	小	大１	大Ⅰａ
78	489	E SX03	稜皿	11.25	6.3	2.9	12/12	12/12	—		大２前半	—
78	490	E SX03	稜皿	11.1	6.5	3.4	3/12	6/12	Ⅴ H7p	銅緑釉	大２	大Ⅱａ
	491	E SX03	灯明皿	10.05	4.3	2.4	7/12	11/12	—		大２	大Ⅰａ
	492	E SX03	灯明皿	9.85	4.25	2.45	10/12	12/12	—		大２	大Ⅰａ
	493	E SX03	匣鉢	—	12.9	4.0	—	4/12	—	指痕	—	—
	494	E SK59	挟み皿	12.0	6.0	1.6	11/12	12/12	—	ヘラ	—	—
	495	E	挟み皿	11.3	5.5	1.65	3/12	11/12	Ⅴ H7p	ヘラ	—	—
78	496	E	挟み皿	13.1	4.8	2.2	11/12	12/12	Ⅴ H8l	３条	—	—
	497	E	挟み皿	12.2	5.0	2.3	4/12	12/12	Ⅴ H6l	凸円	—	—
	498	E	挟み皿	—	6.1	1.2	—	12/12	Ⅴ H7l	文様	—	—
	499	E	挟み皿	14.8	6.7	2.2	5/12	12/12	Ⅴ H7p	文様	—	—
78	500	E	匣蓋	13.2	5.3	2.0	10/12	12/12	Ⅴ H6l		—	—
	501	E SX02	天目茶碗	12.4	—	6.1	3/12	—	—		大１	大Ⅰａ
	502	E SX02	天目茶碗	—	4.4	0.75	—	12/12	—		大１	大Ⅰａ
	503	E SX02	天目茶碗	12.0	—	5.3	3/12	—	—		大２	大Ⅱａ
	504	E SX02	天目茶碗	—	3.2	0.8	—	12/12	—		大２	大Ⅱａ
	505	E SX02	端反皿	11.0	6.4	2.6	2/12	4/12	—		大１	大Ⅰａ
	506	E SX02	端反皿	10.7	5.8	2.9	7/12	12/12	—		大１	大Ⅰａ
	507	E SX02	端反皿	上 10.8 中 11.2 下 10.9	5.4	2.9	3/12	1/12	—	重ね	大１	大Ⅰａ
	508	E SX02	端反皿	11.3	6.8	2.75	7/12	12/12	—		大１	—
	509	E SX02	端反皿	11.3	6.5	2.75	9/12	12/12	—		大１	大Ⅰａ
	510	E SX02	端反皿	—	6.0	1.4	—	3/12	—		大１・大２	大Ⅰａ
	511	E SX02	端反皿	—	6.0	0.5	—	3/12	—		大１・大２	大Ⅰａ
	512	E SX02	端反皿	8.9	5.0	2.5	6/12	7/12	—		大１	大Ⅰａ
	513	E SX02	端反皿	11.4	6.0	3.15	3/12	6/12	—	印花	大１	大Ⅰａ
79	514	E SX02	端反皿	11.4	6.6	2.55	10/12	12/12	—	穴あり　色見？	大１	—
	515	E SX02	丸皿	11.2	5.4	4.3	3/12	3/12	—	重ね　二重けんせん	大１・大２	大Ⅰａ
	516	E SX02	端反皿	—	6.0	0.6	—	4/12	—	印花	大１・大２	大Ⅰａ
	517	E SX02	端反皿	—	6.0	1.0	—	12/12	—	印花	大１・大２	大Ⅰａ
	518	E SX02	端反皿	—	5.8	2.3	—	3/12	—	印花	大１	大Ⅰａ
	519	E SX02	端反皿	—	6.0	0.5	—	1/12	—	印花	大１・大２	大Ⅰａ
	520	E SX02	丸皿	8.7	5.0	2.5	7/12	12/12	—	印花	大２	大Ⅱａ
	521	E SX02	端反皿	8.7	5.2	2.5	10/12	12/12	Ⅴ H7m	印花	大１	—
78	522	E SX02	端反皿	10.8	5.4	3.7	11/12	12/12	—	重ね　二重けんせん	大２	大Ⅱａ
79	523	E SX02	丸皿	10.8	5.8	3.1	4/12	7/12	Ⅴ H7n	ソギ	大２前半	大Ⅰｂ
79	524	E SX02	稜皿	11.0	5.2	3.0	9/12	5/12	Ⅴ H6n	銅緑釉　仮―848 と接合	大２	—
79	525	E SX02	稜皿	11.5	6.0	3.0	10/12	12/12	—	銅緑釉	大２	大Ⅱａ
79	526	E SX02	稜花皿	—	6.0	3.2	—	9/12	Ⅴ H7m	色見？	大１	—
	527	E SX02	卸挟み皿	10.0	—	1.9	1/12	—	Ⅴ H7n		大１	大Ⅰａ
	528	E SX02	灯明皿	9.8	4.4	2.3	10/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	529	E SX02	擂鉢	28.0	—	3.8	1/12	—	—		大１	大Ⅰａ
80	530	E SX02	徳利	—	8.2	14.0	—	12/12	Ⅴ H6n		大１・大２	—
80	531	E SX02	端反皿	12.5	7.0	2.3	6/12	6/12	—	重ね　二重けんせん	大１	大Ⅰａ
80	532	E SX02	端反皿	13.0	5.9	5.0	11/12	11/12	—	重ね　二重けんせん	大２	大Ⅱａ
80	533	E SX02	端反皿	12.0	5.8	2.8	12/12	12/12	Ⅴ H6n	印花	大１	—
80	534	E SX02	端反皿	12.0	5.8	3.4	9/12	9/12	—	重ね	大１	大Ⅰａ
80	535	E SX02	端反皿	上 12.1 下 10.6	上 5.4 下 5.8	上 2.2 下 2.5	6/12	7/12	Ⅴ H7h	重ね　印花	大２	大Ⅱｂ
	536	E SX02	端反皿	12.4	5.8	2.0	2/12	10/12	—	重ね	大１	大Ⅰａ
80	537	E SX02	端反皿	上 11.8 中 11.6 下 10.8	上 中 6.4 下 5.5	上 中 2.0 下 2.0	上 3/12 中 6/12 下 6/12	上 6/12 中 12/12 下 12/12	—	重ね	大１	大Ⅰａ
80	538	E SX02	挟み皿	11.5	5.0	2.95	12/12	12/12	Ⅴ H7m		—	—
	539	E SX02	挟み皿	11.6	5.4	2.2	11/12	12/12	Ⅴ H7o	二重凸円	—	—
	540	E SX02	挟み皿	11.7	4.4	2.3	12/12	12/12	—		—	—
	541	E SX02	挟み皿	11.5	5.7	2.15	7/12	12/12	Ⅴ H6n		—	—
	542	E SX02	蓋	15.4	8.2	2.6	9/12	12/12	—		—	—
	543	E SX02	挟み皿	11.3	5.9	2.1	12/12	12/12	Ⅴ H7m		—	—
	544	E SX02	挟み皿	11.9	5.4	2.3	12/12	12/12	Ⅴ H7l		—	—
	545	E SX02	挟み皿	12.4	6.2	2.6	9/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	546	E SX02	挟み皿	11.9	5.7	2.6	12/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	547	E SX02	挟み皿	11.9	5.6	3.2	10/12	12/12	—		—	—
	548	E SX02	挟み皿	11.8	5.4	2.7	10/12	12/12	Ⅴ H7m		—	—
80	549	E SX02	卸挟み皿	12.0	5.0	1.5	4/12	11/12	Ⅴ H7n		—	—
	550	E SX02	挟み皿	11.4	4.6	2.8	12/12	12/12	Ⅴ H7m		—	—
	551	E SX02	挟み皿	11.6	5.6	2.5	12/12	12/12	Ⅴ H6n		—	—
	552	E SX02	灯明皿	11.2	4.4	3.7	9/12	12/12	—		大１	大Ⅰａ
	553	E SX02	匣鉢	11.3	6.0	4.8	12/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	554	E SX02	匣鉢	11.3	6.8	4.8	9/12	12/12	Ⅴ H6o		—	—
	555	E SX02	匣鉢	12.0	7.1	4.5	12/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	556	E SX02	匣鉢	11.8	7.2	5.0	8/12	12/12	Ⅴ H6n		—	—
	557	E SX02	匣鉢	11.2	6.2	4.5	12/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	558	E SX02	匣鉢	11.7	6.0	4.4	9/12	11/12	Ⅴ H7n		—	—
	559	E SX02	匣鉢	12.7	7.0	4.7	5/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	560	E SX02	匣鉢	11.3	6.2	4.2	12/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—
	561	E SX02	匣鉢	11.6	6.9	4.2	7/12	10/12	Ⅴ H7n		—	—
	562	E SX02	匣鉢	11.5	6	4.3	9/12	12/12	Ⅴ H7n		—	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	563	E SX02	匣鉢	11.6	6.6	4.2	11/12	12/12	V H7n		—	—
	564	E SX02	匣鉢	11.4	6.5	5.0	11/12	12/12	V H7n		—	—
	565	E SX02	匣鉢	11.7	6.4	3.8	10/12	12/12	V H7n		—	—
	566	E SX02	匣鉢	12.1	6.3	4.9	12/12	12/12	V H7n		—	—
	567	E SX02	匣鉢	11.4	7.3	4.4	12/12	12/12	V H7n		—	—
	568	E SX02	匣鉢	11.2	6.6	4.2	10/12	12/12	V H7n		—	—
	569	E SX02	匣鉢	11.0	4.9	3.9	6/12	12/12	V H7m		—	—
	570	E SX02	匣鉢	11.7	7.0	4.5	8/12	12/12	V H7n		—	—
	571	E SX02	匣鉢	11.0	5.6	3.9	12/12	12/12	V H7n		—	—
	572	E SX02	匣鉢	11.7	6.3	4.6	6/12	12/12	V H7n		—	—
81	573	E SX02	匣鉢	12.0	8.0	4.6	12/12	12/12	V H7m	3条×2条	—	—
	574	E SX02	匣鉢	9.8	5.9	1.5	—	12/12	V H7o	2条	—	—
	575	E SX02	匣鉢	12.0	7.2	6.4	8/12	12/12	V H7m		—	—
	576	E SX02	匣鉢	11.3	7.7	6.1	12/12	12/12	V H7n		—	—
	577	E SX02	匣鉢	12.1	10.5	7.0	12/12	8/12	V H7n		—	—
	578	E SX02	筒形容器	12.0	11.8	7.8	9/12	12/12	V H7n		—	—
	579	E SX02	匣鉢	12.5	11.9	7.7	12/12	12/12	V H7m		—	—
	580	E SX02	匣鉢	15.2	13.3	10.3	10/12	12/12	V H7n		—	—
	581	E SX02	匣鉢	15.2	12.2	9.8	10/12	12/12	V H7n		—	—
	582	E SX02	匣鉢	21.0	18.0	7.9	3/12	4/12	V H6n	3条+2条	—	—
	583	E SB01	端反皿	10.6	5.3	2.9	2/12	3/12	V H5n	印花	大1	大Ⅰa
	584	E SB01	端反皿	—	6.0	1.4	—	4/12	—	印花	大1・大2	大Ⅰa
	585	E SB01	端反皿	—	5.8	2.3	—	3/12	V H5n	印花	大1・大2	大Ⅰa
	586	E SB01	端反皿	—	6.2	2.7	—	1/12	V H5m		大1	大Ⅰa
	587	E SB01	端反皿	—	7.0	2.7	—	4/12	V H5m	印花	大1・大2	大Ⅰa
	588	E SB01	緣釉挟み皿	11.1	5.8	2.0	2/12	2/12	V H5n		大1	大Ⅰa
	589	E SB01	緣釉挟み皿	12.0	5.4	2.4	6/12	8/12	V H5m		大1	—
	590	E SB01	挟み皿	11.7	5.2	3.0	11/12	12/12	—		—	—
	591	E SB01	挟み皿	12.1	5.4	2.25	5/12	7/12	—		—	—
	592	E SB01	擂鉢	32.0	—	4.45	1/12	—	—		大2	—
	593	E SB01	擂鉢	—	13.0	12.7	—	2/12	—		大2・大3	—
	594	E SB01	匣鉢	—	12.0	5.8	—	4/12	—		—	—
	595	E SB01	匣鉢	15.8	14.0	9.65	3/12	3/12	—		—	—
	596	E SB03	天目茶碗	—	4.6	1.4	—	12/12	V H5m		大1	—
	597	E SB03	丸碗	11.0	5.4	6.0	2/12	3/12	V H5m		大1	—
81	598	E SB03	丸碗	11.9	5.7	6.6	8/12	12/12	—		大1	—
	599	E SB03	丸碗	—	5.2	4.3	—	8/12	V H5m		大1	—
	600	E SB03	端反皿	10.9	5.8	2.7	1/12	1/12	V H5n		大1	—
81	601	E SB03	端反皿	上 11.1 下 10.8	上 下 5.4	上 下 2.1	7/12	12/12	—	端反皿＋挟皿	大1	大Ⅰa
81	602	E SB03	釜	15.0	—	15.4	3/12	—	—		後Ⅳ新～大1	—
	603	E SB03	釜	15.8	—	11.7	4/12	—	—		後Ⅳ新～大1	—
81	604	E SB03	直縁大皿	28.9	—	9.2	4/12	—	—		後Ⅳ新	—
	605	E SB03	擂鉢	27.8	—	8.0	4/12	—	—		大1	—
	606	E SB03	擂鉢	—	10.0	5.5	—	3/12	—		後Ⅳ新～大2	—
82	607	E SB03	擂鉢	27.5	9.4	11.6	12/12	12/12	—		後Ⅳ新	—
	608	E SB03	擂鉢	29.0	9.5	11.7	3/12	12/12	—		後Ⅳ新	—
	609	E SB03	匣鉢	—	5.5	2.6	—	12/12	V H5m	ヘラ	—	—
82	610	E SB03	匣鉢	11.5	6.0	6.0	12/12	12/12	—	ヘラ	—	—
	611	E SB03	匣鉢	11.5	4.9	4.2	6/12	6/12	V H5m	1文字	—	—
	612	E SB03	挟み皿	11.1	5.2	2.2	10/12	12/12	V H5m		—	—
82	613	E SB03	匣蓋	12.8	5.2	2.6	10/12	12/12	V H5m		—	—
82	614	E SB03	挟み皿	13.5	6.1	2.7	2/12	12/12	—	押印	—	—
	615	E SB03	匣蓋	13.5	5.4	2.3	4/12	6/12	V H5m		—	—
	616	E SB03	匣蓋	14.0	6.2	2.7	6/12	12/12	V H5m		—	—
	617	E SK55	端反皿	11.3	6.6	2.6	10/12	6/12	—		大1	大Ⅰa
82	618	E SK56	端反皿	10.9	6.0	4.5	11/12	12/12	V H5m	重ね	大1	大Ⅰa
	619	E SK56	腰折皿	10.3	5.1	2.7	12/12	12/12	V H5m		後Ⅳ新	—
82	620	E SK56	腰折皿	11.2	5.2	2.2	11/12	12/12	V H5m		後Ⅳ新	大Ⅰa
82	621	E SK56	腰折皿	13.3	7.1	2.6	8/12	12/12	V H5m		大1	大Ⅰa
	622	E SK57	端反皿	11.2	6.4	2.7	12/12	11/12	—		大1	大Ⅰa
	623	E SK57	端反皿	11.2	6.3	2.7	11/12	12/12	—		大1	大Ⅰa
	624	E SK57	端反皿	11.4	6.8	2.55	11/12	12/12	—		大1	大Ⅰa
	625	E SK57	端反皿	12.0	7.0	2.65	3/12	6/12	—		大1	大Ⅰa
	626	E SK57	腰折皿	12.1	5.6	2.5	11/12	12/12	—		大1	大Ⅰa
	627	E SK57	擂鉢	29.6	—	8.9	6/12	—	—		後Ⅳ新	大Ⅰa
	628	E SK57	擂鉢	29.2	10.3	10.9	2/12	12/12	—		大1	大Ⅰa
	629	E SB02	端反皿	8.8	5.0	2.3	2/12	12/12	—	印花643と接合	大2	—
82	630	E SB02	端反皿	10.7	5.8	2.8	4/12	11/12	V H3m	印花	大1	—
	631	E SB02	端反皿	9.7	4.7	2.3	9/12	6/12	—	印花	大1	大Ⅰb
	632	E SB02	端反皿	9.2	5.0	2.4	10/12	12/12	—	印花	大1	大Ⅰb
	633	E SB02	端反皿	7.8	4.6	2.5	1/12	2/12	V H3m		大1	—
	634	E SB02	端反皿	—	—	—	—	—	—	629と接合	大2	—
	635	E SB02	端反皿	11.0	5.4	2.6	9/12	8/12	V H3m		大1	—
	636	E SB02	稜皿	10.7	6.1	2.4	3/12	12/12	—		大2	—
83	637	E SB02	土瓶か釜	14.5	—	13.4	12/12	—	—	638と同一	後Ⅳ新～大1	—
83	638	E SB02	釜	14.0	—	13.3	12/12	—	—	637と同一	後Ⅳ新～大1	大Ⅰa
	639	E SB02	直縁大皿	33.2	—	7.8	1/12	—	—		大1	—
83	640	E SB02	擂鉢	—	9.3	4.4	—	10/12	—		後Ⅳ新～大1	—
	641	E SB02	擂鉢	—	10.3	9.8	—	12/12	—		大2・大3	—
	642	E SB02	匣鉢	13.0	12.0	9.5	2/12	3/12	—		—	—
	643	E SB02	匣鉢	15.4	13.2	9.9	6/12	11/12	—		—	—
	644	E SB02	匣鉢	17.4	15.4	10.1	5/12	6/12	V H3m		—	—
	645	E SB04	擂鉢	31.1	9.7	11.6	4/12	5/12	—		大3前半	大Ⅱa

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
83	646	E SB04	端反皿	上 中 11.9 下 11.2	上 中 下 6.1	上 2.8 中 下 2.6	上 4/12 中 8/12 下 12/12	上 9/12 中 12/12 下 12/12	—	重ね	大 1	—
83	647	E SB04	端反皿	12.0	—	1.8	6/12	12/12	—	端反皿＋匣鉢	大 1	大Ⅰa
	648	E SB04	端反皿	10.8	6.2	2.5	1/12	4/12	—		大 1	大Ⅰa
	649	E SB04	端反皿	11.4	6.2	3.0	3/12	10/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
83	650	E SB04	端反皿	11.8	6.3	5.3	6/12	6/12	V H4m	重ね　印花	大 1	大Ⅰa
83	651	E SX06	丸碗	12.2	—	5.9	10/12	—	—	連弁	大 1	大Ⅰa
	652	E SX06	天目茶碗	11.6	—	5.5	3/12	—	—		大 2	—
	653	E SX06	腰折皿	11.1	4.2	2.2	5/12	10/12	—		後Ⅳ新	—
	654	E SX06	端反皿	8.6	5.0	2.2	12/12	11/12	—		大 1	大Ⅰa
83	655	E SX06	端反皿	11.3	6.3	3.0	10/12	12/12	—		大 1	大Ⅰa
	656	E SX06	端反皿	10.9	5.8	3.0	11/12	12/12	—		大 1	大Ⅰa
83	657	E SX06	端反皿	11.2	6.2	2.9	11/12	12/12	—	端反皿＋縁釉皿	大 1	—
	658	E SX06	端反皿	11.7	6.5	3.0	5/12	1/12	—		大 1	大Ⅰa
	659	E SX06	端反皿	11.4	5.3	2.7	2/12	2/12	—		大 1	大Ⅰa
	660	E SX06	端反皿	12.2	6.6	2.9	9/12	10/12	—		大 1	大Ⅰa
	661	E SX06	端反皿	11.7	6.0	2.4	5/12	12/12	—		大 1	大Ⅰa
83	662	E SX06	端反皿	11.4	6.2	2.7	4/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	663	E SX06	端反皿	11.5	6.4	2.8	5/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
84	664	E SX06	端反皿	11.6	6.3	3.1	11/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	665	E SX06	端反皿	11.7	6.3	2.9	6/12	8/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	666	E SX06	端反皿	11.5	6.2	3.1	3/12	3/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	667	E SX06	端反皿	12.5	6.2	3.2	9/12	11/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	668	E SX06	端反皿	11.5	6.2	2.9	12/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	669	E SX06	端反皿	11.7	6.0	3.0	11/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	670	E SX06	端反皿	10.3	6.4	3.0	6/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	671	E SX06	端反皿	11.2	6.0	2.9	10/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
84	672	E SX06	端反皿	11.5	6.4	2.9	9/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	673	E SX06	端反皿	11.8	6.1	3.0	3/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	674	E SX06	端反皿	11.5	6.3	3.0	11/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	675	E SX06	端反皿	11.6	6.0	2.8	7/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	676	E SX06	端反皿	11.1	6.7	2.8	12/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	677	E SX06	端反皿	11.4	6.3	2.9	6/12	9/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	678	E SX06	端反皿	11.6	6.2	3.0	10/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
84	679	E SX06	端反皿	11.6	6.6	3.1	8/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	680	E SX06	端反皿	11.3	6.2	3.1	10/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	681	E SX06	端反皿	11.1	6.1	2.9	1/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
	682	E SX06	端反皿	11.4	6.7	2.9	12/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
84	683	E SX06	端反皿	9.5	4.8	2.4	6/12	12/12	—	印花	大 1	大Ⅰa
84	684	E SX06	丸皿	10.8	5.8	2.7	8/12	12/12	—	ソギ	大 2 前半	大Ⅱa
85	685	E SX06	擂鉢	36.2	10.5	16.7	9/12	12/12	—		大 2	大Ⅰa
	686	E SX06	擂鉢	20.4	12.3	16.5	5/12	4/12	—		大 2	大Ⅰa
85	687	E SX06	擂鉢	29.0	10.8	11.0	12/12	5/12	—		大 1	大Ⅰa
	688	E SX06	擂鉢	27.6	11.7	11.5	1/12	2/12	—		後Ⅳ新	—
85	689	E SX06	釜	16.5	11.4	17.0	5/12	11/12	—		後Ⅳ新～大 1	—
	690	E SX06	釜、鍋	12.5	—	6.8	2/12	—	—		—	大Ⅰa
	691	E SX06	鍋	—	10.6	—	—	4/12	—		—	大Ⅰa
85	692	E SX06	縁釉皿	12.6	5.3	3.3	10/12	12/12	—		大 1	大Ⅰa
85	693	E SX06	挟み皿	13.5	6.3	2.3	6/12	12/12	V H3m	1 条	—	—
	694	E SX06	挟み皿	12.1	5.5	1.8	9/12	12/12	V H3m	ヘラ	—	—
85	695	E SX06	匣鉢	11.6	6.6	5.7	12/12	12/12	—	ヘラ	—	—
	696	E SX06	匣鉢	13.0	5.9	5.0	3/12	8/12	—	1 条	—	—
	697	E SX06	匣鉢	11.6	7.2	4.3	12/12	12/12	—		—	—
86	698	E SX06	匣鉢	19.5	17.0	6.6	4/12	8/12	V H3m		—	—
	699	E SX06	匣鉢	19.8	17.0	7.0	5/12	5/12	—		—	—
86	700	E SX06	匣鉢	20.4	17.9	8.1	5/12	7/12	V H4m		—	—
	701	E SX06	匣鉢	11.6	6.6	4.6	5/12	12/12	V H3m		—	—
	702	E SX06	匣鉢	10.8	6.2	4.7	12/12	12/12	—		—	—
	703	E SX06	匣鉢	12.3	6.0	4.9	9/12	12/12	—		—	—
	704	E SX06	匣鉢	12.1	6.0	4.5	8/12	12/12	V H3m		—	—
	705	E SX06	匣鉢	11.5	6.2	4.9	2/12	12/12	—		—	—
	706	E SX06	匣鉢	11.4	6.0	4.5	12/12	12/12	—		—	—
	707	E SX06	匣鉢	11.3	6.8	4.4	7/12	9/12	—		—	—
	708	E SX06	匣鉢	12.1	6.5	4.2	10/12	12/12	V H3m		—	—
	709	E SX06	匣鉢	12.4	6.5	4.7	9/12	12/12	—		—	—
	710	E SX06	匣鉢	12.0	5.4	4.8	10/12	12/12	V H3m		—	—
	711	E SX06	匣鉢	14.4	11.8	9.4	4/12	9/12	V H3m		—	—
	712	E SX06	匣鉢	15.2	12.0	10.4	3/12	6/12	V H3m		—	—
	713	E SX06	匣鉢	15.4	11.0	10.6	8/12	12/12	V H3m		—	—
	714	E SX06	匣鉢	15.3	11.8	9.7	11/12	7/12	—		—	—
	715	E SX06	匣鉢	16.0	11.9	10.5	4/12	5/12	—		—	—
	716	E SX06	匣鉢	16.0	11.4	10.4	3/12	7/12	V H3m		—	—
	717	E SX06	匣鉢	15.4	12.0	9.3	4/12	12/12	—		—	—
	718	E SX06	匣鉢	15.2	11.6	10.7	8/12	12/12	—		—	—
	719	E SX06	匣鉢	15.2	12.3	10.6	7/12	11/12	V H3m		—	—
	720	E SX06	匣鉢	17.4	12.0	10.2	3/12	6/12	—		—	—
	721	E	平碗	—	5.0	2.5	—	6/12	V H6l		後Ⅳ新	—
	722	E	天目茶碗	—	4.4	2.7	—	10/12	V H4l		大 1	—
	723	E	平碗	—	4.9	1.7	—	6/12	V H6p		大 1	—
86	724	E	天目茶碗	11.9	4.2	6.6	9/12	12/12	V H5l		大 1	大Ⅰa
86	725	E	天目茶碗	11.7	4.2	6.3	10/12	12/12	V H5l		大 1	大Ⅰa
	726	E	天目茶碗	12.8	—	5.3	2/12	—	V H5l		後Ⅳ新	—
	727	E	丸碗	11.6	6.0	3.8	2/12	11/12	V H5l		大 1	大Ⅰa

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	728	E	丸碗	11.6	5.8	6.3	11/12	12/12	V H5l		大１	大Ⅰａ
	729	E	丸碗	—	5.9	3.2	—	12/12	V H6l		大１・大２	—
	730	E	腰折皿	10.4	5.3	2.3	6/12	12/12	V H6l		後Ⅳ新	大Ⅰａ
	731	E	腰折皿	11.0	5.4	2.4	9/12	12/12	V H6l		Ⅳ新	大Ⅰａ
	732	E	腰折皿	11.2	5.2	2.15	11/12	12/12	—		後Ⅳ新	—
	733	E	腰折皿	10.6	5.5	2.45	12/12	12/12	V H6l		Ⅳ新	—
	734	E	腰折皿	10.7	5.5	2.3	10/12	12/12	V H6l		Ⅳ新	—
	735	E	腰折皿	10.75	4.6	2.35	10/12	12/12	V H6l		Ⅳ新	—
	736	E	—	—	6.0	2.2	—	6/12	V H7l		Ⅳ新	—
	737	E	腰折皿	11.25	4.9	2.2	9/12	12/12	V H6l		Ⅳ新	—
	738	E	腰折皿	10.9	5.7	2.5	5/12	6/12	V H6l		Ⅳ新	—
	739	E	腰折皿	10.1	5.25	2.5	3/12	12/12	V H6k		Ⅳ新	—
	740	E	腰折皿	11.2	5.9	2.5	10/12	10/12	V H6l		Ⅳ新	—
	741	E	縁釉挟み皿	11.8	6.1	2.5	5/12	5/12	V H6l		大１	—
	742	E	縁釉挟み皿	12.2	5.4	2.8	3/12	5/12	V H6l		大１	—
	743	E	腰折皿	12.2	6.0	3.0	4/12	12/12	V H6l		大１	—
	744	E	縁釉挟み皿	11.85	5.8	2.7	4/12	12/12	V H6l		大１	—
	745	E	端反皿	11.0	5.6	2.8	2/12	12/12	V H5l		大１	—
	746	E	端反皿	—	6.2	2.4	—	7/12	V H7p		大１	—
	747	E	端反皿	11.4	5.8	2.5	1/12	12/12	V H5l	印花	大１	大Ⅰａ
	748	E	端反皿	—	7.3	1.3	—	6/12	V H7o	印花	大１・大２	—
	749	E	稜花皿	—	6.0	2.85	—	6/12	V H7p		大１・大２	—
	750	E	端反皿	11.8	5.8	3.0	2/12	6/12	V H7r	印花	大１	—
	751	E	端反皿	—	6.2	0.65	—	8/12	V H5l	印花	大１・大２	—
86	752	E	端反皿	11.6	6.0	2.9	1/12	10/12	V H7o	印花	大１	—
87	753	E	端反皿	—	6.1	1.5	—	10/12	V H5n	印花	大１・大２	—
	754	E	端反皿	9.2	5.2	2.5	1/12	10/12	V H7p	印花	大１	—
87	755	E	端反皿	9.05	4.9	2.05	5/12	12/12	V H6l	印花	大１	—
87	756	E	端反皿	7.7	4.9	1.8	12/12	12/12	V H6l	印花	大１	—
	757	E	端反皿	8.2	4.9	2.1	12/12	12/12	V H6l		大１	—
	758	E	端反皿	8.2	4.9	2.2	7/12	12/12	V H6l		大１	—
	759	E	端反皿	8.25	4.8	2.15	10/12	12/12	V H6l		大１	—
87	760	E	端反皿	8.2	5.2	1.95	10/12	12/12	V H6l		大１	—
	761	E	端反皿	8.3	5.0	2.15	2/12	12/12	V H6l		大１	—
	762	E	端反皿	8.4	5.1	2.2	6/12	6/12	V H6l		大１	—
	763	E	端反皿	8.7	4.9	2.4	7/12	12/12	V H6l		大１	—
	764	E	端反皿	8.6	5.2	2.25	2/12	11/12	V H6l		大１	—
	765	E	端反皿	8.6	4.6	2.0	2/12	7/12	V H6l		大１	—
	766	E	端反皿	8.65	5.6	2.0	6/12	12/12	V H6l		大１	—
	767	E	端反皿	9.2	5.4	2.4	3/12	6/12	V H6l		大１	—
	768	E	端反皿	9.4	4.6	2.35	2/12	3/12	V H6l		大１	—
	769	E	端反皿	8.8	5.3	2.05	7/12	10/12	V H6l		大１	—
	770	E	端反皿	9.0	5.6	2.15	4/12	9/12	V H6l		大１	—
	771	E	端反皿	9.0	5.9	2.2	9/12	11/12	V H6l		大１	—
	772	E	端反皿	10.2	6.4	3.0	2/12	4/12	V H5g		大１	—
	773	E	端反皿	10.2	4.7	3.1	3/12	7/12	V H7g		大１	—
	774	E	端反皿	10.8	6.4	2.5	8/12	11/12	V H6l		大１	大Ⅰａ
	775	E	端反皿	10.5	5.4	2.4	3/12	4/12	V H6l		大１	—
	776	E	端反皿	10.9	5.4	2.45	3/12	8/12	V H6l		大１	—
	777	E	端反皿	10.6	5.8	2.7	4/12	6/12	V H6l		大１	—
	778	E	端反皿	10.6	5.5	2.5	7/12	12/12	V H7l		大１	—
	779	E	端反皿	10.75	6.7	2.4	9/12	11/12	V H6l		大１	—
	780	E	端反皿	10.8	5.5	2.9	1/12	12/12	V H5l		大１	大Ⅰａ
	781	E	端反皿	10.7	5.4	3.1	7/12	12/12	V H5l		大１	大Ⅰａ
	782	E	端反皿	10.5	6.6	2.1	2/12	7/12	V H6l		大１	—
	783	E	端反皿	10.9	6.2	2.5	4/12	5/12	V H6l		大１	—
	784	E	端反皿	10.9	6.4	2.8	3/12	6/12	V H7l		大１	—
	785	E	端反皿	10.7	6.7	2.55	7/12	10/12	V H6l		大１	—
	786	E	端反皿	11.1	5.6	2.75	5/12	6/12	V H5l		大１	—
	787	E	端反皿	11.1	6.0	2.8	3/12	7/12	V H6n		大１	—
	788	E	端反皿	11.3	6.6	2.65	2/12	8/12	V H6l		大１	—
	789	E	端反皿	11.3	6.5	2.7	10/12	12/12	V H7l		大１	—
	790	E	端反皿	上 12.6 下 11.0	上 5.6 下 5.2	上 2.5 下 2.45	上 4/12 下 4/12	上 4/12 下 6/12	V H7p	端反皿＋挟皿	大１	—
	791	E	端反皿	11.1	5.0	2.9	3/12	3/12	V H4l		大１	大Ⅰａ
	792	E	端反皿	11.3	6.2	2.6	6/12	12/12	V H6l		大１	—
	793	E	端反皿	11.3	6.2	2.7	2/12	12/12	V H7p		大１	—
	794	E	端反皿	11.5	7.2	2.8	9/12	12/12	V H6l		大１	—
	795	E	端反皿	12.0	6.0	2.4	3/12	5/12	V H7q		大１	—
	796	E	端反皿	11.7	7.2	2.7	5/12	6/12	V H7l		大１	—
	797	E	端反皿	11.8	6.8	2.6	1/12	6/12	V H5l		大１	—
	798	E	端反皿	11.6	7.0	2.7	5/12	6/12	V H6l		大１	—
	799	E	端反皿	11.3	6.6	2.65	2/12	8/12	V H7p		大１	—
	800	E	丸皿	12.1	7.4	2.5	2/12	3/12	V H5l		大２	—
	801	E	腰折皿	10.3	5.4	2.2	10/12	12/12	V H4l		後Ⅳ新	大Ⅰａ
	802	E	腰折皿	10.8	5.3	1.85	2/12	12/12	V H4l	腰折皿＋端反皿	後Ⅳ前～大１	大Ⅰａ
	803	E	縁釉小皿	7.7	3.0	2.0	2/12	4/12	V H7p		後Ⅳ新	—
	804	E	丸皿	9.3	5.0	2.3	4/12	6/12	V H7p	ソギ	大２前半	—
	805	E	丸皿	8.8	5.6	2.05	3/12	4/12	V H6p		大２	—
	806	E	丸皿	10.3	6.0	2.6	1/12	7/12	V H7p	印花	大２	—
	807	E	丸皿	10.7	5.6	2.3	3/12	5/12	V H6p		大２	—
	808	E	稜花皿	11.2	—	1.9	2/12	—	V H7m		大１	—
	809	E	稜皿	10.0	—	1.9	2/12	—	V H5o		大２	—
	810	E	稜皿	10.3	5.4	2.2	2/12	2/12	V H7p		大２	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区	遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
87	811	E		稜皿	10.6	6.2	2.5	5/12	5/12	V H7p		大２後半	—
	812	E		稜皿	9.9	5.0	2.4	6/12	5/12	V H5o		大２後半	—
	813	E		稜皿	9.8	5.6	1.9	1/12	2/12	V H6p		大２後半	—
	814	E		稜皿	9.2	5.2	2.0	2/12	2/12	V H7g		大２	—
88	815	E		卸挟み皿	11.7	4.8	2.1	3/12	12/12	V H9m		大１	—
88	816	E		卸挟み皿	11.8	4.3	2.3	4/12	12/12	V H6l		大１	—
88	817	E		土瓶か釜	—	11.7	11.7	—	12/12	V H5l		後Ⅳ新～大１	—
88	818	E		双耳徳利	3.2	—	9.1	12/12	—	V H5l		—	—
88	819	E		直縁大皿	25.9	—	6.2	2/12	—	V H5r		後Ⅳ新	—
	820	E		大鉢	30.2	—	6.2	2/12	—	V H5l		後Ⅳ新	—
88	821	E		直縁大皿	29.6	—	9.0	3/12	—	V H5l		後Ⅳ新	—
88	822	E		カメ	—	13.0	27.0	—	7/12	V H5l		大	—
88	823	E		擂鉢	28.4	9.4	10.9	10/12	12/12	V H5l		大１	大Ⅰa
89	824	E		擂鉢	28.2	9.2	11.9	12/12	12/12	V H6l		大１後半	—
	825	E		擂鉢	33.0	—	10.6	3/12	—	V H4m		大２	大Ⅰa
89	826	E		匣鉢	21.2	18.8	6.6	4/12	6/12	—		—	—
	827	E		匣鉢	17.9	14.5	7.5	8/12	8/12	V H5l		—	—
89	828	E		筒形容器	14.5	—	13.4	5/12	—	V H7l		—	—
	829	E		筒形容器	14.1	—	8.8	2/12	—	V H4m		—	—
	830	E		匣鉢	15.4	12.9	10.3	5/12	12/12	V H4m		—	—
89	831	E		筒形容器	—	11.6	11.8	—	4/12	V H7l		—	—
	832	E	SX02	匣鉢	11.8	6.8	4.3	11/12	12/12	V H7n		—	—
	833	E	SX02	匣鉢	11.8	6.1	4.8	12/12	12/12	V H7n		—	—
	834	E	SX02	匣鉢	12.1	6.4	4.6	7/12	12/12	V H6n		—	—
	835	E	SX02	匣鉢	11.6	7.1	4.6	7/12	12/12	V H6o		—	—
	836	E		匣鉢	12.2	5.5	4.4	12/12	12/12	V H4l		—	—
	837	E		匣鉢	11.8	6.4	4.9	11/12	12/12	V H6l		—	—
89	838	E		匣鉢	11.8	6.5	4.2	10/12	12/12	V H6l	十字ヘラ	—	—
89	839	E		匣鉢	11.8	6.9	4.6	1/12	12/12	V H6l	ヘラ	—	—
89	840	E		匣鉢	—	6.4	1.6	—	12/12	V H7o	押印	—	—
89	841	E		挟み皿	14.7	6.4	2.9	10/12	12/12	V H5l	凸円	—	—
90	842	E		挟み皿	10.9	5.4	2.2	12/12	10/12	V H5m	ヘラ	—	—
	843	D		緑釉卸皿	11.2	4.0	1.9	3/12	5/12	V H8m		大１	—
90	844	D		端反皿	9.2	5.2	2.2	6/12	11/12	—		大１	大Ⅰa
	845	D	T01	端反皿	8.3	5.6	2.3	3/12	3/12	—		大１	大Ⅰa
90	846	D		端反皿	—	5.0	1.5	—	12/12	V H7l	印花２カ所	大１	—
90	847	D		浅鉢	20.0	—	5.1	2/12	—	V H8j		大１	—
90	848	D		挟み皿	11.4	4.8	2.3	5/12	12/12	V H4k		—	—
90	849	D	T01	エブタ	17.3	7.5	2.3	3/12	11/12	—		—	—
	850	D	T01	挟み皿	13.1	6.2	2.6	3/12	12/12	—		大１	大Ⅰa
	851	D	T01	緑釉挟み皿	13.0	6.5	2.8	2/12	12/12	—		大１	大Ⅰa
90	852	D	T01	緑釉挟み皿	12.6	5.8	2.8	6/12	12/12	—		大１	大Ⅰa
90	853	D		匣鉢	10.8	5.8	5.3	7/12	6/12	V H8l	３条	—	—
	854	D		匣鉢	—	5.7	1.8	—	10/12	V H6k	文様	—	—
91	855	D		匣鉢	11.0	5.8	3.9	6/12	12/12	V H7j	十文字	—	—
91	856	D		匣鉢	—	6.0	1.7	—	12/12	V H6k	文様	—	—
91	857	D		匣鉢	—	6.0	1.4	5/12	—	V H9j	文様	—	—
91	858	D		輪禿皿	11.6	6.5	2.7	11/12	12/12	V H4g		—	—
91	859	D		丸皿	12.8	6.0	2.8	11/12	12/12	V H5f	美濃	—	—
91	860	D	SK35	小碗	8.2	3.7	3.7	12/12	12/12	—		大Ⅳ後半	大Ⅴ
91	861	D		汁つぎ	4.9	7.2	10.75	10/12	12/12	V H5g		—	—
91	862	D		瀬戸水かめ	27.5	18.7	14.2	5/12	11/12	V H5f		登８	Ⅰ 9c 初
	863	D		山茶碗	11.6	4.6	3.3	6/12	7/12	Ⅳ H 17g・r	８型式	—	—
	864	D	SX01 SK21	エブタ	12.5	6.0	2.8	3/12	1/12	V H1r		—	—
	865	D		山茶碗	11.6	4.6	3.3	6/12	7/12	V H2t	尾張 12 型式	—	—
	866	D		山茶碗	13.0	3.6	3.6	11/12	12/12	V H5g	大洞東	—	—
	867	C	SK20	丸碗	—	6.6	2.2	—	3/12	Ⅳ I20e		大１	—
	868	C	SK27	端反皿	11.5	6.0	2.7	3/12	6/12	Ⅳ I20e		大１	—
	869	C	SK44	端反皿	11.8	6.7	3.2	10/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	—
	870	C	P24	腰折皿	9.0	4.7	2.0	2/12	12/12	V I2e		後Ⅳ新	—
	871	C	P50	端反皿	9.2	5.0	2.6	6/12	6/12	V I2f		大１	—
	872	C		擂鉢	29.4	—	5.0	1/12	—	V I2e		後Ⅳ新～大１	大Ⅰa
	873	C		擂鉢	—	10.2	8.8	—	3/12	V I2e		大１・２	大Ⅰa
	874	C	P57	内耳鍋	25.2	—	11.9	10/12	—	V I2e		—	—
	875	C	P57	匣鉢	15.4	12.5	9.2	12/12	12/12	V I2e		—	—
92	876	C	SD05	天目茶碗	12.1	4.8	7.05	11/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰa
92	877	C	SD05	端反皿	11.7	6.3	3.1	8/12	12/12	Ⅳ I19f	印花	大１	大Ⅰa
92	878	C	SD05	端反皿	11.6	6.6	2.65	6/12	7/12	Ⅳ I19e	印花	大１	—
92	879	C	SD05	端反皿	12.1	6.9	2.8	8/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅱa
92	880	C	SD05	端反皿	11.4	6.5	3.0	9/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰa
92	881	C	SD05	端反皿	8.45	4.85	2.4	9/12	11/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰa
93	882	C	SD05	端反皿	8.7	4.6	2.2	6/12	4/12	Ⅳ I19e	897 と接合	大１	大Ⅰa
93	883	C	SD05	端反皿	11.7	6.8	2.5	11/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰa
	884	C	SD05	灯明皿	10.0	5.0	2.6	3/12	4/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰa
93	885	C	SD05	卸挟み皿	11.6	4.5	2.7	10/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰa
93	886	C	SD05	擂鉢	29.5	9.2	11.7	5/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	—
	887	C	SD05	挟み皿	10.7	4.4	2.1	12/12	12/12	Ⅳ I19f		大１・２	大Ⅰa
	888	C	SD05	陶丸	横 2.4	楯 2.4	重さ 6.04 g	5/12	—	Ⅳ I19e		—	—
93	889	C	SD05	山茶碗	12.1	6.0	3.5	11/12	12/12	Ⅳ I19e	しらし系	—	—
	890	C		緑釉挟み皿	11.6	4.8	2.5	2/12	3/12	Ⅳ I19e		大１	—
	891	C	SD06	天目茶碗	12.0	—	5.5	1/12	—	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰa
94	892	C	SD06	端反皿	11.2	6.0	2.8	8/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰa
	893	C	SD06	端反皿	11.4	6.2	3.0	6/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰa

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	894	C SD06	端反皿	11.4	6.8	2.8	2/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰａ
	895	C SD06	端反皿	11.7	6.4	3.1	6/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰａ
	896	C SD06	端反皿	11.5	6.2	3.2	6/12	5/12	Ⅳ I19f		大１	—
	897	C SD06	丸皿	8.6	5.0	2.15	3/12	5/12	Ⅳ I19f	882 と接合	大２前半	—
	898	C SD06	緑釉挟み皿	12.4	5.5	2.4	6/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰａ
94	899	C SD05	徳利	—	12.3	8.0	—	11/12	Ⅳ I19f		後Ⅳ新・大１	大Ⅰａ
	900	C	端反皿	11.2	6.4	2.7	1/12	6/12	Ⅳ I18i		大１	—
94	901	C SD10	天目茶碗	11.5	3.7	6.3	10/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	大Ⅰｂ
	902	C SD10	天目茶碗	11.9	—	5.4	5/12	—	Ⅳ I20f		大２	—
94	903	C SD10	小鉢	10.2	6.0	4.8	12/12	12/12	Ⅳ I20f		大１	大Ⅰａ
	904	C SD10	端反皿	9.2	4.8	2.6	7/12	12/12	Ⅳ I20f		大１	—
	905	C SD10	稜花皿	10.5	6.3	2.5	5/12	12/12	Ⅳ I20f		大１	大Ⅰａ
	906	C SD10	端反皿	9.0	4.7	2.3	6/12	11/12	Ⅳ I20f	印花	大１	—
	907	C SD10	端反皿	9.1	4.9	2.0	6/12	11/12	Ⅳ I20f	印花	大１	—
94	908	C SD10	丸皿	10.8	5.6	2.9	6/12	11/12	Ⅳ I20f	ソギ	大２前半	大Ⅰか
	909	C SD10	丸皿	11.7	6.5	2.9	7/12	4/12	Ⅳ I20f	ソギ	大２前半	—
	910	C SD10	稜皿	10.5	5.7	2.3	3/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	大Ⅱａ
94	911	C SD10	稜皿	10.2	4.8	2.7	12/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	—
94	912	C SD10	稜皿	10.4	5.4	2.5	12/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	大Ⅱａ
	913	C SD10	稜皿	9.9	4.7	2.7	11/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	大Ⅱａ
95	914	C SD10	稜皿	10.4	5.3	2.5	12/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	大Ⅱａ
	915	C SD10	灰釉稜皿	10.7	4.9	2.7	9/12	12/12	Ⅳ I20f		大２	大Ⅱａ
	916	C SD10	腰折皿	11.6	5.0	2.7	4/12	9/12	Ⅳ I20g		後Ⅳ新	—
95	917	C SD10	小瓶	3.4	6.0	6.2	11/12	12/12	Ⅳ I20f		大１・２	大Ⅰａ
	918	C SD10	土瓶か釜	—	12.0	1.6	—	6/12	Ⅳ I20f		後Ⅳ新～大１	大Ⅰａ
95	919	C SD10	筒形容器	12.0	10.6	9.0	9/12	9/12	Ⅳ I20f		大１・２	大Ⅰａ
	920	C SD10	匣鉢	15.2	12.8	10.3	8/12	12/12	Ⅳ I20f		—	—
	921	C	天目茶碗	11.4	—	4.9	1/12	—	Ⅴ I1d		大２～３	—
	922	C	天目茶碗	11.6	—	5.3	2/12	—	Ⅴ I1d		大１	—
	923	C	天目茶碗	11.4	—	6.0	4/12	—	Ⅳ I18i		(大１)	大Ⅰａ
	924	C	天目茶碗	12.0	—	6.1	4/12	—	Ⅳ I17h		大１	—
	925	C	天目茶碗	11.4	—	5.0	9/12	—	Ⅳ I18h		後Ⅳ新	大Ⅰａ
	926	C	天目茶碗	—	3.8	2.1	—	12/12	Ⅳ I18e		後Ⅳ新・大１	大Ⅰａ
	927	C	天目茶碗	11.6	4.4	6.6	1/12	12/12	Ⅴ H7l		大１	—
95	928	C	天目茶碗	2.9	4.5	7.1	7/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰａ
95	929	C	天目茶碗	12.0	4.3	7.4	4/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰａ
	930	C	天目茶碗	12.4	4.5	6.9	5/12	12/12	Ⅳ I18h		大１	—
	931	C	天目茶碗	12.4	4.5	6.9	6/12	6/12	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
	932	C	天目茶碗	12.2	4.2	7.3	1/12	6/12	Ⅳ I18f		大１	—
95	933	C	天目茶碗	12.1	4.6	6.55	11/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	934	C	天目茶碗	11.8	4.75	7.25	10/12	10/12	Ⅳ I19g		大１	—
95	935	C	天目茶碗	11.8	4.3	6.9	10/12	12/12	Ⅳ I18h		大１	大Ⅰａ
	936	C	天目茶碗	11.8	4.6	6.8	7/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
	937	C	天目茶碗	11.9	4.0	7.35	10/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
95	938	C	天目茶碗	11.8	4.4	7.0	9/12	12/12	—		大１	大Ⅰａ
96	939	C	天目茶碗	11.8	4.2	7.3	10/12	12/12	—		大１	—
	940	C	天目茶碗	12.0	4.3	6.8	1/12	12/12	Ⅳ I18i		大１	—
	941	C	天目茶碗	13.9	4.6	6.6	1/12	12/12	Ⅳ I18i		大１	大Ⅰａ
	942	C	天目茶碗	13.4	—	6.7	3/12	—	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
	943	C	天目茶碗	11.8	—	5.2	3/12	—	Ⅳ I19g		大１	—
	944	C	天目茶碗	12.2	—	6.2	4/12	—	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰａ
	945	C	天目茶碗	12.2	—	—	3/12	—	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
	946	C	天目茶碗	12.1	—	6.2	2/12	—	Ⅳ I18f		大１	大Ⅰａ
	947	C	天目茶碗	12.0	—	6.9	3/12	—	Ⅳ I20g		大１	大Ⅰａ
	948	C	天目茶碗	6.1	—	5.1	4/12	—	Ⅳ I17h		大１	大Ⅰａ
96	949	C	天目茶碗	12.0	—	6.4	8/12	—	Ⅳ I19g		大１	—
96	950	C	天目茶碗	11.8	—	6.3	11/12	—	Ⅳ I18f		大１	大Ⅰａ
	951	C	天目茶碗	11.7	—	6.5	1/12	—	Ⅳ I19g		大１	大Ⅰａ
	952	C	天目茶碗	11.6	—	6.6	6/12	—	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰａ
	953	C	天目茶碗	11.6	—	6.1	7/12	—	Ⅳ I18g		大１	—
	954	C	天目茶碗	—	4.3	6.1	—	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
	955	C	天目茶碗	—	4.3	6.4	—	12/12	Ⅳ I18i		大１	—
	956	C	天目茶碗	—	4.6	3.9	—	8/12	Ⅳ I18g		大１	—
	957	C	平椀	—	4.5	2.8	—	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
96	958	C	天目茶碗色見	—	4.4	—	—	—	Ⅴ I1g		大１	—
	959	C	天目茶碗	12.0	—	5.5	9/12	—	Ⅳ I18i		大１	—
96	960	C	天目茶碗	11.5	—	5.8	7/12	—	Ⅳ I19h	灰釉	大１	大Ⅰｂ
	961	C	天目茶碗	11.0	—	5.8	1/12	—	Ⅴ I2d・e		大２	大Ⅰｂ
	962	C	天目茶碗	11.8	4.0	6.2	3/12	5/12	Ⅴ I1g		大３中国	江戸
	963	C	天目茶碗	11.7	4.8	5.7	3/12	12/12	Ⅳ I15i		大１後半～大２	大Ⅰａ
96	964	C	天目茶碗	11.4	4.2	6.4	12/12	12/12	Ⅳ I18i		大２	大Ⅱａ
	965	C	天目茶碗	12.0	4.4	6.6	3/12	12/12	Ⅳ I18i		大３	大Ⅱａ
96	966	C	天目茶碗	12.3	4.8	6.5	6/12	12/12	Ⅳ I19f		大３前	大Ⅱａ
96	967	C	丸碗	12.35	5.65	6.6	10/12	10/12	Ⅳ I19g		大１	大Ⅰａ
	968	C	丸碗	11.4	—	4.4	3/12	—	Ⅳ I17h		大１	大Ⅰａ
	969	C	丸碗	11.8	—	5.4	1/12	—	Ⅳ I19g		大１	大Ⅰａ
	970	C	丸碗	—	5.6	2.3	—	3/12	Ⅴ I1f		大１	大Ⅰａ
	971	C	丸碗灰釉天目	—	4.8	2.1	—	10/12	Ⅴ I1d		大１	大Ⅰａ
96	972	C	丸碗	10.8	6.0	5.6	2/12	12/12	Ⅴ I1d		大２	大Ⅰａ
	973	C	丸碗	10.0	5.0	6.2	1/12	7/12	Ⅳ I18f		—	—
	974	C	丸碗	—	6.0	4.8	—	7/12	Ⅴ I1g		大２	—
	975	C	丸碗・小碗	11.6	—	4.2	2/12	—	Ⅳ I20e		大１	大Ⅰａ
97	976	C	丸碗・小鉢	12.5	7.0	5.0	7/12	12/12	Ⅳ I20g	鉄釉	大１～３	大Ⅰａ

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	977	C	端反皿	—	—	—	3/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	大Ⅱａ
	978	C	端反皿	11.2	6.1	2.6	4/12	12/12	Ⅴ I1d		大１	—
	979	C	端反皿	11.1	5.2	2.9	3/12	4/12	Ⅳ I20e		大１	—
	980	C	端反皿	11.3	6.6	2.6	3/12	10/12	Ⅳ I18h		大１	—
	981	C	端反皿	11.6	6.4	2.8	7/12	11/12	Ⅳ I19h		大１	—
97	982	C	端反皿	12.1	6.4	3.1	11/12	11/12	Ⅳ I18g		大１	—
	983	C	端反皿	—	6.7	2.2	—	7/12	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
	984	C	端反皿	8.8	5.0	2.4	9/12	10/12	Ⅳ I19c		大１	—
	985	C	端反皿	12.1	6.9	2.8	1/12	7/12	Ⅳ I19f		大１	—
	986	C	端反皿	12.0	6.4	3.0	3/12	6/12	Ⅳ I19f		大１	大Ⅰａ
	987	C	端反皿	12.0	6.5	3.1	5/12	5/12	Ⅳ I18i		大１	—
	988	C	端反皿	12.0	6.6	2.4	2/12	12/12	Ⅳ I18i		大１	—
97	989	C	端反皿	11.8	6.3	3.3	10/12	12/12	—	煤付着	大１	大Ⅰａ
97	990	C	端反皿	11.2	6.3	3.1	12/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
	991	C	端反皿	11.4	6.2	3.1	4/12	11/12	Ⅳ I19g		大１	大Ⅰａ
	992	C	端反皿	11.6	6.3	2.8	6/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
	993	C	端反皿	11.2	7.2	2.6	3/12	1/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰａ
	994	C	端反皿	11.4	6.7	2.8	2/12	5/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰａ
	995	C	端反皿	11.8	6.5	2.2	—	11/12	Ⅳ I19f		大１	—
	996	C	端反皿	11.0	6.5	2.9	6/12	6/12	Ⅳ I18f		大１	—
	997	C	端反皿	11.4	6.1	3.0	4/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	998	C	端反皿	11.2	6.1	2.75	10/12	12/12	Ⅳ I19j		大１	—
	999	C	端反皿	11.4	6.4	2.7	3/12	6/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1000	C	端反皿	11.4	6.6	2.7	2/12	8/12	Ⅳ I19f		大１	—
	1001	C	端反皿	9.4	5.4	2.4	11/12	10/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1002	C	端反皿	9.3	5.2	2.2	2/12	2/12	Ⅳ I18g		大１	—
	1003	C	端反皿	11.2	5.0	2.2	2/12	7/12	Ⅳ I19f		大１	—
	1004	C	端反皿	9.2	5.0	2.4	2/12	6/12	Ⅳ I19f		大１	—
	1005	C	端反皿	9.0	5.4	2.6	8/12	10/12	Ⅳ I18g		大１・２	大Ⅰａ
97	1006	C	端反皿	8.65	5.3	2.3	5/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
97	1007	C	端反小皿	8.9	5.5	2.2	11/12	12/12	—		大１	大Ⅰａ
	1008	C	端反皿	8.6	4.8	2.2	1/12	6/12	Ⅳ I19f		大１	—
97	1009	C	端反皿	8.6	4.6	2.0	10/12	10/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1010	C	端反皿	8.6	5.1	2.3	10/12	11/12	Ⅳ I18f		大１	大Ⅰａ
	1011	C	端反皿	8.2	4.4	2.0	3/12	5/12	Ⅳ I18h		大１	—
	1012	C	端反皿	8.2	4.2	2.2	12/12	12/12	Ⅳ I18n		大１	大Ⅰａ
	1013	C	丸皿	9.15	5.4	2.5	6/12	10/12	Ⅳ I18h		大２	—
	1014	C	豆皿	6.8	—	2.2	2/12	—	Ⅳ I19f		大１～２	—
	1015	C	端反皿鉄	11.0	6.2	2.5	2/12	5/12	Ⅳ I18f		大１	大Ⅰａ
	1016	C	丸皿	11.0	6.0	2.5	6/12	7/12	Ⅳ I20e		大１	—
	1017	C	丸皿	10.1	6.0	2.5	2/12	3/12	Ⅳ I20e		大１	—
97	1018	C	丸皿	9.2	4.6	2.2	3/12	6/12	Ⅳ I19i		大１	—
	1019	C	端反皿	8.4	9.1	2.4	9/12	12/12	—	鉄釉	大１	大Ⅰｂ
	1020	C	丸皿	8.0	5.25	2.3	2/12	4/12	Ⅳ I20e		大２	—
	1021	C	端反皿	8.0	5.0	2.2	1/12	3/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1022	C	丸皿	16.1	8.2	4.1	1/12	4/12	Ⅳ I18i		大２	—
	1023	C	丸皿	14.0	—	3.2	2/12	—	Ⅳ I19i		大２	—
	1024	C	丸皿	14.7	6.5	3.0	1/12	2/12	Ⅳ I18h		大２	—
98	1025	C	端反皿	11.0	5.7	2.7	5/12	12/12	—	鉄釉	大１	大Ⅰａ
98	1026	C	丸皿	9.1	5.25	2.55	6/12	4/12	Ⅳ I19g	鉄釉	大２	大Ⅰａ
	1027	C	丸皿	8.8	5.3	2.5	3/12	6/12	Ⅳ I19g		大２	—
	1028	C	丸皿	6.9	3.0	2.2	3/12	3/12	Ⅳ I19c		大２	—
98	1029	C	丸皿	8.1	4.5	2.4	7/12	10/12	Ⅳ I18g	鉄釉	大２	大Ⅰａ
	1030	C	丸皿・端反皿	—	6.1	1.6	—	7/12	Ⅳ I18f		大１・２	—
	1031	C	丸皿・端反皿	—	6.2	1.3	—	5/12	Ⅳ I19j		大１・２	—
	1032	C	丸皿・端反皿	—	5.9	1.4	—	4/12	Ⅳ I18i		大１・２	—
	1033	C	丸皿・端反皿	—	5.05	1.1	—	12/12	Ⅳ I19f		大１・２	—
	1034	C	皿（碁笥底）	—	6.0	0.8	—	4/12	Ⅳ I19i		大１・２	—
	1035	C	丸皿	11.4	5.2	2.4	5/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1036	C	丸皿	11.2	5.2	2.5	5/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	—
	1037	C	鉄釉陵皿	10.4	5.7	2.9	12/12	12/12	Ⅳ I18i		大２	大Ⅱａ
	1038	C	鉄釉丸皿	9.0	5.6	2.3	6/12	6/12	Ⅳ I17h		大１	—
	1039	C	鉄釉陵皿	11.4	5.4	2.6	4/12	12/12	Ⅳ I18f		大２	—
	1040	C	鉄釉陵皿	11.4	6.4	1.9	3/12	2/12	Ⅳ I19i		大２	—
	1041	C	鉄釉陵皿	11.8	6.2	2.4	7/12	12/12	Ⅳ I15i		大２	—
	1042	C	鉄釉陵皿	10.6	5.8	2.2	4/12	3/12	Ⅳ I18i		大２	—
	1043	C	鉄釉陵皿	10.2	5.5	2.2	3/12	4/12	Ⅳ I18i		大２	—
	1044	C	陵皿	10.0	5.0	2.4	2/12	6/12	Ⅳ I20e		大２	—
	1045	C	鉄釉丸皿	8.8	4.9	2.1	5/12	6/12	Ⅳ I18h		大２	—
	1046	C	鉄釉皿（碁笥底）	—	4.6	0.7	—	5/12	Ⅳ I20e		—	—
	1047	C	丸皿（削ぎ）	10.0	—	1.7	2/12	—	Ⅳ I18i		大２前半	—
	1048	C	丸皿（削ぎ）	11.3	—	2.5	2/12	—	Ⅳ I20f		大２前半	—
	1049	C	丸皿（削ぎ）	—	6.3	1.95	—	1/12	Ⅳ I19g		大２前半	—
98	1050	C	丸皿（削ぎ）	9.0	5.7	2.5	2/12	7/12	Ⅳ I18h		大２前半	—
	1051	C	丸皿（削ぎ）	—	6.2	1.8	—	5/12	Ⅳ I20f		大２前半	—
	1052	C	丸皿（削ぎ）	—	6.4	2.3	—	4/12	Ⅳ I19i		大２前半	—
	1053	C	灯明皿	11.0	4.3	2.4	3/12	7/12	Ⅳ I18p		大１	—
	1054	C	灯明皿	10.7	4.1	2.8	7/12	7/12	Ⅳ I18f		大１	—
	1055	C	灯明皿	10.3	4.6	2.7	3/12	3/12	Ⅳ I18g		大１	—
	1056	C	灯明皿	10.4	4.1	2.7	8/12	12/12	Ⅳ I18f		大１	—
	1057	C	灯明皿	10.2	3.8	2.7	3/12	5/12	Ⅳ I18f		大２	—
	1058	C	灯明皿	10.1	3.8	2.95	12/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
	1059	C	灯明皿	9.6	3.7	3.05	12/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
	1060	C	灯明皿	10.4	4.2	2.5	3/12	6/12	Ⅳ I18f		大１	大Ⅰａ

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	1061	C	灯明皿	10.2	3.7	2.7	11/12	12/12	Ⅳ I18f		大１	—
	1062	C	灯明皿	9.8	3.9	3.65	7/12	9/12	Ⅳ I18f		大１	—
	1063	C	灯明皿	11.1	4.4	2.6	1/12	4/12	Ⅳ I18h		大１	—
	1064	C	灯明皿	9.95	4.3	3.2	6/12	10/12	Ⅳ I18h		大１	—
	1065	C	灯明皿	10.0	3.8	3.0	12/12	12/12	Ⅳ I18h		大１	大Ⅰａ
	1066	C	灯明皿	11.0	4.3	2.7	6/12	11/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1067	C	灯明皿	10.4	5.3	2.1	2/12	5/12	Ⅳ I18l		大２	—
	1068	C	灯明皿	10.0	4.3	2.8	7/12	12/12	Ⅳ I18h		大２	—
	1069	C	灯明皿	9.8	3.9	2.7	2/12	3/12	Ⅳ I18f		大１	—
	1070	C	灯明皿	9.4	4.2	2.3	3/12	6/12	Ⅳ I18h		大２	—
	1071	C	灯明皿	10.9	4.7	2.9	8/12	12/12	Ⅳ I18i		大２	—
	1072	C	灯明皿	11.25	5.0	2.8	4/12	7/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1073	C	灯明皿	10.3	—	2.7	6/12	6/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1074	C	灯明皿	10.2	4.1	2.8	5/12	6/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1075	C	灯明皿	10.1	4.5	3.1	7/12	12/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1076	C	灯明皿	10.3	4.8	2.7	2/12	12/12	Ⅳ I18i		大２	—
	1077	C	灯明皿	11.2	5.0	2.6	3/12	7/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰａ
	1078	C	灯明皿	11.0	5.1	2.5	3/12	6/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1079	C	灯明皿	10.8	4.5	2.6	5/12	7/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1080	C	灯明皿	10.4	4.4	2.8	12/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1081	C	灯明皿	10.4	4.3	2.7	7/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1082	C	灯明皿	10.0	4.0	3.1	12/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	大Ⅰａ
	1083	C	灯明皿	10.0	4.7	2.2	6/12	6/12	Ⅳ I19h		大２	—
	1084	C	灯明皿	11.7	5.4	2.6	3/12	4/12	Ⅳ I19i		大１	—
	1085	C	灯明皿	9.25	4.4	2.7	7/12	11/12	—		大２	—
	1086	C	灯明皿・煤	—	4.0	1.2	—	12/12	Ⅳ I20h・i		大１	—
	1087	C	腰折れ皿	10.2	4.6	3.2	3/12	6/12	Ⅳ I20e		後Ⅳ新	大Ⅰａ
	1088	C	腰折れ皿	10.2	4.4	2.4	4/12	6/12	Ⅳ I18i		後Ⅳ新～大２	—
	1089	C	腰折れ皿	10.8	4.6	2.4	4/12	4/12	Ⅳ I19g		後Ⅳ新	—
	1090	C	腰折れ皿	11.2	5.1	2.3	6/12	4/12	Ⅳ I20h・i		後Ⅳ新	—
	1091	C	腰折れ皿	11.6	5.5	1.8	8/12	10/12	Ⅳ I19f		後Ⅳ新	大Ⅰａ
98	1092	C	丸皿 (焼締)	13.9	5.9	2.9	5/12	6/12	Ⅳ I18i・19h		大２	—
	1093	C	浅鉢	20.8	—	5.2	2/12	—	Ⅳ I18i		大１	—
98	1094	C	鉢	19.0	12.0	6.6	2/12	3/12	Ⅳ I19g		大１・２	—
99	1095	C	蓋 / 土瓶・鍋	15.2	—	2.7	3/12	—	Ⅴ I1d		—	—
99	1096	C	蓋 / 土瓶・鍋	15.8	—	2.3	6/12	—	Ⅳ I18h		—	—
99	1097	C	蓋 / 土瓶・鍋	13.9	9.6	2.4	5/12	6/12	—		—	—
99	1098	C	鉄釉蓋	7.8	—	1.8	1/12	—	Ⅳ I19f		—	—
	1099	C	徳利	9.6	—	6.4	3/12	—	Ⅳ I19g		大１	—
99	1100	C	徳利	7.3	—	6.9	11/12	—	Ⅳ I19g		大１・２	—
	1101	C	徳利	—	—	8.2	—	—	Ⅳ I18i		大	—
	1102	C	徳利	3.9	—	3.3	10/12	—	Ⅳ I19f		大	—
	1103	C	徳利	—	—	3.7	—	—	Ⅳ I18h		大	—
99	1104	C	徳利	—	11.0	20.0	—	12/12	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰａ
99	1105	C	徳利	—	11.7	12.5	—	12/12	Ⅳ I19g		大１・２	—
99	1106	C	徳利	—	11.8	21.6	—	4/12	Ⅳ I19g		大２	—
	1107	C	徳利	—	13.8	13.9	—	5/12	Ⅴ I1d		大２	—
99	1108	C	徳利	—	10.0	14.1	—	12/12	—		大１・２	—
	1109	C	徳利	—	11.8	5.3	—	5/12	Ⅳ I18f		大１・２	—
	1110	C	徳利	—	12.5	4.5	—	12/12	Ⅳ I18h		大１・２	—
	1111	C	筒形容器	11.8	—	5.5	1/12	—	Ⅳ I20e		大１・２	—
	1112	C	灯明台	14.5	—	2.6	4/12	—	Ⅴ I1d		大	—
	1113	C	灯明台	15.4	—	3.2	3/12	—	Ⅳ I19j		大１・２	—
	1114	C	灯明台	16.4	—	2.8	3/12	—	Ⅳ I19e		大１・２	—
	1115	C	灯明台	—	16.0	12.5	—	3/12	Ⅳ I19f		大１・２	—
100	1116	C	灯明台	20.4	19.0	23.5	3/12	8/12	Ⅳ I19f		後Ⅳ新～大１	—
	1117	C	筒形容器	11.6	10.6	8.8	2/12	12/12	Ⅳ I15i		大２・３	—
100	1118	C	筒形容器	11.7	10.9	8.35	6/12	12/12	Ⅳ I19e		大１・２	—
100	1119	C	筒形容器	13.0	10.4	8.4	5/12	5/12	Ⅳ I15i		大１・２	—
	1120	C	匣鉢	14.6	12.1	11.0	11/12	6/12	Ⅳ I19e		—	—
	1121	C	筒形容器	15.2	—	10.9	6/12	—	Ⅳ I18i		大２・３	—
	1122	C	土瓶・釜	14.5	—	6.7	3/12	—	Ⅳ I16h		後Ⅳ新～大１	—
	1123	C	土瓶・釜	14.4	—	—	3/12	—	Ⅳ I18i		後Ⅳ新～大１	—
	1124	C	土瓶・釜	14.0	—	7.0	4/12	—	Ⅴ I1d		後Ⅳ新～大１	—
	1125	C	土瓶・釜	14.0	—	5.1	2/12	—	Ⅳ I18g		後Ⅳ新～大１	—
	1126	C	土瓶・釜	14.0	—	5.5	5/12	—	Ⅳ I18i		後Ⅳ新～大１	—
	1127	C	釜	14.5	—	5.8	3/12	—	Ⅳ I18i		後Ⅳ新～大２	—
	1128	C	釜	14.6	11.9	18.2	12/12	12/12	Ⅳ I18i		後Ⅳ新～大２	—
100	1129	C	釜	20.2	—	8.0	—	—	Ⅳ I18g		後Ⅳ新～大２	—
	1130	C	釜	20.8	—	7.5	2/12	—	Ⅳ I18g		後Ⅳ新～大２	—
	1131	C	甕	—	13.4	4.7	—	5/12	Ⅳ I18g		—	—
	1132	C	内耳鍋	22.8	—	8.9	4/12	—	Ⅳ I19g		—	—
100	1133	C	鉢	29.9	11.0	12.55	1/12	6/12	Ⅳ I18g		大１	—
100	1134	C	片口鉢	29.4	11.0	12.9	11/12	5/12	Ⅳ I18i		—	—
100	1135	C	片口鉢	19.3	10.0	11.5	1/12	11/12	Ⅳ I20h・i		登５	大Ⅰａ
	1136	C	直縁大皿	32.6	—	4.4	2/12	—	Ⅴ I1d		後Ⅳ新	—
	1137	C	擂鉢	28.6	8.8	10.0	3/12	3/12	Ⅳ I20h・i		後Ⅳ新	—
	1138	C	擂鉢	28.4	—	8.1	4/12	—	Ⅴ I1d		後Ⅳ新	—
	1139	C	擂鉢	30.0	—	11.0	4/12	—	Ⅳ I19e		大１	—
100	1140	C	擂鉢	—	8.9	9.0	—	12/12	Ⅳ I18f		大１	—
	1141	C	擂鉢	29.3	9.1	11.9	9/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
	1142	C	擂鉢	28.0	9.4	11.9	4/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	—
	1143	C	擂鉢	29.0	10.1	11.8	2/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1144	C	擂鉢	29.7	—	12.0	3/12	—	Ⅳ I19f		大２	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
	1145	C	擂鉢	36.3	9.8	15.0	3/12	9/12	Ⅳ I19e		大２	—
	1146	C	擂鉢	37.8	10.6	13.8	1/12	6/12	Ⅳ I18i		大２後半	—
	1147	C	擂鉢	39.6	—	8.3	3/12	—	Ⅳ I18e		大２後半	—
	1148	C	擂鉢	38.4	12.0	13.8	5/12	2/12	Ⅳ I15i		大３	—
	1149	C	桶	24.8	—	5.4	1/12	—	Ⅳ I18i		大	—
	1150	C	鉢	25.6	—	9.4	1/12	—	Ⅳ I19f		大	—
101	1151	C	甕	19.4	—	9.3	3/12	—	Ⅳ I18g		大１・２	—
	1152	C	甕	21.6	—	—	2/12	—	Ⅳ I18i		大１・２	—
101	1153	C	甕	21.8	—	7.8	2/12	—	Ⅳ I19e		大１・２	—
101	1154	C	甕	20.0	—	6.0	1/12	—	Ⅴ I1g		大１・２	—
	1155	C	甕	20.0	—	3.7	1/12	—	Ⅳ I19f		大１・２	—
	1156	C	甕	17.4	—	3.6	1/12	—	Ⅴ I1g		大１・２	—
	1157	C	桶	—	18.0	5.3	—	4/12	Ⅳ I18i		大	—
	1158	C	祖母懐茶壺	—	14.0	4.9	—	5/12	Ⅳ I19e		大	—
	1159	C	甕	—	13.0	7.5	—	5/12	Ⅳ I19i		大１・２	—
	1160	C	甕	—	15.5	16.7	—	12/12	Ⅳ I19g		大	—
	1161	C	匣鉢蓋	17.3	8.0	2.8	1/12	3/12	Ⅳ I18g		大１・２	大Ⅰa
	1162	C	托	5.6	3.7	1.7	7/12	12/12	Ⅴ I1d		大	—
	1163	C	土師皿	—	7.0	1.2	—	6/12	Ⅳ I19g		—	—
	1164	C	土師皿	—	6.4	2.0	—	5/12	Ⅳ I19g		—	—
	1165	C	緑釉挟み皿	13.0	5.9	2.8	1/12	6/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1166	C	緑釉挟み皿	12.3	6.5	3.1	5/12	12/12	Ⅳ I19j		大１	—
	1167	C	緑釉挟み皿	12.4	4.8	3.0	8/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1168	C	緑釉挟み皿	12.1	5.7	3.2	10/12	12/12	Ⅳ I19e		大１	—
	1169	C	緑釉挟み皿	12.3	6.0	2.5	2/12	3/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1170	C	緑釉挟み皿	12.3	6.0	3.4	8/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	—
	1171	C	緑釉挟み皿	12.3	7.6	2.2	4/12	2/12	Ⅴ I1e		大１	—
	1172	C	緑釉挟み皿	12.1	4.6	2.5	12/12	12/12	Ⅳ I19g		大１	大Ⅰa
	1173	C	緑釉挟み皿	12.2	5.8	3.1	7/12	12/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1174	C	緑釉挟み皿	11.9	6.1	3.0	3/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
	1175	C	緑釉挟み皿	11.9	5.9	3.0	9/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
	1176	C	緑釉挟み皿	11.5	5.3	2.3	2/12	3/12	Ⅳ I18g		大１	—
	1177	C	緑釉挟み皿	12.0	5.8	2.8	5/12	6/12	Ⅳ I18i		大１	—
	1178	C	緑釉挟み皿	11.9	5.8	2.6	11/12	12/12	Ⅳ I19f		大１	—
	1179	C	緑釉挟み皿	11.6	6.0	2.4	12/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	大Ⅰa
	1180	C	緑釉挟み皿	11.4	5.6	2.6	8/12	12/12	Ⅴ I1d		大１	—
	1181	C	緑釉挟み皿	11.7	5.2	2.2	5/12	5/12	Ⅳ I19e		大１	大Ⅰa
	1182	C	陵皿	10.8	4.9	2.5	4/12	6/12	Ⅳ I18h		大２	—
	1183	C	挟み皿	11.4	5.7	2.3	3/12	6/12	Ⅴ I1d		—	—
	1184	C	挟み皿	11.5	5.3	1.8	12/12	12/12	Ⅳ I18f		—	—
	1185	C	挟み皿	12.0	5.4	2.9	2/12	2/12	Ⅳ I17f		—	—
	1186	C	エブタ	14.6	6.4	3.3	8/12	12/12	—		—	—
	1187	C	匣鉢	—	6.0	1.0	—	9/12	Ⅴ H6k		—	—
	1188	C	山茶碗	12.5	5.4	4.9	6/12	12/12	—		尾張 10 型式	—
	1189	C	山茶碗	13.7	5.8	5.8	12/12	6/12	Ⅳ I18i		尾張７型式	—
	1190	C	山茶碗大畑大洞	14.0	4.6	4.2	2/12	3/12	Ⅳ I19g		尾張７型式	—
	1191	C	山茶碗	10.8	5.4	2.6	1/12	12/12	Ⅳ I15i		尾張 12 型式	—
	1192	C	山茶碗	11.4	4.7	3.1	7/12	12/12	Ⅳ I15i		尾張 12 型式	—
	1193	C	山茶碗	11.5	5.9	2.7	3/12	6/12	Ⅳ I18i		尾張 12 型式	—
	1194	C	山茶碗	11.4	5.4	3.65	6/12	12/12	Ⅳ I18g		尾張 12 型式	—
	1195	C	山茶碗	12.2	5.8	3.3	11/12	12/12	—		尾張 12 型式	—
	1196	C	灰釉菊皿	10.4	—	2.6	1/12	—	Ⅳ I19h		—	—
	1197	C	皿	—	6.0	2.3	—	4/12	Ⅴ I1g		登３かⅣ	—
	1198	C	御室茶碗	—	6.2	3.0	—	8/12	Ⅴ I1d		登５か６	—
	1199	C	丸碗	—	5.0	1.9	—	4/12	Ⅴ I2d・e		登１か２	—
	1200	C	丸碗	4.1	5.0	1.6	—	12/12	Ⅴ I1g		登５か６	江戸
	1201	C	碗	—	3.9	1.4	—	12/12	Ⅳ I18i		登７	—
	1202	C	碗？	—	4.6	3.8	—	5/12	Ⅳ I18i		登８	—
101	1203	C	棗蓋	7.3	—	2.2	6/12	—	Ⅳ I18h		登１～２	大Ⅰa
	1204	C	蓋	12.0	—	1.8	2/12	—	Ⅳ I19i		登８～11	—
101・102	1205	E	茶入	3.4	—	2.0	6/12	—	Ⅴ H7p		大	—
102	1206	E	茶入	3.6	—	1.2	3/12	—	Ⅴ H7p		大	—
102	1207	C	茶入	3.2	—	2.5	4/12	—	Ⅳ I18h		大	—
102	1208	A	茶入	3.5	—	1.8	1/12	—	Ⅴ H1t		大	—
102	1209	E	茶入	3.8	—	2.1	2/12	—	Ⅴ H7p		大	—
102	1210	E	茶入	4.4	—	3.8	1/12	—	Ⅴ H7p		大	—
102	1211	E	茶入	4.5	—	3.5	1/12	—	Ⅴ H8n		大	—
101・102	1212	A	茶入	3.5	—	3.2	3/12	—	Ⅳ I18g		大	—
102	1213	E	茶入	—	—	2.4	—	—	Ⅴ H7p		大	—
101	1214	E	茶入	—	—	3.1	—	—	Ⅴ H7p		大	—
101	1215	E	茶入	—	3.1	4.0	—	5/12	Ⅴ H7p		大	—
102	1216	E	茶入	—	4.2	4.2	—	8/12	Ⅴ H7p		大	—
101・102	1217	C	茶入	—	3.9	3.4	—	12/12	Ⅳ I18i		大１・２	—
101	1218	E	茶入	—	4.2	5.3	—	12/12	—		大	—
102	1219	C	茶入	—	2.2	0.8	—	12/12	Ⅳ I20e		大	—
102	1220	E	茶入	—	3.1	—	—	2/12	Ⅴ H8o		大	—
101	1221	C	茶入	4.9	5.0	6.0	1/12	12/12	Ⅳ I18g		大１	—
102	1222	E	茶入	4.0	—	1.2	2/12	—	Ⅴ H7p		大	—
101・102	1223	E	茶入	4.0	—	1.0	7/12	—	—		大	大Ⅱb
102	1224	E	茶入	—	4.0	—	—	2/12	Ⅴ H6p		大	—
102	1225	E	茶入	—	4.0	3.0	—	2/12	Ⅴ H7n		大	—
102	1226	E	茶入	—	—	3.0	—	—	Ⅴ H7p		大	—
102	1227	E	茶入	—	4.0	1.9	—	3/12	Ⅴ H7p		大	—
102	1228	E	茶入	—	4.0	1.2	—	3/12	Ⅴ H7p		大	—

遺物一覧表

写真図版	登録番号	区 遺構番号	器種	口径	底径	器高	口縁残存率	底部残存率	グリッド	文様	藤澤編年	井上編年
102	1229	E	茶入	—	4.0	0.7	—	2/12	Ⅴ H7p		大	—
	1230	E	端反・丸皿	—	4.4	1.2	—	5/12	Ⅴ H7o		大 1・2	—
	1231	A	筒形香炉	—	5.2	2.2	—	7/12	Ⅳ H20t		後Ⅳ・大 1	—
103	1232	C	水滴	長 6.4	幅 4.3	3.2	—	—	Ⅳ I19i		後Ⅳ新・大 1	大Ⅰ a
103	1233	C	双耳小壷	4.0	4.4	6.3	12/12	12/12	Ⅳ I20e		後Ⅳ	大Ⅰ a
	1234	C	鳥形 (土物)	高 4.4	幅 3.1	—	全体 10/12	—	Ⅳ I18h		—	—
103	1235	E	天目茶碗	11.7	4.3	6.7	6/12	12/12	Ⅴ H5l		後Ⅳ新	大Ⅰ a
	1236	E	天目茶碗	12.2	4.4	6.5	7/12	12/12	Ⅴ H6l		後Ⅳ新	大Ⅰ a
103	1237	E	天目茶碗	12.2	4.0	6.6	10/12	12/12	Ⅴ H5l		大 1	大Ⅰ a
	1238	E	天目茶碗	11.8	4.4	6.4	4/12	7/12	Ⅴ H7l		大 1・2	—
103	1239	C	天目茶碗	12.4	4.4	7.6	9/12	12/12	Ⅳ I20e		大 1	—
	1240	E	天目茶碗 +	10.6	—	5.6	3/12	—	Ⅴ H6o		大 2 前	—
103	1241	E	天目茶碗 +	上 11.5 下 11.0	上 6.0 下	上 2.6 下 5.6	上 6/12 下 4/12	上 9/12 下	Ⅴ H7n	丸皿 天目茶碗	大 2 前	—
	1242	E	天目茶碗	11.5	4.0	6.1	3/12	12/12	Ⅴ H7p		大 3 前半	大Ⅱ a
	1243	E	天目茶碗	12.1	4.5	6.5	3/12	12/12	Ⅴ H4n		大 3	—
103	1244	C	天目茶碗	—	4.3	0.6	—	12/12	Ⅴ I2f		—	—
103	1245	C	天目茶碗	—	4.4	0.7	—	9/12	Ⅳ I19e		—	—
	1246	C	皿	—	5.8	0.65	—	2/12	Ⅳ I18i		—	—
103	1247	A	染付け碗	13.8	—	5.3	2/12	—	Ⅳ H18q		—	—
	1248	E	筒形容器	16.4	—	7.4	3/12	—	—		大	大Ⅰ a
	1249	C	筒形容器	21.2	—	13.9	1/12	—	Ⅳ I19i		—	—
	1250	A	擂鉢	28.2	11.6	9.8	5/12	5/12	Ⅴ H1s		後Ⅳ新	—
	1251	A	灯明台	—	—	12.6	—	—	Ⅳ I19b		大 1・2	大Ⅰ a
	1252	A	灯明台	—	16.0	7.1	—	3/12	Ⅳ I20b		大 1・2	大Ⅰ a
	1253	A	匣鉢蓋	16.0	—	2.6	4/12	—	—		大 1・2	大Ⅰ a
	1254	A	羽釜	41.0	—	6.5	1/12	—	Ⅴ H1s		—	—
103	1255	E SX07	匣鉢	—	11.1	9.0	—	12/12	—		—	—
	1256	E SX02	匣鉢	—	13.5	5.5	—	3/12	Ⅴ H8o		—	—
	1257	E SX07	皿色見	—	6.4	2.0	—	6/12	—		—	—
	1258	E SX10	端反皿色見	11.3	5.6	2.8	2/12	6/12	—		—	—
	1259	E SB03	焼台	—	12.3	5.0	—	—	—		—	—
104	1260	A	焼台	縦 10.1	横 8.9	厚 6.5	—	—	Ⅴ H1t		—	—
104	1261	D	焼台	縦 10.1	横 10.1	高 5.2	—	—	Ⅴ H4m		—	—
104	1262	E SX07	ツク	長 14.5	幅 7.2	—	—	—	—		—	—
104	1263	E SX08	ツク	長 13.8	幅 3.8	径 3.8	—	—	—		—	—
104	1264	E SY01 SK03	ツク	長 12.5	幅 3.7	径 3.5	—	—	—		—	—
104	1265	E SY01 SK02	ツク	高 7.6	幅 6.0	—	—	—	—		—	—
104	1266	E SY01 SK02	ツク	高 5.9	幅 6.2	—	—	—	—		—	—
104	1267	D	ピン？	長 5.2	幅 6.1	—	—	—	Ⅴ H4m		—	—
104	1268	E SX11	ツク	長 5.8	幅 2.3 ～ 4.3	—	—	—	—		—	—
104	1269	A SX01 P32	板トチ	縦 8.1	横 9.1	厚 1.9	—	—	Ⅴ H1s		—	—
104	1270	E SX02	板トチ	縦 6.3	横 6.4	厚 1.2	—	—	Ⅴ H8o		—	—
104	1271	E	板トチ	長 5.8	幅 4.6	厚 1.3	—	—	Ⅴ H7p		—	—
104	1272	E SY01 SK02	長脚ピン	長 4.85	幅 2.65	—	—	—	—		—	—
104	1273	E SY01 SK02	長脚ピン	長 7.4	幅 2.8	—	—	—	—		—	—
104	1274	E SY01 SK02	長脚ピン	長 4.8	幅 2.7	—	—	—	—		—	—
104	1275	E SY01 SK02	長脚ピン	長 4.45	幅 3.35	—	—	—	—		—	—
104	1276	E SY01 SK02	長脚ピン	長 5.2	幅 3.7	—	—	—	—		—	—
104	1277	E SY01 SK02	長脚ピン	長 5.3	幅 3.7	—	—	—	—		—	—
104	1278	E SY01 SK02	長脚ピン	長 4.1	幅 3.5	—	—	—	—		—	—
104	1279	E SY01 SK02	長脚ピン	長 5.6	幅 3.3	—	—	—	—		—	—
104	1280	E SY01 SK02	長脚ピン	長 5.2	幅 3.0	—	—	—	—		—	—
104	1281	E SY01 SK02	ヨリ	高 4.3	幅 10.6	—	—	—	—		—	—
104	1282	E SX02	ヨリ	長 13.0	幅 1.4	—	—	—	Ⅴ H6n		—	—
104	1283	E SX04	ピン？	長 3.1	幅 3.6	厚 1.2	—	—	—		—	—
104	1284	E SX04	ピン？	長 3.0	幅 3.3	厚 1.2	—	—	—		—	—
104	1285	A SX01 SK16	陶丸	縦 1.9	横 2.0	高 1.6	—	—	Ⅴ H1r		—	—
104	1286	A SX01	陶丸	縦 1.7	横 1.7	高 1.65	—	—	Ⅴ H3s		—	—
104	1287	A SU03	陶丸	縦 3.0	横 2.8	高 2.65	—	—	—		—	—
104	1288	E	陶丸	縦 2.1	横 2.1	高 2.0	—	—	Ⅴ H5l		—	—
104	1289	C SD05	陶丸	縦 2.4	横 2.2	高 2.15	—	—	—		—	—
104	1290	C	陶丸	縦 2.7	横 2.6	高 2.5	—	—	Ⅳ I19g		—	—
	1291	E	挟み皿				—	—	Ⅴ H9n	3 条	—	—
	1292	D	挟み皿				—	—	Ⅴ H8l	刷毛	—	—
	1293	E	蓋・挟み皿				—	—	Ⅴ H5l	1 条＋○	—	—
	1294	E SX02	挟み皿				—	—	Ⅴ H6l	1 条＋○○	—	—
	1295	C	挟み皿				—	—	Ⅳ I7h	(　)	—	—
	1296	E	挟み皿				—	—	Ⅴ H5l	×	—	—

報告書抄録

ふりがな	くわしたひがしかまあと
書名	桑下東窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第164集
編著者名	小澤一弘　武部真木　藤根　久・Lomtatidze　Zaur・黒沼保子（パレオ・ラボ）
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　　TEL　0567(67)4161
発行年月日	西暦2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
桑下東（くわしたひがし） 窯跡（かまあと）	愛知県瀬戸市（あいちけんせとし） 上品野町（かみしなのちょう）	23204	0030709	35度 15分 25秒	137度 8分 33秒	2005.9 ～ 2006.3	4,726	国道363号 道路改良工事
				（世界測地系による）				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑下東 窯跡	窯跡	戦国時代	窯体1基 石敷作業場 ロクロピット55基 竪穴建物 掘立柱建物	狛犬．魚形掛花生． 天目茶碗．鎬蓮弁文丸碗． 端反皿．陵花皿．丸皿． 陵皿．銅緑釉皿	

文書番号	発掘届出（17埋セ　第20号） 通知（17教生　第736号） 終了届（17埋セ　第135号） 発見届・保管証（17埋セ　第135号） 監査結果通知（18教生　第537号）

要約	水野川の北側の南北に広がった丘陵に大規模な施設（窯、石敷、工房、乾燥施設、倉庫、選別施設）と、狭い範囲に密集したロクロピットが40基、遺跡全体では55基のロクロピットを検出したことから工人集団の窯大将組織が想起される16世紀前半大窯1段階の窯跡である。また丘陵東谷には屋敷跡があり集荷出荷の建物があった可能性も考えられる。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 164 集

桑下東窯跡　本文篇

2011 年 3 月 31 日

編集・発行　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印　　刷　新日本法規出版株式会社